

**2021年度
大学院人間社会研究科
講義概要 (シラバス)**



法政大学

科目一覽

【発行日：2021/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

福祉社会専攻_専門共通科目 【S0001】 福祉社会研究法 [中村 律子、佐藤 繭美、関司 直也、岩田 美香、水野 雅男] 春学期授業/Spring	1
福祉社会専攻_専門展開科目 (システム・マネジメント系) 【S0016】 ソーシャルポリシー特論 [布川 日佐史] 春学期授業/Spring	2
福祉社会専攻_専門展開科目 (研究基盤) 【S0032】 データ分析法 [服部 環] 秋学期授業/Fall	2
福祉社会専攻_専門展開科目 【S0034】 福祉社会特論Ⅱ [服部 環] 秋学期授業/Fall	3
福祉社会専攻_専門展開科目 (研究基盤) 原書講読研究 [高取 康之]	4
福祉社会専攻_専門展開科目 (研究基盤) 【S0031】 学術英語 [山本 五郎] 春学期授業/Spring	5
福祉社会専攻_専門展開科目 (研究基盤) 【S0033】 福祉社会データ解析 [服部 環] 秋学期授業/Fall	5
福祉社会専攻_専門展開科目 (研究基盤) 福祉社会特論	6
福祉社会専攻_専門展開科目 (システム・マネジメント系) 【S0081】 ケアマネジメント特論 [末田 千恵] 春学期集中/Intensive(Spring)	7
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0005】 ソーシャルワーク特論Ⅰ [佐藤 繭美] 春学期授業/Spring	8
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0006】 ソーシャルワーク特論Ⅱ [高良 麻子] 秋学期授業/Fall	9
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0007】 ソーシャルワーク理論研究特論 [伊藤 正子] 秋学期授業/Fall	9
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0008】 ソーシャルワーク実践研究特論 [堀越 由紀子] オータムセッション/Autumn Session	10
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 地域福祉特論 [宮城 孝]	11
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0011】 児童福祉特論 [岩田 美香] 春学期授業/Spring	12
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0012】 高齢者福祉特論 [中村 律子] 秋学期授業/Fall	13
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0017】 障害者福祉特論 [眞保 智子] 春学期授業/Spring	14
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 精神保健福祉特論 [眞保 智子]	15
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0080】 生活問題特論 [結城 俊哉] オータムセッション/Autumn Session	15
福祉社会専攻_専門共通科目 【S0003】 社会福祉学特論 [野口 裕二] 春学期授業/Spring	16
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0014】 社会リハビリテーション特論 [八重田 淳] 春学期授業/Spring	17
福祉社会専攻_専門展開科目 (システム・マネジメント系) 【S0015】 リハビリテーション特論 [八重田 淳] 春学期授業/Spring	18
福祉社会専攻_専門展開科目 (システム・マネジメント系) 【S0018】 保健医療福祉システム特論 [岡田 栄作] 春学期授業/Spring	19
福祉社会専攻_専門展開科目 (システム・マネジメント系) 【S0019】 福祉経営特論 [千葉 正展] 春学期集中/Intensive(Spring)	20
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 地方自治特論Ⅰ [保井 美樹]	21
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 地方自治特論Ⅱ [保井 美樹]	22
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 地域マネジメント特論 [保井 美樹]	23
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 地域空間学特論Ⅱ [関司 直也]	24
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0038】 地域環境特論 [野田 岳仁] 春学期授業/Spring	24
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0024】 地域空間学特論 [関司 直也] 春学期授業/Spring	25
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0026】 アジア地域開発特論 [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	26
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 地域環境特論Ⅰ [野田 岳仁]	27
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0062】 地域環境特論Ⅱ [野田 岳仁] 春学期授業/Spring	27
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 都市・住宅政策特論Ⅱ [水野 雅男]	28
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0070】 都市・住宅政策特論 [水野 雅男] 秋学期授業/Fall	29
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0071】 都市・住宅政策特論Ⅰ [水野 雅男] 秋学期授業/Fall	30
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0025】 地域空間学特論Ⅰ [関司 直也] 春学期授業/Spring	31
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 【S0057】 地域経営特論Ⅰ [土肥 将敦] 秋学期授業/Fall	32
福祉社会専攻_専門展開科目 (コミュニティ・デザイン系) 地域経営特論Ⅱ [土肥 将敦]	33
福祉社会専攻_専門共通科目 【S0002】 地域共生社会特論 [水野 雅男、布川 日佐史、眞保 智子、佐野 竜平、野田 岳仁、高良 麻子、伊藤 正子] 秋学期授業/Fall	34
福祉社会専攻_演習科目 【S0210】 実践研究演習Ⅰ [土肥 将敦] 年間授業/Yearly	35
福祉社会専攻_演習科目 【S0104】 論文研究演習Ⅰ [岡田 栄作] 年間授業/Yearly	36

福祉社会専攻_演習科目	【S0101】論文研究演習 I	[伊藤 正子]	年間授業/Yearly	37
福祉社会専攻_演習科目	【S0102】論文研究演習 I	[岩崎 晋也]	年間授業/Yearly	38
福祉社会専攻_演習科目	【S0103】論文研究演習 I	[岩田 美香]	年間授業/Yearly	39
福祉社会専攻_演習科目	【S0106】論文研究演習 I	[佐藤 繭美]	年間授業/Yearly	40
福祉社会専攻_演習科目	【S0107】論文研究演習 I	[佐野 竜平]	年間授業/Yearly	41
福祉社会専攻_演習科目	【S0108】論文研究演習 I	[眞保 智子]	年間授業/Yearly	42
福祉社会専攻_演習科目	【S0110】論文研究演習 I	[土肥 将敦]	年間授業/Yearly	43
福祉社会専攻_演習科目	【S0109】論文研究演習 I	[関司 直也]	年間授業/Yearly	44
福祉社会専攻_演習科目	【S0111】論文研究演習 I	[中村 律子]	年間授業/Yearly	45
福祉社会専攻_演習科目	【S0112】論文研究演習 I	[野田 岳仁]	年間授業/Yearly	46
福祉社会専攻_演習科目	【S0113】論文研究演習 I	[布川 日佐史]	年間授業/Yearly	47
福祉社会専攻_演習科目	【S0114】論文研究演習 I	[水野 雅男]	年間授業/Yearly	47
福祉社会専攻_演習科目	論文研究演習 I	[宮城 孝]		48
福祉社会専攻_演習科目	【S0115】論文研究演習 I	[保井 美樹]	年間授業/Yearly	49
福祉社会専攻_演習科目	論文研究演習 II	[佐野 竜平]		50
福祉社会専攻_演習科目	論文研究演習 II	[宮城 孝]		51
福祉社会専攻_演習科目	論文研究演習 II	[保井 美樹]		52
福祉社会専攻_演習科目	【S0204】実践研究演習 I	[岡田 栄作]	年間授業/Yearly	53
福祉社会専攻_演習科目	【S0201】実践研究演習 I	[伊藤 正子]	年間授業/Yearly	54
福祉社会専攻_演習科目	【S0203】実践研究演習 I	[岩田 美香]	年間授業/Yearly	55
福祉社会専攻_演習科目	【S0202】実践研究演習 I	[岩崎 晋也]	年間授業/Yearly	56
福祉社会専攻_演習科目	【S0206】実践研究演習 I	[佐藤 繭美]	年間授業/Yearly	57
福祉社会専攻_演習科目	【S0207】実践研究演習 I	[佐野 竜平]	年間授業/Yearly	58
福祉社会専攻_演習科目	【S0208】実践研究演習 I	[眞保 智子]	年間授業/Yearly	59
福祉社会専攻_演習科目	【S0211】実践研究演習 I	[中村 律子]	年間授業/Yearly	60
福祉社会専攻_演習科目	【S0209】実践研究演習 I	[関司 直也]	年間授業/Yearly	61
福祉社会専攻_演習科目	【S0212】実践研究演習 I	[野田 岳仁]	年間授業/Yearly	62
福祉社会専攻_演習科目	【S0213】実践研究演習 I	[布川 日佐史]	年間授業/Yearly	63
福祉社会専攻_演習科目	【S0214】実践研究演習 I	[水野 雅男]	年間授業/Yearly	64
福祉社会専攻_演習科目	実践研究演習 I	[宮城 孝]		65
福祉社会専攻_演習科目	【S0215】実践研究演習 I	[保井 美樹]	年間授業/Yearly	66
福祉社会専攻_演習科目	実践研究演習 II	[佐野 竜平]		67
福祉社会専攻_演習科目	実践研究演習 II	[宮城 孝]		68
福祉社会専攻_演習科目	実践研究演習 II	[保井 美樹]		69
臨床心理学専攻_専門基幹科目	【S1001】臨床心理基礎実習	[久保田 幹子、末武 康弘]	年間授業/Yearly	70
臨床心理学専攻_専門基幹科目	【S1002】臨床心理学特論	[金築 優]	年間授業/Yearly	71
臨床心理学専攻_専門基幹科目	【S1009】臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)	[末武 康弘]	春学期授業/Spring	72
臨床心理学専攻_専門基幹科目	【S1004】臨床心理面接特論 II	[末武 康弘]	秋学期授業/Fall	73
臨床心理学専攻_専門基幹科目	【S1010】臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)	[小野 純平]	春学期授業/Spring	74
臨床心理学専攻_専門基幹科目	【S1006】臨床心理査定演習 II	[小野 純平]	秋学期授業/Fall	75
臨床心理学専攻_専門基幹科目	【S1011】臨床心理実習 I (心理実践実習)	[金築 優、丹羽 郁夫]	年間授業/Yearly	76
臨床心理学専攻_専門基幹科目	【S1008】臨床心理実習 II	[金築 優、丹羽 郁夫]	年間授業/Yearly	77
臨床心理学専攻_専門展開科目 (研究法科目)	【S1051】心理学研究法特論	[金子 真人]	春学期授業/Spring	78
臨床心理学専攻_専門展開科目 (研究法科目)	【S0032】データ分析法	[服部 環]	秋学期授業/Fall	79
臨床心理学専攻_専門展開科目 (研究法科目)	【S1053】臨床心理学研究法特論	[長山 恵一]	秋学期授業/Fall	80
臨床心理学専攻_専門展開科目 (基礎心理科目)	【S1054】認知心理学特論	[望月 聡]	秋学期授業/Fall	81
臨床心理学専攻_専門展開科目 (基礎心理科目)	【S1055】教育心理学特論	[望月 聡]	春学期授業/Spring	82
臨床心理学専攻_専門展開科目 (基礎心理科目)	【S1056】発達心理学特論	[小山 望]	オータムセッション/Autumn Session	83
臨床心理学専攻_専門展開科目 (家族・社会心理科目)	社会病理学特論	[久田 満]		84
臨床心理学専攻_専門展開科目 (家族・社会心理科目)	【S1058】家族心理学特論	[松本 聡子]	オータムセッション/Autumn Session	85
臨床心理学専攻_専門展開科目 (家族・社会心理科目)	【S1059】司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	[西田 俊男]	秋学期授業/Fall	86

臨床心理学専攻_専門展開科目 (関連専門領域科目) 【S1075】 精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開) [関谷 秀子] 秋学期授業/Fall	87
臨床心理学専攻_専門展開科目 (関連専門領域科目) 【S1061】 福祉分野に関する理論と支援の展開 [金子 真人] 秋学期授業/Fall	88
臨床心理学専攻_専門展開科目 (関連専門領域科目) 【S1076】 障害者 (児) 心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) [金子 真人] 秋学期授業/Fall	89
臨床心理学専攻_専門展開科目 (関連専門領域科目) 【S1062】 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 [梅澤 志乃] 春学期授業/Spring	90
臨床心理学専攻_専門展開科目 (関連専門領域科目) 【S0011】 児童福祉特論 [岩田 美香] 春学期授業/Spring	91
臨床心理学専攻_専門展開科目 (関連専門領域科目) 【S0012】 高齢者福祉特論 [中村 律子] 秋学期授業/Fall	92
臨床心理学専攻_専門展開科目 (専門技能科目) 【S1065】 教育分野に関する理論と支援の展開 [谷 由紀子] 春学期集中/Intensive(Spring)	93
臨床心理学専攻_専門展開科目 (専門技能科目) 【S1066】 グループ・アプローチ特論 [大竹 直子] 秋学期授業/Fall	94
臨床心理学専攻_専門展開科目 (専門技能科目) 臨床心理地域援助特論 [久田 満]	95
臨床心理学専攻_専門展開科目 (専門技能科目) 【S1068】 投映法特論 [北村 麻紀子] 春学期集中/Intensive(Spring)	95
臨床心理学専攻_専門展開科目 (専門技能科目) 【S1069】 心の健康教育に関する理論と実践 [金築 優] 春学期授業/Spring	96
臨床心理学専攻_専門展開科目 (専門技能科目) 【S1070】 力動的心理療法特論 [中 康] 春学期授業/Spring	97
臨床心理学専攻_専門展開科目 (専門技能科目) 【S1071】 比較心理療法特論 [長山 恵一] 春学期授業/Spring	97
臨床心理学専攻_専門展開科目 (専門技能科目) 【S1072】 心理臨床演習 [丹羽 郁夫] 春学期授業/Spring	98
臨床心理学専攻_専門展開科目 (専門技能科目) 【S1073】 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 [久田 満] 春学期集中/Intensive(Spring)	99
臨床心理学専攻_専門展開科目 (専門技能科目) 【S1074】 医療心理学特論 [久保田 幹子] 春学期授業/Spring	100
福祉政策系特殊講義Ⅰ [布川 日佐史] 春学期授業/Spring	101
臨床心理学専攻_研究指導科目 【S1101】 論文研究指導 [小野 純平] 年間授業/Yearly	102
福祉政策系特殊講義Ⅱ [布川 日佐史] 秋学期授業/Fall	103
臨床心理学専攻_研究指導科目 【S1102】 論文研究指導 [金築 優] 年間授業/Yearly	103
福祉社会系特殊講義Ⅰ [岩崎 晋也] 春学期授業/Spring	104
臨床心理学専攻_研究指導科目 【S1103】 論文研究指導 [久保田 幹子] 年間授業/Yearly	105
福祉社会系特殊講義Ⅱ [岩崎 晋也] 秋学期授業/Fall	106
臨床心理学専攻_研究指導科目 【S1104】 論文研究指導 [末武 康弘] 年間授業/Yearly	106
臨床心理学専攻_研究指導科目 【S1105】 論文研究指導 [関谷 秀子] 年間授業/Yearly	107
【S2023】 福祉社会系特殊講義Ⅰ [眞保 智子] 春学期授業/Spring	108
臨床心理学専攻_研究指導科目 【S1106】 論文研究指導 [長山 恵一] 年間授業/Yearly	109
【S2024】 福祉社会系特殊講義Ⅱ [眞保 智子] 秋学期授業/Fall	110
臨床心理学専攻_研究指導科目 論文研究指導 [丹羽 郁夫]	111
【S2021】 福祉社会系特殊講義Ⅰ [中村 律子] 春学期授業/Spring	112
臨床心理学専攻_研究指導科目 論文研究指導 [服部 環]	113
【S2022】 福祉社会系特殊講義Ⅱ [中村 律子] 秋学期授業/Fall	114
臨床心理学専攻_研究指導科目 論文研究指導 [望月 聡]	115
【S2043】 福祉臨床系特殊講義Ⅰ [伊藤 正子] 春学期授業/Spring	116
【S2044】 福祉臨床系特殊講義Ⅱ [伊藤 正子] 秋学期授業/Fall	117
福祉臨床系特殊講義Ⅰ [岩田 美香] 春学期授業/Spring	118
福祉臨床系特殊講義Ⅱ [岩田 美香] 秋学期授業/Fall	118
【S2041】 福祉臨床系特殊講義Ⅰ [佐藤 蘭美] 春学期授業/Spring	119
【S2042】 福祉臨床系特殊講義Ⅱ [佐藤 蘭美] 秋学期授業/Fall	120
福祉臨床系特殊講義Ⅰ [宮城 孝] 春学期授業/Spring	121
福祉臨床系特殊講義Ⅱ [宮城 孝] 秋学期授業/Fall	122
地域・政策系特殊講義Ⅰ [関司 直也] 春学期授業/Spring	123
地域・政策系特殊講義Ⅱ [関司 直也] 秋学期授業/Fall	124
地域・政策系特殊講義Ⅰ [土肥 将敦] 春学期授業/Spring	125
地域・政策系特殊講義Ⅱ [土肥 将敦] 秋学期授業/Fall	126
地域・政策系特殊講義Ⅰ [保井 美樹] 春学期授業/Spring	127
地域・政策系特殊講義Ⅱ [保井 美樹] 秋学期授業/Fall	128
地域・文化系特殊講義Ⅰ [水野 雅男] 春学期授業/Spring	129
地域・文化系特殊講義Ⅱ [水野 雅男] 秋学期授業/Fall	130
臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義Ⅰ [金築 優] 春学期授業/Spring	131
臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義Ⅱ [金築 優] 秋学期授業/Fall	132

臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ [末武 康弘] 春学期授業/Spring	132
臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ [末武 康弘] 秋学期授業/Fall	133
[S2101] 臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ [丹羽 郁夫] 春学期授業/Spring	134
[S2102] 臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ [丹羽 郁夫] 秋学期授業/Fall	135
臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ [服部 環] 春学期授業/Spring	136
臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ [服部 環] 秋学期授業/Fall	137
臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ [小野 純平] 春学期授業/Spring	138
臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ [小野 純平] 秋学期授業/Fall	139
臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ [久保田 幹子] 春学期授業/Spring	140
臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ [久保田 幹子] 秋学期授業/Fall	141
臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ [関谷 秀子] 春学期授業/Spring	142
臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ [関谷 秀子] 秋学期授業/Fall	142
臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ [長山 恵一] 春学期授業/Spring	143
臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ [長山 恵一] 秋学期授業/Fall	144
臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ [望月 聡] 春学期授業/Spring	145
臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ [望月 聡] 秋学期授業/Fall	146
人間福祉特別演習Ⅰ [伊藤 正子] 年間授業/Yearly	147
人間福祉特別演習Ⅰ [岩崎 晋也] 年間授業/Yearly	148
人間福祉特別演習Ⅰ [岩田 美香] 年間授業/Yearly	149
人間福祉特別演習Ⅰ [小野 純平] 年間授業/Yearly	150
人間福祉特別演習Ⅰ [久保田 幹子] 年間授業/Yearly	151
[S2201] 人間福祉特別演習Ⅰ [佐藤 繭美] 年間授業/Yearly	152
[S2203] 人間福祉特別演習Ⅰ [眞保 智子] 年間授業/Yearly	153
人間福祉特別演習Ⅰ [関司 直也] 年間授業/Yearly	154
人間福祉特別演習Ⅰ [末武 康弘] 年間授業/Yearly	155
人間福祉特別演習Ⅰ [関谷 秀子] 年間授業/Yearly	156
人間福祉特別演習Ⅰ [土肥 将敦] 年間授業/Yearly	157
人間福祉特別演習Ⅰ [中村 律子] 年間授業/Yearly	158
人間福祉特別演習Ⅰ [長山 恵一] 年間授業/Yearly	159
人間福祉特別演習Ⅰ [丹羽 郁夫] 年間授業/Yearly	160
人間福祉特別演習Ⅰ [服部 環] 年間授業/Yearly	161
人間福祉特別演習Ⅰ [布川 日佐史] 年間授業/Yearly	162
人間福祉特別演習Ⅰ [水野 雅男] 年間授業/Yearly	162
人間福祉特別演習Ⅰ [宮城 孝] 年間授業/Yearly	163
人間福祉特別演習Ⅰ [望月 聡] 年間授業/Yearly	164
人間福祉特別演習Ⅰ [保井 美樹] 年間授業/Yearly	165
人間福祉特別演習Ⅱ [宮城 孝] 年間授業/Yearly	166
人間福祉特別演習Ⅲ [岩田 美香] 年間授業/Yearly	167
人間福祉特別演習Ⅲ [小野 純平] 年間授業/Yearly	168
人間福祉特別演習Ⅲ [末武 康弘] 年間授業/Yearly	169
人間福祉特別演習Ⅲ [布川 日佐史] 年間授業/Yearly	170

SOW500J1

福祉社会研究法

中村 律子、佐藤 蘭美、関司 直也、岩田 美香、水野 雅男

科目分類・科目群：専門共通科目

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

備考（履修条件等）：隔週開講

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉社会の具体的な研究手法を学びます。

【到達目標】

研究のデザインをはじめ、データ収集の技法、各種の方法論的アプローチ、データの分析法、さらに論文作成の手法などについて理解してもらうことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究法を中心に講義し、今後、受講生が修士論文の作成などにあたってそれら研究法を適用させ、研究の深化を図れるようにすることを目的とします。具体的には文献検索、データベース活用法、研究デザイン、質的研究法、量的研究法、文献研究法、論文作成などについて、オムニバス方式によって授業を行います。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。※各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文献検索、データベース活用法①	図書館にて文献検索とデータベース活用法について学ぶ（前半）。
第 2 回	文献検索、データベース活用法②	図書館にて文献検索とデータベース活用法について学ぶ（後半）。
第 3 回	「研究デザイン」①（岩田）	仮説の設定までのプロセス、研究上のルールなどを概説する（前半）。
第 4 回	「研究デザイン」②（岩田）	仮説の設定までのプロセス、研究上のルールなどを概説する（後半）。
第 5 回	「研究デザイン演習」①（岩田）	自らの研究についてのデザインと検討を行う（前半）。
第 6 回	「研究デザイン演習」②（岩田）	自らの研究についてのデザインと検討を行う（後半）。
第 7 回	「質的研究法」①（中村）	フィールドから学ぶ意義、参与観察によるデータ収集・分析を学習する。
第 8 回	「質的研究法」②（中村）	フィールドの人々から学ぶ意義、ライフヒストリー・インタビューを中心に学習する。
第 9 回	「質的研究法」③（佐藤）	グラウンデッド・セオリアプローチを中心とした質的研究法の概要を学ぶ。
第 10 回	「質的研究法」④（佐藤）	グラウンデッド・セオリアプローチを基礎としたコード化、カテゴリー化の手法を学ぶ。
第 11 回	「量的研究法」①（関司）	統計学の意義、解釈の仕方、分析・研究法などを学習する（前半）。
第 12 回	「量的研究法」②（関司）	統計学の意義、解釈の仕方、分析・研究法などを学習する（後半）。
第 13 回	「文献研究法」（水野）	文献としての史資料の調査法を中心に学習する。
第 14 回	「論文作成」（水野）	論文の倫理性の問題と執筆方法を講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容を予め予習し、授業後は復習すること（予習・復習は 1 時間程度）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・岩田正美他編著『社会福祉研究法－現実世界に迫る 14 レッスン』有斐閣、2006 年

* 岩田、中村、佐藤の講義で使用するので、事前に購入の上、予習し内容を理解しておくこと。レッスン 7 まで予習しておくこと。

* 木下康仁著『グラウンテッド・セオリアプローチへの実践－質的研究への誘い』弘文堂、2003 年

* 佐藤の講義で使用するので、事前に入手し内容を理解しておくこと。

* 佐藤郁哉著『フィールドワーク 増訂版』新曜社、2006 年

* 中村、関司、水野の講義で使用するので、事前に入手し内容を理解しておくこと。

・上野千鶴子著『情報生産者になる』ちくま新書、2018 年

・河野哲也著『レポート・論文の書き方入門第 3 版』慶應義塾大学出版会 2011 年

* 水野の講義で使用するので、事前に入手し内容を理解しておくこと。

【参考書】

・John W. Creswell 著 操 華子・森岡 崇訳『研究デザイン－質的・量的・そしてミックス法』日本看護協会出版会、2007 年、3000 円

・桜井厚・小林多津子編著『ライフストーリー・インタビュー』せりか書房 2005 年

・ウヴェ・フリック著 小田博志他訳『新版 質的研究入門』春秋社、2011 年、¥3,900

・伊丹敬之著『創造的論文の書き方』有斐閣、2001 年、¥1,600

・大阪経済大学地域政策学科編著『フィールドワークのすすめ』法律文化社 2003 年 ¥1,900

その他参考文献は、講義にて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (80%) とレポート (20%) によって行います。

【平常点】

授業への積極的な参加を評価対象とし、授業中の質疑応答などによって評価します。

【レポート】

課題について、適切に答えているか否かを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

教員がオムニバスで担当するというメリットを活かし、受講生とともに、講義を作り上げていくことを意識して展開していきます。

【その他の重要事項】

授業の日程・時間割などの詳細は、オリエンテーションで発表します。

【担当教員の専門分野等】

【佐藤蘭美】

【専門領域】社会福祉学・ソーシャルワーク論・グリーンワーク研究

【主要研究業績】

・『医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーンとその対応：共通性と相違性』『ホスピスと在宅ケア 69』Vol.25, No.1 2017 年（共著）

・『知的障害者の生活支援』（共著、日本知的障害者福祉協会、2015 年）

・『保健福祉学：当事者主体のシステム科学の構築と実践』（共著、日本保健福祉学会、2015 年）

・『緩和ケアとソーシャルワーク』『社会福祉研究 121 号』鉄道弘済会、2014 年

【関司直也】

【専門領域】農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論

【主要研究業績】

・『田園回帰の過去・現在・未来』（共著、農山漁村文化協会、2016 年）

・『農山村再生に挑む』（共著、岩波書店、2013 年）

・『若者と地域をつくる一地域づくりインターンに学ぶ学生と農山村の協働』（共著、原書房、2010 年）

【中村律子】

【専門領域】高齢者福祉論、社会福祉施設処遇史、社会福祉学

【主要研究業績】

・『浴風園ケース記録集－100 人』（共著、学文社、2015 年）

・『ネパール社会における「sewa・コミュニティ」に関する一考察』（現代福祉学第 13 号、法政大学現代福祉学部紀要、2013 年）

・『実践のコミュニティ』（共著、京都大学出版会、2012 年）

・『戦前の養老院の社会的意義について－開園から救護法施行期までの浴風園の原史料分析－』（現代福祉学第 8 号、法政大学現代福祉学部紀要、2008 年）

【水野雅男】

【専門領域】都市住宅政策論・地域経営論

【主要研究業績】

・『被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究』（日本都市計画学会、2016 年）

・『地方都市の再生戦略』（共著、学芸出版社、2013 年）

・『生活景』（共著、学芸出版社、2009 年）

【岩田美香】

【専門領域】子ども・家族福祉、教育福祉論

【主要研究業績】

・『子育ての分断と連続』『シリーズ子どもの貧困②遊び・育ち・経験』（共著、明石書店、2019 年）

・『児童養護施設職員から見た入所児童の貧困経験と支援』『立命館産業社会論集』第 56 号・第 1 号、2020 年

・『子ども家庭福祉論』（編著、生活書院、2020 年）

【Outline and objectives】

Learn about research methods for welfare society.

SOW500J1

ソーシャルポリシー特論

布川 日佐史

科目分類・科目群：専門展開科目（システム・マネジメント系）
配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルポリシーの基本原則、構造への検討を国際比較の視点から行い、現代的な課題を明らかにする。

【到達目標】

ヨーロッパ・東アジアと日本の福祉レジーム・ソーシャルポリシーの比較に関する先行研究を検討し、比較のポイントを理解する。
受講生各自のテーマに関する専門分野における比較研究の先行研究を検討し、オリジナルな視点を明確にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 比較対象としてどの国に焦点をあてるか、介護や貧困など、どのような政策課題に重点を置くかは、受講生と相談のうえで決めます。
- 2) オンラインでの授業を取り入れます。
- 3) 報告やまとめ等は授業内で紹介、コメントし、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本のソーシャルポリシーの特徴（1）	皆保険皆年金体制と公的扶助
2	日本のソーシャルポリシーの特徴（2）	再分配・「逆機能」
3	日本のソーシャルポリシーの特徴（3）	第二のセーフティネット
4	先行研究の検討（1）	貧困と社会的排除、包摂
5	先行研究の検討（2）	老親扶養の義務
6	先行研究の検討（3）	子どもの貧困対策
7	先行研究の検討（4）	ヨーロッパ福祉レジームとドイツ社会国家
8	先行研究の検討（5）	東アジア福祉レジーム論の検討
9	中間まとめ	論点整理と検討
10	テーマ関連研究（1）	関連資料の収集
11	テーマ関連研究（2）	関連資料の検討
12	先行研究まとめ	論点の整理
13	先行研究まとめ	批判的検討
14	全体まとめ	各自の振り返りと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料・テキストを読んで、要点をまとめたうえで授業に臨んでください。
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

受講生の状況に合わせて、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表（70%）、先行研究まとめの内容（30%）

【学生の意見等からの気づき】

先行研究の検討が大切だという意見を反映させます。

【Outline and objectives】

This lecture will explain the basic principles and structure of social policy and clarify contemporary issues from the perspective of international comparison.

PRI500J1

データ分析法

服部 環

科目分類・科目群：専門展開科目（研究基盤）
配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

R 言語（統計解析ソフトウェア）を用いてミニチュアデータを分析し、多変量解析の基礎的技法と最新の技法を詳しく学んでいきます。

【到達目標】

R 言語を用いて演算スクリプトを書けるようになること、多変量解析の諸技法に関する理解を深め、統計量を適切に解釈できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿った講義とパソコンソフトウェア R 言語を用いた実習を繰り返していきます。

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の予定について確認します
第2回	R 言語の基礎	R 言語の基礎的演算子を学びます
第3回	重回帰分析	重回帰分析とその統計的仮説検定、カテゴリカルデータを用いた重回帰分析を学びます
第4回	一般化線形モデル	一般化線形モデルの基礎を学びます
第5回	分類法	判別分析とクラスター分析を学びます
第6回	因子分析	探索的因子分析とカテゴリカル因子分析を学びます
第7回	主成分分析	主成分分析を学びます
第8回	分散分析の基礎と1要因の分散分析	分散分析の基礎と1要因の分散分析を学びます
第9回	2要因の分散分析	被験者間要因と被験者内要因の分散分析について学びます
第10回	因果分析の基礎	因果分析法の基礎を学びます
第11回	パス解析	構造方程式モデリング（SEM）の基礎と観測変数のパス解析を学びます
第12回	確認的因子分析	確認的因子分析と成長曲線モデリングを学びます
第13回	相関分析	SEM を応用した相関分析を学びます
第14回	潜在変数のパス解析	潜在変数を伴うパス解析を学びます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

多変量解析の諸技法を段階的に学習していきますので、十分な復習が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に説明します。また、資料を配付します。

【参考書】

服部 環 心理・教育のための R によるデータ解析（福村出版）
足立浩平 多変量データ解析法－心理・教育・社会系のための入門（ナカニシヤ出版）
南風原朝和 心理統計学の基礎－統合的理解のために（有斐閣）
山田剛史・村井潤一郎・杉澤武俊 R による心理データ解析（ナカニシヤ出版）

【成績評価の方法と基準】

レポートの内容・結果（50%）と平常点（50%）を総合して評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が基礎・基本を理解できるよう説明を工夫したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

実習室のパソコン、R 言語、エクセルなどを使用します。

【その他の重要事項】

受講生が持つ事前知識に応じて授業計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>
教育心理測定学、心理データ解析
<研究テーマ>

項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用

<主要研究業績>

- (1) 読んでわかる心理統計法 (共著, サイエンス社)
- (2) 心理・教育のための R によるデータ解析 (単著, 福村出版)
- (3) 日本版 KABC-II マニュアル・換算表 (共訳編, 丸善出版)
- (4) Q&A 心理データ解析 (共著, 福村出版)

[Outline and objectives]

This course will introduce students to advanced psychological statistics, including hypothesis testing, statistical power analysis, major multivariate analyses, and structural equation modeling.

SOW500J1

福祉社会特論Ⅱ

服部 環

科目分類・科目群：専門展開科目

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な多変量解析法を中心として、統計解析用パソコンソフトウェア SPSS を利用しながらデータ解析法を学びます。

【到達目標】

研究仮説に応じて適切なデータ解析技法を適用でき、それぞれの技法が算出する統計量を適切に解釈できるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿った講義と SPSS を用いた実習を繰り返していきます。授業の前半では 1 変数と 2 変数の記述統計、後半では統計的仮説検定、分散分析、基本的な多変量解析法を学びます。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容と計画、使用機器を確認し、R 言語のベースとパッケージの関係について理解します
第 2 回	基本的演算	基本的な演算記号を理解し、使用します
第 3 回	要約統計量	1 変数の特徴を要約する統計量を学びます
第 4 回	共分散と相関	量的 2 変数の関係を記述する共分散と相関係数を学びます
第 5 回	連関	質的 2 変数の関係を記述する統計量と連関係数を学びます
第 6 回	平均と相関係数の信頼区間	平均と相関係数の信頼区間を学びます
第 7 回	平均に関する仮説検定	1 標本と 2 標本の平均の仮説検定を学びます
第 8 回	相関と連関に関する仮説検定	相関係数と連関の仮説検定を学びます
第 9 回	1 要因の分散分析	分散分析の考え方と被験者間 1 要因の分散分析を学びます
第 10 回	多重比較	被験者間 1 要因の多重比較を学びます
第 11 回	2 要因の分散分析	被験者間 2 要因の分散分析を学びます
第 12 回	単純主効果と多重比較	被験者間 2 要因における交互作用、単純主効果、多重比較を学びます
第 13 回	重回帰分析	重回帰分析の考え方と留意点を学びます
第 14 回	因子分析	因子分析の考え方を学びます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データ解析技法の実践的な利用方法を知るには研究論文を読むことが必要です。それによって技法に関する理解を深めることもできます。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文系のための SPSS データ解析 (山際勇一郎・服部 環 [著] ナカニシヤ出版)

【参考書】

足立浩平 多変量データ解析法－心理・教育・社会系のための入門 (ナカニシヤ出版)
南風原朝和 心理統計学の基礎－統合的理解のために (有斐閣)

【成績評価の方法と基準】

レポートの結果 (50%) と平常点 (50%) を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく数式を少なくしてデータ解析法を説明します。

【学生が準備すべき機器他】

実習室のパソコン、SPSS を使用します。

【その他の重要事項】

受講生が持つ事前知識に応じて授業計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>
教育心理測定学、心理データ解析

<研究テーマ>

項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用

<主要研究業績>

- (1) 読んでわかる心理統計法 (共著, サイエンス社)
- (2) 心理・教育のための R によるデータ解析 (単著, 福村出版)
- (3) 日本版 KABC-II マニュアル・換算表 (共訳編, 丸善出版)
- (4) Q&A 心理データ解析 (共著, 福村出版)

[Outline and objectives]

This course will introduce students to elementary statistics for welfare sociology, including descriptive statistics, basic principles of statistical inference, hypothesis testing, multiple regression, and factor analysis. The primary purpose of the course is to help students become familiar with basic concepts of elementary statistics and statistical computing using SPSS.

LANe500J1

原書講読研究

高取 康之

科目分類・科目群：専門展開科目（研究基盤）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の専門書及び学術論文の輪読と論文の要旨 (abstract) のためのライティングスキル習得を目的とする。

【到達目標】

英語で書かれた先行研究の内容を理解できるようになること。
論文の要旨 (abstract) が英語で書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトを配布してリーディング及びライティング演習に取り組んでいきます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる題材については予習復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ハンドアウト

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%(授業内演習等), レポート等課題 50%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典（電子辞書可）

【その他の重要事項】

学生の研究トピックと英語力に応じて適宜授業内容を調整していきます。

【担当教員の専門分野等】

コーパス言語学, 英語学, 辞書学, 英語教授法 (TESOL)

【Outline and objectives】

This course is designed for graduate students to cultivate their academic reading and writing skills.

As the materials and contents of this course will largely reflect students' research interests, it is important for each student to clarify the particular areas of study or research topics he or she is focusing on in the graduate program upon attending the first class meeting of this course. At the completion of the course, students will have acquired a practical strategy for reading English research papers and be able to appropriately cite data, suggestions, or findings from previous studies. Students will also be able to write an abstract for their own research project in English according to the format required by particular academic journals.

LANe500J1

学術英語

山本 五郎

科目分類・科目群：専門展開科目（研究基盤）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の専門書及び学術論文の輪読と、論文や研究発表のための要旨 (abstract) 作成のライティングスキル習得を目的とする。

【到達目標】

英語で書かれた専門書・研究論文を批判的に読解できるようになること。
英語の論文や研究発表のタイトルの付け方、スライドの構成、参考文献のフォーマットなどについて理解すること。
論文や研究発表の要旨 (abstract) が英語で書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトを配布してリーディング及びライティング演習に取り組んでいきます。
課題等に対するフィードバックについては、学習支援システムのコメント欄等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、使用教材・授業内演習についての説明
第 2 回	Academic reading 1	Selected readings: Online articles
第 3 回	Academic reading 2	Selected readings: Research papers
第 4 回	Academic reading 3	Selected readings: Domestic issues
第 5 回	Academic reading 4	Selected readings: International issues
第 6 回	Academic reading 5	Selected readings: Current social issues in Japan
第 7 回	Academic reading 6	Translation
第 8 回	Academic reading 7	Summarization
第 9 回	Academic writing 1	Abstract: Vocabulary items
第 10 回	Academic writing 2	Abstract: Common phrases
第 11 回	Academic writing 3	Abstract: Sentence structures
第 12 回	Academic writing 4	Voice
第 13 回	Academic writing 5	Tense
第 14 回	Academic writing 6	Abstract writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる題材については予習復習を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ハンドアウト

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%(授業内演習等)、レポート等課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の研究トピックと英語力に応じて適宜授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典（電子辞書可）

【担当教員の専門分野等】

コーパス言語学、英語学、辞書学、英語教授法 (TESOL)

【Outline and objectives】

This course is designed for graduate students to cultivate their academic reading and writing skills. As the materials and contents of this course will largely reflect students' research interests, it is important for each student to clarify the particular areas of study or research topics he or she is focusing on in the graduate program upon attending the first class meeting of this course. At the completion of the course, students will have acquired a practical strategy for reading English research papers and be able to appropriately cite data, suggestions, or findings from previous studies. Students will also be able to write an abstract for their own research project in English according to the format required by particular academic journals.

SOW500J1

福祉社会データ解析

服部 環

科目分類・科目群：専門展開科目（研究基盤）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な多変量解析法を中心として、統計解析用パソコンソフトウェア SPSS を利用しながらデータ解析法を学びます。

【到達目標】

研究仮説に応じて適切なデータ解析技法を適用でき、それぞれの技法が算出する統計量を適切に解釈できるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿った講義と SPSS を用いた実習を繰り返していきます。授業の前半では 1 変数と 2 変数の記述統計、後半では統計的仮説検定、分散分析、基本的な多変量解析法を学びます。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容と計画、使用機器を確認し、R 言語のベースとパッケージの関係について理解します
第 2 回	基本的演算	基本的な演算記号を理解し、使用します
第 3 回	要約統計量	1 変数の特徴を要約する統計量を学びます
第 4 回	共分散と相関	量的 2 変数の関係を記述する共分散と相関係数を学びます
第 5 回	連関	質的 2 変数の関係を記述する統計量と連関係数を学びます
第 6 回	平均と相関係数の信頼区間	平均と相関係数の信頼区間を学びます
第 7 回	平均に関する仮説検定	1 標本と 2 標本の平均の仮説検定を学びます
第 8 回	相関と連関に関する仮説検定	相関係数と連関の仮説検定を学びます
第 9 回	1 要因の分散分析	分散分析の考え方と被験者間 1 要因の分散分析を学びます
第 10 回	多重比較	被験者間 1 要因の多重比較を学びます
第 11 回	2 要因の分散分析	被験者間 2 要因の分散分析を学びます
第 12 回	単純主効果と多重比較	被験者間 2 要因における交互作用、単純主効果、多重比較を学びます
第 13 回	重回帰分析	重回帰分析の考え方と留意点を学びます
第 14 回	因子分析	因子分析の考え方を学びます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データ解析技法の実践的な利用方法を知るには研究論文を読むことが必要です。それによって技法に関する理解を深めることもできます。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文系のための SPSS データ解析（山際勇一郎・服部 環 [著] ナカニシヤ出版）

【参考書】

足立浩平 多変量データ解析法－心理・教育・社会系のための入門（ナカニシヤ出版）

南風原朝和 心理統計学の基礎－統合的理解のために（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

レポートの結果（50%）と平常点（50%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく数式を少なくしてデータ解析法を説明します。

【学生が準備すべき機器他】

実習室のパソコン、SPSS を使用します。

【その他の重要事項】

受講生が持つ事前知識に応じて授業計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

教育心理測定学、心理データ解析

<研究テーマ>

項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用

<主要研究業績>

- (1) 読んでわかる心理統計法（共著，サイエンス社）
- (2) 心理・教育のための R によるデータ解析（単著，福村出版）
- (3) 日本版 KABC-II マニュアル・換算表（共訳編，丸善出版）
- (4) Q&A 心理データ解析（共著，福村出版）

【Outline and objectives】

This course will introduce students to elementary statistics for welfare sociology, including descriptive statistics, basic principles of statistical inference, hypothesis testing, multiple regression, and factor analysis. The primary purpose of the course is to help students become familiar with basic concepts of elementary statistics and statistical computing using SPSS.

SOW500J1

福祉社会特論

科目分類・科目群：専門展開科目（研究基盤）

配当年次／単位数：1・2 年次／単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

SOW500J1

ケアマネジメント特論

末田 千恵

科目分類・科目群：専門展開科目（システム・マネジメント系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学院生および研究生たちのケアマネジメントに関する基礎的な理解と共に各自の研究テーマに必要な基礎的理論と実践現場における実態や課題について深めていく。

【到達目標】

ケアマネジメントの理解について準備状態を明らかにし、そのうえで各自の研究に必要な基礎的な理論と実践現場における実態や課題について習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義および演習形式にて授業を行います。

また、授業はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	参加者数により個別指導またはグループ演習か検討する
第2回	研究テーマとケアマネジメント特論の接点	研究テーマの発表と今後のグループ演習の目標について議論する 社会人が多い場合は実践の課題から、基礎学生の場合は理論から開始する
第3回	ケアマネジメントの歴史と国際比較	ケアマネジメントの日本における発展経緯および対象と活動を歴史の変遷の中で明らかにする
第4回	ケアマネジメントの構造と機能	ケアマネジメントの構造と機能を理解する
第5回	ケアマネジメントプロセス	ケアマネジメントプロセスの理解と課題
第6回	ケアマネージャーの役割	ケアマネージャーの役割の理解と主任介護支援専門員の課題
第7回	ケアマネージャーに求められる役割	資格取得の変遷、研修制度や免許更新制度の理解、地域包括支援センターとの関連での役割
第8回	演習	ケアマネジメントを実践事例を通して具体的に理解する
第9回	演習	ケアマネジメントを実践事例を通して具体的に理解する
第10回	多職種の連携と協働	多様な専門職との連携と協働、および現代の課題
第11回	演習	多職種連携の理念と課題について話し合う
第12回	地域ケアシステムとケアマネジメント	地域福祉向上および社会資源開発とケアマネジメント
第13回	介護保険制度のレビューとケアマネジメント	地域ケア会議の進め方 介護保険制度の理解の確認とアクセスの理解と課題、ケアマネジメントの盲点
第14回	まとめ	研究テーマの達成のための議論をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業および演習後には不明な点への質問と感想を提出する
次回への課題を提示する時には課題提出をおこなう。
準備・復習時間は各2時間以上である。

【テキスト（教科書）】

必要時に提示する

【参考書】

個別な指導時に紹介する

【成績評価の方法と基準】

- ①演習への参加 60%
②課題発表 40%

【学生の意見等からの気づき】

保健医療福祉特論とケアマネジメント特論は隔年授業のためと昨年度は休講だったため、FD結果等は実施していなかった。

【学生が準備すべき機器他】

発表などでパワーポイントが必要な時には各自で申し出ていただきたい

【担当教員の専門分野等】

多職種連携、ケアマネジメント、地域・在宅看護学

【Outline and objectives】

This course introduces the care management, the role of care manager and community based Integrated Care System in Japan to students taking this course.

SOW500J1

ソーシャルワーク特論 I

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

備考（履修条件等）：隔週開講

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでのソーシャルワーク実践では、当事者支援のプロセスにおける死別ケアや看取りについて語られることが少ない状況であった。しかしながら、人口の高齢化や核家族化などの社会状況の変化により、ソーシャルワーク実践において、当事者の死別ケアや看取りにかかわることが求められつつある。こうした状況をふまえ、本講義ではソーシャルワーク実践における死別ケアのあり方について考究していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義を通して、生と死について考究し、学問的見地をふまえた自らの意見を表明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には、いくつかの代表的な死をめぐる諸説を取り上げ、学習していく。そのうえで、当事者の死別体験にソーシャルワーカーはいかにしてかかわっているのかをディスカッションや事例を通して検討し、ソーシャルワークにおける死別ケアのあり方について考察する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義要領と内容説明
第 2 回	死をめぐる諸説の説明	死別に関する先行研究の説明
第 3 回	死をめぐる諸説の説明と検討	死別に関する先行研究の説明と議論
第 4 回	死別ケアの実際	先行研究および文献検討
第 5 回	ソーシャルワーク実践における死別ケアの実際	先行研究および文献検討
第 6 回	ソーシャルワーク実践における死別ケアの実際	ソーシャルワーク実践における具体的な死別ケアに関するグループディスカッションを行う
第 7 回	死生観と援助観との関連性	文献検討とディスカッション
第 8 回	死生観の援助観との関連性	文献検討とグループディスカッション
第 9 回	死別に関する DVD 鑑賞	死別に関する DVD を鑑賞する
第 10 回	全体討議	死別に関する DVD 鑑賞をうけて、グループディスカッションを行う
第 11 回	医療職とソーシャルワーカーの立ち位置について	死別に関する DVD 鑑賞をうけて討議
第 12 回	医療職とソーシャルワーカーの実践比較	論文検討
第 13 回	他職種とのかかわりの違い	これまで学習したことを踏まえてのディスカッション
第 14 回	総括	生と死についてのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。

①一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座ソーシャルワークの基盤と専門職 I』、②一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『ソーシャルワークの理論と方法』 なお、本講義の準備・復習時間は各 4 時間程度とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

坂口幸弘（2010）『悲嘆学入門』昭和堂

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）・発表と討議への参加およびレポートなど（50%）を総合的に評価する。

特に、発表と討議に備えた先行研究の読み込み、自主学習については、成績評価の際のポイントとなる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

日常生活において「死」について考える機会が少ないため、その機会を提供することについて評価をいただいたので、その点を意識して講義を展開したい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

<主要研究業績>

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグループとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.

SOW500J1

ソーシャルワーク特論Ⅱ

高良 麻子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会的に不利な立場におかれている人びとの権利の実現を目的に、主に社会福祉関連法制度の改廃や創設等から、排除や抑圧構造等の社会構造の変革を目指すソーシャルワークにおけるソーシャルアクションについて学ぶ。

【到達目標】

- ・ソーシャルワークにおけるソーシャルアクションについて説明できる。
- ・ソーシャルアクションの活動計画を策定できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、文献や事例の分析およびディスカッションを通して、様々な視点からソーシャルワークにおけるソーシャルアクションを理解する。また、ソーシャルアクションを実践するための具体的な計画を作成する。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第3回	社会問題とは何か②	活動からの理解 SDGs(持続可能な開発目標) 社会問題の連鎖
第4回	人権と社会正義	ソーシャルアクションの原理
第5回	ソーシャルアクションの変遷	ソーシャルアクションの歴史からの理解
第6回	ソーシャルアクションの概要	ソーシャルアクションの定義と方法
第7回	ソーシャルアクションの実践事例分析①	ソーシャルアクションの要素等による分析
第8回	ソーシャルアクションの実践事例分析②	ソーシャルアクションの要素等による分析
第9回	パワーアセスメント	ターゲットシステムのパワーアセスメント
第10回	プログラム評価	ロジックモデル
第11回	ソーシャルアクションの活動計画①	社会問題の構造的把握
第12回	ソーシャルアクションの活動計画②	目標の設定と可視化・組織化の方法検討
第13回	ソーシャルアクションの活動計画③	ターゲットシステムへの働きかけの方法検討
第14回	総括	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、参考書、配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル－「制度からの排除」への対処』中央法規

【参考書】

木下大生・鴻巣麻里香編著（2019）『ソーシャルアクションあなたが社会を変えよう－はじめの一步を踏み出すための入門書』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60%
- ・実践計画 40%

【学生の意見等からの気づき】

ソーシャルアクションにおいて必要なプログラム評価に関する授業内容を加えました。

【Outline and objectives】

This course is designed to explore social action which is a coordinated effort to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, correct an injustice.

SOW500J1

ソーシャルワーク理論研究特論

伊藤 正子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

備考（履修条件等）：隔週開講

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの視点と実践モデルを学ぶ。

【到達目標】

ソーシャルワークの発展過程において、援助の視点、方法、目標がどのように変遷してきたのかについて説明できる。
ソーシャルワークの各実践モデルの特徴について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、ソーシャルワークを歴史的に概観し、各実践モデルが発展してきた過程を整理する。その上で、テキストに沿いながら、ソーシャルワークにおける各実践モデルについて、起源・影響、問題理解の視点、介入原理・技法・過程、ターゲットグループ、残された課題、日本における展開の7つの項目について整理していく。オンラインまたは対面での開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第2回	ソーシャルワークの歴史	視点、価値、思想
第3回	実践モデル①	心理社会的アプローチ
第4回	実践モデル②	機能的アプローチ
第5回	実践モデル③	問題解決モデル
第6回	実践モデル④	家族療法とソーシャルワーク
第7回	実践モデル⑤	行動療法とソーシャルワーク
第8回	実践モデル⑥	課題中心ソーシャルワーク
第9回	実践モデル⑦	生態学的(エコロジカル)アプローチ
第10回	実践モデル⑧	ジェネラリスト・アプローチ
第11回	実践モデル⑨	ケアマネジメント
第12回	実践モデル⑩	ソーシャルサポート・ネットワーク
第13回	実践モデル⑪	エンパワメント・アプローチ
第14回	実践モデル⑫	構成主義・ナラティブアプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の該当部分をテキストに沿って学習しておくこと。また報告担当者は、テキスト内の参考文献や、授業中に紹介する文献・資料などを中心に、入念な準備を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

久保敏章・副田あけみ著『ソーシャルワークの実践モデル 心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店 2005年、一部の理論に関する文献については、受講生と相談の上決定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（70%）
2. 最終レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは未実施

【学生が準備すべき機器他】

オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】

医療機関・NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、ソーシャルワークの実践について解説する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
<研究テーマ>エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

【Outline and objectives】

This course introduce the different perspectives and skills of social work practice.

SOW500J1

ソーシャルワーク実践研究特論

堀越 由紀子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆ソーシャルワークは、人々の生活や人生に関わる実践であり、また学問である。その視野には、社会における人々と環境（社会）とのかかわりあいがある。常に複眼的にとらえられている。したがって、ソーシャルワークの研究においては、人と環境（社会）との接触面における様々な事象をとらえ、それを丁寧に検証することが重要となる。

◆本講義では、そうした考え方を前提に、多様な領域で行われるソーシャルワークについて、

その内容や方法、経過、成果等を考察し、ミクロからマクロまでのソーシャルワーク理論や周辺領域の諸理論にもとづいて研究する。

◆加えて、クリティカルソーシャルワークの系譜を参考に、現代社会における課題と、ソーシャルワークの対応状況について検討する。

【到達目標】

◆受講生によって文脈的に再現される具体のソーシャルワークの実践・活動について、理論（概念）を用いて捉え、説明し直すことによって客観化をはかり、受講生が今後の活動や研究を続ける道筋への示唆を得る。

◆現代社会の課題とソーシャルワーク理論の対応状況について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

◆各受講生の研究関心に応じたソーシャルワークあるいは関連する諸活動の経過を、検討資料として提供していただき、設定されたテーマについて受講生全員による相互支援的な討議を行う。

◆検討資料を提供していただく際には、その内容や提供方法が倫理的に許容される範囲である必要があることから、あらかじめ情報を加工しておくなど、個人情報等の守秘等について十分に配慮していただきたい。

◆検討にあたっては、“実践の検討”から“実践の研究”にシフトさせるために有効な理論を探索し、研究への道筋を模索する。

◆リアクションペーパーや課題へのコメントは、学習支援システムを活用してフィードバックを行う予定にしている。

◆各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション～社会福祉実践を研究する方法論	ソーシャルワークの構成要素を確認し、実践研究の対象、検討・研究アプローチや方法を理解する。
第2回	実践事例の検討と研究（第1テーマ）①	受講生から提供していただいた「実践」について検討する。
第3回	実践事例の検討と研究（第1テーマ）②	受講生から提供していただいた「実践」について検討し、活用可能な理論や研究へのシフトを考察する。
第4回	実践事例の検討と研究（第1テーマ）③	受講生から提供していただいた「実践」について検討し、活用可能な理論や研究へのシフトを考察する。
第5回	実践事例の検討と研究（第2テーマ）①	受講生から提供していただいた「実践」について検討する。
第6回	実践事例の検討と研究（第2テーマ）②	受講生から提供していただいた「実践」について検討し、活用可能な理論や研究へのシフトを考察する。
第7回	実践事例の検討と研究（第2テーマ）③	受講生から提供していただいた「実践」について検討し、活用可能な理論や研究へのシフトを考察する。
第8回	実践事例の検討と研究（第3テーマ）①	受講生から提供していただいた「実践」について検討する。
第9回	実践事例の検討と研究（第3テーマ）②	受講生から提供していただいた「実践」について検討し、活用可能な理論や研究へのシフトを考察する。
第10回	実践事例の検討と研究（第3テーマ）③	受講生から提供していただいた「実践」について検討し、活用可能な理論や研究へのシフトを考察する。
第11回	実践事例の検討と研究（第4テーマ）①	受講生から提供していただいた「実践」について検討する。
第12回	実践事例の検討と研究（第4テーマ）②	受講生から提供していただいた「実践」について検討し、活用可能な理論や研究へのシフトを考察する。

第13回 実践事例の検討と研究（第4テーマ）③

受講生から提供していただいた「実践」について検討し、活用可能な理論や研究へのシフトを考察する。

第14回 実践事例検討と研究について（まとめ）

事例の検討を振り返り、実践事例の研究の意義を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆受講生の方々には、いわゆる利用者への支援ばかりでなく、社会福祉にかかわる様々な活動がソーシャルワークとして「検討・研究」の対象となりうると考えていただきたい。

◆その上で、積極的に自身の体験を提示して下さることを期待する。

◆授業に際しては、ソーシャルワークに関連する諸理論について基礎的理解があることが望ましいので可能な限り各自で学習をお願いしたい。なお、必要に応じて文献等を紹介する。

◆本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

各回のテーマに合致するものを随時配布、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

◆授業へのコミットメント・・・討議資料提示と討議への参画（70%）

◆事後レポート・・・（30%）

* なお、授業形式がオンラインになる場合には、成績評価の方法と基準も変更とする。

その場合には詳細を授業支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートは実施していないのでフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

◆授業ではパワーポイント資料を投影して使用する。

◆投影資料および参考資料は予め授業支援システムにて配布する。

◆対面授業の場合、パソコン、タブレット等を持参して使用することもよい。

◆対面授業の場合、黒板全面を使用して板書・描画するので、必要に応じて写メするなどしてほしい。

◆授業形式がオンラインになる場合、web上の「ホワイトボード」を使用する可能性がある。それなりに大きな画面で視聴できる環境が望ましい。

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野】

<研究領域>①ソーシャルワークの方法論・理論 ②保健医療ソーシャルワークの生成過程

【オフィスアワー】

◆授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受けることができます。

◆メールでの連絡もOK。

yukiko-hrksh@tokai-u.jp

【Outline and objectives】

◆ Social work is a practice-based profession and an academic discipline that promotes social change and development, social cohesion, and the empowerment and liberation of people. It concerned with helping individuals, families, groups and communities to enhance their individual and collective well-being.

◆ In this lecture, we examine the content, method, process and outcome of social work practice conducted in various fields, and study practice based on social work theory from micro to macro.

◆ Then, with reference to the genealogy of critical social work, we will examine

how social work responds to issues in modern society.

SOW500J1

地域福祉特論

宮城 孝

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域福祉の実践方法論、特に地域を基盤としたソーシャルワークの方法（コミュニティソーシャルワーク）について、その概念、関連する理論、今日的意義について理解を図るとともに、実践現場における具体的なスキルについて、事例を用いた演習によって修得を図る。また、地域福祉のシステムの開発、整備の在り方について、先進的な事例の分析によって理解を図る。

【到達目標】

コミュニティソーシャルワークの理論の内容について説明できる。
地域を基盤としたソーシャルワークの一連のスキルを説明できる。
自らの事例について、アセスメントからプランニングを適切に設計できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、演習、事例分析などによる。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、CSWの概念等
第2回	CSWの理論と今日的な意義	理論と今日的な意義、先進事例分析
第3回	事例を用いた演習①	個別課題アセスメント①
第4回	事例を用いた演習②	個別課題アセスメント②
第5回	事例を用いた演習③	地域アセスメント①
第6回	事例を用いた演習④	地域アセスメント②
第7回	事例を用いた演習⑤	アセスメントの統合
第8回	事例を用いた演習⑥	ソーシャルサポートマップの作成
第9回	事例を用いた演習⑦	プランニング①
第10回	事例を用いた演習⑧	プランニング②
第11回	地域ネットワークの形成	視点と方法、先進事例の分析等
第12回	地域福祉のシステム開発	視点と方法、先進事例の分析等
第13回	地域福祉計画と包括的相談・支援システム①	視点と方法
第14回	地域福祉計画と包括的相談・支援システム②	先進事例の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示した文献や演習課題等をレポートやワークシートにまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

宮城 孝編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開-理論と先進事例-』中央法規、2019年

【参考書】

宮城 孝編集代表『地域福祉のイノベーション-コミュニティの持続可能性の危機に挑む-』中央法規、2017年、
宮城 孝ほか編著『地域福祉とファンドレイジング-財源確保の方法と先進事例-』中央法規、2018年
中島 修、菱沼幹男『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』中央法規、2015年 他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点60%、レポート等の提出とその内容40%により総合的に評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心のある研究テーマに応じ、地域福祉との関連について探求する機会を設けることとする。

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、その経験を活かしてコミュニティソーシャルワークのスキルの修得を図ることとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕地域福祉方法論

【主要研究業績】

・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開-理論と先進事例-』（編著）中央法規、2019年、
・『地域福祉とファンドレイジング-理論と先進事例-』（編著）中央法規、2018年
・『地域福祉のイノベーション-コミュニティの持続可能性の危機に挑む』（編集代表・共著）中央法規、2017年
・『東日本大震災と地域福祉-次代への継承を探る-』（編集担当・共著）中央法規、2015年
・『相談援助演習』（編著）ミネルヴァ書房、2015年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規、2014年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規、2007年
・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年
・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000年

【Outline and objectives】

The methodology of the Community welfare, speciality, the concept about the Community socialwork, the related theory, it makes to learn skill on community social work.

SOW500J1

児童福祉特論

岩田 美香

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもにとって家族は、安寧と権利を保障される場であると同時に、ストレスをもたらすような権利侵害の場としても存在している。この講義では、文献の検討を通して、広く社会構造の中で子ども・家族をとらえ直し、その求められる役割と機能等について社会福祉の立場から考察を深める。あわせて、子どもと家族への援助についての検討を行う。

【到達目標】

- ・子どもと家族がおかれている現状を把握する。
- ・子ども家庭福祉、教育、それらに関連する研究論文を読み解く。
- ・子どもと家族に対するソーシャルワークおよび教育に関して、学際的な検討を行う。
- ・履修者の研究関心と照らし合わせ、批判的意見も含めて検討する。
- ・議論の積み重ねを各自の研究にフィードバックしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・上記の到達目標を達成するため、本年度は、親子関係と子育てに関する文献を題材として、各自の研究関心との関連で議論していく。
- ・履修者は、自身の研究関心をもとに、全員が文献に関する論点を書き出したペーパーを毎回用意し、それをもとに議論を進めていく。
- ・各自の研究について発表し、様々な領域や視点からの検討を行う。
- ・授業の最後に、課題についての講評を行い、フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、各自の問題関心についての発表
第2回	「育児の社会化」の再構想	実施主義と「ハイブリッドな親子関係」、何が育児の社会化を阻むのか
第3回	代理出産における親子・血縁	代理出産の歴史、他人の受精卵、棄てられる子ども、ゲイカップルの依頼者
第4回	個人研究発表1	各自の研究関心について発表し議論する（2名）
第5回	特別養子制度の立法過程からみる親子観	戸籍の記載をめぐる議論、実親子の法律関係をめぐる議論、「実親子」と「血縁」をめぐるポリティックス
第6回	「家族」のリスクと里親養育	里親制度の変遷、被支援者としての「里親」の構築、「普通の家族」というフィクション
第7回	個人研究発表2	各自の研究関心について発表し議論する（2名）
第8回	「施設養護」での育児規範の「理想形の上昇」	戦後における乳児院と児童養護施設の増加、1960年代後半から70年代前半の「新しい児童問題」の興隆
第9回	<ハイブリッド>性からみる「ハイブリッドな親子」のゆくえ	「親子」の要素の分節・接合と解釈の政治、親子の序列化
第10回	個人研究発表3	各自の研究関心について発表し議論する（2名）
第11回	子育ての脱家族化をめぐる「家庭」ロジックの検討	施設養護と家庭的養護との優劣をめぐる論争、「家庭化」への収斂の背景
第12回	社会的養護施策の推進における家庭的養護観の検討	子ども家庭福祉における家庭養護観、家族社会学研究における家庭養護観、家庭的養護志向の今後
第13回	個人研究発表4	各自の研究関心について発表し議論する（2名）
第14回	総括	全体を通してのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に文献を読み、自身の研究関心をもとにテーマに関する論点を書き出したペーパーを毎回用意すること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

野辺陽子・松木洋人・日比野由利・和泉広恵・土屋敦（2016）『<ハイブリッドな親子>の社会学—血縁・家族へのこだわりを解きほぐす』青弓社

【参考書】

・藤間公太（2013）「子育ての脱家族化をめぐる『家庭』ロジックの検討—社会的養護に関する議論を手がかりに—」『家族福祉研究』No.38、91-107。
 ・武石卓也・山縣文治（2020）「社会的養護施策の推進における家庭的養護観の検討：家族社会学科らの批判を踏まえ」『人間健康学研究』13巻、97-108。
 他は、履修者の関心に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内発表と討論参加（30%）、課題の提出（30%）、最終レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野】

〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論
 〈研究テーマ〉

1. 子育て・子育ての社会的不平等
2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline and objectives】

This course will examine the major issues of children and their families in a social context.

SOW500J1

高齢者福祉特論

中村 律子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、高齢者福祉関連分野の研究をとおして、老いやケアをめぐる諸説を整理し、その特質を理解する。さらには、高齢者福祉研究方法論の再構築を試みる。

【到達目標】

高齢者福祉論、老いの文化論、老年社会学などに関する研究論文や実践事例を分析検討し、高齢者福祉研究のあり方を展望することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の講義テーマにしたがって、具体的な現実（生きる場としての地域と高齢者の生活世界）のなかから、高齢者福祉研究のあり方（老いと近代社会論、高齢期と家族、社会的ネットワーク、老いとケア）を考察する。また、老いの文化論に関する文献を取り上げ、高齢者福祉研究の議論を深めていくことが狙いである。そのため、授業内発表やディスカッションなどを取り入れる。また、リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し議論に活かします。課題提出へのフィードバックについては学習支援システムへ展開します。なお、方法授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容及びスケジュールの説明、研究テーマの紹介
第2回	老いと近代化論①	社会福祉学の代表的な文献整理
第3回	老いと近代化論②	人類学、民俗学、社会学の文献整理
第4回	アイデンティティ論	老年心理学、老年精神学、ライフサイクル論、宗教論などの文献整理
第5回	高齢社会と高齢者の社会適応、生きがい①	家族や地域の視点で、高齢者の社会活動や生きがいに関する先行研究（人類学、民俗学、社会学の文献を参考）を整理し議論する
第6回	高齢社会と高齢者の社会適応、生きがい②	現代社会における職業、人間関係、社会関係との関連で、生きがいに関する先行研究（統計学、社会学、社会福祉学の文献を参考）を整理し議論する
第7回	高齢者をとりまく福祉・医療・ケアについて	福祉・医療・ケアに関する諸制度の現状と課題を整理する
第8回	高齢者をとりまく福祉的支援論について	生活困難事例から専門的援助・支援のあり方を検討する
第9回	高齢者福祉制度政策研究①	日本における高齢者福祉制度政策の歴史的な流れを検討する
第10回	高齢者福祉制度政策研究②	近年の高齢者福祉制度政策の発展と課題を、公・共・私の組織論や制度論を中心に検討する
第11回	国際比較（諸外国の高齢者福祉の実際から学ぶ）①	北欧の高齢者福祉の現状、特徴を整理し、これからの高齢者福祉を展望する
第12回	国際比較（諸外国の高齢者福祉の実際から学ぶ）②	アジアの高齢者福祉の現状、特徴を整理し、これからの高齢者福祉を展望する
第13回	国際比較研究方法論の再検討	諸外国と日本の比較研究と日本の高齢者福祉を展望する
第14回	まとめ	高齢者福祉研究方法論の再構築と研究課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高齢者福祉に限らず、人類学、社会学の領域で取り上げられている「高齢者」に関する文献を検索し、老いやケアの研究に関する視角ならびに、実社会の中から問題の背景、特質などを整理する。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介します。受講者と相談のうえ、決定します。

【参考書】

田多英範（2018）『厚生（労働）白書』を読む：社会問題の変遷をどう捉えたか？ ミネルヴァ書房、上野千鶴子他編（2008）『ケアその思想と実践』岩波書店など、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加姿勢（70%）、課題レポート（30%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：社会福祉学、高齢者福祉、地域福祉

主要業績：

- ・『東アジアの高齢者ケア：国・地域・家族のゆくえ』（共著、東信堂、2018年）
- ・『介護サービスへのアクセスの問題——介護保険制度における利用者調査・分析』（単著、明石書店、2014年）
- ・『利用者からみた介護サービスへのアクセス時の困難』『社会福祉学』（単著、53（3）、2012年）

【Outline and objectives】

This lecture aims at understanding the natures of the various theories regarding aging through researched documents on the welfare for the aged and other related fields. Moreover, we will try re-structuring of research methods concerning the welfare system for the aged.

SOW500J1

障害者福祉特論

眞保 智子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

備考（履修条件等）：隔週開講

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では障害者の地域での「あたりまえ」の暮らしと社会参加を考える上で重要なトピックである「就労」について注目する。障害者雇用現状を把握し、障害者雇用率制度や就労支援に関する諸制度を理解し、雇用現場における合理的配慮について考察する。

【到達目標】

- ①障害者雇用促進法と障害者雇用率制度を理解する。
- ②就労支援に関わる社会資源や制度を理解する。
- ③障害者雇用の現場での合理的配慮提供についてその実際を理解する。
- ④企業やA型事業所における障害者雇用の事例から合理的配慮のプロセスを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

障害者雇用の現状と障害者雇用の根拠法や支援制度についての講義とともに、視聴覚教材やゲストスピーカーによる実践報告やロールプレイなど演習を通して企業やA型事業所における合理的配慮提供の実践力について考察します。また、教室内での講義と演習だけでなく実際に企業やA型事業所等を訪問し、見学と意見交換をさせて頂くことによって、障害者雇用の現場で経営サイドと従業員サイドが抱える課題を理解し、その解決方法について検討します。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	障害者雇用の現状	厚生労働省の調査等をもとに現状を把握し、課題を検討する
第2回	雇用率制度と各種支援制度と社会資源	高齢・障害・求職者雇用支援機構の役割と支援サービス提供事業者について理解する
第3回	就労支援の現状	視聴覚教材で障害者雇用の現場の実情を学ぶ
第4回	企業における合理的配慮の提供	ノーマライゼーションを実現するための労務管理を「同僚性」キーワードに理解する
第5回	合理的配慮提供のためのアセスメント	アセスメント方法の講義と演習を通じて学ぶ
第6回	合理的配慮提供のための環境調整①	障害特性の理解と職場における協働について学ぶ
第7回	合理的配慮提供のための環境調整②	障害特性の理解と職場における協働と支援実践について学ぶ
第8回	合理的配慮提供のための環境調整③	障害特性の理解と職場における協働と課題について学ぶ
第9回	障害者雇用の現場理解	A型事業所の見学およびディスカッション
第10回	事例検討①	A型事業所の見学の振り返りとディスカッション
第11回	障害者雇用の現場理解	企業の見学およびディスカッション
第12回	事例検討②	企業の見学の振り返りとディスカッション
第13回	フィールドワーク	各自の興味に応じて障害者雇用の現場での参与観察
第14回	フィールドワーク報告	フィールドワークの振り返りとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

厚生労働省障害者雇用実態調査の通読を行うなど本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指定し、資料等も配布します。

【参考書】

中川昭一（2013）『特例子会社における障害者雇用：知的障害者雇用の実践事例』学苑社
中島隆信（2011）『障害者の経済学』東洋経済

【成績評価の方法と基準】

講義内での発言と報告50％・レポート50％

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントなどを使用します。

【その他の重要事項】

精神保健福祉士として、知的障害のある方、発達障害のある方、精神障害のある方に対する就労支援および生活支援の実践を通じての知識および技能についても紹介する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

障害者福祉政策 障害者雇用・就労支援

<研究テーマ>

- 1 障害者のキャリアデザイン
- 2 障害者・若者・高齢者・女性の雇用に関する諸問題
- 3 企業における精神科ソーシャルワーク

【Outline and objectives】

This class provides a lecture on current issues and progress of policy for persons with disabilities. As described in the seminar title, students will mainly learn the framework for disability studies, not just welfare perspectives. At the seminar, We will discuss Well-being for all people, whether they are disabled or not disabled.

SOW500J1

精神保健福祉特論

眞保 智子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【到達目標】**

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】**【参考書】****【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

若者支援論、障害者雇用

<研究テーマ>

1 障害者のキャリアデザイン

2 障害者・若者・高齢者・女性の雇用に関する諸問題

3 企業における精神科ソーシャルワーク

SOW500J1

生活問題特論

結城 俊哉

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本社会における生活問題について検討する。そのための方法として社会問題の反映としての生活問題を構造的に理解する方法と支援の意義について事例を通して学ぶ。

【到達目標】

この授業を通して、個別の生活問題を通してその背景にある社会（病理）問題についてソーシャルワーク的な視点をとおして理解する力を涵養することができる。具体的には、「貧困問題（生活保護・ホームレス・子供の貧困）」、「障害者・高齢者虐待問題」、「差別・偏見（ステイグマ）」の問題を事例としながらソーシャルワーク・スキルとしてのアセスメント力、問題解決力を育てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義はオンラインまたは対面での開講となります。それにとまなう授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本講義は、集中講義ですので、課題解決型学習を取り入れフィールド・ワーク等の体験によるリアクションペーパー及びフィードバックとしての学習課題レポート（まとめ）の提出と発表（報告）が必要となります。さらに、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる各自の研究テーマと関わらせた議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入：生活問題とは何か	生活問題と社会問題の関係について検討する。
2	社会福祉における生活問題と社会病理現象との関係について。	顕在化する生活問題としての社会病理とは何かについて考える。
3	生活問題としての「いじめ現象」との関係	いじめ現象の理解についてその対処方法について検討する。
4	生活問題における「ひきこもり」問題へのアプローチ	生活問題としての「ひきこもり」現象の意味について考える。
5	生活問題と「非行」問題の関連性	非行問題としての「少年非行・少女売春」について検討する。
6	生活問題における「虐待」問題の位置	児童虐待・障害者虐待・高齢者虐待、ドメスティック・バイオレンス（DV）等の「虐待」問題の背景について考える。
7	生活問題と「自殺」問題	日本社会における「自殺」問題は、各世代ごとにことなる背景の意味について検討する。
8	生活問題と「ハラスメントの関連性」	日常の人間関係における「人権侵害」をハラスメント問題の視点から検討する。
9	生活問題と「嗜癖（アルコール依存・ギャンブル依存・買い物依存等々の「依存症」）問題	アルコール依存・ギャンブル依存・買い物依存等々の「依存症」問題が描き出す生活問題における社会問題を考える。

- | | | |
|----|--|--|
| 10 | 生活問題としての「貧困・ホームレス」問題 | 福祉問題の原点でもある「貧困」問題について「生活保護（公的扶助）」の視点から再検討する。 |
| 11 | 生活問題に対処する援助者（ケアの担い手）の視点 | ソーシャルワークの視点から生活問題の構造を理解する方法について学ぶ |
| 12 | 生活問題に向き合う援助者の病理について | 対人援助職の病理と言われる「バーン・アウト（燃え尽き症候群）」について考える。 |
| 13 | 生活問題と「対象喪失」問題（＝喪の仕事を中心に） | 援助者として「対象喪失」・「メント・モリ」の問題との向き合い方について検討する。 |
| 14 | 生活問題と COVID19（新型コロナウイルス感染症）がもたらした社会構造の変化について各自の研究テーマに関わらせた発表（報告） | 対人接触をタブー化する COVID19 がもたらした生活様式の意味と自分の研究課題の関連について考える。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とします。その中で、各自の研究テーマ（課題興味・関心）に近いテーマに引きつけながら文献レビュー等の学習を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

結城俊哉著（2019）『ケアのフォークロア：対人援助の基本原則と展開方法を考える』（第3刷版）高学出版

【参考書】

神谷美恵子（2013）『ケアへのまなざし』みすず書房
江口英一編（1991）『生活分析から福祉へ～社会福祉の生活理論』（第6刷版）光生館
社会病理学会監修（2019）『社会病理学の足跡と再構成』学文社

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（50%）・平常点（50%）
授業における参加度及び授業内容を反映した深く考察力のあるレポート課題の提出によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Consider living problems in Japanese society. As a method for that, we will learn through examples how to structurally understand life problems as a reflection of social problems and the significance of support.

SOW500J1

社会福祉学特論

野口 裕二

科目分類・科目群：専門共通科目
配当年次／単位数：1・2年次／2単位
備考（履修条件等）：隔週開講

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークにおける新たな専門性について、社会構成主義、ナラティブアプローチ、自助グループ、当事者研究、オープンダイアログなどの理論と実践を参照しながら学ぶ。

【到達目標】

ソーシャルワークにおいて従来の専門性をもつ限界とは何か、また、その限界を乗り越えようとして生まれたいくつかの実践が示している新たな専門性とは何かについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

指定されたテキストについて、原則として1回1章ずつ、レポーターが報告し、参加者全員で議論をして理解を深める。
課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	新たな専門性とは何か①	新たな専門性をめぐる実践の特徴を概観する
第2回	新たな専門性とは何か②	新たな専門性をめぐる実践の特徴を概観する
第3回	社会構成主義①	社会構成主義の理論と実践について学ぶ
第4回	社会構成主義②	社会構成主義の理論と実践について学ぶ
第5回	ナラティブアプローチ①	ナラティブアプローチの理論と実践について学ぶ
第6回	ナラティブアプローチ②	ナラティブアプローチの理論と実践について学ぶ
第7回	自助グループ①	自助グループの理論と実践について学ぶ
第8回	自助グループ②	自助グループの理論と実践について学ぶ
第9回	当事者研究①	当事者研究の理論と実践について学ぶ
第10回	当事者研究②	当事者研究の理論と実践について学ぶ
第11回	オープンダイアログ①	オープンダイアログの理論と実践について学ぶ
第12回	オープンダイアログ②	オープンダイアログの理論と実践について学ぶ
第13回	まとめ①	新たな専門性について総括する
第14回	まとめ②	新たな専門性について総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を予習して疑問点や意見を整理しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野口裕二（2020）「新たな専門性とは何か」社会福祉研究 138号 25-31
野口裕二（2018）『ナラティブと共同性』青土社

【参考書】

野口裕二 (2002)『物語としてのケア』医学書院
 野口裕二 (2005)『ナラティヴの臨床社会学』勁草書房
 野口裕二編 (2009)『ナラティヴ・アプローチ』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

平常点 (80%)、最終レポート (20%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本年度は、市ヶ谷キャンパスでの隔週開講 (2 時限連続) となります。

【担当教員の専門分野】

臨床社会学、ソーシャルワーク理論

【Outline and objectives】

The new direction in professionalism of social work.

SOW500J1

社会リハビリテーション特論

八重田 淳

科目分類・科目群：専門展開科目 (ソーシャルワーク系)

配当年次/単位数：1・2 年次/2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

リハビリテーションの哲学、歴史、領域、制度、実践を踏まえ、国際的な視点から最先端の研究について学ぶ。

【到達目標】

1. リハビリテーションの哲学と科学について自身の言葉で説明することができる。
2. リハビリテーションの事例を挙げ、個別計画の立案及び事業評価方法について説明できる。
3. リハビリテーションの研究課題について論じ、解決すべき研究課題について適切な研究計画を立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。受講生は講義内容に対して口頭で所見を述べる事が求められる。

講義は、最初に、リハビリテーションの理念に関わる基本概念、およびそれと密接に関連する障害構造論について明確にする。そのうえで、リハビリテーションの4大領域と対象者を整理する。さらに、リハビリテーション支援の方法と過程、リハビリテーション活動を支える地域ネットワークとチーム、社会資源について論じる。最後に、リハビリテーションに従事する人材と倫理、国際的な研究及び解決すべき研究課題について論じる。受講生は、上記に挙げた3つ到達目標に関する口頭発表及びレポートの提出を求められ、その内容と質について評価を受ける。

課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	リハビリテーションの理念	リハビリテーションの変遷と理念、自立、リハビリテーションの目的と方法
第 2 回	障害論	障害の範囲、ICF、体験としての障害
第 3 回	リハビリテーションの領域-1	トータル・リハビリテーション、医学的リハビリテーション、教育的リハビリテーション
第 4 回	リハビリテーションの領域-2	職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーション
第 5 回	リハビリテーションの対象者-1	障害構造と対象者の広がり、身体障害、知的障害、発達障害
第 6 回	リハビリテーションの対象者-2	高齢機能障害、生活困窮者、保護観察対象者、文化的ハンディキャップ、被災者、ニート
第 7 回	リハビリテーションの対象者-3	統合失調症、うつ病、気分障害、てんかん、高次脳機能障害、若年性認知症
第 8 回	リハビリテーション支援の方法	人的サービス、経済的サービス、物的サービス、リハビリテーション情報支援サービス、地域リハビリテーション、ソーシャルワーク
第 9 回	リハビリテーション支援の過程	アセスメント、プランニング、インターベンション・モニタリング、評価、フォローアップ
第 10 回	地域ネットワークとチーム	地域ネットワーク、チームワーク、ネットワークの構築と維持、人的支援の構造
第 11 回	リハビリテーションに関する社会資源-1	障害者福祉に関する諸制度、リハビリテーションに関する法律・制度、社会資源の活用 (社会環境的資源)、アシステッドテクノロジー、ボランティア
第 12 回	リハビリテーション人材と倫理	リハビリテーションの専門性、倫理の原理、倫理的ジレンマの解決
第 13 回	リハビリテーション研究方法-1	量的研究法、質的研究法、混合法
第 14 回	リハビリテーションの国際化	科学的エビデンス、リハビリテーションの最新国際動向と研究課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で紹介する参考文献等を事前学習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

職業リハビリテーションの基礎と実践。日本職業リハビリテーション学会編（編集代表：相澤欽一、朝日雅也、小川浩、倉知延章、八重田淳）、中央法規、2012

その他、必要に応じて適宜紹介する。また、資料を配付する。

【参考書】

1. リハビリテーションの哲学（八重田淳）、法律文化社、2001
2. リハビリテーション連携論（澤村誠志、奥野英子編）、2009
3. Educational Transitions: Moving Stories from around the world. (Jindal-Snape, D.ed.), New York: Routledge. 2009
4. 発達障害支援ハンドブック：医療、療育、教育、心理、福祉、労働からのアプローチ。日本発達障害学会監修、金子書房、2012

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（40％）講義への参加姿勢（60％）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすく理解しやすい講義を工夫する。一方的な講義ではなく、学生中心の論議を促し、アクティブラーニングに基づいた授業を進める。それゆえ、学生の皆さんとは、講義内容から触発を受けながらも、その範疇にとらわれない広範な質疑応答と論議のできることを期待している。その意味で、論議への積極的な参加を求めたい。

【担当教員の専門分野等】

職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリグ、リハビリテーション工学、生涯発達科学、国際リハビリテーション

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline and objectives】

1. To be able to explain the general idea of rehabilitation philosophy and science with your own words.
2. To be able to explain individual planning and program evaluation of a given rehabilitation case.
3. To be able to design rehabilitation research by stating research questions and future research issues.

SOW500J1

リハビリテーション特論

八重田 淳

科目分類・科目群：専門展開科目（システム・マネジメント系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リハビリテーションの哲学、歴史、領域、制度、実践を踏まえ、国際的な視点から最先端の研究について学ぶ。

【到達目標】

1. リハビリテーションの哲学と科学について自身の言葉で説明することができる。
2. リハビリテーションの事例を挙げ、個別計画の立案及び事業評価方法について説明できる。
3. リハビリテーションの研究課題について論じ、解決すべき研究課題について適切な研究計画を立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。受講生は講義内容に対して口頭で所見を述べる事が求められる。

講義は、最初に、リハビリテーションの理念に関わる基本概念、およびそれと密接に関連する障害構造論について明確にする。そのうえで、リハビリテーションの4大領域と対象者を整理する。さらに、リハビリテーション支援の方法と過程、リハビリテーション活動を支える地域ネットワークとチーム、社会資源について論じる。最後に、リハビリテーションに従事する人材と倫理、国際的な研究及び解決すべき研究課題について論じる。受講生は、上記に挙げた3つ到達目標に関する口頭発表及びレポートの提出を求められ、その内容と質について評価を受ける。

課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	リハビリテーションの理念	リハビリテーションの変遷と理念、自立、リハビリテーションの目的と方法
第2回	障害論	障害の範囲、ICF、体験としての障害
第3回	リハビリテーションの領域-1	トータル・リハビリテーション、医学的リハビリテーション、教育的リハビリテーション
第4回	リハビリテーションの領域-2	職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーション
第5回	リハビリテーションの対象者-1	障害構造と対象者の広がり、身体障害、知的障害、発達障害
第6回	リハビリテーションの対象者-2	高齢機能障害、生活困窮者、保護観察対象者、文化的ハンディキャップ、被災者、ニート
第7回	リハビリテーションの対象者-3	統合失調症、うつ病、気分障害、てんかん、高次脳機能障害、若年性認知症
第8回	リハビリテーション支援の方法	人的サービス、経済的サービス、物的サービス、リハビリテーション情報支援サービス、地域リハビリテーション、ソーシャルワーク
第9回	リハビリテーション支援の過程	アセスメント、プランニング、インターベンション・モニタリング、評価、フォローアップ
第10回	地域ネットワークとチーム	地域ネットワーク、チームワーク、ネットワークの構築と維持、人的支援の構造
第11回	リハビリテーションに関する社会資源-1	障害者福祉に関する諸制度、リハビリテーションに関する法律・制度、社会資源の活用（社会環境的資源）、アシステッドテクノロジー、ボランティア
第12回	リハビリテーション人材と倫理	リハビリテーションの専門性、倫理の原理、倫理的ジレンマの解決
第13回	リハビリテーション研究方法-1	量的研究法、質的研究法、混合法
第14回	リハビリテーションの国際化	科学的エビデンス、リハビリテーションの最新国際動向と研究課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する参考文献等を事前学習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

職業リハビリテーションの基礎と実践。日本職業リハビリテーション学会編（編集代表：相澤欽一、朝日雅也、小川浩、倉知延章、八重田淳）、中央法規、2012

その他、必要に応じて適宜紹介する。また、資料を配付する。

【参考書】

1. リハビリテーションの哲学（八重田淳）、法律文化社、2001
2. リハビリテーション連携論（澤村誠志、奥野英子編）、2009
3. Educational Transitions: Moving Stories from around the world. (Jindal-Snape, D.ed.), New York: Routledge, 2009
4. 発達障害支援ハンドブック：医療、療育、教育、心理、福祉、労働からのアプローチ。日本発達障害学会監修、金子書房、2012

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（40％）講義への参加姿勢（60％）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすく理解しやすい講義を工夫する。一方的な講義ではなく、学生中心の論議を促し、アクティブラーニングに基づいた授業を進める。それゆえ、学生の皆さんとは、講義内容から触発を受けながらも、その範囲にとらわれない広範な質疑応答と論議のできることを期待している。その意味で、論議への積極的な参加を求めたい。

【担当教員の専門分野等】

職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリグ、リハビリテーション工学、生涯発達科学、国際リハビリテーション

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline and objectives】

1. To be able to explain the general idea of rehabilitation philosophy and science with your own words.
2. To be able to explain individual planning and program evaluation of a given rehabilitation case.
3. To be able to design rehabilitation research by stating research questions and future research issues.

SOW500J1

保健医療福祉システム特論

岡田 栄作

科目分類・科目群：専門展開科目（システム・マネジメント系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、保健・医療・福祉に関連した制度や関係法規と基礎知識や基礎理論についての理解を深め、保健医療福祉行政のマネジメントの視点から、社会福祉の理念と制度を体系的に学ぶ。

【到達目標】

- ①保健医療・福祉活動における基本理念と目標について理解し、説明できる。
- ②保健医療と福祉、各分野の制度の仕組みと機能、対策、保健活動や福祉政策の実際や動向について理解できる。
- ③行政における保健医療活動や福祉政策の役割と重要性が理解できる。
- ④住民の健康を支え、健康な地域づくりをすすめるための制度や活用方法が理解できる。
- ⑤保健医療に携わる専門職の役割と、連携・協働体制について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

グループワーク形式の講義を基本とし、受講者同士で議論をしながら、講義を進めていく。場合によっては受講者に事前課題を与え、プレゼン等、話題提供してもらうこともある。毎回の講義前にチェックイン、講義後に振り返りを実施する。場合によっては、対面とオンラインを組み合わせた【ハイブリッド型授業】での開講となる可能性もある。本講義の授業計画の変更・教材・課題の提示およびフィードバックについては、学習支援システムを通じて行い、講義内でもその都度行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	保健医療と福祉を学ぶ意義～健康ってなんだろう～	保健医療福祉活動の基本理念と健康とは何かについて学ぶ。
第2回	保健医療福祉行政の仕組みとヘルスプロモーション	保健医療福祉行政の仕組みとヘルスプロモーションを推進する重要性について学ぶ。
第3回	成人保健と健康増進	健康増進法や健康日本21、生活習慣病対策について学ぶ。
第4回	母子保健と児童福祉	母子保健と児童福祉は密接に関連していることを知り、育児環境整備について学ぶ。
第5回	高齢者保健と介護予防	高齢者の保健事業と介護予防は一体的に進めていけるのか可能性と実際について学ぶ。
第6回	医療ソーシャルワーカーの働きと業務の枠組み	ゲストスピーカーを呼び、医療ソーシャルワーカーの業務指針を概観しながら業務を理解する。
第7回	居住環境と健康	居住環境は健康と福祉に密接に関連することを学ぶ。
第8回	労働衛生と健康	働き方と健康は密接に関連することを学ぶ。
第9回	ソーシャルキャピタルと健康	地域のつながりは健康に関連することを学ぶ。
第10回	国際保健と医療	国際保健と医療の関連について学ぶ。
第11回	健康危機管理Ⅰ～感染症編～	感染症に対する健康危機管理について学ぶ。
第12回	健康危機管理Ⅱ～防災編～	災害に対しての身の守り方、地域協働、健康危機管理について学ぶ。
第13回	地域包括ケアと多職種連携	地域包括ケアの実際と専門職連携の課題について学ぶ。
第14回	住民と協働して地域づくりをすすめるための保健と福祉	住民と地域づくりを進めながら、どうやったら皆と協働して、保健と福祉を推進できるかを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オンライン講義の場合は、事前学習として、チェックインシートの中に講義のポイントと課題を入れ込み、講義後の振り返りシートで復習ができるようにする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書指定はなし。毎回、講義資料を提示し、適宜、参考図書等を紹介

【参考書】

「公衆衛生がみえる 2021-2022」、メディックメディア、2021。

【成績評価の方法と基準】

レポート 50 %、講義毎の振り返りシートによる自己評価 50 %

【学生の意見等からの気づき】

講義後の振り返りシートの中に通信欄を作り、皆さんからの要望を聞いて、随時、講義に反映していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、学習支援システムを活用する。

【その他の重要事項】

受講生の関心と要請に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In this lecture, students will learn about systems and related laws and regulations as well as basic knowledge and fundamental theories related to health, medical care, and welfare. Students will systematically learn about the principles and systems of social welfare from the perspective of the management of health and medical welfare administration.

SOW500J1

福祉経営特論

千葉 正展

科目分類・科目群：専門展開科目（システム・マネジメント系）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域福祉の主たる担い手の社会福祉法人には、高い公益性と非営利性のもと、自立と自律の経営が求められている。社会福祉法人の経営行動モデルの理解を目指す

【到達目標】

本講義では、1) 規制業種としての特殊性の理解、2) 福祉経営の特殊性の理由、3) 非営利組織の財務管理、ガバナンス、サービス管理の理解を目指すものである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

経営学や経済学の履修経験なしでも可。現場事例や行政資料などを参照しながら、講義形式や演習を交えて行う。各授業実施日の都度、学習支援システムを用いたミニテストを行い受講者にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「福祉経営」とは何か？	福祉サービスと経営の概念の確認
第 2 回	社会福祉法人制度	社会福祉法人制度の特徴と必要性
第 3 回	措置制度について	措置制度の仕組み、資金の使途制限
第 4 回	介護保険制度について	介護保険の仕組みと資金使途制限緩和
第 5 回	非営利法人の存在意義	社会福祉法人の法制的必要性
第 6 回	社会福祉法人制度の立法趣旨	社会福祉法人の歴史背景・意義
第 7 回	社会福祉と市場原理	市場原理による福祉の有効性と限界
第 8 回	福祉の経営行動モデル	社会福祉法人と企業の経営モデル
第 9 回	社会福祉法人制度改革	社会福祉法人制度改革の背景と意義
第 10 回	社会福祉法人会計基準の概要	社会福祉法人会計制度
第 11 回	財務諸表に基づく経営実体の推定	財務諸表による経営実体推定演習
第 12 回	減価償却の自己金融効果	投下資本の回収条件と経営の永続性
第 13 回	社会福祉法人の内部留保	内部留保批判と問題点を考える
第 14 回	地域公益活動と経営開示	地域公益責務の意義と方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講の事前準備として、以下の 3 点をまとめること。①社会福祉法人制度、②社会福祉法人制度改革の概要、③非営利法人の存在意義。本授業の準備学習、復習時間は各 1 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

「福祉経営論」/千葉正展－ヘルスシステム研究所刊

【参考書】

新 MINERVA 社会福祉士養成テキスト「福祉サービスの組織と経営」-ミネルヴァ
「経済政策論」/辻村江太郎－筑摩書房 1

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点及びミニテスト(上記)(50%)と最終日の試験(50%)により評価する

【学生の意見等からの気づき】

福祉経営論の考え方を、受講生の個々の研究テーマと関連付けて、検討、議論を行うことが有効だと考えている

【担当教員の専門分野等】

福祉経営論, 社会福祉法人財務諸表論

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問、相談を受付ける

【Outline and objectives】

This program aims to master the conceptual framework of the social welfare corporation's management. Considering the difference between the social welfare corporation and the commercial enterprise, we will argue the "mission maximizing behavior" of the social welfare corporation.

ARSk500J1

地方自治特論 I

保井 美樹

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

備考（履修条件等）：隔週開講

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な地域をつくるためには、これまでの枠組みを超えた新しい連携や事業の形を模索していかねばならない。本授業では、地域における互助、事業運営、パブリックプライベートパートナーシップ等、今後必要となる考え方、主体、実践を学び、新たな地域ガバナンスを共に構想する。

【到達目標】

文献輪読を通じ、地域ガバナンスについて受講者が互いに議論し、自分の考えを整理する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、初回に、以下の中から受講生と話し合っ進め方を決める。
 1. 海外の地域運営や自治に関する研究文献を翻訳・輪読し、議論を深める。
 2. 国内の関連研究を収集し、その内容を報告し、議論を深める。
 3. 受講生の研究構想について報告を受け、それを基礎に議論を深める。
 4. 受講生の研究構想に関連するテーマについて既往研究を整理し、そのテーマについて議論を深める。
 5. 必要に応じて外部講師等を招聘する。
 6. 授業はオンラインと対面を適切に選択或いは組み合わせながら実施する。具体的な各回の授業方法については、受講生に個別に伝えるか、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・研究テーマについて基礎的議論	本講義の目的と進め方について話し合う。
第 2 回	文献輪読-1	文献の発表後、それについて議論する。-1
第 3 回	文献輪読-2	文献の発表後、それについて議論する。-2
第 4 回	文献輪読-3	文献の発表後、それについて議論する。-3
第 5 回	研究構想発表-1	受講生の研究構想を発表し、議論する。-1
第 6 回	研究構想発表-2	受講生の研究構想を発表し、議論する。-2
第 7 回	研究構想発表-3	受講生の研究構想を発表し、議論する。-3
第 8 回	テーマ別研究レビュー-1	文献レビュー報告、議論-1
第 9 回	テーマ別研究レビュー-2	文献レビュー報告、議論-2
第 10 回	テーマ別研究レビュー-3	文献レビュー報告、議論-3
第 11 回	テーマ別研究レビュー-4	文献レビュー報告、議論-4
第 12 回	テーマ別研究レビュー-5	文献レビュー報告、議論-5
第 13 回	外国語論文輪読-1	文献報告、議論-1
第 14 回	外国語論文輪読-2	文献報告、議論-2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの発表に向けての準備と共に、本授業テーマについて関連資料があれば積極的に収集し、議論のテーマとして持ち込んでください。本授業の準備学習・復習時間は各回 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 1 回で候補を出し、皆で決定します。その他、必要に応じて配布・指示します。

【参考書】

必要に応じて紹介・配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、担当課題 50 %

具体的な方法と基準は、授業内に伝えるほか、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

少人数授業のためアンケートはありませんでしたが、受講者とよく話し合い、よりよい方法を探っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

発表にパワーポイント等機器を使用することは、歓迎する。必要に応じて、担当教員に相談のこと。

【その他の重要事項】

受講生と共につくる授業です。上記計画は、受講生の関心・要請に応じて若干の変更可能性があります。

【担当教員の専門分野等】

<研究テーマ>都市・地域計画、エリアマネジメント、コミュニティ再生、公民連携

【Outline and objectives】

In order to create a sustainable region, we need to explore new forms of cooperation and business that go beyond the existing framework. In this class, students will learn the necessary ideas and subjects including mutual assistance, business management, and public private partnerships in the region. Thus, we envision a new regional governance together.

ARSk500J1

地方自治特論Ⅱ

保井 美樹

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

備考（履修条件等）：隔週開講

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な地域をつくるためには、これまでの枠組みを超えた新しい連携や事業の形を模索していかなければならない。本授業では、地域における互助、事業運営、パブリックプライベートパートナーシップ等、今後必要となる考え方、主体、実践を学び、新たな地域ガバナンスを共に構想する。

【到達目標】

文献輪読を通じ、地域ガバナンスについて受講者が互いに議論し、自分の考えを整理する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

地方自治特論では、以下の中から受講生と話し合っ進め方を決める。
1. 海外の地域運営や自治に関する研究文献を翻訳・輪読し、議論を深める。
2. 国内の関連研究を収集し、その内容を報告し、議論を深める。
3. 受講生の研究構想について報告を受け、それを基礎に議論を深める。
4. 受講生の研究構想に関連するテーマについて既往研究を整理し、そのテーマについて議論を深める。
5. 必要に応じて外部講師等を招聘する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・研究テーマについて基礎的議論	本講義の目的と進め方について話し合う。
第2回	文献輪読-1	文献の発表後、それについて議論する。-1
第3回	文献輪読-2	文献の発表後、それについて議論する。-2
第4回	文献輪読-3	文献の発表後、それについて議論する。-3
第5回	研究構想発表-1	受講生の研究構想を発表し、議論する。-1
第6回	研究構想発表-2	受講生の研究構想を発表し、議論する。-2
第7回	研究構想発表-3	受講生の研究構想を発表し、議論する。-3
第8回	テーマ別研究レビュー-1	文献レビュー報告、議論-1
第9回	テーマ別研究レビュー-2	文献レビュー報告、議論-2
第10回	テーマ別研究レビュー-3	文献レビュー報告、議論-3
第11回	テーマ別研究レビュー-4	文献レビュー報告、議論-4
第12回	テーマ別研究レビュー-5	文献レビュー報告、議論-5
第13回	外国語論文輪読-1	文献報告、議論-1
第14回	外国語論文輪読-2	文献報告、議論-2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの発表に向けての準備と共に、本授業テーマについて関連資料があれば積極的に収集し、議論のテーマとして持ち込んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第1回で候補を出し、皆で決定する。その他、必要に応じて配布・指示する。

【参考書】

必要に応じて紹介・配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、担当課題 50% 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

少人数授業のためアンケートはありませんでしたが、受講者とよく話し合い、よりよい方法を探っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

発表にパワーポイント等機器を使用することは、歓迎する。必要に応じて、担当教員に相談のこと。

【その他の重要事項】

受講生と共につくる授業です。上記計画は、受講生の関心・要請に応じて若干の変更可能性があります。

【担当教員の専門分野等】

<研究テーマ>都市・地域政策、地域マネジメント、コミュニティ再生、公民連携

【Outline and objectives】

In order to create a sustainable region, we need to explore new forms of cooperation and business that go beyond the existing framework. In this lesson, students will learn the necessary ideas and subjects including mutual assistance, business management, and public private partnerships in the region. Thus, we envision a new regional governance together.

ARSk500J1

地域マネジメント特論

保井 美樹

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な地域をつくるためには、これまでの枠組みを超えた新しい連携や事業の形を模索していかねばならない。本授業では、地域における互助、事業運営、パブリックプライベートパートナーシップ等、今後必要となる考え方、主体、実践を学び、新たな地域ガバナンスを共に構想する。

【到達目標】

文献輪読を通じ、地域ガバナンスについて受講者が互いに議論し、自分の考えを整理する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、初回に、以下の中から受講生と話し合っ進め方を決める。

1. 海外の地域運営や自治に関する研究文献を翻訳・輪読し、議論を深める。
2. 国内の関連研究を収集し、その内容を報告し、議論を深める。
3. 受講生の研究構想について報告を受け、それを基礎に議論を深める。
4. 受講生の研究構想に関連するテーマについて既往研究を整理し、そのテーマについて議論を深める。
5. 必要に応じて外部講師等を招聘する。
6. 授業はオンラインと対面を適切に選択或いは組み合わせながら実施する。具体的な各回の授業方法については、受講生に個別に伝えるか、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・研究テーマについて基礎的議論	本講義の目的と進め方について話し合う。
第2回	文献輪読-1	文献の発表後、それについて議論する。-1
第3回	文献輪読-2	文献の発表後、それについて議論する。-2
第4回	文献輪読-3	文献の発表後、それについて議論する。-3
第5回	研究構想発表-1	受講生の研究構想を発表し、議論する。-1
第6回	研究構想発表-2	受講生の研究構想を発表し、議論する。-2
第7回	研究構想発表-3	受講生の研究構想を発表し、議論する。-3
第8回	テーマ別研究レビュー-1	文献レビュー報告、議論-1
第9回	テーマ別研究レビュー-2	文献レビュー報告、議論-2
第10回	テーマ別研究レビュー-3	文献レビュー報告、議論-3
第11回	テーマ別研究レビュー-4	文献レビュー報告、議論-4
第12回	テーマ別研究レビュー-5	文献レビュー報告、議論-5
第13回	外国語論文輪読-1	文献報告、議論-1
第14回	外国語論文輪読-2	文献報告、議論-2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの発表に向けての準備と共に、本授業テーマについて関連資料があれば積極的に収集し、議論のテーマとして持ち込んでください。本授業の準備学習・復習時間は各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第1回で候補を出し、皆で決定します。その他、必要に応じて配布・指示します。

【参考書】

必要に応じて紹介・配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、担当課題 50%

具体的な方法と基準は、授業内に伝えるほか、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

少人数授業のためアンケートはありませんでしたが、受講者とよく話し合い、よりよい方法を探っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

発表にパワーポイント等機器を使用することは、歓迎する。必要に応じて、担当教員に相談のこと。

【その他の重要事項】

受講生と共につくる授業です。上記計画は、受講生の関心・要請に応じて若干の変更可能性があります。

【担当教員の専門分野等】

<研究テーマ>都市・地域計画、エリアマネジメント、コミュニティ再生、公民連携

【Outline and objectives】

In order to create a sustainable region, we need to explore new forms of cooperation and business that go beyond the existing framework. In this class, students will learn the necessary ideas and subjects including mutual assistance, business management, and public private partnerships in the region. Thus, we envision a new regional governance together.

ASS500J1

地域空間学特論Ⅱ

関司 直也

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【到達目標】**

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】**【参考書】****【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

ENV500J1

地域環境特論

野田 岳仁

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は環境社会学・地域社会学のモデルを使って、地域の環境問題の解決や地域づくりや地域ツーリズムの有効性のある政策論を構想することを目的としている。本講義では環境社会学・地域社会学の主要な理論の一つとして知られる生活環境主義の方法論をマスターすることを目指す。

【到達目標】

地域の環境政策や地域づくり、地域ツーリズム政策に対して、自らの方法的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を提言する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本のテキストと複数の学術論文をとりあげて、議論を深めていくスタイルをとる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更もありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境社会学の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第2回	環境を守るとはどういうことか？	環境の利用と管理の社会的な仕組み
第3回	誰がしっかりすれば環境は守られるのか？	環境保全の要としての地域コミュニティ
第4回	嫌な環境は誰が受け入れるのか？	迷惑施設問題と地元の合意
第5回	公園は都市の環境を豊かにしてきたか？	都市空間における自然環境としての公園
第6回	環境と観光はどのように両立されるのか？	地域のローカル・ルールを守る観光のあり方
第7回	人と野生生物はどのような関係なのか？	農山村地域が抱える獣害問題とその解決方法
第8回	未曾有の災害に人はどのように対処していくのか？	防災政策と復興まちづくり
第9回	環境をめぐる人びとはどのようにいがみ合うのか？	多様性を承認する地域コミュニティ
第10回	生活環境主義の基本理論	現場の生活者の立場から
第11回	生活環境主義の所有論	環境権と所有論
第12回	生活環境主義の組織論	生活組織論と住民の価値規範
第13回	生活環境主義の経験論	行為論から経験論へ
第14回	生活環境主義の実践性	有効性のある政策論への模索

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の精読、レジュメの作成・発表の準備など事前学習は不可欠である。自分の関心や研究テーマにひきつけながら検討していくことが必要である。

【テキスト（教科書）】

講義内で適宜アナウンスする。

【参考書】

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】

討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『環境社会学の考え方—暮らしを見つめる 12 の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019 年）

『生活環境主義のコミュニティ分析—環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018 年）

『原発災害と地元コミュニティ—福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018 年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017 年）

〔Outline and objectives〕

The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of environment policy and apply the treatment of environmental problems.

ARSk500J1

地域空間学特論

関司 直也

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

備考（履修条件等）：隔週開講

実務教員：

〔授業の概要と目的（何を学ぶか）〕

本講義では、地域空間を捉えるアプローチとして、主に農山村地域に着目する。人口減少局面が先んじて発現している農山村地域は、多くの課題に直面しながらも、それを乗り越えようと各地で地域づくり活動が先発するフロンティア地域でもあり、その事例に学びながら、背景にあるカラクリを読み解く意義は大きい。

〔到達目標〕

本講義では、地域空間の背景にある農山村地域の社会構造や経済構造を読み解くための分析視点を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

〔授業の進め方と方法〕

受講生と相談の上、輪読するテキストを決定する。授業は、担当者がレジュメを用意し、テキストの内容に関する議論を交わしながら、理解を深める。課題等のフィードバックも授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

〔授業計画〕

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキストを紹介し、進め方を検討する。
第 2 回	テキスト輪読①	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第 3 回	テキスト輪読②	第 2 回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第 4 回	テキスト輪読③	第 3 回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第 5 回	テキスト輪読④	第 4 回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第 6 回	関連テーマ VTR 視聴 I	前半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第 7 回	テキスト輪読⑤	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第 8 回	テキスト輪読⑥	第 7 回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第 9 回	テキスト輪読⑦	第 8 回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第 10 回	テキスト輪読⑧	第 9 回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第 11 回	関連テーマ VTR 視聴 II	後半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第 12 回	テキスト輪読⑨	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第 13 回	テキスト輪読⑩	第 12 回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第 14 回	まとめ	テキスト全体を通した議論と総括を行う。

〔授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）〕

テキストや取り扱う事例の内容について、事前に目を通し、疑問点や論点を挙げ、授業後に内容を振り返り、要点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

〔テキスト（教科書）〕

初回授業で候補を出し、受講者の研究テーマを踏まえて決定する。

〔参考書〕

必要に応じて適宜紹介する。

〔成績評価の方法と基準〕

平常点・討論への参加 50 %、指摘課題・報告内容 50 %

〔学生の意見等からの気づき〕

過年度ではアンケートを実施していないが、毎年を受講者の声を踏まえて、授業内容を改善していく。

〔担当教員の専門分野等〕

<専門領域> 農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論

<研究テーマ> 農山村地域における地域資源管理の担い手問題、地域マネジメントのあり方

<主要研究業績>

『プロセス重視の地方創生:農山村からの展望』（共著、筑波書房、2019年）
『内発的農村発展論』（共著、農林統計出版、2018年）
『田園回帰の過去・現在・未来』（共著、農山漁村文化協会、2016年）
『人口減少時代の地域づくり読本』（共著、公職研、2015年）

【Outline and objectives】

In this lecture, we focus on rural areas as an approach to capture regional space. The rural area, where the phase of population decline is ahead of its time, is also a frontier area where, despite facing many challenges, local development activities have begun in various places to overcome them.

ARSI500J1

アジア地域開発特論

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年共同体として成立したアセアン地域を中心に、アジアの地域開発について具体的な理論と実践を交えて考察し、福祉社会の形成に関わる最先端を学ぶ。

【到達目標】

具体的な理論・実践力を身につけつつ、東南アジアを中心にアジアの地域開発に関する最新事情を俯瞰的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アジアの地域開発の最新事情について、具体的な現場事例や資料を参照していく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講とする。対面はオンラインで同時配信する【ハイフレックス型授業】にて行う。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国際協力・開発とは	国際協力・開発の概念確認
第2回	変わりゆくアジア	アジア各国の概要
第3回	東南アジア/国際協力①	カンボジアの最新事情
第4回	東南アジア/国際協力②	ラオスの最新事情
第5回	東南アジア/国際協力③	ミャンマーの最新事情
第6回	東南アジア/国際協力④	ベトナムの最新事情
第7回	東南アジア/国際協力⑤	インドネシアの最新事情
第8回	東南アジア/国際協力⑥	マレーシアの最新事情
第9回	東南アジア/国際協力⑦	フィリピンの最新事情
第10回	東南アジア/国際協力⑧	タイの最新事情
第11回	東南アジア/国際協力⑨	ブルネイの最新事情
第12回	東南アジア/国際協力⑩	シンガポールの最新事情
第13回	アセアン/国際協力	アセアン共同体の最新事情
第14回	講義の振り返り	これまでの学びのレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

ASEAN Socio-Cultural Blueprint 2025

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%、課題・発表：50%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】

Theories, practices and important findings on international cooperation and community development in Southeast Asia are to be focused.

ENV500J1

地域環境特論 I

野田 岳仁

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】

文化政策、博物館学、歴史学（地域史）

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

ENV500J1

地域環境特論 II

野田 岳仁

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）
配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は環境社会学・地域社会学のモデルを使って、地域の環境問題の解決や地域づくりや地域ツーリズムの有効性のある政策論を構想することを目的としている。本講義では環境社会学・地域社会学の主要な理論の一つとして知られる生活環境主義の方法論をマスターすることを目指す。

【到達目標】

地域の環境政策や地域づくり、地域ツーリズム政策に対して、自らの方法的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を提言する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本のテキストと複数の学術論文をとりあげて、議論を深めていくスタイルをとる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更もありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境社会学の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第 2 回	環境を守るとはどのようなことか？	環境の利用と管理の社会的な仕組み
第 3 回	誰がしっかりすれば環境は守られるのか？	環境保全の要としての地域コミュニティ
第 4 回	嫌な環境は誰が受け入れるのか？	迷惑施設問題と地元の合意
第 5 回	公園は都市の環境を豊かにしてきたか？	都市空間における自然環境としての公園
第 6 回	環境と観光はどのように両立されるのか？	地域のローカル・ルールを守る観光のあり方
第 7 回	人と野生生物はどのような関係なのか？	農村地域が抱える獣害問題とその解決方法
第 8 回	未曾有の災害に人はどのように対処していくのか？	防災政策と復興まちづくり
第 9 回	環境をめぐる人びとはどのようにいがみ合うのか？	多様性を承認する地域コミュニティ
第 10 回	生活環境主義の基本理論	現場の生活者の立場から
第 11 回	生活環境主義の所有論	環境権と所有論
第 12 回	生活環境主義の組織論	生活組織論と住民の価値規範
第 13 回	生活環境主義の経験論	行為論から経験論へ
第 14 回	生活環境主義の実践性	有効性のある政策論への模索

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の精読、レジュメの作成・発表の準備など事前学習は不可欠である。自分の関心や研究テーマにひきつけながら検討していくことが必要である。

【テキスト（教科書）】

講義内で適宜アナウンスする。

【参考書】

講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】

討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『環境社会学の考え方—暮らしを見つめる 12 の視点』(共著書、ミネルヴァ書房、2019 年)

『生活環境主義のコミュニティ分析—環境社会学のアプローチ』(共著書、ミネルヴァ書房、2018 年)

『原発災害と地元コミュニティ—福島県川内村奮闘記』(共著書、東信堂、2018 年)

『Rebuilding Fukushima』(共著書、Routledge、2017 年)

〔Outline and objectives〕

The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of environment policy and apply the treatment of environmental problems.

ENG500J1

都市・住宅政策特論Ⅱ

水野 雅男

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

備考（履修条件等）：隔週開講

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化時代において、生活の基盤となり、また、福祉とも深いかわりを持つ住宅はどうあるべきかについて、住宅市場と住宅政策を比較しながら考察する。

日本の住宅事情について、その形態ごとのストック、高齢者や住宅弱者への対応、住宅のメンテナンス、品質保証、住宅ローンの面からつぶさに観察した上で、これからの住宅業界や住宅政策がどうあるべきかを考察する。

【到達目標】

世帯構成をはじめとする社会の変化に住宅市場はどのように対応してきたのか、それを政策がどう支援してきたのかについて理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回テーマに沿った課題についてレポートを作成し、翌週発表しあう。

履修生の関心に合わせて、授業計画を若干変更することもある。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した内容について、自主的に関心を広げて学習することが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「少子高齢化時代の住宅市場」米山秀隆、日本経済新聞出版社、2011 年

「老いた家、衰えぬ町」野澤千絵、講談社現代新書、2018 年

「戸建て住宅地管理論」温井達也、結ブックス、2018 年

【参考書】

授業の中で随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加・討論状況（50%）、課題レポート（50%）にもとづき評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで課題の提示を行う。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を踏まえて、ローカルな視点で住宅政策のあり方を授業で紹介する。

【担当教員の専門分野】

住宅問題・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年

「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第 707 号、2015 年

『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013 年

『生活景』（共著）学芸出版社、2009 年

【Outline and objectives】

In the era of declining birthrate and aging population, we will consider how to be a base of daily living, and how to have houses with deep involvement in welfare while comparing housing market and housing policy.

Regarding the housing situation in Japan, what should be done about the future housing industry and housing policy after closely observing the stock of each form, correspondence to elderly people and vulnerable people, housing maintenance, quality assurance and housing loans I will consider.

ENG500J1

都市・住宅政策特論

水野 雅男

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化社会において、生活の基盤となり、福祉とも深いかわりを持つ住宅はどうあるべきかについて、住宅市場と住宅政策との関連から歴史的に概観する。

さらに、近年増加傾向にある空き家に対してどのような政策が講じられているのか、日米を比較しながら概観し、これからの住宅政策はどうあるべきかを考察する。

【到達目標】

世帯構成をはじめとする社会の変化に住宅市場はどのように対応してきたのか、それを政策がどう支援してきたのか、人口減少に伴い政策をどう転換すべきかについて理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づき毎回テーマに沿った課題についてレポートを作成し、翌週発表しあう。

毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の概説
第2回	我が国の住宅政策史①	住宅所有についての新たな問い
第3回	我が国の住宅政策史②	住宅システムの分岐／取束
第4回	我が国の住宅政策史③	持ち家の時代、その生成
第5回	我が国の住宅政策史④	大量の持ち家建設
第6回	我が国の住宅政策史⑤	市場化する社会、その住宅システム
第7回	我が国の住宅政策史⑥	成長後の社会の住宅事情
第8回	日米の空き家対策①	空き家の発生要因と問題、住宅の維持管理
第9回	日米の空き家対策②	問題住宅への日米の対策比較
第10回	日米の空き家対策③	ランドバンクによる空き家再生
第11回	日米の空き家対策④	財産管理人制度による空き家再生
第12回	日米の空き家対策⑤	都市再生に向けた空地の活用
第13回	日米の空き家対策⑥	衰退エリアの再生
第14回	自律共生型社会での住宅政策	これからの住宅政策のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した内容について、自主的に関心を広げて学習をすることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

「マイホームの彼方に」平山洋介、筑摩書房、2020年

「アメリカの空き家対策とエリア再生」平修久、2020年

【参考書】

「少子高齢化時代の住宅市場」米山秀隆、日本経済新聞出版社、2011年

「老いた家、衰えぬ町」野澤千絵、講談社現代新書、2018年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加・討論状況（50%）、課題レポート（50%）にもとづき評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで課題の提示を行う。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに24年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を踏まえて、ローカルな視点で住宅政策のあり方を授業で紹介する。

【担当教員の専門分野】

住宅問題・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016年

「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」

日本建築学会論文集第707号、2015年

『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年

『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline and objectives】

In an aging society with a declining birthrate, we will give a historical overview of what housing should be, which is the basis of life and is closely related to welfare, from the relationship between the housing market and housing policy.

Furthermore, we will give an overview of what kind of policies are being taken for vacant houses, which have been increasing in recent years, while comparing Japan and the United States, and consider what the housing industry and housing policies should be in the future.

ENG500J1

都市・住宅政策特論 I

水野 雅男

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

備考（履修条件等）：隔週開講

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化社会において、生活の基盤となり、福祉とも深いかわりを持つ住宅はどうあるべきかについて、住宅市場と住宅政策との関連から歴史的に概観する。

さらに、近年増加傾向にある空き家に対してどのような政策が講じられているのか、日米を比較しながら概観し、これからの住宅政策はどうあるべきかを考察する。

【到達目標】

世帯構成をはじめとする社会の変化に住宅市場はどのように対応してきたのか、それを政策がどう支援してきたのか、人口減少に伴い政策をどう転換すべきかについて理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づき毎回テーマに沿った課題についてレポートを作成し、翌週発表しあう。

毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画の概説
第 2 回	我が国の住宅政策史①	住宅所有についての新たな問い
第 3 回	我が国の住宅政策史②	住宅システムの分岐／収束
第 4 回	我が国の住宅政策史③	持ち家の時代、その生成
第 5 回	我が国の住宅政策史④	大量の持ち家建設
第 6 回	我が国の住宅政策史⑤	市場化する社会、その住宅システム
第 7 回	我が国の住宅政策史⑥	成長後の社会の住宅事情
第 8 回	日米の空き家対策①	空き家の発生要因と問題、住宅の維持管理
第 9 回	日米の空き家対策②	問題住宅への日米の対策比較
第 10 回	日米の空き家対策③	ランドバンクによる空き家再生
第 11 回	日米の空き家対策④	財産管理人制度による空き家再生
第 12 回	日米の空き家対策⑤	都市再生に向けた空地の活用
第 13 回	日米の空き家対策⑥	衰退エリアの再生
第 14 回	自律共生型社会での住宅政策	これからの住宅政策のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した内容について、自主的に関心を広げて学習をすることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

「マイホームの彼方に」平山洋介、筑摩書房、2020 年

「アメリカの空き家対策とエリア再生」平修久、2020 年

【参考書】

「少子高齢化時代の住宅市場」米山秀隆、日本経済新聞出版社、2011 年

「老いた家、衰えぬ町」野澤千絵、講談社現代新書、2018 年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加・討論状況（50%）、課題レポート（50%）にもとづき評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで課題の提示を行う。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに 24 年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を踏まえて、ローカルな視点で住宅政策のあり方を授業で紹介する。

【担当教員の専門分野】

住宅問題・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年

「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」

日本建築学会論文集第 707 号、2015 年

『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013 年

『生活景』（共著）学芸出版社、2009 年

【Outline and objectives】

In an aging society with a declining birthrate, we will give a historical overview of what housing should be, which is the basis of life and is closely related to welfare, from the relationship between the housing market and housing policy.

Furthermore, we will give an overview of what kind of policies are being taken for vacant houses, which have been increasing in recent years, while comparing Japan and the United States, and consider what the housing industry and housing policies should be in the future.

CUM500J1

地域空間学特論 I

関司 直也

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域空間を捉えるアプローチとして、主に農山村地域に着目する。人口減少局面が先んじて発現している農山村地域は、多くの課題に直面しながらも、それを乗り越えようと各地で地域づくり活動が先発するフロンティア地域でもあり、その事例に学びながら、背景にあるカラクリを読み解く意義は大きい。

【到達目標】

本講義では、地域空間の背景にある農山村地域の社会構造や経済構造を読み解くための分析視点を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生と相談の上、輪読するテキストを決定する。授業は、担当者がレジュメを用意し、テキストの内容に関する議論を交わしながら、理解を深める。課題等のフィードバックも授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキストを紹介し、進め方を検討する。
第 2 回	テキスト輪読①	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第 3 回	テキスト輪読②	第 2 回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第 4 回	テキスト輪読③	第 3 回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第 5 回	テキスト輪読④	第 4 回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第 6 回	関連テーマ VTR 視聴 I	前半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第 7 回	テキスト輪読⑤	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第 8 回	テキスト輪読⑥	第 7 回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第 9 回	テキスト輪読⑦	第 8 回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第 10 回	テキスト輪読⑧	第 9 回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第 11 回	関連テーマ VTR 視聴 II	後半のテキスト輪読のまとめを行い、関連するテーマの事例を議論する。
第 12 回	テキスト輪読⑨	テキスト輪読を中心に議論し、適宜事例も検討する。
第 13 回	テキスト輪読⑩	第 12 回を受けて、テキスト輪読を中心に議論する。
第 14 回	まとめ	テキスト全体を通じた議論と総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや取り扱う事例の内容について、事前に目を通し、疑問点や論点を挙げ、授業後に内容を振り返り、要点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業で候補を出し、受講者の研究テーマを踏まえて決定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・討論への参加 50 %、指摘課題・報告内容 50 %

【学生の意見等からの気づき】

過年度ではアンケートを実施していないが、毎年の受講者の声を踏まえて、授業内容を改善していく。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論
 <研究テーマ> 農山村地域における地域資源管理の担い手問題、地域マネジメントのあり方
 <主要研究業績>
 『プロセス重視の地方創生:農山村からの展望』（共著、筑波書房、2019 年）
 『内発的農村発展論』（共著、農林統計出版、2018 年）

『田園回帰の過去・現在・未来』（共著、農山漁村文化協会、2016 年）

『人口減少時代の地域づくり読本』（共著、公職研、2015 年）

【Outline and objectives】

In this lecture, we focus on rural areas as an approach to capture regional space. The rural area, where the phase of population decline is ahead of its time, is also a frontier area where, despite facing many challenges, local development activities have begun in various places to overcome them.

MAN500J1

地域経営特論 I**土肥 将敦**

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

備考（履修条件等）：隔週開講

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主として地域社会とビジネスの関係性を理解するために、「社会的に責任ある企業経営（CSR 経営）」の理論と現状について、基本文献を読み、国内外の事例を参考にしつつ検討していく。講義では、企業と社会に関する基礎理論、CSR 経営にかかわる議論、ソーシャル・ビジネスにかかわる議論について理解していく。

【到達目標】

CSR 経営、ソーシャル・ビジネス、NPO/NGO のグローバル/ローカルな潮流を理解し、それらの関係性（結びつきや対抗関係など）についても理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では、CSR 経営やソーシャル・ビジネス、NPO/NGO にかかわる文献を輪読し、議論を通して理解を深める。またそれぞれの受講生が各回のテーマに関連する国内外の事例資料を持ち寄り、事例研究の報告も行う。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的・進め方について
第 2 回	企業と社会の関係を理解する①	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える。
第 3 回	企業と社会の関係を理解する②	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える。
第 4 回	輪読とディスカッション①（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う①
第 5 回	輪読とディスカッション②（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う②
第 6 回	輪読とディスカッション③（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う③
第 7 回	輪読とディスカッション④（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う④
第 8 回	輪読とディスカッション⑤（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う⑤
第 9 回	中間とりまとめ	これまでの講義内容の振り返りと今後の計画
第 10 回	輪読とディスカッション⑥（CSR の基礎）	CSR にかかわる基本文献を読みディスカッションを行う⑥
第 11 回	輪読とディスカッション⑦（CSR の基礎）	CSR にかかわる基本文献を読みディスカッションを行う⑦
第 12 回	輪読とディスカッション⑧（CSR の基礎）	CSR にかかわる基本文献を読みディスカッションを行う⑧
第 13 回	輪読とディスカッション⑨（CSR の基礎）	CSR にかかわる基本文献を読みディスカッションを行う⑨
第 14 回	受講生の研究テーマとの接点を探る①	講義全体の振り返りと、各受講生の研究テーマとの接点を探り、全員で議論する①

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少人数講義であるため、受講生の積極性や自主性が求められます。与えられた課題をこなすだけでなく、各回のテーマに関連する国内外の事例等を調べて、履修者全員が共有できるように資料を事前準備することが求められる。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回のガイダンス時に、いくつかの候補の中から選定する。また、講義中にも適宜指示をする。

【参考書】

講義中に、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義へのコミットメント（能動的参加 50 %、各回の報告内容 50 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR 論

<研究テーマ> ソーシャル・イノベーション、CSR

<主要研究業績>

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015 年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014 年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT 出版、2013 年）

【Outline and objectives】

Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/ sustainability into their core business strategies. The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.

MAN500J1

地域経営特論Ⅱ

土肥 将敦

科目分類・科目群：専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主として地域社会とビジネスの関係性を理解するために、「社会的に責任ある企業経営（CSR経営）」の理論と現状について、基本文献を読み、国内外の事例を参考にしつつ検討していく。講義では、企業と社会に関する基礎理論、CSR経営にかかわる議論、ソーシャル・ビジネスにかかわる議論について理解していく。

【到達目標】

CSR経営、ソーシャル・ビジネス、NPO/NGOのグローバル/ローカルな潮流を理解し、それらの関係性（結びつきや対抗関係など）についても理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では、CSR経営やソーシャル・ビジネス、NPO/NGOにかかわる文献を輪読し、議論を通して理解を深める。またそれぞれの受講生が各回のテーマに関連する国内外の事例資料を持ち寄り、事例研究の報告も行う。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的・進め方について
第2回	企業と社会の関係を理解する①	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える。
第3回	企業と社会の関係を理解する②	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える。
第4回	輪読とディスカッション①（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う①
第5回	輪読とディスカッション②（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う②
第6回	輪読とディスカッション③（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う③
第7回	輪読とディスカッション④（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う④
第8回	輪読とディスカッション⑤（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う⑤
第9回	中間とりまとめ	これまでの講義内容の振り返りと今後の計画
第10回	輪読とディスカッション⑥（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う①
第11回	輪読とディスカッション⑦（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う②
第12回	輪読とディスカッション⑧（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う③
第13回	輪読とディスカッション⑨（CSRの基礎）	CSRにかかわる基本文献を読みディスカッションを行う④
第14回	受講生の研究テーマとの接点を探る①	講義全体の振り返りと、各受講生の研究テーマとの接点を探り、全員で議論する①

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少人数講義であるため、受講生の積極性や自主性が求められます。与えられた課題をこなすだけでなく、各回のテーマに関連する国内外の事例等を調べて、履修者全員が共有できるように資料を事前準備することが求められる。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回のガイダンス時に、いくつかの候補の中から選定する。また、講義中にも適宜指示をする。

【参考書】

講義中に、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義へのコミットメント（能動的参加50%、各回の報告内容50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR論

<研究テーマ> ソーシャル・イノベーション、CSR

<主要研究業績>

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版、2013年）

【Outline and objectives】

Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/ sustainability into their core business strategies. The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.

SOW500J1

地域共生社会特論

水野 雅男、布川 日佐史、眞保 智子、佐野 竜平、野田 岳仁、高良 麻子、伊藤 正子

科目分類・科目群：専門共通科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

備考（履修条件等）：隔週開講

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉サイド（例：個別・地域・政策レベルの生活問題解決）およびまちづくり・地域創生サイド（例：興味・関心から始まるまちづくり）の両アプローチを念頭に置いた諸問題を様々な専門領域（担当教員の専門領域は下記参照）に照らして理解する。

【到達目標】

人・暮らしを中心に据えた生活問題の解決・改善、地域課題の解決を目指した地域づくりやまちづくりに関して、社会福祉と地域づくりの両面から具体的な理論・実践力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員7名がオムニバス形式で講義を担当する。外部講師を招聘することもある。遠隔地からの講義の【オンライン型】、または対面とオンラインを組み合わせる【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義のお知らせ・教材・課題およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム等でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	障害インクルーシブな開発①（佐野）	国内外の開発課題
第2回	障害インクルーシブな開発②（佐野）	インクルーシブなコミュニティ実践
第3回	生活困窮者の社会参加支援①（布川）	社会参加支援の基礎理論
第4回	生活困窮者の社会参加支援②（布川）	社会参加支援の実践
第5回	地域共生社会に向けソーシャルワーク①（高良）	ソーシャルワーク機能を踏まえたソーシャルワーカーの役割
第6回	地域共生社会に向けたソーシャルワーク②（高良）	ソーシャルワーク実践の方法
第7回	合理的配慮提供と産業ソーシャルワーク①（眞保）	企業等産業分野における包摂
第8回	合理的配慮提供と産業ソーシャルワーク②（眞保）	ダイバーシティマネジメント
第9回	移民・難民支援におけるソーシャルワーク①（伊藤）	ソーシャルワークにおける多様性の尊重
第10回	移民・難民支援におけるソーシャルワーク②（伊藤）	多文化ソーシャルワークの実践
第11回	社会的包摂を目指した市民活動①（水野）	社会的包摂を目指す政策と市民活動の展開
第12回	社会的包摂を目指した市民活動②（水野）	アウトサイダーアート・ギャラリーから包摂コミュニティの形成
第13回	地域ツーリズムによるコミュニティ再生①（野田）	観光の「大衆性」の相対化
第14回	地域ツーリズムによるコミュニティ再生②（野田）	地域社会の論理とその実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義中に資料を配布。

【参考書】

講義中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各講義中のリアクションペーパー等）100%

【学生の意見等からの気づき】

これまでの受講者の声を踏まえて、講義内容を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】

主な研究領域

- 1) 佐野（コミュニティに根付いたインクルーシブな開発）
- 2) 布川（生活困窮者への社会参加の権利保障）
- 3) 高良（共生社会にむけたソーシャルワーク）
- 4) 眞保（障害者雇用と就労支援 若者支援）
- 5) 伊藤（多文化ソーシャルワークと移住者支援）
- 6) 水野（市民活動の運動論）
- 7) 野田（地域コミュニティの暮らしに息づく自然資源を活かした地域ツーリズム）

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide students with an understanding of community and social cohesion. The topics covered will be diverse to provide an overview of areas that impact on social policies and community development.

SOW600J1

実践研究演習 I

土肥 将敦

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文研究演習 I と対応させながら、修士論文執筆に必要な定性的な情報を集める技法を学びつつ、データ分析を行っていく。

【到達目標】

研究テーマに即した調査対象を選定し、質的調査の手法を用いながら、データを分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生の研究報告・議論に加えて、質的調査にかかわる文献の輪読や議論も行う。COVID-19 にもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。ミニレポートなどにおける優れた内容は講義内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認と調査対象の設定①	研究テーマに即した調査対象を選定する①
第 2 回	研究テーマの確認と調査対象の設定②	研究テーマに即した調査対象を選定する②
第 3 回	質的研究メソッド①	「分厚い記述」と「薄い記述」①
第 4 回	質的研究メソッド②	「分厚い記述」と「薄い記述」②
第 5 回	質的研究メソッド③	「分厚い記述」と「薄い記述」③
第 6 回	質的研究メソッド④	「分厚い記述」と「薄い記述」④
第 7 回	質的研究メソッド⑤	「分厚い記述」と「薄い記述」⑤
第 8 回	シートの作成①	インタビューシートを作成する①
第 9 回	シートの作成②	インタビューシートを作成する②
第 10 回	シートの作成③	インタビューシートを作成する③
第 11 回	フィールド調査からのデータ分析①	フィールド調査からの 1 次情報を分析する①
第 12 回	フィールド調査からのデータ分析②	フィールド調査からの 1 次情報を分析する②
第 13 回	フィールド調査からのデータ分析③	フィールド調査からの 1 次情報を分析する③
第 14 回	フィールド調査からのデータ分析④	フィールド調査からの 1 次情報を分析する④
第 15 回	フィールド調査からのデータ分析⑤	フィールド調査からの 1 次情報を分析する⑤
第 16 回	夏期休暇中の研究報告①	進捗状況についての中間報告②
第 17 回	夏期休暇中の研究報告②	進捗状況についての中間報告①
第 18 回	データ収集①	データ収集と報告①
第 19 回	データ収集②	データ収集と報告②
第 20 回	データ収集③	データ収集と報告③
第 21 回	データ収集④	データ収集と報告④
第 22 回	データ収集⑤	データ収集と報告⑤
第 23 回	データを分析する①	定性的コーディングと概念モデルの構築①
第 24 回	データを分析する②	定性的コーディングと概念モデルの構築②
第 25 回	データを分析する③	定性的コーディングと概念モデルの構築③
第 26 回	データを分析する④	定性的コーディングと概念モデルの構築④
第 27 回	データを分析する⑤	定性的コーディングと概念モデルの構築⑤
第 28 回	中間報告書の執筆	論文全体のストーリー化を目指す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの「作品」としての修士論文を執筆するためには、講義時間以外に関連する論文や資料を収集しリサーチ・クエスチョンを洗練させていくことが求められます。また与えられた課題をこなすだけでなく、自分で海外の関連する論文を見つけてくる積極的な姿勢が大切です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者の研究テーマに応じて、講義中に適宜指示する。

【参考書】

受講者の研究テーマに応じて、講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の研究報告内容（100 %）により判断する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR 論

<研究テーマ> ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方

<主要研究業績>

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015 年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014 年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT 出版、2013 年）

【Outline and objectives】

This course aims to introduce graduate students to ethnographic methodology and its main tools; such as field work, participant observation, interview, and so on.

SOW600J1

論文研究演習 I

岡田 栄作

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次 / 4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文を作成する上で核となるリサーチクエストの作成、研究デザインの構築、文献検索、論文の批判的吟味、データの収集、分析、方法、結果のまとめ方など研究方法論の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ① 学術論文の構成を理解している
- ② リサーチクエストを組み立てることができる
- ③ 研究デザインを理解している
- ④ 学術論文を批判的に読むことができる
- ⑤ 自らでデータを収集し、研究データを適切に管理することができる
- ⑥ 自らで統計解析ソフトを使いこなし、データを分析することができる
- ⑦ 研究倫理を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と個人指導を交えた形で進めていきます。修士論文作成のための第1ステージとしての重要な段階であり、研究に対するモラルや倫理規定を理解し、真摯な態度と積極的な意見交換と共に指導教官の助言を定期的にするのが望まれます。

準備段階の成果と今後の研究進展を目的に10月頃に1度、修士論文構想発表会を実施します。本講義の授業計画の変更・教材・課題の提示およびフィードバックについては、学習支援システムを通じて行い、講義内でもその都度行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスの実施
第2回	研究とは	どのようなプロセスをたどれば研究と言える成果物が出版できるのか。受講者とともに考える。
第3回	文献検索の方法	どのように文献を収集するか。文献検索の方法を学ぶ。
第4回	リサーチクエストの組み立て方	研究仮説の立て方を学ぶ。
第5回	先行研究のレビューの仕方	自分の希望研究テーマに関連する文献の収集と整理の仕方を学ぶ。
第6回	量的研究デザインを理解する①	研究デザインの知識を蓄える。
第7回	量的研究デザインを理解する②	研究デザインの知識を蓄える。
第8回	質的研究デザインを理解する①	研究デザインの知識を蓄える。
第9回	質的研究デザインを理解する②	研究デザインの知識を蓄える。
第10回	混合研究デザインを理解する	研究デザインの知識を蓄える。
第11回	研究の構想①	仮の研究課題を挙げてみる
第12回	研究の構想②	先行研究の分析結果と研究課題が前進しているか
第13回	先行研究のレビューをまとめる	先行研究を読み、どこが解決していて、どこが解決していないのか論点を整理する。
第14回	先行研究のレビューを発表する	レビューを発表することで論点をより明確にする。
第15回	仮説の設定①	主題と副題
第16回	仮説の設定②	仮説設定の意味、方法の概略
第17回	研究のサンプリングの検討	サンプリングの意味と方法
第18回	研究方法の検討	サンプリングと研究方法全体の検討
第19回	研究データの分析の計画	データ分析の計画の試み
第20回	論文全体構想の検討	論文全体構想
第21回	論文構想発表	論文構想を報告 自分の考えを人前で説明することの技術の自覚
第22回	課題や改善点の修正①	多くの質問や意見を踏まえてさらに進化するための検討
第23回	課題や改善点の修正②	原点に立ち返る、改善点の修正

第24回	研究全体構想の再検討①	研究全体の見直し
第25回	研究全体構想の再検討②	研究全体の見直し
第26回	研究対象の選出の検討	研究対象の再検討
第27回	研究協力者への依頼方法の検討	研究協力者への協力への依頼のあり方へのモラルとスキル
第28回	倫理審査の意味と方法	倫理審査前の基本的な態度と書類作成方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究方法に関する図書、統計や分析に用いるソフト関連の概説書などは各個人の努力で事前学習しておいて欲しい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究方法論に関するテキストは各々の研究の関心領域や研究方法論の概観が出てきてから指定します。

【参考書】

近藤克則（2018）「研究の育て方」, 医学書院

【成績評価の方法と基準】

- ① 平常点・学習態度 30 %
- ② 提出課題の内容 50 %
- ③ 研究構想までの過程への態度 20 %

【学生の意見等からの気づき】

受講者の意見を聞きながら進めていきます。

【その他の重要事項】

学生の研究進度によっては計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>福祉疫学、ファシリテーション論、保健医療福祉論
<研究テーマ>介護・医療関連情報の見える化、地域診断と健康
<主要業績>

『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉』（共著書、ミネルヴァ書房、2020年）

『住民主体の楽しい「通いの場」づくり』（共著書、日本看護協会出版会、2019年）

【Outline and objectives】

We will construct the research design of the paper.

SOW600J1

論文研究演習 I

伊藤 正子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：○

< 研究テーマ > エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の労働・生活問題

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing to prepare a master's thesis.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文にむけた研究計画の作成を学ぶ。

【到達目標】

修士論文の作成に向けて、研究計画を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、各自の研究関心を明確化することから始め、次に、先行研究のレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に研究課題を絞り込み、秋学期に入ってから、研究目的を明確化するとともに、研究構想の基盤を作り上げ、研究計画書の作成に取りかかる。オンラインまたは対面での開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第 2 回	研究関心の明確化①	研究関心の列挙
第 3 回	研究関心の明確化②	研究関心のグループ化
第 4 回	研究関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第 5 回	研究関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第 6 回	先行研究のレビュー①	隣接領域の文献研究
第 7 回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献研究
第 8 回	先行研究のレビュー③	隣接領域の論文研究
第 9 回	先行研究のレビュー④	関連領域の論文研究
第 10 回	研究課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第 11 回	研究課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第 12 回	研究課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第 13 回	研究課題の絞り込み④	研究実施フィールドの検討
第 14 回	研究課題の絞り込み⑤	研究仮説の検討
第 15 回	中間総括	明確化されたことの確認
第 16 回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第 17 回	研究目的の明確化①	研究の具体的目的の列挙
第 18 回	研究目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第 19 回	研究目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第 20 回	研究目的の明確化④	予想される結果の検討
第 21 回	研究構想の基盤作り①	研究仮説の明確化
第 22 回	研究構想の基盤作り②	研究手法（量的、質的等）の検討
第 23 回	研究構想の基盤作り③	研究データ収集方法の検討
第 24 回	研究構想の基盤作り④	研究データ分析方法の検討
第 25 回	研究計画書の作成①	研究実施体制の検討
第 26 回	研究計画書の作成②	研究実施フィールドの確認
第 27 回	研究計画書の作成③	データ収集のスケジュール検討
第 28 回	まとめ	研究計画の確認とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行うておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（60%）
2. 研究計画書（40%）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【学生が準備すべき機器他】

オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】

医療機関・NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論

SOW600J1

論文研究演習 I

岩崎 晋也

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマを決定し、その研究テーマに即した先行研究のレビュー、仮説の設定などの研究手法を学ぶ。

【到達目標】

論文作成の基礎力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

事前に課題を提示し、その報告と検討により授業を進める。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第2回	論文作成の方法①	論文の方法論を検討する1
第3回	論文作成の方法②	論文の方法論を検討する2
第4回	論文作成の方法③	論文の方法論を検討する3
第5回	論文作成の方法④	論文の方法論を検討する4
第6回	関心領域・テーマの検討①	テーマを検討する1
第7回	関心領域・テーマの検討②	テーマを検討する2
第8回	関心領域・テーマの検討③	テーマを検討する3
第9回	関心領域・テーマの検討④	テーマを検討する4
第10回	先行研究のレビュー①	先行研究を検討する1
第11回	先行研究のレビュー②	先行研究を検討する2
第12回	先行研究のレビュー③	先行研究を検討する3
第13回	先行研究のレビュー④	先行研究を検討する4
第14回	中間総括	前期の研究を総括する
第15回	テーマの明確化①	研究テーマを絞る1
第16回	テーマの明確化②	研究テーマを絞る2
第17回	テーマの明確化③	研究テーマを絞る3
第18回	発表会原稿の作成①	発表原稿の作成指導を行う1
第19回	発表会原稿の作成②	発表原稿の作成指導を行う2
第20回	発表会原稿の作成③	発表原稿の作成指導を行う3
第21回	発表会リハーサル	発表会のリハーサルを行う
第22回	【論文構想発表会】	発表会で指導する
第23回	論文構想の明確化①	論文のテーマ・方法・予想される結果について検討する1
第24回	論文構想の明確化②	論文のテーマ・方法・予想される結果について検討する2
第25回	論文構想の明確化③	論文のテーマ・方法・予想される結果について検討する3
第26回	論文構想の明確化④	論文のテーマ・方法・予想される結果について検討する4
第27回	論文構想の明確化⑤	論文のテーマ・方法・予想される結果について検討する5
第28回	年間総括	1年間の研究を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示された課題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)による。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【担当教員の専門分野】

社会福祉原理・思想

【Outline and objectives】

Learn research methods such as reviewing previous studies and setting hypotheses according to the research theme.

SOW600J1

論文研究演習 I

岩田 美香

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆に向けての研究手法を学ぶ。

【到達目標】

研究テーマを設定し、その研究テーマに即した先行研究のレビュー、仮説の設定・検証、フィールドワークや調査によるデータ収集など、適切な研究方法の選定を行い、論文作成のための研究デザインを構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・上記の到達目標を達成するために、①論文を作成するための基礎的なスキルの獲得、②先行研究のレビューと課題の設定、③仮説の構築と検証の手続きの検討、④研究資料（データ）の収集と分析の具体的方法の獲得、を通して次年度の修士論文作成が計画的に進められるように備える。また、これらの成果と今後の研究の進展を確認するために、修士論文構想発表会が位置づいている。

・課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

・各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムで、その都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究指導の説明、これまでの学習成果の発表
第2回	論文とは何か	「論文」とは何かについての再確認
第3回	論文作成の基礎	論文作成の基礎的スキルについての確認
第4回	論文作成の実践基礎	論文作成の基礎的スキルの獲得
第5回	問題関心の問い直し：社会状況	自身の問題関心を社会的現状の中で検討する
第6回	問題関心の問い直し：文献	問題関心に関する文献から検討する
第7回	問題関心と研究領域	研究領域における自身の問題関心の位置づけを確認する
第8回	研究領域（フィールド）の検討	研究領域に関するフィールドの現状を探る
第9回	論文テーマの検討	論文のテーマを絞り込む
第10回	先行研究のレビュー：文献収集	論文テーマに関する先行研究を収集する
第11回	先行研究のレビュー：方法	先行研究の読み方と整理の仕方
第12回	レビュー論文	先行研究のレビューを書いてみる
第13回	レビュー論文の検討	レビュー論文を検討する
第14回	中間総括	春学期での総括を発表する
第15回	オリエンテーション	夏期休暇中の研究成果の発表
第16回	テーマの明確化：課題設定	先行研究のレビューをもとに、課題を設定する
第17回	テーマの明確化：研究方法	先行研究のレビューをもとに、研究方法を検討する
第18回	論文構想発表の準備	発表会原稿の作成
第19回	発表会原稿の検討	作成した発表原稿の検討
第20回	発表会原稿の完成	検討をもとに論文構想発表原稿を完成させる
第21回	発表会リハーサル	論文構想発表会のリハーサルと内容検討
第22回	論文構想発表会	自身の論文構想を発表する
第23回	発表会の振り返り	発表会全体での質疑応答を振り返る
第24回	論文構想の明確化：課題の再設定	課題の再設定
第25回	論文構想の明確化：方法論の検討	論文における方法論の検討
第26回	論文構想の明確化：仮説の設定	仮説を設定する
第27回	論文構想の明確化：仮説の検証	仮説を検証する
第28回	総括	到達点と課題のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・履修者は、計画的に修士論文作成を進めると同時に、毎回、必ず検討するためのレジュメや資料を用意して演習に臨むこと。

・本授業の準備・復習時間は、各回8時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究テーマおよび研究方法に応じて適宜紹介する。

【参考書】

履修者の研究テーマおよび研究方法に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加（20%）、演習内課題（60%）、論文構想発表会（20%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野】

〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論

〈研究テーマ〉

1. 子育て・子育ての社会的不平等
2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline and objectives】

This course focuses specifically on the process to elaborate the idea of the students' thesis.

SOW600J1

論文研究演習 I

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成を目指し、論文執筆の方法を学習するとともに、研究課題の明確化、論文構想を明確化していくことを目的とする。

【到達目標】

修士論文が執筆可能となる文章力、表現力を体得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに、論文執筆の方法について学習したうえで、受講者の関心領域に基づき、研究テーマを設定する。次に、研究テーマに関する先行研究のレビューを行い、研究内容を明確化していく。さらに、研究課題を遂行するための研究アプローチ、調査・分析方法を検討し、修士論文の執筆に向けて論文構想を明確化していく。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の説明
第 2 回	論文作成方法の説明	研究論文についての講義
第 3 回	論文作成方法の検討	研究手法の選択に関する講義
第 4 回	論文作成方法に関するディスカッション	論文執筆に関する講義
第 5 回	論文作成方法の検討	論文作成に関するフリーディスカッション
第 6 回	関心領域の検討①	関心領域設定についての講義
第 7 回	関心領域の検討②	関心領域の設定
第 8 回	研究テーマの検討①	研究テーマ設定についての講義
第 9 回	研究テーマの検討②	研究テーマの設定
第 10 回	先行研究のレビューの方法	先行研究の検索方法についての講義
第 11 回	先行研究のレビューの実際	先行研究の検索の実際
第 12 回	先行研究のまとめ方	先行研究のまとめ方の検討
第 13 回	先行研究の報告	先行研究の検討結果発表
第 14 回	中間総括	研究についてのフリーディスカッション
第 15 回	オリエンテーション	講義内容の説明と夏休みの課題についての報告
第 16 回	論文の方向性について	論文の方向性に関するフリーディスカッション
第 17 回	研究テーマの明確化①	論文テーマ等についての発表
第 18 回	研究テーマの明確化②	論文テーマ等の修正
第 19 回	論文のテーマの明確化③	論文のテーマ等の確定
第 20 回	構想発表会の原稿作成①	原稿作成要領の説明
第 21 回	構想発表会原稿の作成②	原稿作成と指導
第 22 回	構想発表会原稿の作成③	原稿作成と指導
第 23 回	構想発表会リハーサル	原稿報告と修正
第 24 回	【論文構想発表会】	研究論文の具体的内容の発表
第 25 回	論文構想の明確化①	論文内容の再検討
第 26 回	論文構想の明確化②	論文内容の再検討
第 27 回	論文構想の明確化③	論文の方向性についての報告
第 28 回	総括	論文作成にむけての総括発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生各自の研究領域、関心領域についての先行研究を概観し、不明な点、気づいた点などをまとめ、講義内で発表・説明できるよう学習をすすめておいてください。本講義の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

【参考書】

とくに使用しない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 - 60 %

課題に対する取り組み（発表原稿等含む） - 40 %

特に、受講生各自の研究報告・論文報告を適切に行えるよう学習を進めておくことが成績評価の基準となる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

論文についての疑問点を質問しやすいよう環境づくりに努めていく。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

<主要研究業績>

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグループとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing to prepare a master's thesis.

SOW600J1

論文研究演習 I

佐野 竜平

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自の関心テーマに沿いつつ、修士論文を構想する。

【到達目標】

先行研究のレビューや適切な研究方法の選定等、デザインを構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

論文の構想発表の前後で研究テーマ設定、仮説の構築と検証、データ収集と分析方法の習得等を行い、今後の研究の深まりにつなげていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の進め方について確認する
第 2 回	論文作成の方法①	必要な基礎スキルを学ぶ①
第 3 回	論文作成の方法②	必要な基礎スキルを学ぶ②
第 4 回	論文作成の方法③	必要な基礎スキルを学ぶ③
第 5 回	関心領域の検討①	関心領域を検討①
第 6 回	関心領域の検討②	関心領域を検討②
第 7 回	関心領域の検討③	関心領域を検討③
第 8 回	先行研究のレビュー①	先行研究を分析、論点を整理①
第 9 回	先行研究のレビュー②	先行研究を分析、論点を整理②
第 10 回	先行研究のレビュー③	先行研究を分析、論点を整理③
第 11 回	先行研究のレビュー④	先行研究を分析、論点を整理④
第 12 回	関心テーマの再設定①	関心領域・テーマを見直し、確認①
第 13 回	関心テーマの再設定②	関心領域・テーマを見直し、確認②
第 14 回	中間総括	これまでの振り返り
第 15 回	オリエンテーション	秋学期の進め方について確認
第 16 回	研究構想の明確化①	研究背景・仮説等の整理①
第 17 回	研究構想の明確化②	研究背景・仮説等の整理②
第 18 回	研究構想の明確化③	研究背景・仮説等の整理③
第 19 回	構想発表の準備①	構想報告の内容を検討
第 20 回	構想発表の準備②	構想報告の内容を作成
第 21 回	構想発表の準備③	構想報告の内容を確認し、適宜修正
第 22 回	構想発表の準備④	構想発表会のリハーサル
第 23 回	構想発表の見直し①	発表会を通じて構想を報告
第 24 回	構想発表の見直し②	構想の修正
第 25 回	構想発表の見直し③	構想の再確認
第 26 回	論文アウトライン①	論文骨組みの作成
第 27 回	論文アウトライン②	論文骨組みの修正
第 28 回	レビュー	1 年間の振り返りと要点の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回進捗報告や確認が求められるので、事前準備が不可欠となる。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加・発表・報告：70%、論文アウトライン：30%

【学生の意見等からの気づき】

学生による様々なアイデアを応用。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。論文執筆にかかる諸準備。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】

A process to elaborate the idea of his/her thesis is to be facilitated.

SOW600J1

論文研究演習 I

眞保 智子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次 / 4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生各自が専攻分野の学びの中で、追求しようと考えている問題について、論文執筆により研究成果を組織だてて発表できるように研究デザインを行います。

【到達目標】

学生各自が専攻分野の学びの中で、追求しようと考えている問題について研究活動を実践し、成果を組織だてて発表できるように研究をデザインする基礎力をつけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究のために必要な①主題の選定、②理論・キー概念の把握と検討、③先行研究のレビューと研究意義の検討、④方法論の検討、⑤仮説の構築と検証方法の検討、⑥事例・資料・調査データへの接近を通して論文執筆に向けての準備を進めていきます。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方と春学期スケジュールの確認
第 2 回	論文のジャンル・タイプの検討	学術論文のタイプの検討
第 3 回	研究に向けて	何をなぜ、明らかにしたいのか議論する
第 4 回	先行研究のレビュー（アクセス法）	問題意識に関連する研究へのアクセス法の確認
第 5 回	先行研究のレビュー（近接領域）	問題意識に関連する領域および隣接領域の文献研究
第 6 回	先行研究のレビュー（報告）	問題意識に関連する領域および隣接領域の文献研究と報告
第 7 回	先行研究のレビュー（議論）	問題意識に関連する領域および隣接領域の文献研究の検討と議論
第 8 回	研究課題の焦点化	何を調査し、何を明らかにしたいのか
第 9 回	研究課題の検討	理論と独創性の検討
第 10 回	研究課題の価値	理論と研究意義の検討
第 11 回	研究課題へのアプローチ	調査の可能性の検討
第 12 回	研究方法の検討	方法論の検討
第 13 回	主題の選定	研究テーマの決定
第 14 回	研究仮説の設定	仮説と検証方法の検討
第 15 回	中間総括	研究テーマについてディスカッション
第 16 回	オリエンテーション	秋学期のスケジュールと目標の確認
第 17 回	問題意識の明確化	なぜ、研究テーマを取り上げるのか
第 18 回	問題意識の研究課題への返還	研究課題と理論・キー概念の検討
第 19 回	研究の構想に向けて	研究課題と理論・キー概念と独創性の検討
第 20 回	研究構想の検討（仮説の構築）	研究仮説と作業仮説の検討
第 21 回	研究構想の検討（研究方法）	実際に採用する研究方法と想定される結果についての検討
第 22 回	研究構想の検討（調査対象）	研究フィールドの確認
第 23 回	研究構想の検討（事前調査）	パイロット・スタディによる仮説構築、検証手法の検討
第 24 回	研究構想の発表（報告）	研究の全体構想について発表する
第 25 回	proposal の検討	課題解決のための見直し
第 26 回	proposal 作成	研究対象の再検討
第 27 回	proposal 作成（スケジュール）	研究方法・分析方法の再検討とスケジュール確認
第 28 回	proposal 報告	研究の全体構想の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めますので、そのためのレジュメや資料を準備して演習に臨むようにしていただきたい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習内報告・発表：60% proposal：40%

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントなどを使用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>若者支援論、障害者雇用、障害者福祉

<研究テーマ>

- 1 障害者のキャリアデザイン
- 2 障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
- 3 企業における精神科ソーシャルワーク

【Outline and objectives】

This seminar provides a lecture on the the formal structures and styles of academic writing. This seminar focuses on two primary areas. The first is essay organization: we will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: we will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to graduate School research. Additionally, We will build confidence and competence in writing preparing you for degree paper.

SOW600J1

論文研究演習 I

土肥 将敦

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次 / 4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、研究テーマを決定するとともに、その研究に即した先行研究のサーベイ、リサーチ・クエスチョンの導出と仮説を構築することを主眼におく。

【到達目標】

研究テーマを確立するプロセス（先行研究のサーベイ等）の中で、問い（リサーチ・クエスチョン）を洗練させ、仮説を育て発展させていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文作成のための基本的な作法を学ぶとともに、当該研究テーマに即した先行研究のサーベイを定期的に報告してもらいます。そのプロセスの中で、既存研究から明らかになっていることと未解明の部分を確認し、修士論文としてのリサーチ・クエスチョンを構築していく。COVID-19 にもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期ガイダンス	年間および春学期の計画・方針を確認する
第 2 回	研究テーマの設定①	研究テーマを設定する①
第 3 回	研究テーマの設定②	研究テーマを設定する②
第 4 回	研究テーマの設定③	研究テーマを設定する③
第 5 回	先行研究のサーベイ①	国内外の先行研究のサーベイを行う①
第 6 回	先行研究のサーベイ②	国内外の先行研究のサーベイを行う②
第 7 回	先行研究のサーベイ③	国内外の先行研究のサーベイを行う③
第 8 回	先行研究のサーベイ④	国内外の先行研究のサーベイを行う④
第 9 回	先行研究のサーベイ⑤	国内外の先行研究のサーベイを行う⑤
第 10 回	先行研究のサーベイ⑥	国内外の先行研究のサーベイを行う⑥
第 11 回	研究テーマの再設定①	研究テーマの再設定①
第 12 回	研究テーマの再設定②	研究テーマの再設定②
第 13 回	調査研究報告①	既存研究踏まえた調査・研究報告①
第 14 回	調査研究報告②	既存研究踏まえた調査・研究報告②
第 15 回	中間報告	中間総括と夏期休暇中の課題設定
第 16 回	秋学期ガイダンス	秋学期の計画・方針を確認する。
第 17 回	進捗状況の報告①	夏期休暇中の調査状況報告①
第 18 回	進捗状況の報告②	夏期休暇中の調査状況報告②
第 19 回	リサーチ・クエスチョンの再設定と仮説の導出①	RQ の再設定と仮説の導出を行う①
第 20 回	リサーチ・クエスチョンの再設定と仮説の導出②	RQ の再設定と仮説の導出を行う②
第 21 回	リサーチ・クエスチョンの再設定と仮説の導出③	RQ の再設定と仮説の導出を行う③
第 22 回	先行研究サーベイ①	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する①
第 23 回	先行研究サーベイ②	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する②
第 24 回	先行研究サーベイ③	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する③
第 25 回	先行研究サーベイ④	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する④
第 26 回	フィールド調査報告①	フィールド調査報告①
第 27 回	フィールド調査報告②	フィールド調査報告②
第 28 回	フィールド調査報告③	フィールド調査報告③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの「作品」としての修士論文を執筆するためには、講義時間以外に関連する論文や資料を収集しリサーチ・クエスチョンを洗練させていくことが求められる。また与えられた課題をこなすだけでなく、自分で海外の関連する論文を見つけてくる積極的な姿勢が重視される。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者の研究テーマに応じてその都度指示する。

【参考書】

受講者の研究テーマに応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の研究報告内容（100 %）をもとに総合的に判断する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR 論
<研究テーマ> ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方
<主要研究業績>

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015 年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014 年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT 出版、2013 年）

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to gain the ability to understand and explain the appropriate method in your research paper/thesis.

SOW600J1

論文研究演習 I

図司 直也

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成に向けて、論文執筆に必要な視点を学ぶとともに、各自の論文構想を固めていく。

【到達目標】

修士論文の構想を固め、2 年次における研究計画を具体的に設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各自が研究テーマを決定し、さまざま研究方法論（歴史研究、理論研究、政策研究、比較研究など）、先行研究レビュー、実証的研究方法などを検討し研究デザインを構築する。また、研究の円滑な進展が図られるように指導・支援を行う。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の進め方について受講者と相談の上、決定する。
第 2 回	論文作成方法の基礎的理解	論文作成の方法について、テキスト等をもとに学ぶ。
第 3 回	論文作成方法の分析	論文作成の方法について、先行研究を分析する。
第 4 回	論文作成方法の議論	自分の論文作成に必要な方法を議論する。
第 5 回	論文作成方法の選定	自分の論文作成の方法を選定する。
第 6 回	関心領域の候補出し	各自の関心領域の候補を出し合う。
第 7 回	関心領域候補の深掘り	各自の関心領域を深掘りする。
第 8 回	関心領域の検討	各自の関心領域を検討する。
第 9 回	関心領域の選定	各自の関心領域を選定する。
第 10 回	先行研究のリストアップ	先行研究のリストを作成する。
第 11 回	先行研究の探索と読解	先行研究を収集し、目通しする。
第 12 回	先行研究の論点出し	先行研究の論点を挙げる。
第 13 回	先行研究の論点整理	先行研究の論点を整理する。
第 14 回	中間総括と方針の検討	春学期の到達点と秋学期の方針をまとめる。
第 15 回	オリエンテーション	秋学期の進め方について受講者と相談の上、決定する。
第 16 回	テーマの明確化	研究テーマを具体化させる。
第 17 回	仮説の検討	研究テーマの仮説を検討する。
第 18 回	仮説の設定	研究テーマの仮説を精査する。
第 19 回	研究構想の私案作成	研究構想の私案を作る。
第 20 回	研究構想の検討	研究構想を検討する。
第 21 回	研究構想の修正	研究構想を修正する。
第 22 回	構想発表会リハーサル	構想発表会のリハーサルを行い、改善点を議論する。
第 23 回	【論文構想発表会】	構想を報告し、参加者から意見やアドバイスを得る。
第 24 回	発表会の振り返り	発表会でのコメントの整理
第 25 回	論文構想の再検討	論文構想を練り直す。
第 26 回	論文構想の加筆	論文構想の不足部分を補う。
第 27 回	論文構想の明確化	論文構想を組み立て直す。
第 28 回	総括	到達点と今後の作業方針の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生各自の研究テーマについて、必要な作業を進め、授業内での報告に臨めるようにしておく。準備・復習時間として各 2 時間を確保してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜、プリント等を配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習での作業・議論 50 %、発表・報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はアンケートを実施していない。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論

<研究テーマ> 農山村地域における地域資源管理の担い手問題、地域マネジメントのあり方

<主要研究業績>

『プロセス重視の地方創生:農山村からの展望』（共著、筑波書房、2019 年）

『内発的農村発展論』（共著、農林統計出版、2018 年）

『田園回帰の過去・現在・未来』（共著、農山漁村文化協会、2016 年）

『人口減少時代の地域づくり読本』（共著、公職研、2015 年）

【Outline and objectives】

For the making of the master's thesis, we learn a viewpoint necessary for article writing and strengthen an article design of each person.

SOW600J1

論文研究演習 I

中村 律子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

主要業績：

・「ネパール震災と高齢者ケアコミュニティ・ケアの再創造」現代福祉研究第 16 号 法政大学現代福祉学部 2016 年
 ・『浴風園ケース記録集- 100 人』共著、学文社、2015 年
 ・「ネパール社会における「sewa」コミュニティ」に関する一考察」現代福祉研究第 13 号、法政大学現代福祉学部 2013 年
 ・『実践のコミュニティ』共著、京都大学出会、2012 年
 ・「戦前の養老院の社会的意義について- 開園から救護法施行期までの浴風園の原史料分析-」、現代福祉研究第 8 号、法政大学現代福祉学部、2008 年

【Outline and objectives】

This specialized course guides graduate students in composing their academic papers for their Master's thesis completion.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文（博士課程前期修士論文）提出に向けての指導を行います。学術論文としての修士論文をいかに執筆していくかについて指導を行います。

【到達目標】

研究テーマを決定し、さまざまな研究方法論、先行研究のレビュー、仮設の設定・検証、実証研究の方法を用いて、研究デザインを構築します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に、論文作成の方法について学び、その上で、各自の関心分野に応じて、先行研究のレビューを重ねながらテーマと課題の設定を行う。さらに、課題に対する分析視点と実証方法（フィールドワークやヒアリング調査などでのデータ収集の方針）を検討し、論文の全体像を固める。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題提出・フィードバックは「学習支援システム」で行います。また、授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究指導の説明
第 2 回	社会福祉学研究動向①	研究テーマの研究動向整理①
第 3 回	社会福祉学研究動向②	研究テーマの研究動向整理②
第 4 回	文献研究方法①	先行研究整理と報告①
第 5 回	文献研究方法②	先行研究整理と報告②
第 6 回	文献研究方法③	先行研究整理と報告、討議①
第 7 回	文献研究方法④	先行研究整理と報告、討議②
第 8 回	社会福祉研究方法整理①	理論研究の手法の検討
第 9 回	社会福祉研究方法整理②	政策比較研究の手法の検討
第 10 回	社会福祉研究方法検討①	研究テーマ設定検討①
第 11 回	社会福祉研究方法検討②	研究仮説設定について検討②
第 12 回	修士論文研究計画検討①	研究デザインを明確化する
第 13 回	修士論文研究計画検討①	研究内容・方法を策定する
第 14 回	春学期のまとめ	研究課題の再検討
第 15 回	秋学期の研究指導の概要	秋学期演習のプロセス確認
第 16 回	論文構想発表会準備①	修士論文の研究背景・目的を再整理
第 17 回	論文構想発表会準備②	修士論文における研究方法を再検討
第 18 回	論文構想発表会準備③	修士論文における研究内容を再検討
第 19 回	論文構想ブレ報告①	修士論文構想報告内容検討①
第 20 回	論文構想ブレ報告②	修士論文構想報告内容検討②
第 21 回	論文構想ブレ報告③	修士論文構想報告内容の修正
第 22 回	論文構想ブレ報告④	修士論文構想報告内容の策定
第 23 回	論文構想内容再検討①	論文報告内容の振り返り
第 24 回	論文構想内容再検討②	研究デザインの振り返り
第 25 回	研究構想の再検討①	論文構成（研究仮説）検討①
第 26 回	研究構想の再検討②	論文構成（研究内容）検討②
第 27 回	研究構想の再検討③	論文構成（研究方法）検討③
第 28 回	まとめ	研究の到達点と新たな研究課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

内外の先行研究をレビューし、フィールドワークなどを検討してください。そのため、準備（先行研究のレビューと報告）時間、復習（報告後の再整理など）時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、演習初回の時に、修論テーマにそって適宜紹介します。

【参考書】

特に指定しませんが、演習初回の時に、修論テーマにそって適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習参加・報告内容（80 %）、課題レポート（20 %）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは実施されていません。

【学生が準備すべき機器他】

各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使用することができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：社会福祉学、高齢者福祉論、社会福祉処遇史

SOW600J1

論文研究演習 I

野田 岳仁

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次 / 4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会を舞台としてフィールドワークを行い、地域ツーリズムや地域づくり、地域の環境政策にかかわる修士論文を執筆するための環境社会学・地域社会学の方法論をマスターすることを目的としている。

【到達目標】

修士論文の作成に向けて、調査の技法と論文執筆の作法を学び、先行研究の批判的かつ創造的なレビューの方法やアカデミックな議論の作法を養うこと。これらの技能を修得することを通じて、修士論文のテーマや全体構想を明確化することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で進める。課題文献の精読、レジユメの作成、研究発表、論文執筆が求められる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更はありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方、研究発表、課題文献の選定および発表スケジュールの確認
第 2 回	フィールドワークの技法 (1)	柳田国男や宮本常一らの優れたフィールドワーカーの心構えや調査技法を理解する
第 3 回	フィールドワークの技法 (2)	調査マナーや調査の作法について
第 4 回	フィールドワークの技法 (3)	フィールドノート作成と調査データの整理
第 5 回	論文作成の方法 (1)	ダメな問いとは何か
第 6 回	論文作成の方法 (2)	よい問いのつくり方
第 7 回	論文作成の方法 (3)	問題関心の設定
第 8 回	論文作成の方法 (4)	論敵の設定
第 9 回	論文作成の方法 (5)	章立ての検討
第 10 回	先行研究のレビュー (1)	当該テーマの環境社会学における研究史の検討
第 11 回	先行研究のレビュー (2)	当該テーマの地域社会学における研究史の検討
第 12 回	先行研究のレビュー (3)	当該テーマの民俗学における研究史の検討
第 13 回	先行研究のレビュー (4)	当該テーマの文化人類学における研究史の検討
第 14 回	中間総括	研究テーマの構想と討議
第 15 回	研究方法の検討 (1)	環境社会学の方法論の検討
第 16 回	研究方法の検討 (2)	地域社会学の方法論の検討
第 17 回	研究方法の検討 (3)	民俗学・文化人類学の方法論の検討
第 18 回	研究課題の設定 (1)	研究課題と方法論の選定
第 19 回	研究課題の設定 (2)	研究の独自性の検討
第 20 回	研究課題の設定 (3)	結論の見直しについての検討
第 21 回	研究計画書の執筆 (1)	修士論文の研究計画書の作成
第 22 回	研究計画書の執筆 (2)	研究課題の再検討
第 23 回	研究計画書の執筆 (3)	問いの見直し
第 24 回	研究計画書の執筆 (4)	章立ての再検討
第 25 回	研究計画書の執筆 (5)	結論の見直しの再検討
第 26 回	研究計画書の発表 (1)	論理構成の確認と討議
第 27 回	研究計画書の発表 (2)	研究の全体構想の確認と討議
第 28 回	学問の実践性と政策論	総括的議論とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自フィールドワークを進めておくことはもちろんのこと、専門領域における先行研究の課題文献の精読、レジユメの作成、論文執筆に向けた入念な準備が必要である。本演習の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

受講生の関心や研究テーマを考慮して選定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

討議への参加を含めた平常点 (50%)、レポートや発表などの成果物 (50%) の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートやリアクションペーパー等を通じて受講生の意見や要望は積極的に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『環境社会学の考え方—暮らしを見つめる 12 の視点』(共著書、ミネルヴァ書房、2019 年)

『生活環境主義のコミュニティ分析—環境社会学のアプローチ』(共著書、ミネルヴァ書房、2018 年)

『原発災害と地元コミュニティ—福島県川内村奮闘記』(共著書、東信堂、2018 年)

『Rebuilding Fukushima』(共著書、Routledge、2017 年)

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. It also enhances the development of students' skill in making academic papers and taking field research. At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.

SOW600J1

論文研究演習 I

布川 日佐史

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成のための研究指導を行う。

【到達目標】

先行研究を網羅し、論点をしっかり整理する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 問題関心とテーマに沿って、また、進捗状況に合わせて、演習を進める。オンライン形式の授業を取り入れます。
- 2) 提出物等におけるコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
- 3) 各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	年度計画の確認
2	問題意識・課題の確認	研究テーマ設定の前提を確認する
3	問題状況の検討①	仮テーマを複数提出する
4	問題状況の検討②	複数の仮テーマを検討する
5	問題状況の検討③	何を課題とすべきか仮テーマを決める
6	問題状況の検討④	何を課題とすべきかテーマを確定する
7	先行研究の検討①	先行研究の論点の整理
8	先行研究の検討②	先行研究の課題の整理
9	先行研究の検討③	問題点と残った課題の整理
10	先行研究の検討④	先行研究の到達点を検討する
11	先行研究の検討⑤	先行研究と対比した、オリジナルな仮説を導き出す
12	主要論点のまとめ①	主要論点のポイントをまとめる
13	主要論点のまとめ②	主要論点の概略を論述する
14	主要論点のまとめ③	主要論点に批判的コメントをする
15	課題の明確化①	課題を報告し、検討する
16	課題の明確化②	課題のポイントを整理する
17	課題の明確化③	課題の概要を検討する
18	課題の明確化④	オリジナルな課題をまとめる
19	課題の解明①	論述したまとめのポイントを検討
20	課題の解明②	論述したまとめの重点課題を検討
21	課題の解明③	課題を明確にする
22	課題の解明④	課題を論理的に論じる
23	仮説の検討①	仮説を設定する
24	仮説の検討②	仮説を明確にする
25	仮説の検討③	仮説の論理性を検討する
26	初稿の完成	初稿を検討する
27	初稿の推敲	初稿を推敲する
28	提出原稿の評価	成果と課題を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、進捗状況の報告を求めるので、入念な準備をしておくこと。

本授業の準備・復習時間は、各 90 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

問題状況と先行研究の整理が十分か 60%

テーマ設定が明確か 40%

【学生の意見等からの気づき】

主張の明確性と、論文としての論理性とに留意する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【担当教員の専門分野】

公的扶助 雇用政策

【Outline and objectives】

research guidance for preparing master's thesis

SOW600J1

論文研究演習 I

水野 雅男

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の執筆に向けた研究方法を学ぶ。

【到達目標】

問題関心に沿った先行研究をレビューし、研究の論点を整理する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

関心分野に沿って、履修生と相談の上、指導助言のスケジュールと方法を決定する。各回の授業計画に変更がある場合には、「学習支援システム」でその都度提示します。毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年度スケジュールの確認
第 2 回	関心分野と問題意識①	問題意識ある分野・領域の確認①
第 3 回	関心分野と問題意識②	問題意識ある分野・領域の確認②
第 4 回	関心分野と問題意識③	問題意識ある分野・領域の確認③
第 5 回	関心分野と問題意識④	問題意識ある分野・領域の確認④
第 6 回	先行研究のレビュー①	先行・関連研究の分析整理①
第 7 回	先行研究のレビュー②	先行・関連研究の分析整理②
第 8 回	先行研究のレビュー③	先行・関連研究の分析整理③
第 9 回	先行研究のレビュー④	先行・関連研究の分析整理④
第 10 回	先行研究のレビュー⑤	先行・関連研究の分析整理⑤
第 11 回	研究テーマと仮説設定①	テーマと課題の独自性の確認①
第 12 回	研究テーマと仮説設定②	テーマと課題の独自性の確認②
第 13 回	研究テーマと仮説設定③	テーマと課題の独自性の確認③
第 14 回	夏休み中の作業課題	自主研究する作業項目の確認
第 15 回	調査対象の検討①	調査対象候補の情報整理①
第 16 回	調査対象の検討②	調査対象候補の情報整理②
第 17 回	調査対象の検討③	調査対象の絞り込み①
第 18 回	調査対象の検討④	調査対象の絞り込み②
第 19 回	調査対象の検討⑤	調査対象の絞り込み③
第 20 回	調査研究方法の検討①	調査全体計画立案
第 21 回	調査研究方法の検討②	量的調査の検討① アンケート調査設計
第 22 回	調査研究方法の検討③	量的調査の検討② アンケート調査修正
第 23 回	調査研究方法の検討④	質的調査の検討① ヒアリング調査設計
第 24 回	調査研究方法の検討⑤	質的調査の検討② ヒアリング調査修正
第 25 回	調査結果分析方法検討①	アンケート調査データの整理と入力①
第 26 回	調査結果分析方法検討②	アンケート調査データの整理と入力②
第 27 回	調査結果分析方法検討③	ヒアリング調査データの整理方法
第 28 回	総括	研究テーマと調査研究方法の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加態度（70%）と課題への対応（30%）を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【専門分野】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年

「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第 707 号、2015 年

『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline and objectives】

Learn research methods for writing a master's thesis.

SOW600J1

論文研究演習 I

宮城 孝

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年次における修士論文の作成に向け、テーマの設定、先行研究のレビュー、関連データの分析、データの収集と分析方法など、研究の方法について十分な準備を行う。

【到達目標】

自らの研究テーマに関する先行研究を十分にレビューできる。また、研究テーマに関する背景、目的を明らかにし、説明することができる。さらに研究方法に関する知識を広げ、自らの研究テーマに関する適切な研究方法を選択することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

関心のあるテーマについて、関連するデータや先行研究をレビューし、いまだ明らかにされていない内容を明確にしていく作業を行なう。先行研究のレビュー等のレポートによる報告などによる個別の指導を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	研究の分野と範囲	研究分野と範囲の明確化
第2回	研究の視点と実践の視点	研究の視点と実践の視点の相違
第3回	先行研究レビューの方法	先行研究のレビューの具体的な方法
第4回	先行研究のレビュー①	実際の先行研究のレビューの検討①
第5回	先行研究のレビュー②	実際の先行研究のレビューの検討②
第6回	先行研究のレビュー③	実際の先行研究のレビューの検討③
第7回	先行研究のレビュー④	実際の先行研究のレビューの検討④
第8回	レビュー論文のまとめ方	レビュー論文の執筆方法
第9回	先行研究のレビュー⑤	実際の先行研究のレビューの検討①
第10回	先行研究のレビュー⑥	実際の先行研究のレビューの検討②
第11回	先行研究のレビュー⑦	実際の先行研究のレビューの検討③
第12回	先行研究のレビュー⑧	実際の先行研究のレビューの検討④
第13回	先行研究のレビュー⑨	実際の先行研究のレビューの検討⑤
第14回	先行研究のレビュー⑩	実際の先行研究のレビューの検討⑥
第15回	レビュー論文の報告	レビュー論文の報告と検討
第16回	研究の設計方法①	研究の設計方法の検討①
第17回	研究の設計方法②	研究の設計方法の検討②
第18回	研究倫理について	研究における倫理的配慮
第19回	仮説の構築①	仮説の構築方法の検討①
第20回	仮説の構築②	仮説の構築方法の検討②
第21回	データの収集方法①	データの収集方法の検討①
第22回	データの収集方法②	データの収集方法の検討②
第23回	データの収集方法③	データの収集方法の検討③
第24回	テーマに基づく研究指導①	実際のテーマに基づく研究指導①
第25回	テーマに基づく研究指導②	実際のテーマに基づく研究指導②
第26回	テーマに基づく研究指導③	実際のテーマに基づく研究指導③
第27回	テーマに基づく研究指導④	実際のテーマに基づく研究指導④
第28回	論文の構成について	論文の構成方法の検討①

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究対象とテーマにより、次回の研究指導までにレポート等によりまとめて報告を行うこと。準備・復習時間を4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

岩田正美他編著『社会福祉研究法』有斐閣、2006年

【参考書】

研究テーマによって自ら選択する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、研究画書の作成、レポートの報告とその内容 60 %により、評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その実践経験を活かして助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開-理論と先進事例-』（編著）中央法規、2019年
- ・『地域福祉とファンドレイジング-財源確保の理論と先進事例-』（編著）中央法規、2018年
- ・『地域福祉のイノベーション-コミュニティの持続可能性の危機に挑む-』（編集代表・共著）中央法規、2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉-次代への継承を探る-』（共編著）中央法規、2015年
- ・『ソーシャルワークと社会開発-開発的ソーシャルワークの理論とスキル-』（監訳、丸善出版、2012年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と方法』（共著）中央法規、2014年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年
- ・『新版コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規、2007年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000年
- ・『ソーシャルワークと社会開発-開発的ソーシャルワークの理論とスキル』（監訳）丸善出版、2012年

【Outline and objectives】

To create a research paper, it makes the setting of a theme, the review of the future research, the collection of the data, the way of analyzing and so on.

SOW600J1

論文研究演習 I

保井 美樹

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／4単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の完成を目標に、論文の書き方、研究構想の策定、調査枠組みの設定、検討の進め方などを習得する。

【到達目標】

修士論文に向けて調査研究の枠組みが策定され、実施に向けての検討が進む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、受講生からの報告をベースに、議論と助言を行いながら論文へと導いていくこととする。授業はオンラインを中心に、必要に応じて対面と組み合わせながら実施する。具体的な各回の授業方法については、受講生に個別に伝えるか、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパー提出や課題等に対するフィードバック方法など、授業の進め方や方法については学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	関心テーマについて検討	受講生の関心あるテーマの報告を受け、議論する。
第2回	研究テーマの策定-1	受講生の関心から研究テーマの設定に近づけていく。
第3回	研究構想の素案策定-2	研究構想の素案が提示され、議論を深める。
第4回	研究構想の報告・助言-1	研究構想案の報告を受け、更に議論を深める。
第5回	研究構想の報告・助言-2	研究構想案の報告（修正案）を受け、更に議論を深める。
第6回	調査枠組みの構想報告・議論・助言-1	調査枠組みの構想につき報告（第1次）を受け、議論を深めることができる。
第7回	調査枠組み・方法について議論・助言-2	調査枠組みの構想につき報告（第2次）を受け、議論を深めることができる。
第8回	基礎的調査の報告・議論・助言-1	研究構想に沿って基礎的データや情報が提示され、それについて議論を行う。
第9回	基礎的調査の報告・議論・助言-2	研究構想に沿って基礎的データや情報が提示され、それについて更に議論を深める。
第10回	既往研究レビュー-1	研究に関連する既往研究を整理・報告し、本研究の位置付けを議論する。-1
第11回	既往研究レビュー-2	研究に関連する既往研究を整理・報告し、本研究の位置付けを議論する。-1
第12回	既往研究レビュー-3	研究に関連する既往研究を整理・報告し、本研究の位置付けを議論する。-3
第13回	研究調査計画・調査票報告-1	調査の具体的計画を調査票と共に報告する。-1
第14回	研究調査計画・調査票報告-2	調査の具体的計画を調査票と共に報告する。-2
第15回	秋学期の進め方について話し合い	受講生の論文構想の進行を確かめ、秋学期実施事項を決定する。
第16回	研究調査報告・議論・助言-1	受講生から研究構想に沿う調査の報告がなされ、更に議論を深めていく。-1
第17回	研究調査報告・議論・助言-2	受講生から研究構想に沿う調査の報告がなされ、更に議論を深めていく。-2
第18回	研究調査報告・議論・助言-3	受講生から研究構想に沿う調査の報告がなされ、更に議論を深めていく。-3
第19回	研究構想の修正と議論	これまでの調査をベースとした研究構想を作成し、それについて議論を行う。
第20回	関連研究のレビュー-1	研究構想に関連する既往研究のまとめを報告する。-1
第21回	関連研究のレビュー-2	研究構想に関連する既往研究のまとめを報告する。-2
第22回	残された課題についての取組方を議論-1	研究構想の完成を経て、今後の研究計画をたて、それについて議論する。-1
第23回	残された課題についての取組方を議論-2	研究構想の完成を経て、今後の研究計画をたて、それについて議論する。-2

第 24 回	残された課題についての取組方を議論-3	今後の研究計画について、更に議論を深める。-3
第 25 回	研究調査報告・議論・助言-1	受講生から研究計画に必要な調査の報告がなされ、それに関する議論を行う。-1
第 26 回	研究調査報告・議論・助言-2	受講生から研究計画に必要な調査の報告がなされ、更に議論を深めていく。
第 27 回	研究のまとめと課題の抽出-1	今年度の研究を振り返り、到達点と残された課題を抽出する。-1
第 28 回	研究のまとめと課題の抽出-2	今年度の研究を振り返り、到達点と残された課題を抽出する。-2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容に合わせて、研究関心の絞り込み、研究構想の策定、研究方法の検討、具体的調査の実施などを進めていく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要に応じて、授業内に配布・紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % 課題の提出 70 %（ここでいう課題とは、毎回の資料収集やまとめ、論文構想の報告などの毎回の課題を意味する。具体的な方法と基準は、授業内で伝えるほか、学習支援システムで提示する。）

【学生の意見等からの気づき】

常に受講生とよく話し合い、よりよい研究環境を整えていきたい。

【その他の重要事項】

受講生と共につくる授業であり、その関心や要請によって、上記計画は変更の可能性が有る。

【担当教員の専門分野等】

<研究テーマ>都市・地域計画、エリアマネジメント、コミュニティ開発、公民連携

【Outline and objectives】

This is one by one research/writing workshop. Each student learns question setting, research design, way of analysis and thesis writing for his/her master's thesis.

SOW600J1

論文研究演習Ⅱ

佐野 竜平

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構想した修士論文を仕上げ、完成させる。

【到達目標】

受講生の研究テーマに即した研究方法、分析手法を具体化し、論文が完成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

論文の構想発表後で深まった研究テーマを元に、データ収集と分析を経て論文を仕上げていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等での都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第 2 回	研究概要のレビュー①	研究概要の見直し・確認①
第 3 回	研究概要のレビュー②	研究概要の見直し・確認②
第 4 回	研究概要のレビュー③	研究概要の見直し・確認③
第 5 回	研究概要のレビュー④	研究概要の見直し・確認④
第 6 回	先行研究のレビュー①	先行研究の見直し・確認①
第 7 回	先行研究のレビュー②	先行研究の見直し・確認②
第 8 回	先行研究のレビュー③	先行研究の見直し・確認③
第 9 回	先行研究のレビュー④	先行研究の見直し・確認④
第 10 回	調査手法のレビュー①	調査手法の見直し・確認①
第 11 回	調査手法のレビュー②	調査手法の見直し・確認②
第 12 回	調査手法のレビュー③	調査手法の見直し・確認③
第 13 回	調査手法のレビュー④	調査手法の見直し・確認④
第 14 回	中間総括	研究成果の中間まとめ
第 15 回	オリエンテーション	スケジュールの見直し・確認
第 16 回	分析・考察のレビュー①	分析・考察の見直し・確認①
第 17 回	分析・考察のレビュー②	分析・考察の見直し・確認②
第 18 回	分析・考察のレビュー③	分析・考察の見直し・確認③
第 19 回	分析・考察のレビュー④	分析・考察の見直し・確認④
第 20 回	分析・考察のレビュー⑤	分析・考察の見直し・確認⑤
第 21 回	分析・考察のレビュー⑥	分析・考察の見直し・確認⑥
第 22 回	結論のレビュー①	結論の見直し・確認①
第 23 回	結論のレビュー②	結論の見直し・確認②
第 24 回	結論のレビュー③	結論の見直し・確認③
第 25 回	最終発表準備①	アウトライン作成
第 26 回	最終発表準備②	リハーサル
第 27 回	最終発表準備③	変更・修正および仕上げ
第 28 回	最終総括	研究成果の最終まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回進捗報告や確認が求められるので、事前準備が不可欠となる。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加・発表・報告：20%、論文：80%

【学生の意見等からの気づき】

学生による様々なアイデアを応用。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）。論文執筆にかかるとの諸準備。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】

A process to complete his/her thesis is to be facilitated.

SOW600J1

論文研究演習Ⅱ

宮城 孝

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成に伴う研究テーマ、対象の設定、研究方法等について、研究の過程において適宜研究報告をもとに研究指導を行い、修士論文の作成を行う。

【到達目標】

自らの研究テーマについて、適切な研究方法を用いて研究を進め、文章等により根拠を示し、結論と研究の成果等を表現できる。研究の目的と内容、結論等を説得力のある報告ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究経過について適宜報告を行い、それをもとに研究指導を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	研究報告と指導	テーマについて①
第2回	研究報告と指導	テーマについて②
第3回	研究報告と指導	研究対象について①
第4回	研究報告と指導	研究対象について②
第5回	研究報告と指導	先行研究について①
第6回	研究報告と指導	先行研究について②
第7回	研究報告と指導	先行研究について③
第8回	研究報告と指導	データの収集方法①
第9回	研究報告と指導	データの収集方法②
第10回	研究報告と指導	データの収集方法③
第11回	研究報告と指導	データの収集方法④
第12回	研究報告と指導	データの収集方法⑤
第13回	研究報告と指導	データの分析について①
第14回	研究報告と指導	データの分析について②
第15回	春学期のまとめ	振り返りと今後の課題
第16回	研究報告と指導	データの分析について③
第17回	研究報告と指導	データの分析について④
第18回	研究報告と指導	データの分析について⑤
第19回	研究報告と指導	結果と考察について①
第20回	研究報告と指導	結果と考察について②
第21回	研究報告と指導	結果と考察について
第22回	研究報告と指導	論文の構成と内容①
第23回	研究報告と指導	論文の構成と内容②
第24回	研究報告と指導	論文の構成と内容③
第25回	研究報告と指導	論文の構成と内容④
第26回	研究報告と指導	完成に向けて①
第27回	研究報告と指導	完成に向けて②
第28回	研究報告と指導	完成に向けて③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の指導に向けて、各自が与えられた課題について、十分に報告できるように準備しておくこと。準備・復習時間を4時間以上とする。準備・復習時間を4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

特に使用しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、研究に関するレポート等60%により評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協会にて実務経験を有しており、本授業ではその経験を活かし助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（編著）中央法規、2019年
- ・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の理論と先進事例－』（編著）中央法規、2018年
- ・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』（編集代表、共著）、中央法規、2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）、2014年
- ・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善出版、2012年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規、2007年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000

【Outline and objectives】

Accrding to its own reserach subject,it guide an adovice in the setting object,the reserch way and so on appropriately.Then it create the reserach paper.

SOW600J1

論文研究演習Ⅱ

保井 美樹

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2年次／4単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の完成を目標に、論文の書き方、研究構想の策定・修正、調査枠組みの設定、調査の実施、分析方法、検討の進め方等を学ぶ。

【到達目標】

修士論文の完成が到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、受講生からの報告をベースに、議論と助言を行いながら論文完成へと導く。授業はオンラインと対面を適切に選択或いは組み合わせながら実施する。具体的な各回の授業方法については、受講生に個別に伝えるか、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	研究構想の説明・修正	これまでの研究構想について報告・議論。
第2回	修正した研究構想の説明・議論	前回の議論を継続。
第3回	調査状況の報告	調査の準備状況・内容について報告・議論。
第4回	調査の中間報告(1)	調査状況の報告と議論(1)
第5回	調査の中間報告(2)	調査状況の報告と議論(2)
第6回	調査の中間報告(3)	調査状況の報告と議論(3)
第7回	調査まとめ	調査のまとめ報告・議論
第8回	残された課題の検討	残された課題と対応の検討。
第9回	残された課題についての取り組み検討	今後の調査計画の検討。
第10回	追加調査の計画	追加調査計画の完成。
第11回	追加調査についての報告と議論(1)	追加調査の報告・議論(1)
第12回	追加調査についての報告と議論(2)	追加調査の報告・議論(2)
第13回	追加調査の報告	追加調査の完成
第14回	調査のまとめと今後の進め方の検討	調査中間まとめの提出、議論。
第15回	中間まとめ	到達点の共有と残された課題の整理。
第16回	研究状況の報告・議論	今後のまとめ方についての計画提出、議論。
第17回	最終調査の報告・議論	最終調査報告の報告及び修士論文の執筆スケジュールについて議論。
第18回	修士論文素案(第1部)の提出	修士論文素案(第1部)の提出・議論。
第19回	修士論文素案(第1部)の改良	修士論文素案(第1部)の改良版の提出・議論。
第20回	修士論文素案(第1部)報告	修士論文(第1部)の完成。
第21回	修士論文素案(第2部)の提出	修士論文素案(第2部)の提出・議論。
第22回	修士論文素案(第2部)の改良	修士論文素案(第2部)の改良版の提出・議論。
第23回	修士論文素案(第2部)報告	修士論文(第2部)の完成。
第24回	修士論文素案(第3部)の提出	修士論文素案(第3部)の提出・議論。
第25回	修士論文素案(第3部)の改良	修士論文素案(第3部)の改良版の提出・議論。
第26回	修正論文素案(第3部)の報告	修士論文(第3部)の完成。
第27回	修士論文全体素案の提出	修士論文素案全体の提出・議論
第28回	修士論文の完成・提出	完成した修士論文の提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容に合わせて研究調査を進め、調査成果をまとめると共に、論文構想に沿って文章を執筆していくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてアドバイスする。

【参考書】

必要に応じてアドバイスする。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

課題の提出 70%

(ここでいう課題とは、毎回の報告資料、論文の素案等、授業で使用する報告材料を指す。具体的な方法と基準は、授業内で伝えるほか、学習支援システムで提示する。)

【学生の意見等からの気づき】

本科目は、受講者と共につくる科目です。受講者の関心や要請によって、上記計画も、改善・修正しながら実施します。

【担当教員の専門分野等】

<研究テーマ>都市・地域計画、エリアマネジメント、コミュニティ開発、官民連携

【Outline and objectives】

This is one by one research/writing workshop. Each student learns question setting, research design, way of analysis and thesis writing for his/her master's thesis.

SOW600J1

実践研究演習 I

岡田 栄作

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究に必要なデータを収集し、分析計画を立てる。論文作成に向けて適切な方法論を用いてデータ分析を実施する。分析した結果を適切に解釈し、考察する力を養う。

【到達目標】

- ①研究テーマに沿って適切な研究方法の選択と分析ができる
- ②分析した結果を適切に解釈できる
- ③考察の意味を理解している
- ④論文を投稿する形式やプロセスを理解し、査読者と論文内容を議論する方法を知っている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

実際に研究に必要なデータ収集をフィールドに赴き実施する。プレテスト段階では特に指導教官よりフィードバックを定期的に受けながら、調査・研究で得たデータの妥当性や信頼性を十分に配慮し、研究の本番に向けてフィードバックする。最終的には研究デザインの決定をおこない、本番の研究段階に進み論文作成に向けて適切な方法論を用いてデータ分析を実施する。分析した結果を解釈し、考察にまとめ、論文を学術雑誌に投稿する。本講義の授業計画の変更・教材・課題の提示およびフィードバックについては、学習支援システムを通じて行い、講義内でもその都度行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究データ収集の計画（分析計画含む）①	分析まで見通した研究データの適切な収集方法の計画①
第 2 回	研究データ収集の計画（分析計画含む）②	分析まで見通した研究データの適切な収集方法の計画②
第 3 回	研究データ収集の計画（分析計画含む）③	分析まで見通した研究データの適切な収集方法の計画③
第 4 回	研究データ収集の計画（分析計画含む）④	分析まで見通した研究データの適切な収集方法の計画④
第 5 回	フィールドワークの計画と交渉①	フィールドでの協力依頼の交渉と倫理面を配慮した計画、現場への責務とマナーの在り方①
第 6 回	フィールドワークの計画と交渉②	フィールドでの協力依頼の交渉と倫理面を配慮した計画、現場への責務とマナーの在り方②
第 7 回	フィールドワークの計画と交渉③	フィールドでの協力依頼の交渉と倫理面を配慮した計画、現場への責務とマナーの在り方③
第 8 回	フィールドワークの計画と交渉④	フィールドでの協力依頼の交渉と倫理面を配慮した計画、現場への責務とマナーの在り方④
第 9 回	調査計画、調査項目の選定①	調査計画と調査項目の選定①
第 10 回	調査計画、調査項目の選定②	調査計画、調査項目の選定②
第 11 回	調査計画、調査項目の選定③	調査計画、調査項目の選定③
第 12 回	調査計画、調査項目の選定④	調査計画、調査項目の選定④
第 13 回	調査計画、調査項目の選定⑤	調査計画、調査項目の選定⑤
第 14 回	調査票の作成①	調査対象から正確で信頼度の高い結果を得る為の調査項目数やレイアウトの吟味①
第 15 回	調査票の作成②	調査対象から正確で信頼度の高い結果を得る為の調査項目数やレイアウトの吟味②
第 16 回	プレテスト①	プレテストの意義、実施後のデータ収集方法の改善①
第 17 回	プレテスト②	プレテストの意義、実施後のデータ収集方法の改善②
第 18 回	フィールド調整①	フィールド調整 季節や期間、行事等相手の都合やデータ収集の適切なタイミングの検討

第 19 回	フィールド調整②	フィールド調整 季節や期間、行事等相手の都合やデータ収集の適切なタイミングの検討
第 20 回	データ収集①	データ収集 計画以外の状況が発生した場合の連絡方法、協力者への説明や感謝の方法等を確認する。
第 21 回	データ収集②	データを表計算ソフトに入力し、コーディングを行う。
第 22 回	データ分析①	データの分析方法と理論を確認する。
第 23 回	データ分析②	実際のデータを解析する。
第 24 回	結果の解釈	結果の解釈について言い過ぎていないか。先行研究との比較等を行う。
第 25 回	考察のまとめ方	考察の書き方について学ぶ。
第 26 回	全体推敲	研究目的、研究方法、結果について正確な論文の記述を見直す。
第 27 回	論文投稿	論文を投稿する上で必要な知識を理解する。
第 28 回	査読者への対応	投稿した論文の査読結果を共有し、返答の仕方を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的な研究活動段階に入る。場合によっては、指導者から離れて単独に行動が始まる段階である。事前に面接や交渉のトレーニングを十分におこない、データの収集に関しては不測の事態も起こりやすいので、柔軟な対応が求められる。またデータ管理には細心の注意を払うことを自覚して欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①学生の自己評価 20%
 - ②課題に対する取り組み 20%
 - ③提出物の内容 60%
- 上記を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の意見を聞きながら進めていきます。

【その他の重要事項】

学生の研究進度によっては計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>福祉疫学、ファシリテーション論、保健医療福祉論
<研究テーマ>介護・医療関連情報の見える化、地域診断と健康
<主要業績>

『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉』（共著書、ミネルヴァ書房、2020年）
『住民主体の楽しい「通いの場」づくり』（共著書、日本看護協会出版会、2019年）

【Outline and objectives】

Perform data collection and analysis in the field.

SOW600J1

実践研究演習 I

伊藤 正子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文にむけた調査計画の作成。

【到達目標】

修士論文の作成に必要なデータを収集するために、調査計画を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、各自の調査関心を明確化することから始め、次に、先行調査データのレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に調査課題を絞り込み、秋学期に入ってからは、調査目的を明確化するとともに、調査実施の基盤を確定させ、調査計画書の作成に取りかかる。オンラインまたは対面での開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第 2 回	調査関心の明確化①	調査関心の列挙
第 3 回	調査関心の明確化②	調査関心のグループ化
第 4 回	調査関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第 5 回	調査関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第 6 回	先行データのレビュー①	隣接領域の文献
第 7 回	先行データのレビュー②	関連領域の文献
第 8 回	先行データのレビュー③	隣接領域の論文
第 9 回	先行データのレビュー④	関連領域の論文
第 10 回	調査課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第 11 回	調査課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第 12 回	調査課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第 13 回	調査課題の絞り込み④	調査実施フィールドの検討
第 14 回	調査課題の絞り込み⑤	調査仮説の検討
第 15 回	中間総括	春学期を通じて明確化されたことの確認
第 16 回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第 17 回	調査目的の明確化①	調査の具体的な目的の列挙
第 18 回	調査目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第 19 回	調査目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第 20 回	調査目的の明確化④	予想される結果の検討
第 21 回	調査構想の基盤作り①	調査仮説の明確化
第 22 回	調査構想の基盤作り②	調査手法（量的、質的等）の検討
第 23 回	調査構想の基盤作り③	調査データ収集方法の検討
第 24 回	調査構想の基盤作り④	調査データ分析方法の検討
第 25 回	調査計画書の作成①	調査実施体制の検討
第 26 回	調査計画書の作成②	調査実施フィールドの確認
第 27 回	調査計画書の作成③	調査対象者の確認
第 28 回	まとめ	調査計画の確認とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 平常点（60%）
- 2. 調査計画書（40%）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【学生が準備すべき機器他】

オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】

医療機関・NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論

< 研究テーマ > エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の労働・生活問題

[Outline and objectives]

This course introduces fundamental of academic research to prepare a master's thesis.

SOW600J1

実践研究演習 I

岩田 美香

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成に必要なデータの収集をフィールドワークや調査の方法を学び、自らの研究にフィードバックすることを学ぶ。

【到達目標】

①各自の調査関心を明確にする。②先行調査データのレビューを行い、テーマ、研究調査目的、仮説を明確にする。③実際に調査研究計画を作成し実施する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・上記目標を達成するために、社会調査や社会福祉調査関係の文献講読と実際にフィールドワークを実施し、その研究成果を報告するとともに、フィールド調査研究の意義や役割を検証する。
- ・課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。
- ・各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムで、その都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	フィールド調査研究の概要説明、各自の問題関心の発表
第 2 回	実践研究とは何か	調査研究の特徴と基本的枠組みの整理
第 3 回	データ収集の方法 1	統計調査と事例調査について学ぶ
第 4 回	データ収集の方法 2	標本調査の技法について学ぶ
第 5 回	データ収集の方法 3	データ収集技法について学ぶ
第 6 回	データ収集の方法 4	質問紙・調査票の作成方法を学ぶ
第 7 回	質的調査研究 1	訪問面接、インタビュー調査の特質を学ぶ
第 8 回	質的調査研究 2	参与観察調査の特質を学ぶ
第 9 回	質的調査研究 3	データの解析の技法を学ぶ
第 10 回	フィールド調査研究 1	フィールド調査の方法・技術を代表的文献から学ぶ
第 11 回	フィールド調査研究 2	フィールド調査研究全体のプロセス：調査の企画や留意点等を中心に学ぶ
第 12 回	先行研究レビュー 1	関連領域の研究
第 13 回	先行研究レビュー 2	隣接領域の研究
第 14 回	中間総括	量的・質的フィールド調査研究論の中間的まとめ
第 15 回	オリエンテーション	夏期休暇の研究発表の発表、秋学期におけるスケジュールの確認
第 16 回	調査研究目的の明確化 1	代表的な調査研究手法の検討
第 17 回	調査研究目的の明確化 2	調査研究目的と調査研究手法の検討
第 18 回	調査研究デザイン検討 1	研究テーマに基づくフィールドの選定
第 19 回	調査研究デザイン検討 2	研究フィールドの事前データ整理と報告、討論
第 20 回	調査研究デザイン検討 3	研究フィールド訪問
第 21 回	パイロット研究実践 1	研究フィールドでの参与観察実施のための準備
第 22 回	パイロット研究実践 2	研究フィールドでの第 1 回参与観察内容報告と討議
第 23 回	パイロット研究実践 2	研究フィールドでの第 2 回参与観察内容報告と討議
第 24 回	パイロット研究実践 3	研究フィールドでの第 1 回インタビュー調査内容報告と討議
第 25 回	パイロット研究実践 4	研究フィールドでの第 2 回インタビュー調査内容報告と討議
第 26 回	パイロット研究実践 5	研究フィールドでの第 3 回インタビュー調査内容報告と討議
第 27 回	調査研究実践のまとめ	修士論文研究目的、方法と研究フィールド決定のための討議
第 28 回	全体総括	年間のまとめの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・履修者は、個人の研究デザインに沿ってデータの収集を進めると同時に、必ず検討のためのレジュメや資料を用意して演習に臨むこと。
- ・本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究テーマや研究方法に応じて適宜紹介する。

【参考書】

履修者の研究テーマや研究方法に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加（50％）、演習内課題（50％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論
〈研究テーマ〉

1. 子育て・子育ての社会的不平等
2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline and objectives】

This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics.

SOW600J1

実践研究演習 I

岩崎 晋也

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究に必要なデータの収集に必要な研究手法を学ぶ。

【到達目標】

データ収集のスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究テーマに即したデータ収集の方法の検討を行い、データの収集を行うための準備を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第2回	データ収集の方法1	データ収集の方法を学ぶ1
第3回	データ収集の方法2	データ収集の方法を学ぶ2
第4回	データ収集の方法3	データ収集の方法を学ぶ3
第5回	データ収集の方法4	データ収集の方法を学ぶ4
第6回	研究テーマと手法の検討1	研究テーマに即し分析方法について検討する1
第7回	研究テーマと手法の検討2	研究テーマに即し分析方法について検討する2
第8回	研究テーマと手法の検討3	研究テーマに即し分析方法について検討する3
第9回	研究テーマと手法の検討4	研究テーマに即し分析方法について検討する4
第10回	関連研究方法のレビュー1	関連する研究方法を学ぶ1
第11回	関連研究方法のレビュー2	関連する研究方法を学ぶ2
第12回	関連研究方法のレビュー3	関連する研究方法を学ぶ3
第13回	関連研究方法のレビュー4	関連する研究方法を学ぶ4
第14回	中間総括	中間の総括を行う
第15回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第16回	研究仮説の検討1	研究仮説を検討する1
第17回	研究仮説の検討2	研究仮説を検討する2
第18回	研究仮説の検討3	研究仮説を検討する3
第19回	研究仮説の検討4	研究仮説を検討する4
第20回	研究フィールドの検討1	データ収集のためのフィールドを検討する1
第21回	研究フィールドの検討2	データ収集のためのフィールドを検討する2
第22回	研究フィールドの検討3	データ収集のためのフィールドを検討する3
第23回	研究フィールドの検討4	データ収集のためのフィールドを検討する4
第24回	研究方法の明確化1	研究方法を具体的に検討する1
第25回	研究方法の明確化2	研究方法を具体的に検討する2
第26回	研究方法の明確化3	研究方法を具体的に検討する3
第27回	研究方法の明確化4	研究方法を具体的に検討する4
第28回	年間総括	1年間の研究を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) により行う 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは実施しませんでした。

【担当教員の専門分野】

社会福祉原理・思想

【Outline and objectives】

Learn the skills of data collection.

SOW600J1

実践研究演習 I

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成に必要なデータの収集にむけたフィールドワークや調査を実施することを旨とする。

【到達目標】

データ収集に必要な研究手法を検討・習得し、フィールド調査の応用することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに、一般的なデータ収集の方法について学習し、受講者の関心領域や研究方法に適したデータ収集の技法、フィールドの選定、研究仮説の検討を行い、研究内容を明確化していく。フィールドバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の説明
第 2 回	データ収集の方法①	研究対象の選定について
第 3 回	データ収集の方法②	フィールドの選定方法についての説明
第 4 回	データ収集の方法③	各自の研究対象とフィールドの方向性についての発表
第 5 回	データ収集の実際	データ収集の実際についてDVDで学習する
第 6 回	データ収集方法のまとめ	データ収集に関するフリーディスカッション
第 7 回	研究テーマと手法の検討①	研究手法についての説明
第 8 回	研究テーマと手法の検討②	研究テーマと手法の関連性についての説明
第 9 回	研究テーマと手法の検討③	各自の研究テーマと研究手法の方向性について報告
第 10 回	関連研究方法のレビュー①	講義
第 11 回	関連研究方法のレビュー②	前週の講義を受けての確認とディスカッション
第 12 回	関連研究方法のレビュー③	関連研究方法への関心の確認
第 13 回	関連研究方法のレビュー④	フリーディスカッション
第 14 回	中間総括	研究内容の検討とまとめ
第 15 回	オリエンテーション	講義内容の説明
第 16 回	研究仮説の検討①	研究仮説に関する説明
第 17 回	研究仮説の検討②	研究仮説の立て方
第 18 回	研究仮説の検討③	受講生の研究内容の検討
第 19 回	研究仮説の検討④	受講生の研究内容の検討
第 20 回	研究仮説の報告	各自の研究仮説についての報告
第 21 回	研究テーマの発表①	各自の研究テーマの報告
第 22 回	研究テーマの発表②	全体での質疑応答とフリーディスカッション
第 23 回	研究フィールドについての報告①	各自の研究フィールドの報告
第 24 回	研究フィールドについての報告②	研究の方向性について確認
第 25 回	研究方法の明確化①	研究方法の妥当性の説明
第 26 回	研究方法の明確化②	研究方法についての報告
第 27 回	研究方法の明確化③	研究方法の検証
第 28 回	総括	研究の方向性についての確認と発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生自らが研究の対象とするフィールドに関連する資料および情報を収集し、授業進度にあわせて適宜説明できるよう準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 - 60 %

課題への取り組み・提出課題 - 40 %

特に、研究対象とするフィールドに関連する専門的知識や情報については、授業進度に合わせて説明できることが評価の基準となる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、双方向の授業で議論することに評価を得ているので、心がけていきたい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

- ・ ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
- ・ セルフヘルプ・グループ論 (特に自閉症者と家族)

<主要研究業績>

- ① 自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
- ② 医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③ アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline and objectives】

This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics.

SOW600J1

実践研究演習 I

佐野 竜平

科目分類・科目群：演習科目

配当年次/単位数：1 年次/2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

研究に必要なデータ収集・分析方法を学ぶ。

【到達目標】

研究を進めるためのデータ収集・分析方法や他の実践スキルを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究テーマに沿ったデータ収集・分析に必要なアレンジを進めていく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の進め方について確認
第 2 回	データ収集の方法①	データ収集スキルを学ぶ①
第 3 回	データ収集の方法②	データ収集スキルを学ぶ②
第 4 回	データ収集の方法③	データ収集スキルを学ぶ③
第 5 回	質的調査法①	質的調査法を学ぶ①
第 6 回	質的調査法②	質的調査法を学ぶ②
第 7 回	質的調査法③	質的調査法を学ぶ③
第 8 回	フィールド調査法①	フィールド調査法を学ぶ①
第 9 回	フィールド調査法②	フィールド調査法を学ぶ②
第 10 回	フィールド調査法③	フィールド調査法を学ぶ③
第 11 回	関連研究レビュー①	関連研究から手法を学ぶ①
第 12 回	関連研究レビュー②	関連研究から手法を学ぶ②
第 13 回	関連研究レビュー③	関連研究から手法を学ぶ③
第 14 回	中間総括	これまでの振り返り
第 15 回	オリエンテーション	秋学期の進め方について確認
第 16 回	研究仮説の検討①	研究仮説を検討①
第 17 回	研究仮説の検討②	研究仮説を検討②
第 18 回	研究仮説の検討③	研究仮説を検討③
第 19 回	フィールドの検討①	研究フィールドを検討①
第 20 回	フィールドの検討②	研究フィールドを検討②
第 21 回	フィールドの検討③	研究フィールドを検討③
第 22 回	フィールド調査実践①	調査準備を進め、実施①
第 23 回	フィールド調査実践②	調査準備を進め、実施②
第 24 回	フィールド調査実践③	調査準備を進め、実施③
第 25 回	フィールド調査実践④	調査準備を進め、実施④
第 26 回	中間報告①	フィールド報告の準備①
第 27 回	中間報告②	フィールド報告の準備②
第 28 回	レビュー	1 年間の振り返りと要点的再確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回進捗報告や確認が求められるので、事前準備が不可欠となる。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加：60%、課題への取り組み・提出：40%

【学生の意見等からの気づき】

学生による様々なアイデアを応用。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義のための機器 (パソコン、スマートフォン等)。論文執筆にかかるとなる諸準備。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】

Necessary skills and methods according to his/her research topics are to be focused.

SOW600J1

実践研究演習 I

眞保 智子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な調査や実践を通して、論文執筆に必要な調査データの収集を行います。

【到達目標】

研究課題に答える社会調査を実践し、研究活動を自ら遂行する基礎を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

以下について演習を行います。①問題意識の研究課題への変換、②研究テーマに関する主要文献の収集・把握・理解、③先行研究の批判に基づく妥当な仮説構築、④研究課題の探求に適切な研究方法の選択・実践、⑤研究課題の探求に適切な研究対象へのアクセス、⑥理論やデータに基づくオリジナルな発見事実・仮説の提起⑦ 研究成果の理論的貢献、実践的貢献、および研究の限界の説明。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方と春学期スケジュールの確認
第 2 回	調査の前に	問題意識の確認と課題の共有
第 3 回	先行研究のレビュー	主要文献の収集
第 4 回	主要文献の検討	主要文献の収集・把握・理解
第 5 回	先行研究のレビュー（仮説構築へ）	先行研究の批判に基づく妥当な仮説構築
第 6 回	先行研究のレビュー（研究方法の検討）	研究方法の選択・妥当性の検討
第 7 回	質的調査手法の理解	エスノグラフィックアプローチ
第 8 回	質的調査手法の検討	クリニカルアプローチ
第 9 回	質的調査準備	調査対象の検討・選定
第 10 回	質的調査準備（情報収集）	調査対象の内実と周辺情報の収集
第 11 回	質的調査の検証法	仮説と想定される結果の検討
第 12 回	量的調査手法	既存データ利用による調査
第 13 回	量的調査手法の実践	アンケート調査の実践
第 14 回	量的調査手法の設計	解析方法と調査設計
第 15 回	中間総括	調査計画の発表とパイロットスタディに向けて
第 16 回	オリエンテーション	春学期の振り返りとスケジュールの確認
第 17 回	パイロットスタディの報告	パイロットスタディの結果を発表
第 18 回	パイロットスタディを用いての議論	仮説構築の妥当性をディスカッション
第 19 回	パイロットスタディから研究の検討	研究対象の再検討
第 20 回	パイロットスタディから研究手法の検討	研究手法の再検討
第 21 回	調査の実践	対象へのアクセス（調査・データ収集）
第 22 回	調査の実践（データ収集）	対象へのアクセスと報告
第 23 回	調査の実践（報告）	対象へのアクセスと発表
第 24 回	調査の実践（修正）	対象へのアクセス（コメントをもとに修正）
第 25 回	調査の実践報告と研究方法の検討	データ収集のスケジュール確認
第 26 回	調査の実践報告と研究方法の検討（手法の検討）	データ分析手法の妥当性の検討とスケジュール確認
第 27 回	調査の実践報告と研究方法の検討（独創性）	データを分析し独創性を検討
第 28 回	調査の実践報告と研究方法の検討（課題）	研究課題と調査・分析手法と得られる結果から課題と限界を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究デザインに基づきデータの収集を進め、演習では必ず検討のため報告を求めるので、レジュメや資料を用意して演習に臨むことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究課題や研究方法に応じて適宜紹介します。

【参考書】

研究課題や研究方法に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習内での報告・発表：100%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは行っていません。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントなどを使用します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>

若者支援論、障害者雇用、障害者福祉

<研究テーマ>

1 障害者・若者・高齢者・女性の雇用に関する諸問題

2 企業における精神科ソーシャルワーク

【Outline and objectives】

This class provides a lecture on the the formal structures and styles of academic writing. The class focuses on two primary areas. The first is essay organization: we will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: we will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to graduate School research. Additionally, We will build confidence and competence in writing preparing you for degree paper.

SOW600J1

実践研究演習 I

中村 律子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成などの研究に必要なデータの収集をフィールドワークや調査の方法を学び、研究にフィードバックすることを学びます。

【到達目標】

各自の調査関心を明確にすることから始めます。先行調査データのレビューを行い、テーマ、研究調査目的、仮説を明確にし、実際に調査研究計画の作成まで実施します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、社会調査や社会福祉調査関係の文献講読と実際にフィールドワークを実施し、その研究成果を報告し、フィールド調査研究の意義や役割を検証します。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題提出・フィードバックは「学習支援システム」で行います。また、授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	フィールド調査研究の概要及び参考文献などの説明
第 2 回	実践研究とは何か	調査研究の特徴と基本的枠組みの整理
第 3 回	データ収集の方法①	統計調査と事例調査について
第 4 回	データ収集の方法②	標本調査の技法について学ぶ
第 5 回	データ収集の方法③	データ収集技法について
第 6 回	データ収集の方法④	質問紙・調査票の作成方法を学ぶ
第 7 回	質的調査研究①	訪問面接、インタビュー調査の特質
第 8 回	質的調査研究②	参与観察調査の特質を中心に学ぶ
第 9 回	質的調査研究③	データの解析の技法を学ぶ
第 10 回	フィールド調査研究①	フィールド調査の方法・技術に関する先行研究
第 11 回	フィールド調査研究②	フィールド調査の方法・技術を代表的文献から学ぶ
第 12 回	フィールド調査研究③	フィールド調査研究全体のプロセス：調査の企画や留意点等を中心に学ぶ
第 13 回	先行データレビュー	関連・隣接領域の研究
第 14 回	中間総括	量的・質的フィールド調査研究論の中間的まとめ
第 15 回	秋学期オリエンテーション	各自の調査研究課題の明確化
第 16 回	調査研究目的の明確化①	代表的な調査研究手法の検討①
第 17 回	調査研究目的の明確化②	代表的な調査研究手法の検討②
第 18 回	調査研究デザイン検討①	研究テーマに基づくフィールドの選定
第 19 回	調査研究デザイン検討②	研究フィールドの事前データ整理と報告、討論
第 20 回	調査研究デザイン検討③	研究フィールド訪問
第 21 回	パイロット研究実践①	研究フィールドでの参与観察実施のための準備
第 22 回	パイロット研究実践②	研究フィールドでの第 1 回参与観察内容報告と討議
第 23 回	パイロット研究実践③	研究フィールドでの第 2 回参与観察内容報告と討議
第 24 回	パイロット研究実践④	研究フィールドでの第 1 回インタビュー調査内容報告と討議
第 25 回	パイロット研究実践⑤	研究フィールドでの第 2 回インタビュー調査内容報告と討議
第 26 回	パイロット研究実践⑥	研究フィールドでの第 3 回インタビュー調査内容報告と討議
第 27 回	パイロット研究実践の小活	研究フィールドでの研究成果の報告と小活
第 28 回	調査研究実践のまとめ	修士論文研究目的と方法、研究フィールドの確認と決定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実践研究では、主としてフィールドから学ぶことを主眼とします。各自の研究テーマと関連させてフィールドの開拓、調査企画などを検討し、積極的に実施していただきたい。本授業の準備（フィールドの開拓、調査企画）時間、復習（報告後の再整理）時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

社会調査、社会福祉調査関係の文献について、演習初回に適宜紹介します。

【参考書】

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科編（2006）『京大式 フィールドワーク入門』NTT 出版、その他、社会調査、社会福祉調査関係の文献について、初回演習の時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加姿勢・報告内容（70 %）、フィールド調査レポートなど（30 %）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは非実施科目ですが、積極的に調査研究計画書作成に参加出来るように演習内容を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使用することができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【その他の重要事項】

フィールドから学ぶことはたくさんあります。フィールドを歩いて、フィールド（そこで生活する人）とつきないあながら考えてください。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：社会福祉学、高齢者福祉論、社会福祉処遇史

主要業績：

- ・「ネパール震災と高齢者ケア・コミュニティ・ケアの再創造」現代福祉研究第 16 号 法政大学現代福祉学部 2016 年
- ・『浴風園ケース記録集-100 人』共著、学文社、2015 年
- ・「ネパール社会における「sewa・コミュニティ」に関する一考察」現代福祉研究第 13 号、法政大学現代福祉学部 2013 年
- ・『実践のコミュニティ』共著、京都大学出会、2012 年
- ・「戦前の養老院の社会的意義について-開園から救護法施行期までの浴風園の原史料分析-」、現代福祉研究第 8 号、法政大学現代福祉学部、2008 年

【Outline and objectives】

This specialized course guides graduate students to reflect the necessary data collection from their field work and research methods into their Master's thesis composition.

SOW600J1

実践研究演習 I

関司 直也

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究に必要なデータ収集の方法やプロセスを学び、自分のテーマに沿った実践を通して修士論文作成に役立てる。

【到達目標】

修士論文における研究方法を確定し、2 年次における調査準備を具体的に進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

社会調査の基礎およびフィールド調査の方法論にかかわる文献の精読やディスカッション、実際の現場でのフィールドワークによって授業を進めることになる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更はありうる。課題等のフィードバックは授業内でを行い、さらなる議論に活用する。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の進め方について受講者と相談の上、決定する。
第 2 回	データ収集の基礎的理解	データ収集の方法について、テキスト等をもとに学ぶ。
第 3 回	データ収集方法の検討	自分のデータ収集の方法を検討する。
第 4 回	データ収集の実践	実際にデータ収集を行う。
第 5 回	収集データ内容の検討	収集したデータの内容を分析する。
第 6 回	研究手法の基礎的理解	研究テーマに応じた実証方法を学ぶ。
第 7 回	研究手法の検討	自分の研究テーマに応じた実証方法を検討する。
第 8 回	研究手法の設定	自分の研究テーマに応じた実証方法を設定する。
第 9 回	研究手法の再検討	議論を踏まえて、自分の実証方法を再検討する。
第 10 回	関連研究方法の文献リストアップ	関連する先行研究のリストを作成する。
第 11 回	関連研究方法の文献探索と読解	関連する先行研究を収集し、目通しする。
第 12 回	関連研究方法の文献整理	関連する先行研究の内容を整理する。
第 13 回	関連研究方法の論点整理	関連する先行研究の論点を整理する。
第 14 回	中間総括と方針の検討	春学期の到達点と秋学期の方針をまとめる。
第 15 回	オリエンテーション	秋学期の進め方について受講者と相談の上、決定する。
第 16 回	研究仮説の構築	自分で仮説を組み立てる。
第 17 回	研究仮説の設定	自分で仮説を設定する。
第 18 回	研究仮説の検討	仮説の実証の仕方を検討する。
第 19 回	研究仮説の再検討	議論を経て、仮説を再検討する。
第 20 回	研究対象・フィールドの候補出し	調査対象の候補を出す。
第 21 回	研究対象・フィールドの情報収集	調査対象の情報を収集する。
第 22 回	研究対象・フィールドの検討	調査対象が研究テーマに適切か検討する。
第 23 回	研究対象・フィールドの設定	調査対象を設定する。
第 24 回	調査準備の開始	具体的な調査準備を開始する。
第 25 回	調査準備の進捗共有	調査準備の状況を共有する。
第 26 回	調査準備の再検討	調査準備の状況に応じて再検討する。
第 27 回	調査準備の完了	調査準備を完了させる。
第 28 回	総括	1 年間の到達点と今後の課題のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生各自の研究テーマについて、必要な作業を進め、授業内での報告に臨めるようにしておく。準備・復習時間として各 2 時間を確保してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜、プリント等を配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習での作業・議論 50 %、発表・報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はアンケートを実施していない。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論
 <研究テーマ> 農山村地域における地域資源管理の担い手問題、地域マネジメントのあり方
 <主要研究業績>
 『プロセス重視の地方創生:農山村からの展望』(共著、筑波書房、2019 年)
 『内発的農村発展論』(共著、農林統計出版、2018 年)
 『田園回帰の過去・現在・未来』(共著、農山漁村文化協会、2016 年)
 『人口減少時代の地域づくり読本』(共著、公職研、2015 年)

【Outline and objectives】

We learn a method and a process of the data collection necessary for a study and make use for master's thesis making through the practice along own theme.

SOW600J1

実践研究演習 I

野田 岳仁

科目分類・科目群：演習科目

配当年次/単位数：1 年次 / 2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会をフィールドとした修士論文の作成に向けて、実践的なフィールド調査の技法および専門的な論文執筆の作法を習得することを目的としている。本講義では環境社会学・地域社会学の方法論をマスターすることを目指す。

【到達目標】

フィールドワークによる修士論文の作成に向けて必要な社会調査の技法および論文執筆の作法を身につけることができる。環境社会学・地域社会学の方法論をマスターすることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

最初にデータ収集の方法について学び、その上で、各自の関心分野に応じて、先行研究のレビューを重ねながら仮説を組み立てる。さらに、仮説に応じた実証方法（フィールドワークやヒアリング調査などでのデータ収集の方針）を検討し、研究計画を作る。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて過時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュールの確認
第 2 回	社会調査とは何か？	社会調査の基礎
第 3 回	フィールドワークとは何か？	フィールド調査における心構えと技法
第 4 回	文献調査（1）	調査に必要な文献の精読
第 5 回	文献調査（2）	文献の精読を通じた問題関心の明確化
第 6 回	統計資料の活用方法	統計資料の収集と整理
第 7 回	調査計画の立案（1）	関連する先行研究および調査報告書の検討
第 8 回	調査計画の立案（2）	調査手法の検討
第 9 回	調査の準備（1）	問いの検討と仮説の設定
第 10 回	調査の準備（2）	先行研究と研究の位置づけの検討
第 11 回	調査の準備（3）	論敵の検討と設定
第 12 回	調査票の作成（1）	質問項目の検討
第 13 回	調査票の作成（2）	ワーディング
第 14 回	調査計画の完成と発表	調査計画および調査票の完成と発表
第 15 回	調査データの分析方法	環境社会学・地域社会学・民俗学の方法から
第 16 回	フィールドワークの準備	テーマおよび調査地の選定
第 17 回	フィールドワーク実習（1）	資料収集と聞きとり調査
第 18 回	フィールドワーク実習（2）	データの整理と集計
第 19 回	フィールドワーク実習（3）	聞きとり調査
第 20 回	フィールドワーク実習（4）	データの整理と質問項目の修正
第 21 回	フィールドワーク実習（5）	補足的な聞きとり調査
第 22 回	調査データの分析（1）	調査データの整理と加工
第 23 回	調査データの分析（2）	調査のデータの加工（図表の作成）
第 24 回	調査データの分析（3）	データの分析についての検討と討議
第 25 回	論文の構成と執筆（1）	研究の全体像と構成の検討
第 26 回	論文の構成と執筆（2）	章立ての検討と討議
第 27 回	論文の構成と執筆（3）	分析結果の検討と討議
第 28 回	研究結果の発表	論文の発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の精読、レジュメの作成、研究発表の準備などの事前学習は不可欠となる。フィールドワークを進めておくことも必要であろう。いずれにせよ入念な準備が求められる。本演習の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

受講生の関心や研究テーマを考慮して選定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

討議への参加を含めた平常点（50%）、レポートや発表などの成果物（50%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートやリアクションペーパー等による受講生の意見や要望は積極的に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕

環境社会学・地域社会学・観光社会学

〔主要業績〕

『環境社会学の考え方暮らしを見つめる 12 の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019 年）

『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018 年）

『原発災害と地元コミュニティ福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018 年）

『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017 年）

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. It also enhances the development of students' skill in making academic papers and taking field research. At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.

SOW600J1

実践研究演習 I

布川 日佐史

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①研究テーマに即した先行調査及び関連データを収集し、検討、整理する。
②研究テーマに即したフィールドワークを行い、実践的課題を明らかにする。

【到達目標】

①先行調査の問題関心、課題、到達点を明らかにする。
②自分のオリジナルな研究課題を作り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

1) 基本データと先行調査の収集と分析を行いつつ、フィールドでのヒアリングをもとに研究テーマと課題を明確にする。
2) オンライン授業を取り入れる。
3) 提出物や報告等の意見、コメント、質問は、授業内で全体に伝え、フィードバックする。
4) 各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業目標と問題関心のすり合わせ
2	対象フィールドの検討①	対象とすべきフィールドを決定する
3	対象フィールドの検討②	基本統計データの検索・収集
4	対象フィールドの検討③	基本統計データの分析
5	対象フィールドの検討④	基本データをまとめる
6	先行調査の検討①	先行調査の検索、収集
7	先行調査の検討②	先行調査の収集とリスト作り
8	先行調査の検討③	先行調査の問題関心と課題の整理
9	先行調査の検討④	先行調査の分析
10	先行調査の検討⑤	先行調査の到達点の評価
11	フィールドワーク準備①	ヒアリングの目的を明確にする
12	フィールドワーク準備②	ヒアリング先の選定と情報収集
13	フィールドワーク準備③	ヒアリング質問項目案の検討
14	フィールドワーク①	夏季休業中の実施計画
15	フィールドワーク②	ヒアリングの実施
16	フィールドワーク③	ヒアリングの継続
17	ヒアリングまとめ①	記録の文章化
18	ヒアリングまとめ②	ポイント抽出
19	ヒアリングまとめ③	分析
20	ヒアリングまとめ④	ヒアリングまとめ案の検討
21	ヒアリングまとめ⑤	補足ヒアリングの実施
22	ヒアリングまとめ⑥	ヒアリングまとめの完成
23	ヒアリングまとめ⑦	ヒアリング先での報告・意見交換
24	ヒアリング総括	ヒアリング結果の総括
25	成果の検討	先行調査とヒアリング結果すりあわせ
26	追加的調査	必要に応じて、追加調査を行う
27	実践的課題の検討①	オリジナルな課題の設定
28	実践的課題の検討②	オリジナルな仮説の設定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データ、文献検索。ヒアリングの実施。

本授業の準備及び復讐は、概ね2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1	データまとめ	20%
2	先行調査まとめ	40%
3	フィールドワークのまとめ	40%

【学生の意見等からの気づき】

フィールドワークのプロセス管理を丁寧に行う。

【担当教員の専門分野】

公的扶助、雇用政策

【Outline and objectives】

- ① Collect and analyze prior research papers and related data according to the research theme.
- ② Identify practical issues by fieldwork.

SOW600J1

実践研究演習 I

水野 雅男

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自が関心を持っている分野に即して、修士論文作成に必要な考え方や手法について実践的に学ぶ。

【到達目標】

フィールドワークを通じて修士論文作成の技術を習得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の関心分野に応じて、フィールドワークを重ねながら研究仮説とテーマを組み立てる。さらに、仮説に応じた実証的究明方法を検討する。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第 2 回	関心分野とフィールドワーク①	関連する活動事例①の概要把握
第 3 回	関心分野とフィールドワーク②	関連する活動事例①の史の変遷整理
第 4 回	関心分野とフィールドワーク③	関連する活動事例②の概要把握
第 5 回	関心分野とフィールドワーク④	関連する活動事例②の史の変遷整理
第 6 回	関心分野とフィールドワーク⑤	関連する活動事例①の利害関係者の把握
第 7 回	関心分野とフィールドワーク⑥	関連する活動事例②の利害関係者の把握
第 8 回	研究課題の検討①	フィールドワークを通じた課題の整理 ① 事業目的
第 9 回	研究課題の検討②	フィールドワークを通じた課題の整理 ② 事業内容
第 10 回	研究課題の検討③	フィールドワークを通じた課題の整理 ③ 事業推進体制
第 11 回	研究仮説の検討①	研究課題を解決するための仮説の考察 ① 素案の提示
第 12 回	研究仮説の検討②	研究課題を解決するための仮説の考察 ② 修正案の検討
第 13 回	研究仮説の検討③	研究課題を解決するための仮説の考察 ③ 仮説の確定
第 14 回	中間報告	春学期のフィールドワークの振り返り
第 15 回	研究対象の検討①	仮説検証のための研究対象選定① 対象とする分野の候補列挙
第 16 回	研究対象の検討②	仮説検証のための研究対象選定② 対象とする分野の抽出
第 17 回	研究対象の検討③	仮説検証のための研究対象選定③ 対象候補の目的分類
第 18 回	研究対象の検討④	仮説検証のための研究対象選定④ 対象候補の選別
第 19 回	研究方法の検討①	予備調査① 文献資料の整理
第 20 回	研究方法の検討②	予備調査② 対象に関する研究の整理
第 21 回	研究方法の検討③	予備調査③ 対象地域の概要把握
第 22 回	研究方法の検討④	量的調査方法① アンケート調査計画
第 23 回	研究方法の検討⑤	量的調査方法② アンケート調査質問票作成
第 24 回	研究方法の検討⑥	質的調査方法 インタビュー調査計画
第 25 回	データ分析方法の検討①	量的調査データの分析方法① 多変量解析
第 26 回	データ分析方法の検討②	量的調査データの分析方法② 成分分析
第 27 回	データ分析方法の検討③	質的調査データの分析方法 ナラティブ分析
第 28 回	総括	修士論文執筆に向けた作業課題の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加態度（70 %）と課題への対応（30 %）を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【担当教員の専門分野】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第 707 号、2015 年
「地方都市の再生戦略」（共著）学芸出版社、2013 年
「生活景」（共著）学芸出版社、2009 年

【Outline and objectives】

Practically learn the ideas and methods required for master's thesis creation in accordance with the field of interest.

SOW600J1

実践研究演習 I

宮城 孝

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉の現場における実習や修士論文作成のためのデータの収集方法について理解し、フィールドを設定する。そして、実際にフィールドに関与し実践能力を高めるとともに、修士論文に必要なデータの収集を行う。

【到達目標】

適切な方法で、一連のフィールドワークを行うことができる。フィールドワークで得たデータを分析し、適切に研究に活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

関心のある領域や修士論文のテーマに関連したフィールドについて情報を収集し、実際の実習やデータ収集の方法を検討する。その上でフィールドに継続的に関わり、実践的な能力を高めるとともにデータ収集を行う。方法は、個別のスーパービジョンにより行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	フィールドワークの目的と方法について	フィールドワークの目的と方法についての検討
第 2 回	フィールドの選択について①	フィールドの選択の検討①
第 3 回	フィールドの選択について②	フィールドの選択の検討②
第 4 回	フィールドワークの内容と方法①	実際の内容と方法の検討①
第 5 回	フィールドワークの内容と方法②	実際の内容と方法の検討②
第 6 回	初期スーパービジョン①	スーパービジョンの実際①
第 7 回	初期スーパービジョン②	スーパービジョンの実際②
第 8 回	初期スーパービジョン③	スーパービジョンの実際③
第 9 回	初期スーパービジョン④	スーパービジョンの実際④
第 10 回	中期スーパービジョン①	スーパービジョンの実際①
第 11 回	中期スーパービジョン②	スーパービジョンの実際②
第 12 回	中期スーパービジョン③	スーパービジョンの実際③
第 13 回	中期スーパービジョン④	スーパービジョンの実際④
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめと振り返り
第 15 回	中期スーパービジョン⑤	スーパービジョンの実際⑤
第 16 回	中期スーパービジョン⑥	スーパービジョンの実際⑥
第 17 回	中期スーパービジョン⑦	スーパービジョンの実際⑦
第 18 回	中期スーパービジョン⑧	スーパービジョンの実際⑧
第 19 回	中期スーパービジョン⑨	スーパービジョンの実際⑨
第 20 回	後期の目標設定と方法	後期のフィールドワークの目標の設定の検討
第 21 回	後期スーパービジョン①	スーパービジョンの実際①
第 22 回	後期スーパービジョン②	スーパービジョンの実際②
第 23 回	後期スーパービジョン③	スーパービジョンの実際③
第 24 回	後期スーパービジョン④	スーパービジョンの実際④
第 25 回	後期スーパービジョン⑤	スーパービジョンの実際⑤
第 26 回	後期スーパービジョン（まとめに向けて）①	フィールドワークのまとめ方について①
第 27 回	後期スーパービジョン（まとめに向けて）②	フィールドワークのまとめ方について②
第 28 回	フィールドワークのまとめの報告	フィールドワークのまとめの報告と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の指導に向けた報告を、フィールドワークに関する記録やレポートとしてまとめ準備しておくこと。準備・復習時間を 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社,2008年
 萱間真美『質的研究実践ノート』医学書院,2007年
 筒井真優美『アクションリサーチ入門』ライフサポート社,2010年

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %とフィールドワークの内容とレポート 60 %により評価を行う。
 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

- ・『地域福祉のイノベーション-コミュニティの持続可能性の危機に挑む-』中央法規、2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉-次世代への継承を探る-』（共編著）中央法規、2015年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著），中央法規、2014年
- ・『ソーシャルワークと社会開発-開発的ソーシャルワークの理論とスキル-』丸善出版、2012年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規 2007年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000年

【Outline and objectives】

It sets a field to creat reserch paper, and improve prctice skillby the supervision,also, collect the data with field.

SOW600J1

実践研究演習 I

保井 美樹

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の執筆に向けて準備を進めるのは勿論のこと、実際の地域づくりやコミュニティマネジメントに寄与する研究とは何かを問いながら、実践的な研究の在り方を受講生と共に検討していく。

【到達目標】

地域やコミュニティに関する今日的課題とそれに対する研究の必要性、その方法、既往研究等について検討し、受講生の研究への示唆を探る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、教員と受講生の研究報告のほか、文献・資料の輪読を通じての議論を中心とする。授業はオンラインを中心しつつ、必要に応じて対面と組み合わせながら実施する。具体的な各回の授業方法については、受講生に個別に伝えるか、学習支援システムでその都度提示する。課題へのフィードバックは授業内に行うほか、メールや学習支援システムを用いて受講生に個別に伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	研究関心の共有に向けて	地域づくりに関する今日的課題について共通認識、検討を深める。
第2回	地域づくりに関する今日的課題	地域づくりに関する参考資料を持ち寄り、今日的な課題について現状と課題を共有する。
第3回	地域づくりに関する課題解決の取り組み	地域づくりに関して共有した課題に対して取り組んでいる事例を参考資料として持ち寄り、その現状と課題を共有する。
第4回	コミュニティマネジメントの現状と展望	コミュニティマネジメントという視点から地域の現状を読み解き、研究課題を検討する。
第5回	コミュニティマネジメントに必要な取り組み	コミュニティマネジメントの実現のために必要な取り組みとそれに向けた研究の方向を検討する。
第6回	研究手法に関する検討（先行研究）	様々な研究で行われている調査手法を先行研究から持ち寄り、その有効性や課題を検証する。
第7回	研究手法に関する検討（定量的調査の方法）	研究手法の中でも定量研究の有効性と課題を検討する。
第8回	研究手法に関する検討（定性的調査の方法）	研究手法の中でも定性研究の有効性と課題を検討する。
第9回	研究構想の素案について報告・助言	論文構想の素案を提出してもらい、それについて議論する。
第10回	論文構想の報告・助言（修正版）	論文構想の修正版を提出してもらい、それについて議論・検討する。
第11回	論文構想の報告・助言	論文構想案を固めていく。
第12回	調査計画の検討（調査法の確定と進め方）	調査の進め方について報告を受け、その有効性について検討する。
第13回	調査計画の検討（調査の妥当性の検討）	調査の進め方について修正した計画を提出してもらい、その妥当性を検証する。
第14回	今後の課題の検討	残された検討課題について協議する。
第15回	秋学期の進め方について話し合い	受講生の論文構想の進行を確かめ、秋学期実施事項を決定する。
第16回	研究に関連するテーマの検討と先行研究の探し方	研究に関連するテーマを整理し、その先行研究のレビュー方法について検討する。
第17回	先行研究レビュー（テーマ1）	研究に関連するテーマのうち1つ目について、先行研究をレビューし、議論する。
第18回	先行研究レビュー（テーマ2）	研究に関連するテーマのうち2つ目について、先行研究をレビューし、議論する。
第19回	先行研究レビューのまとめ	先行研究のレビューをまとめ、残された課題を整理する。
第20回	調査に向けた準備状況の報告	調査実施に向けた準備状況を報告してもらい、改善に向けた議論を行う。
第21回	調査票の修正・確認	改善された調査票を確認し、議論する。

第 22 回	調査準備の完成	調査準備を完成させるための最後の議論を行う。
第 23 回	調査の進捗状況報告	調査の進捗状況の報告を行ってもらい、課題の所在を明らかにする。
第 24 回	調査の進捗について議論	調査の進捗について、より具体的に検討する。
第 25 回	調査結果と課題の検討	調査結果と課題を報告してもらい、今後の対応方針について議論する。
第 26 回	課題への対応の検討	課題への対応方法を発表してもらい、それについて議論する。
第 27 回	修正調査計画の完成	議論を踏まえ、修正された調査計画を提出してもらい、完成に向けて議論を行う。
第 28 回	残された実践課題の抽出	これまでの到達点と課題を明らかにし、今後の実践課題について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料収集、文献理解、レジメ作成など、各回の内容と自分の研究の進捗状況に合わせて、準備学習を行うことが求められる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要に応じて、授業内に配布・紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %

課題の提出 30 %

（課題とは、毎回の資料収集やまとめ、論文構想の報告などの毎回の課題を意味する。より具体的な方法と基準は、授業内で伝えるほか、学習支援システムで提示する。）

【学生の意見等からの気づき】

少人数授業のためアンケートは行ってないが、受講者と話し合いながら、よりよい方法を探りながら進めたい。

【その他の重要事項】

受講生と共につくる授業であり、その関心や要請に応じて、上記の内容は若干の変更可能性がある。

【担当教員の専門分野等】

<研究テーマ>都市・地域計画、エリアマネジメント、コミュニティ再生、公民連携

【Outline and objectives】

This is one by one workshop. Each student discuss what is practical but valuable research with professor by pursuing the reality of community life as well as way of research to contribute community management.

SOW600J1

実践研究演習Ⅱ

佐野 竜平

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実践研究演習Ⅰを補完しつつ、関連するデータ収集・分析方法を応用する。

【到達目標】

関連分野を深く理解を進めるためのデータ収集・分析方法や他の実践スキルを応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

関連分野に関するデータ収集・分析に必要な学びを応用していく。状況に応じて対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の進め方について確認
第 2 回	データ収集のレビュー①	データ収集スキルの応用①
第 3 回	データ収集のレビュー②	データ収集スキルの応用②
第 4 回	データ収集のレビュー③	データ収集スキルの応用③
第 5 回	質的調査法のレビュー①	質的調査法の応用①
第 6 回	質的調査法のレビュー②	質的調査法の応用②
第 7 回	質的調査法のレビュー③	質的調査法の応用③
第 8 回	フィールド調査法のレビュー①	フィールド調査法の応用①
第 9 回	フィールド調査法のレビュー②	フィールド調査法の応用②
第 10 回	フィールド調査法のレビュー③	フィールド調査法の応用③
第 11 回	関連研究の比較検討①	関連研究の見直し①
第 12 回	関連研究の比較検討②	関連研究の見直し②
第 13 回	関連研究の比較検討③	関連研究の見直し③
第 14 回	中間総括	これまでの研究の振り返り
第 15 回	オリエンテーション	秋学期の進め方について確認
第 16 回	研究仮説の仕上げ①	研究仮説を確認①
第 17 回	研究仮説の仕上げ②	研究仮説を確認②
第 18 回	研究仮説の仕上げ③	研究仮説を確認③
第 19 回	フィールド活動総括①	データの確認①
第 20 回	フィールド活動総括②	データの確認②
第 21 回	フィールド活動総括③	データの確認③
第 22 回	フィールド調査実践①	調査準備を進め、実施①
第 23 回	最終報告作成①	調査報告の最終準備①
第 24 回	最終報告作成②	調査報告の最終準備②
第 25 回	最終報告作成③	調査報告の最終準備③
第 26 回	最終報告①	研究報告の実施①
第 27 回	最終報告②	研究報告の実施②
第 28 回	最終総括	研究の仕上げと再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回進捗報告や確認が求められるので、事前準備が不可欠となる。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加：60%、課題への取り組み・提出：40%

【学生の意見等からの気づき】

学生による様々なアイデアを応用。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害インクルーシブな国際協力、東南アジアを中心としたアジア地域開発、持続可能な循環型イニシアティブ

【Outline and objectives】

Relevant skills and methods according to his/her research topics are to be applied.

SOW600J1

実践研究演習Ⅱ

宮城 孝

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2年次／2単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策や実践のフィールドにおいて求められるスキルの修得を図ること。または、それらのフィールドにおける学術的な分析を加えるためのデータを収集することを目標とする。

【到達目標】

適切な方法でフィールドワークができる。

フィールドワークで得たデータを適切に分析し、可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

履修生のフィールドワークに対する個別的なスーパービジョンを行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりなす各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	フィールドワークの全体像
第2回	フィールドワークの目的と内容①	目的の明確化①
第3回	フィールドワークの目的と内容②	目的の明確化②
第4回	フィールドワークの対象と方法①	対象と方法の明確化①
第5回	フィールドワークの対象と方法②	対象と方法の明確化②
第6回	スーパービジョン（初期①）	実際のスーパービジョン①
第7回	スーパービジョン（初期②）	実際のスーパービジョン②
第8回	スーパービジョン（初期③）	実際のスーパービジョン③
第9階	スーパービジョン（初期④）	実施のスーパービジョン④
第10回	スーパービジョン（前期①）	実際のスーパービジョン①
第11回	スーパービジョン（前期②）	実際のスーパービジョン②
第12回	スーパービジョン（前期③）	実際のスーパービジョン③
第13回	スーパービジョン（前期④）	実際のスーパービジョン④
第14回	前期の振り返りとまとめ	振り返りと今後に向けて
第15回	オリエンテーション	秋学期の目標の設定
第16回	目標の設定	目標の設定と課題の明確化
第17回	スーパービジョン（中期①）	実際のスーパービジョン①
第18回	スーパービジョン（中期②）	実際のスーパービジョン②
第19回	スーパービジョン（中期③）	実際のスーパービジョン③
第20回	スーパービジョン（中期④）	実際のスーパービジョン④
第21回	スーパービジョン（後期①）	実際のスーパービジョン①
第22回	スーパービジョン（後期②）	実際のスーパービジョン②
第23回	スーパービジョン（後期③）	実際のスーパービジョン③
第24回	スーパービジョン（後期④）	実際のスーパービジョン④
第25回	振り返りとまとめ①	データ等の分析①
第26回	振り返りとまとめ②	データ等の分析②
第27回	振り返りとまとめ③	理論化の検討①

第 28 回 振り返りとまとめ④ 論理化の検討②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の指導に向けて、記録やデータをレポートとしてまとめ報告できるように準備しておくこと。準備・復習時間を4時間以上とする

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適宜必要に応じ指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、フィールドワークの内容とそれらを反映したレポートの内容 60 %により、評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会における実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

- ・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の方法と先進事例－』中央法規、2018 年『地域福祉のイノベーションとソーシャルワークの持続可能性の危機に挑む』編集代表)、中央法規、2017 年
- ・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』(共編著)中央法規、2015 年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』(共著)中央法規、2014 年
- ・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』(監訳)丸善、2012 年
- ・『地域福祉の理論と方法』(共著)ミネルヴァ書房、2010 年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』(編著)有斐閣、2008 年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』(編著)中央法規、2007 年
- ・『新版 地域福祉事典』(編集幹事)日本地域福祉学会、中央法規、2006 年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000 年

【Outline and objectives】

It sets a field to creat reserch paper and to improve practice skill,and collect the data in tke fied,also,analyzes a case in the filld.

SOW600J1

実践研究演習Ⅱ

保井 美樹

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実践研究演習Ⅰに続く本科目は、修士論文の完成を目標とするのは勿論であるが、現場の地域づくりやコミュニティマネジメントに実際に寄与する研究とは何かを問いながら、実践的な研究の在り方を学ぶ。

【到達目標】

地域やコミュニティに関する今日的課題とそれに対する研究の必要性、その方法、既往研究等について検討し、受講生の研究テーマや内容に示唆を与えることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、教員と受講生の研究報告のほか、文献・資料の輪読を通じての議論を中心とする。授業はオンラインと対面を適切に選択或いは組み合わせながら実施する。具体的な各回の授業方法については、受講生に個別に伝えるか、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の立ち位置と状況の共有	地域づくりに関する今日的課題と受講者の研究の立ち位置について議論。
第 2 回	地域づくりに関する今日的課題について検討-1	予め定めたテーマに関する参考資料の提出・議論 (1)
第 3 回	地域づくりに関する今日的課題について検討-2	予め定めたテーマに関する参考資料の提出・議論 (2)
第 4 回	地域づくりに関する今日的課題について検討-3	予め定めたテーマに関する参考資料の提出・議論 (3)
第 5 回	研究課題の確認	今日的課題の確認、受講者の研究課題の意義・進め方の議論。
第 6 回	調査実践の方法	調査方法の検討、今年度の研究計画の方向性を決定。
第 7 回	研究実践計画の検討-1	研究実践計画の提出・議論。
第 8 回	研究実践計画の検討-2	研究実践計画の改良版の提出、議論。
第 9 回	調査計画の検討-1	今年度の調査計画の提出・議論。
第 10 回	調査計画の検討-2	調査計画の改良版の提出・議論。
第 11 回	調査中間報告-1	調査の中間報告・議論 (1)
第 12 回	調査中間報告-2	調査の中間報告・議論 (2)
第 13 回	調査中間報告-3	調査の中間報告・議論 (3)
第 14 回	中間まとめ	中間まとめの提出・議論
第 15 回	今後の課題まとめ	中間まとめの更新版を提出、後期実施事項の決定。
第 16 回	論文執筆計画	論文執筆計画の提出・議論。
第 17 回	研究レビュー-1	既往研究のレビューと受講者の研究の意義の検討 (1)
第 18 回	研究レビュー-2	既往研究のレビューと受講者の研究の意義の検討 (2)
第 19 回	研究レビュー-3	既往研究のレビューと受講者の研究の意義の検討 (3)
第 20 回	地域への眼差しの共有	地域の現場課題、既往研究と受講者の研究の意義の確認。
第 21 回	残された課題への取り組み報告-1	課題への取り組み状況の報告・議論 (1)
第 22 回	残された課題への取り組み報告-2	課題への取り組み状況の報告・議論 (2)
第 23 回	残された課題への取り組み報告-3	課題への取り組み状況の報告・議論 (3)
第 24 回	残された課題への取り組み報告-4	課題への取り組み状況の報告・議論 (4)
第 25 回	論文執筆状況の報告-1	論文執筆状況の報告・検討 (1)
第 26 回	論文執筆状況の報告-2	論文執筆状況の報告・検討 (1)
第 27 回	論文完成に向けて	論文の完成状況の確認と最終検討。
第 28 回	修士論文の完成と今後の課題確認	修士論文の最終確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料収集、文献理解、レジュメ作成など、各回の内容と自分の研究の進捗状況に合わせて、準備学習を行うことが求められる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要に応じて、授業内に配布・紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %

提出物 30 %

(提出物とは、収集した資料、文献要約、研究調査計画、修士論文案など、毎回の課題を意味する。具体的な方法と基準は、授業内で伝える。)

【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心や要請に応じて、上記の内容を改善・修正しながら実施します。

【担当教員の専門分野等】

<研究テーマ>都市・地域計画、エリアマネジメント、コミュニティ開発、公民連携

【Outline and objectives】

This workshop comes after Practical Research Workshop I. Each student work on practical but valuable research to contribute human lives in communities.

PSY500J2

臨床心理基礎実習

久保田 幹子、末武 康弘

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1年次／2単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理実践の基本的態度や技能、倫理を学び、あわせて臨床心理実習に向けた事前指導を行います。

【到達目標】

この授業の達成目標は、臨床心理実習を行うため、そして公認心理師・臨床心理士として将来的に活動するための基本的な態度や技能、倫理等を学習することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学の理論と方法を実践にいかすための基礎的なトレーニングを実施し、臨床心理士として将来的に活動するために欠かすことのできない素養や技能を学習します。なお、この授業の単位取得は法政大学臨床心理相談室の研修相談員の条件となるので、必ず1年次で履修すること。

なお、課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。また授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得ます。

各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画および成績評価の基準を示します。
第2回	臨床心理実践の基礎①：概説	臨床心理実践の基礎を、本専攻における実習教育の内容を中心に概説します。
第3回	臨床心理実践の基礎②：臨床心理面接の基礎	臨床心理実践の基礎を臨床心理面接を中心に概説します①
第4回	臨床心理実践の基礎③：臨床心理面接の基礎	臨床心理実践の基礎を臨床心理査定を中心に概説します②
第5回	臨床心理実践の基礎④：臨床心理面接の基礎	臨床心理実践の基礎を臨床心理地域援助を中心に概説します。
第6回	臨床心理研究の基礎	臨床心理学における研究の意義や目的、方法論等について概説します。
第7回	臨床心理実践と研究の倫理①	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の意義や課題について概説します。
第8回	臨床心理実践と研究の倫理②	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の具体例（例：日本臨床心理士会倫理規定）を取り上げ、発表とディスカッションを行います。
第9回	臨床心理実践と研究の倫理③	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の具体例（例：アメリカ心理学会倫理規定）を取り上げ、発表とディスカッションを行います。
第10回	臨床心理実践と研究の倫理④	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の具体例（例：法政大学大学院人間社会研究科倫理規定）を取り上げ、発表とディスカッションを行います。
第11回	臨床心理実習事前指導：医療領域①	医療領域における実習の事前指導を行います①
第12回	臨床心理実習事前指導：医療領域②	医療領域における実習の事前指導を行います②
第13回	臨床心理実習事前指導：医療領域③	医療領域における実習の事前指導を行います③
第14回	臨床心理実習事前指導：概説	大学内（臨床心理相談室）および学外（医療機関等）における実習教育全般についてのガイダンスを行います。
第15回	臨床心理実習事前指導：発達領域①	発達領域における実習の事前指導を行います①
第16回	臨床心理実習事前指導：発達領域②	発達領域における実習の事前指導を行います②
第17回	臨床心理実習事前指導：教育領域①	教育領域における実習の事前指導を行います①
第18回	臨床心理実習事前指導：教育領域②	教育領域における実習の事前指導を行います②

第 19 回	臨床心理実習事前指導：福祉領域	福祉領域における実習の事前指導を行います。
第 20 回	臨床心理実習事前指導：心理相談領域等	心理相談領域における実習の事前指導を行います。
第 21 回	臨床心理実践の基本的技能：概説	実習で求められる基本的な技能について講義とディスカッションを行います。
第 22 回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク①	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。(例：神経症)
第 23 回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク②	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。(例：鬱)
第 24 回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク③	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。(例：パーソナリティ障害)
第 25 回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク④	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。(例：発達障害)
第 26 回	臨床心理実践の基本的技能：アセスメント①	アセスメントを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。(例：発達検査)
第 27 回	臨床心理実践の基本的技能：アセスメント②	アセスメントを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。(例：知能検査)
第 28 回	臨床心理実践の基本的技能：ケース検討	ケース検討を行うための事例の書き方、報告の仕方、議論のあり方等について学びます(例：人格検査)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表やディスカッションを行うための自己学習（文献の収集と分析、発表レジュメの作成等）および、インテーク記録やアセスメント記録の作成と修正の作業等が求められます。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、発表（30 %）、ディスカッション（20 %）への参加をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の臨床現場の様子が理解できるよう、具体例を交えつつ講義を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表に際してはパワーポイントの使用を推奨します。

【その他の重要事項】

医療現場における臨床、カウンセリング機関における臨床の実務経験があります。

実際の臨床経験を紹介しつつ、心理臨床家としての姿勢、現場実習に必要な知識などを習得できるよう進めていきます。

【担当教員の専門分野等】

【久保田幹子】

<専門領域>

森田療法、比較心理療法、心理検査法

<研究テーマ>

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など

<主要研究業績>

1)『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者、東京、白揚社、2015 年 3 月）

2)『女性なぜ生きづらいのか』（共著書、東京、白揚社、2018 年 8 月）

3)久保田幹子：対人恐怖の森田療法。こころの科学、2009;147:72-78

【末武康弘】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

<主要研究業績>

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

②『ジェンドリン哲学入門：フォーカシングの根底にあるもの』（共編著、コスモスライブラリー、2009 年 8 月）

③『フォーカシングの原点と臨床的展開』（共著、岩崎学術出版社、2009 年 5 月）

【Outline and objectives】

Basic attitude, skills and ethics in providing psychological assistance and preparation for clinical psychology practicum

PSY500J2

臨床心理学特論

金築 優

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学の基礎を学ぶために、臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理地域援助、臨床心理学研究法の 4 つの柱について、それらの意義や課題等について考えていきます。

【到達目標】

将来心理専門職として活動していく上で、臨床心理学の全体像を把握し、今後何を学び身に付けていく必要があるかを理解し、自らの学びのテーマを深めることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、臨床心理学に関する文献を用いて、講義、グループ発表、ディスカッションを行います。秋学期は、各受講生に修士論文のテーマについて個人発表をしてもらい、臨床心理学の理論や研究法を学んでいきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、授業の目的と進め方、成績の評価法を示します。
第 2 回	臨床心理学の歴史	臨床心理学の歴史を概説し、ディスカッションします。
第 3 回	臨床心理学の現状	臨床心理学の現状を概説し、ディスカッションします。
第 4 回	臨床心理面接にまつわる領域の検討とディスカッション 1	臨床心理面接の概論に関する文献を配布し、それを用いて、講義、ディスカッションを行います。
第 5 回	臨床心理面接にまつわる領域の検討とディスカッション 2	臨床心理面接の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 6 回	臨床心理面接にまつわる領域の検討とディスカッション 3	臨床心理面接の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、解説、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 7 回	臨床心理査定にまつわる領域の検討とディスカッション 1	臨床心理査定の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、ディスカッションを行います。
第 8 回	臨床心理査定にまつわる領域の検討とディスカッション 2	臨床心理査定の概論に関する文献を随時配布し、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 9 回	臨床心理査定にまつわる領域の検討とディスカッション 3	臨床心理査定の概論に関する文献を随時配布し、解説、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 10 回	臨床心理地域援助等に関する領域の検討とディスカッション 1	臨床心理地域援助等に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、ディスカッションを行います。
第 11 回	臨床心理地域援助等に関する領域の検討とディスカッション 2	臨床心理地域援助等に関する文献を配布し、それを用いて、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 12 回	臨床心理地域援助等に関する領域の検討とディスカッション 3	臨床心理地域援助等に関する文献を随時配布し、それを用いて、解説、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 13 回	臨床心理地域援助等に関する領域の検討とディスカッション 4	臨床心理地域援助等に関する文献を随時配布し、それを用いて、グループ発表、今後の課題について議論します。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめをします。
第 15 回	秋学期のオリエンテーション	秋学期の授業の進め方を示します。
第 16 回	臨床心理学におけるエビデンス	臨床心理学におけるエビデンスの重要性について考えます。
第 17 回	臨床心理学における研究の位置づけ 1	臨床心理学における研究の目的について概説します。
第 18 回	臨床心理学における研究の位置づけ 2	臨床心理学における研究の意義について概説します。

第 19 回	臨床心理学研究における問題意識に関する個人発表 1	各自の研究テーマについて、先行研究を個人発表してもらいます。
第 20 回	臨床心理学研究における問題意識に関する個人発表 2	各自の研究テーマについて、先行研究の課題を個人発表してもらいます。
第 21 回	臨床心理学研究における問題意識に関する個人発表 3	各自の研究テーマについて、先行研究等を個人発表してもらい、ディスカッションします。
第 22 回	臨床心理学研究における問題意識に関する個人発表 4	各自の研究テーマについて、先行研究の問題点を個人発表してもらいます。
第 23 回	臨床心理学研究における問題意識に関する個人発表 5	各自の研究テーマについて、先行研究の動向を個人発表してもらいます。
第 24 回	臨床心理学研究における問題意識に関する個人発表 6	各自の研究テーマについて、先行研究の動向や課題を個人発表してもらいます。
第 25 回	臨床心理学研究における方法論に関する個人発表 1	各自の研究テーマについて、量的研究方法を個人発表してもらいます。
第 26 回	臨床心理学研究における方法論に関する個人発表 2	各自の研究テーマについて、質的研究方法を個人発表してもらいます。
第 27 回	臨床心理学研究における方法論に関する個人発表 3	各自の研究テーマについて、研究法等を個人発表してもらいます。
第 28 回	秋学期のまとめ	秋学期に学んだことを振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期、秋学期ともに発表があるため、そのための準備が必要となります。また、授業で配布する資料は、次の回の授業までに熟読し、分からない点等は、各自調べておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（50%）、発表内容（30%）及び期末レポート（20%）について総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意見を求める機会を多く作るようにします。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

臨床心理学、認知行動療法（認知行動カウンセリング）

<研究テーマ>

認知行動療法の理論（特に、知覚制御理論）に関する研究

<主要研究業績>

『心配に関するメタ認知的信念尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討』（共著、パーソナリティ研究 16(3)、2008 年）

『大学生の心配に対するメタ認知に焦点を当てた認知行動的介入の効果』（共著、感情心理学研究 17(3)、2010 年）

【Outline and objectives】

This course provides an overview of the field of clinical psychology. Major topics include history and current controversies, professional activities of clinical psychologists, psychological assessment methods, and psychotherapy approaches.

PSY500J2

臨床心理面接特論 I（心理支援に関する理論と実践）

末武 康弘

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業で学ぶ内容は次のことです。

1. 力動論に基づく心理療法の理論と方法
2. 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法
3. その他の心理療法の理論と方法
4. 心理に関する相談、助言、指導等への上記 1～3. の応用
5. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整

【到達目標】

この授業の到達目標は、次のとおりです。

- ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できること。
- ・訪問による支援や地域支援の意義について概説できること。
- ・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができること。
- ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること。
- ・心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できること。
- ・心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、レジュメ作成と発表、ディスカッション、ロールプレイや体験学習などを織り交ぜながら進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価について
第 2 回	心理支援と心理学的支援法	全体の理論と方法を概説します
第 3 回	力動論に基づく心理療法	力動論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第 4 回	力動論に基づく発展的な心理療法	力動論に基づく発展的な心理療法の理論と方法を学びます
第 5 回	行動論に基づく心理療法	行動論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第 6 回	認知論に基づく心理療法	認知論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第 7 回	その他の心理療法①	その他の心理療法の理論と方法を学びます（人間性の理論）
第 8 回	その他の心理療法②	その他の心理療法の理論と方法を学びます（システム理論）
第 9 回	その他の心理療法③	その他の心理療法の理論と方法を学びます（表現芸術療法）
第 10 回	その他の心理療法④	その他の心理療法の理論と方法を学びます（民族文化療法）
第 11 回	心理に関する相談、助言、指導等への理論と方法の応用	心理に関する相談、助言、指導等への上記の理論と方法の応用を学びます
第 12 回	適切な支援方法の選択・調整①	心理に関する支援を要する者の特性に応じた適切な支援方法の選択・調整について学びます
第 13 回	適切な支援方法の選択・調整について②	心理に関する支援を要する者の状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について学びます
第 14 回	授業のまとめ	授業のふりかえりとまとめをおこないます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連資料の収集・分析、レジュメ作成などの学習が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表（60％）、ディスカッションへの参加（40％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

関連する科目のアンケート結果に基づき、受講生にとってより明確な知識やスキルが身につくように授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業での発表においては、パワーポイント使用を推奨します。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

<主要研究業績>

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年）

③ 『主観性を科学化する』質的研究法入門（共編著、金子書房、2016年）

【Outline and objectives】

The contents to be learned in this lesson are as follows.

1. Theory and method of psychotherapy based on psychodynamic theory
2. Theory and method of psychotherapy based on behavioral/cognitive theory
3. Other psychotherapy theories and methods
4. Application of the above items 1 to 3
5. Selection and adjustment of appropriate support methods

PSY500J2

臨床心理面接特論Ⅱ

末武 康弘

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カウンセリングや心理療法など臨床心理面接の基礎となる理論と方法を学び、あわせて臨床心理面接の態度やスキルを共有するための実習やディスカッションを行います。

【到達目標】

カウンセリングや心理療法など臨床心理面接の基礎となる理論と方法の効果やプロセスについて説明できること、さらに、試行カウンセリングを継続して実施し、その内容を事例報告や逐語記録としてまとめ報告できることなど、臨床心理面接に求められる専門性の土台を形成することがこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理面接の効果やプロセスについて学ぶとともに、試行カウンセリングを中心とした実習・検討・議論を実施し、臨床心理面接の態度やスキルを実践的に学びます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を示します
第2回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説①	臨床心理面接の主要な歴史について概説します
第3回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説②	臨床心理面接の効果についての研究を概観します
第4回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説③	臨床心理面接のプロセスに関する研究を概観します
第5回	試行カウンセリングの実習と報告①	各自が試行カウンセリングを実施し（インタークおよび3回の継続面接）、その事例報告と逐語記録（抜粋）を作成して報告します。報告を受けてディスカッションを行います。院生 A、B の報告
第6回	試行カウンセリングの実習と報告②	院生 C、D の報告
第7回	試行カウンセリングの実習と報告③	院生 E、F の報告
第8回	試行カウンセリングの実習と報告④	院生 G、H の報告
第9回	試行カウンセリングの実習と報告⑤	院生 I、J の報告
第10回	試行カウンセリングの実習と報告⑥	院生 K、L の報告
第11回	試行カウンセリングの実習と報告⑦	院生 M、N の報告
第12回	試行カウンセリングの実習と報告⑧	院生 O の報告
第13回	試行カウンセリングの報告書の作成について	試行カウンセリングの報告書の作成について指導します
第14回	まとめ	授業を振り返り、各自の学習内容や学習成果をディスカッションします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表と報告のための自己学習（文献の収集と分析、試行カウンセリングの実施、事例報告や逐語記録の作成、発表レジュメの執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表（40％）、試行カウンセリングの報告書（50％）、ディスカッションへの参加（10％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

関連する科目のアンケート結果に基づき、受講生にとってより明確な知識やスキルが身につくように授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

発表に際してはパワーポイントの使用を推奨します。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法
<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
<主要研究業績>

- ① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
- ② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年）
- ③ 『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016年）

【Outline and objectives】

You learn practical methods and skills of psychological support.

PSY500J2

臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）

小野 純平

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、心理的アセスメントの意義および基礎理論を学ぶとともに、発達検査、性格検査、知能検査等から代表的な検査を取り上げ、各検査の正しい実施方法や検査結果の解釈、記録及び報告の方法について学習します。また、こうした理論や技法の心理に関する相談、助言、指導等への応用について学習します。

【到達目標】

- 1. 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義について概説することができる。
- 2. 心理的アセスメントに関する理論と方法について理解し実践することができる。
- 3. 心理に関する相談、助言、指導等への上記 1. 及び 2. の応用について理解し実践することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに心理的アセスメントの意義と基礎理論について学びます。その上で、発達検査、性格検査、知能検査等から代表的な検査を取り上げ、検査器具を用いた実習を通して、正しい実施方法や検査結果の解釈、記録及び報告の方法について学習します。また、こうした理論や技法の心理に関する相談、助言、指導等への応用について学習するとともに、検査実施結果を基に事例検討を行い、心理に関する相談、助言、指導等への展開について学びます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	心理的アセスメント	心理的アセスメントとその意義
第2回	心理的アセスメントにおける心理検査の役割	心理的アセスメントにおける心理検査の役割
第3回	心理検査の基礎理論	心理検査の妥当性と信頼性
第4回	心理検査の実施から報告書作成までのプロセス	プライバシー保護及び報告書の作成の留意点
第5回	発達検査法	検査の信頼性、妥当性、実施法等①
第6回	性格検査法 1（質問紙法）	検査の信頼性、妥当性、実施法等②
第7回	性格検査法 2（投射法）	検査の信頼性、妥当性
第8回	性格検査法 3（投射法）	実施法と解釈法等①
第9回	性格検査法 4（投射法）	実施法と解釈法等②
第10回	知能検査法 1	知能検査の実施法
第11回	知能検査法 2	知能検査法の解釈法
第12回	事例報告 1	事例報告演習①
第13回	事例報告 2	事例報告演習②
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる心理検査について、事前に手引き、解説書等を読んで、検査の実施方法や内容を学習しておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適時お知らせします。

【参考書】

必要に応じて、適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）
課題の提出（10％）
演習内容への積極的な参加（30％）

【学生の意見等からの気づき】

映像教材をさらに活用し、具体的なイメージを持ちやすくする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 臨床心理学、臨床心理査定、心理的アセスメント
<研究テーマ> 虐待とその支援、発達障害とその支援
<主要研究業績>

【著書】

『精神・心理機能評価ハンドブック』（中山書店、2015年6月）
『臨床心理学 30章』（日本文化化学社、2006年6月）
【論文】

『発達障害と愛着障害の理解と支援—事例を通して—』（至誠学園紀要 5 巻、2012 年 5 月）
『被虐待児の認知特性と学習の遅れ』（LD 研究 21 巻 2 号、2012 年 5 月）

【Outline and objectives】

This seminar aims to introduce students to the principles and practice of psychological assessment. The course will focus on widely used norm-referenced tests of intellectual ability, development, and personality. Students will learn skills in both assessment planning and report writing.

PSY500J2

臨床心理査定演習 II

小野 純平

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、心理的アセスメントの中核的技法である心理検査法について、検査結果の総合的な解釈と心理的援助の計画立案へと学習を進めます。

【到達目標】

1. 心理的アセスメントで用いる主要な検査について、実施と基礎的な解釈を行うことができる。
2. 心理に関する相談、助言、指導等へと心理的アセスメントの結果を展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

心理的アセスメントの中核的技法である心理検査法について、検査結果の総合的な解釈と心理的援助の計画立案へと学習を進めます。本演習は検査実施結果を基にした事例検討を中心に行います。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方
第 2 回	投影法 1	ロールシャッハ法の実施と解釈演習①
第 3 回	投影法 2	ロールシャッハ法の実施と解釈演習②
第 4 回	投影法 3	ロールシャッハ法の実施と解釈演習③
第 5 回	投影法 4	ロールシャッハ法の実施と解釈演習④
第 6 回	知能検査法 1	解釈演習①
第 7 回	知能検査法 2	解釈演習②
第 8 回	事例報告 1	事例報告演習①
第 9 回	事例報告 2	事例報告演習②
第 10 回	事例報告 3	事例報告演習③
第 11 回	事例報告 4	事例報告演習④
第 12 回	事例報告 5	事例報告演習⑤
第 13 回	事例報告 6	事例報告演習⑥
第 14 回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる心理検査について、事前に手引き、解説書等を読んで、検査の実施方法や内容を学習しておく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適時お知らせします。

【参考書】

必要に応じて、適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %）
課題の提出（10 %）
演習内容への積極的な参加（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

映像教材をさらに活用し、具体的なイメージを持ちやすくする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 臨床心理学、臨床心理査定
<研究テーマ> 虐待とその支援、発達障害とその支援
<主要研究業績>

【著書】

『精神・心理機能評価ハンドブック』（中山書店、2015 年 6 月）
『エッセンシャルズ KABC-II による心理アセスメントの要点』（丸善出版、2014 年 8 月）
『発達と臨床の心理学』（ナカニシヤ出版、2012 年 4 月）
『臨床心理学 30 章』（日本文化化学社、2006 年 6 月）
【論文】
『新しい検査 KABC-II と CHC 理論に基づくクロスバタリーアセスメント (XBA) の展開』（日本学校心理学会年報 7 巻 1 号、2015 年 4 月）
『発達障害と愛着障害の理解と支援—事例を通して—』（至誠学園紀要 5 巻、2012 年 5 月）
『被虐待児の認知特性と学習の遅れ』（LD 研究 21 巻 2 号、2012 年 5 月）

【Outline and objectives】

This seminar will focus on widely used norm-referenced tests of intellectual ability, development, and personality. Students will learn skills in both assessment planning and report writing.

PSY500J2

臨床心理実習 I (心理実践実習)

金築 優、丹羽 郁夫

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：2 年次／1 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の 5 分野の施設のうち、3 分野以上の施設で実習を行うが、保健医療の領域の医療機関（病院又は診療所）での実習は必須とする。なお医療機関以外の施設においては、見学を中心とする実習を行うことがある。また上記の 5 分野には加えないが、学内の臨床心理相談室においても実習を行う。そして、実習中は当該施設の実習指導者及び実習担当教員による指導を受ける。

【到達目標】

到達目標は、以下の事項を実習を通して学習することである。

(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得

(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等

(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成

(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

(エ) 多職種連携及び地域連携

(オ) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

実習担当教員の指導のもと、実習施設の決定と施設に関する事前学習を行い、実習施設の実習指導者及び実習担当教員から指導を受け、計 450 時間以上の実習を行う。実習の内、ケースを直接担当する時間は 270 時間以上とし、その内、学外施設での実習時間は 90 時間以上とする。なお実習担当教員は、実習生の実習状況を把握しつつ、上記の目的に掲げる事項の基本的な修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を行う。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	実習オリエンテーション	実習全般に関わるガイダンスを行う。
実習前②	実習施設の紹介	実習施設に関する情報提供をする。
実習前③	実習施設の決定	実習施設を決定し、その施設に関して事前学習を指導する。
実習中①	学外施設での実習	実習先の指導者から指導を受けながら実習を行うが、実習施設によっては実習担当教員が実習先に向いて指導を行う。
実習中②	臨床心理相談室での実習	実習担当教員から指導を受けながら実習を行う。
実習中③	大学での指導	大学において実習担当教員が定期的にケースカンファレンス等の指導を行い、実習生全体で実習経験を共有する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習期間中、実習記録をまとめ、次回の到達目標を明らかにすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。

【参考書】

実習担当教員及び実習指導者により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

施設での実習態度や実習報告 (20%)、および実習指導者の評価 (80%)。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

両教員とも現場での経験が豊富であり、この経験に基づいて実習指導を行う。

【担当教員の専門分野】

金築優：認知行動療法

丹羽郁夫：コミュニティ心理学、子どもの心理療法

【Outline and objectives】

Practice at three or more institutions out of the five sectors of health care, welfare, education, judicial and criminal, industry and labor, but practice at a medical institution (hospital or clinic) in the area of health care Mandatory. In facilities other than medical institutions, practical training centered on tours may be conducted. Also, although not added to the above five fields, we also conduct practical training in the clinical psychology counseling room in the university. During practical training, you will receive guidance from the instructor's instructor and practical teacher.

PSY500J2

臨床心理実習Ⅱ

金築 優・丹羽 郁夫

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：2 年次／1 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野の施設のうち、3分野以上の施設で実習を行うが、保健医療の領域の医療機関（病院又は診療所）での実習は必須とする。なお医療機関以外の施設においては、見学を中心とする実習を行うことがある。また学内の臨床心理相談室においても実習を行う。そして実習中は当該施設の実習指導者及び実習担当教員による指導を受ける。

【到達目標】

到達目標は、以下の事項を実習を通して学習することである。

- (ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得
 (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等
 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
 (エ) 多職種連携及び地域連携
 (オ) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

実習担当教員の指導のもと、実習施設の決定と施設に関する事前学習を行い、実習施設の実習指導者及び実習担当教員から指導を受け、計450時間以上の実習を行う。実習の内、ケースを直接担当する時間は270時間以上とし、その内、学外施設での実習時間は90時間以上とする。なお実習担当教員は、実習生の実習状況を把握しつつ、上記の目的に掲げる事項の基本的な修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を行う。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	実習オリエンテーション	実習全般に関わるガイダンスを行う。
実習前②	実習施設の紹介	実習施設に関する情報提供をする。
実習前③	実習施設の決定	実習施設を決定し、その施設に関して事前学習を指導する。
実習中①	学外施設での実習	実習先の指導者から指導を受けながら実習を行うが、実習施設によっては実習担当教員が実習先に向いて指導を行う。
実習中②	臨床心理相談室での実習	実習担当教員から指導を受けながら実習を行う。
実習中③	大学での指導	大学において実習担当教員が定期的なケースカンファレンス等の指導を行い、実習生全体で実習経験を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習記録をまとめ、次回の到達目標を明らかにすること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

実習担当教員及び実習指導者により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

施設での実習態度や実習報告(20%)、および実習指導者の評価(80%)。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

両教員とも現場での経験が豊富であり、この経験に基づいて実習指導を行う。

【担当教員の専門分野】

金築優：認知行動療法

関谷秀子：精神療法

【Outline and objectives】

Practice at three or more institutions out of the five sectors of health care, welfare, education, judicial and criminal, industry and labor, but practice at a medical institution (hospital or clinic) in the area of health care Mandatory. In facilities other than medical institutions, practical training centered on tours may be conducted. Also, we also conduct practical training in the clinical psychology counseling room in the university. During practical training, you will receive guidance from the instructor's instructor and practical teacher.

PSY500J2

心理学研究法特論

金子 真人

科目分類・科目群：専門展開科目（研究法科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大脳の機能的局在と行動に表れる症状の直接的な関係を理解するとともに、事例研究を通して研究法を学んでいくことを目標とする。

心を学ぶことは脳を知ることと同じではないが、心は行動に表れ、行動は脳に規定されると考えることができる。それならば脳の機能を知ることで行動を理解すれば心の輪郭はより明瞭になるかもしれない。本講義では、大脳機能の基礎を学ぶとともに、後天性大脳期障害である高次脳機能障害を通して脳と行動の直接的な関係を学ぶ。そして、高次脳機能障害の事例を通して研究法の基礎を理解することである。

【到達目標】

大脳機能障害の事例を通して脳の損傷と行動の直接的な関係を理解する。具体的には、前頭葉、側頭葉、頭頂葉、後頭葉の各連合野の機能を学び、各連合野の損傷と行動との直接的な関わりを学ぶことを目標とする。

また、質的分析と量的分析、単一事例研究法、応用行動分析、神経心理学的心理検査法などを通して臨床的な研究法の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では、適宜発表形式の講義も行い討議を深めていきたいと考える。参考文献および資料は適宜紹介もしくは配布する。

尚、受講者の人数などによって、若干の変更があり得る。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	心としての脳	大脳の基礎的理解
第2回	脳機能からみた行為の障害	失行症、行為障害など事例発表からみた研究法を検討する。
第3回	前頭葉機能障害の多面的理解	人格情動障害など事例発表からみた研究法を検討する。
第4回	前頭葉機能障害と遂行機能障害	知性思考障害など事例発表からみた研究法を検討する。
第5回	視覚認知機能の障害	失認など事例発表からみた研究法を検討する。
第6回	右半球と左半球の離断	脳梁離断など事例発表からみた研究法を検討する。
第7回	記憶障害の多面的理解	記憶障害など事例発表からみた研究法を検討する。
第8回	優位半球と言語野	言語野について事例発表からみた研究法を検討する。
第9回	様々な失語症状	失読症など事例発表からみた研究法を検討する。
第10回	読みの情報処理モデル	読みの属性効果について事例発表からみた研究法を検討する。
第11回	失語性失読の認知神経心理学的解釈	事例発表からみた研究法を検討する。
第12回	非失語性失読の認知神経心理学的解釈	事例発表からみた研究法を検討する。
第13回	認知症の症状理解	認知症の事例発表からみた研究法を検討する。
第14回	まとめ	量的分析と質的分析を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、大脳機能に関する基礎的専門書を読んでおくことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

〈教科書・参考図書〉

・よくわかる失語症と高次脳機能障害 鹿島晴雄、種村純編、永井書店
 ・脳のしくみとその見方 植村研一 医学書院

【成績評価の方法と基準】

発表形式授業への発表内容 60%、授業への積極的参加の様子 40%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では事例の症状を理解しつつ事例研究法を学んでいきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 臨床発達神経心理学、小児と成人の脳機能障害、高次脳機能障害、認知神経心理学

<研究テーマ>① 発達性読み書き障害の機序と援助、②小児と成人の脳機能障害における情報処理過程と認知機能に関する評価・検査法の開発研究、③高次脳機能障害者の長期予後と回復

<主要研究業績>① 「標準抽象語理解力検査」、インテルナ出版、2017年。② 「小学生の読み書きスクリーニング検査-発達性読み書き障害(発達性ディスレクシア)検出のために-」インテルナ出版、2006年。③よく分かる失語症と認知リハビリテーション：Ⅳ発達障害に対する神経心理学的アプローチ、6. 発達性計算障害、8. 注意欠陥/多動性障害 (ADHD) と発達性協調運動障害 (DCD)。永井書店、2008年。

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline and objectives】

In this lecture, we learn the fundamentals of cerebral function and learn the direct relationship between brain and behavior through higher brain disorder which is an acquired cerebral disorder. We aim to learn research methods through various case studies of cerebral dysfunction. And it is to understand the basics of the research method through various cases of higher brain disorder.

PRI500J2

データ分析法**服部 環**

科目分類・科目群：専門展開科目（研究法科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

R 言語（統計解析ソフトウェア）を用いてミニチュアデータを分析し、多変量解析の基礎的技法と最新の技法を詳しく学んでいきます。

【到達目標】

R 言語を用いて演算スクリプトを書けるようになること、多変量解析の諸技法に関する理解を深め、統計量を適切に解釈できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿った講義とパソコンソフトウェア R 言語を用いた実習を繰り返していきます。

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の予定について確認します
第 2 回	R 言語の基礎	R 言語の基礎的演算子を学びます
第 3 回	重回帰分析	重回帰分析とその統計的仮説検定、カテゴリカルデータを用いた重回帰分析を学びます
第 4 回	一般化線形モデル	一般化線形モデルの基礎を学びます
第 5 回	分類法	判別分析とクラスター分析を学びます
第 6 回	因子分析	探索的因子分析とカテゴリカル因子分析を学びます
第 7 回	主成分分析	主成分分析を学びます
第 8 回	分散分析の基礎と 1 要因の分散分析	分散分析の基礎と 1 要因の分散分析を学びます
第 9 回	2 要因の分散分析	被験者間要因と被験者内要因の分散分析について学びます
第 10 回	因果分析の基礎	因果分析法の基礎を学びます
第 11 回	パス解析	構造方程式モデリング (SEM) の基礎と観測変数のパス解析を学びます
第 12 回	確認的因子分析	確認的因子分析と成長曲線モデリングを学びます
第 13 回	相関分析	SEM を応用した相関分析を学びます
第 14 回	潜在変数のパス解析	潜在変数を伴うパス解析を学びます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

多変量解析の諸技法を段階的に学習していきますので、十分な復習が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に説明します。また、資料を配付します。

【参考書】

服部 環 心理・教育のための R によるデータ解析（福村出版）
足立浩平 多変量データ解析法-心理・教育・社会系のための入門（ナカニシヤ出版）

南風原朝和 心理統計学の基礎-統合的理解のために（有斐閣）

山田剛史・村井潤一郎・杉澤武俊 R による心理データ解析（ナカニシヤ出版）

【成績評価の方法と基準】

レポートの内容・結果（50%）と平常点（50%）を総合して評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が基礎・基本を理解できるよう説明を工夫したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

実習室のパソコン、R 言語、エクセルなどを使用します。

【その他の重要事項】

受講生が持つ事前知識に応じて授業計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

教育心理測定学、心理データ解析

<研究テーマ>

項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用

<主要研究業績>

- (1) 読んでわかる心理統計法（共著，サイエンス社）
- (2) 心理・教育のための R によるデータ解析（単著，福村出版）
- (3) 日本版 KABC-II マニュアル・換算表（共訳編，丸善出版）
- (4) Q&A 心理データ解析（共著，福村出版）

【Outline and objectives】

This course will introduce students to advanced psychological statistics, including hypothesis testing, statistical power analysis, major multivariate analyses, and structural equation modeling.

PSY500J2

臨床心理学研究法特論

長山 恵一

科目分類・科目群：専門展開科目（研究法科目）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学研究法の重要な方法論の一つである面接技法の基本について学ぶことが授業のテーマである。

【到達目標】

インテーク面接やカウンセリング面接の基本的な技法や面接者の態度を実際の臨床場面でも応用・実施できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

2 冊の教科書に沿いながら、なるべく実践的な問題に焦点をあてて授業をすすめていく。ロールプレイや視聴覚教材を使用しつつ、実践に役立つような技法的なポイントや面接者の態度などについて理解が深められるよう授業を進める。オンラインの開講となった場合、それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度お知らせします。課題等のフィードバックは必要に応じて授業支援システムを通して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方	授業の進め方の具体的説明
第 2 回	面接技法の基本的な諸問題の学習（1）	「対話精神療法の初心者への手引き」の第 1～3 章に沿って心理面接の基本を講義していく
第 3 回	面接技法の基本的な諸問題の学習（2）	「対話精神療法の初心者への手引き」の第 4～6 章に沿って心理面接の基本を講義していく
第 4 回	面接技法の基本的な諸問題の学習（3）	「対話精神療法の初心者への手引き」の第 7～8 章に沿って心理面接の基本を講義していく
第 5 回	インテーク面接の基本的知識と技術・態度	インテーク面接の基本的知識や技術・態度を具体的な事例をもとに講義する
第 6 回	インテーク面接のロールプレイ（1 例目）	学生が面接者役となり、クライアント役を教員が行い、実際のインテーク面接場面をロールプレイで行う。次回までに各自インテークをレポートにして提出。
第 7 回	1 例目のインテーク面接の振り返り学習	提出されたインテーク・レポートをその場で講評し、前回のインテークを振り返り、インテークのポイントを理解していく。
第 8 回	インテーク面接のロールプレイ（2 例目）	2 例目のインテークのロールプレイを行う。1 回目と同様にインテークのまとめをレポートで提出。
第 9 回	2 例目のインテーク面接の振り返り学習	2 例目のインテークレポートの提出と講評。インテークを振り返り、インテークのポイントをさらに深く理解していく。
第 10 回	「グロリアと 3 人のセラピストたち（視聴覚教材）」を見る。	「グロリアと 3 人のセラピストたち（視聴覚教材）」を視聴し、ポイントを解説し、議論をする。
第 11 回	カウンセリング面接技法の基本と面接者の態度について学ぶ（1）	東豊氏の心理面接の視聴覚教材（DVD）を活用し、面接のポイントを理解していく（心理面接の導入）。
第 12 回	カウンセリング面接技法の基本と面接者の態度について学ぶ（2）	東豊氏の心理面接の視聴覚教材（DVD）を活用し、面接のポイントを理解していく（心理面接の展開）。
第 13 回	カウンセリング面接技法の基本と面接者の態度について学ぶ（3）	東豊氏の心理面接の視聴覚教材（DVD）を活用し、面接のポイントを理解していく（心理面接の終結の仕方）。
第 14 回	実際のカウンセリング事例の提示	実際のカウンセリング事例を提示し、それについて議論しレポートを提出させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書については次回講義予定の部分は精読しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1)『対話精神療法の初心者への手引き』平成 9 年刊、神田橋條治著、花クリニック神田橋研究会 電話 0492-46-1065 FAX03-3375-6035 で購入してください（500 円程度）
 (2)『内省心理療法入門』光元和憲著、山王出版、1997 2700 円程度

【参考書】

その都度、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点と日頃の授業態度を総合して成績を評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度の授業改善アンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを授業に生かしたい。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、上記の授業計画は若干の変更があり得ます。

【担当教員の専門分野】

比較精神療法、精神医学

【Outline and objectives】

In this course, students will gain clinical psychological interview knowledge and techniques that are applicable in clinical practice.

PSY500J2

認知心理学特論

望月 聡

科目分類・科目群：専門展開科目（基礎心理科目）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知心理学とは、環境の意味するところを捉え、適切な行為を選択することに係る心の内的な処理に関する諸事象を明らかにすることを目指す心理学研究の一領域であり、知覚、注意、記憶、学習、言語、問題解決や推論・思考などの心的過程に関係します。

本科目ではこれらの人間の認知過程に関する、認知心理学、認知神経科学などのトピックスに触れます。

特に本科目は臨床心理学専攻において開講される科目のひとつであることから、認知心理学の知見がどのように臨床心理学（特に、認知行動療法の理論）に関わる実証的基盤となっていること）に関連するのかを理解することを目的とします。

【到達目標】

認知心理学の全体を俯瞰し、認知心理学研究の理論や手法を学び、理解します。認知心理学研究と、臨床心理学に関わる異常心理学理論やアセスメント・介入などの実践活動を接続して捉えることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式です。各回ごとにリアクションペーパーを提出し学習内容をふりかえります。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／認知心理学の対象と方法	認知心理学の全体像を概観し、本科目の進め方について説明します。
第 2 回	知覚	知覚に関わる認知心理学的知見を学びます。
第 3 回	注意 (1)	注意に関わる認知心理学的知見を学びます。
第 4 回	注意 (2)	「注意障害」「注意バイアス」を特にとりあげ、臨床心理学に関連する研究を概観します。
第 5 回	記憶 (1)	記憶に関わる認知心理学的知見を学びます。
第 6 回	記憶 (2)	「記憶障害」「記憶バイアス」を特にとりあげ、臨床心理学に関連する研究を概観します。
第 7 回	言語	言語に関わる認知心理学的知見を学びます。
第 8 回	思考・推論・問題解決 (1)	思考・推論・問題解決に関わる知見を学びます。
第 9 回	思考・推論・問題解決 (2)	「解釈バイアス」「推論バイアス」を特にとりあげ、臨床心理学に関連する研究を概観します。
第 10 回	認知的制御・実行機能 (1)	認知的制御や実行機能に関わる知見を学びます。
第 11 回	認知的制御・実行機能 (2)	「認知的制御の困難」や「実行機能障害」を特にとりあげ、臨床心理学に関連する研究を概観します。
第 12 回	認知と感情 (1)	認知と感情の関連に関わる知見を学びます。
第 13 回	認知と感情 (2)	「認知と感情の関連に関わる問題」を特にとりあげ、臨床心理学に関連する研究を概観します。
第 14 回	意識と行動、まとめ	意識と行動に関わる知見を学びます。また、学期中の学習内容を振り返り、認知心理学研究と臨床心理学的な実践活動のつながりについて議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ、各回の内容に関連する学部での学習をふりかえっておくなどの準備学習を行うことが望まれます。

授業後には、扱われた内容を復習することが望まれます。

学期中に 4 回、授業内容に関連する小レポートの提出を求められますので、相応の授業時間外学習が必要です。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。資料は学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期中の小レポート（4回）の結果（40％）と、平常点（60％）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

認知心理学及び関連する神経科学的側面の領域に苦手意識があるもしくは関心が薄い方々にも興味を持って受講していただけたようなので、引き続き内容・進め方を工夫していきたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】

神経心理学、認知行動病理学

【Outline and objectives】

This lecture deals with cognitive psychology.

The aims of this course are to help students acquire an understanding of cognitive functions, and to apply these findings to clinical psychological research/practice.

PSY500J2

教育心理学特論

望月 聡

科目分類・科目群：専門展開科目（基礎心理科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育心理学は、心理学の手法を用いて、教育の科学的基礎を実証的に探究し、また、その知見の教育や生活場面への応用まで考える学問です。そこには、発達、教授・学習・認知、社会、人格、臨床、特別支援、学校心理学、測定・評価・研究法などの領域があります。本授業では、教育心理学研究の全体像と動向、実践活動との関わりについて学びます。

【到達目標】

発達、教授・学習・認知、社会、人格、臨床、特別支援、学校心理学、測定・評価・研究法などの教育心理学の全体を俯瞰し、教育心理学研究の理論や手法を学び、理解します。その後特に、教育分野における臨床心理学・学校心理学・特別支援教育の実践活動・支援の展開に関して学び、研究と実践活動を接続できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式です。教育心理学会が発行している『教育心理学年報』に掲載された展望論文、『教育心理学研究』に掲載された実践研究論文を題材として、発表担当者が解説し、受講者全員でディスカッションを行います。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要を説明します。
第2回	【教育心理学の研究動向と展望(1)】	乳幼児・児童期の発達に関する研究動向を学びます。
第3回	【教育心理学の研究動向と展望(2)】	青年期以降の発達に関する研究動向を学びます。
第4回	【教育心理学の研究動向と展望(3)】	教授・学習・認知に関する研究動向を学びます。
第5回	【教育心理学の研究動向と展望(4)】	教育社会心理学に関する研究動向を学びます。
第6回	【教育心理学の研究動向と展望(5)】	パーソナリティに関する研究動向を学びます。
第7回	【教育心理学の研究動向と展望(6)】	教育臨床心理学に関する研究動向を学びます。
第8回	【教育心理学の研究動向と展望(7)】	特別支援教育に関する研究動向を学びます。
第9回	【教育心理学の研究動向と展望(8)】	学校心理学に関する研究動向を学びます。
第10回	【教育心理学の研究動向と展望(9)】	測定・評価・研究法に関する研究動向を学びます。
第11回	【教育心理学と実践活動(1)】	教育分野における臨床心理学の実践活動・支援の展開を学びます。
第12回	【教育心理学と実践活動(2)】	教育分野における学校心理学の実践活動・支援の展開を学びます。
第13回	【教育心理学と実践活動(3)】	教育分野における特別支援教育の実践活動・支援の展開を学びます。
第14回	まとめ	学習内容を振り返り、教育心理学研究と臨床心理学等の実践活動のつながりについて議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を事前に精読する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

『教育心理学年報』 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/arepj/-char/ja/>
『教育心理学研究』 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjep/-char/ja/>

【成績評価の方法と基準】

レポートの結果（40％）と平常点（60％）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教育心理学は上記の通り関口の広い学問なので、研究動向の全体像を把握しようとするとしても“広く浅く”になりがちです。各回の論文解説の後のディスカッションで内容を深めていきたいと考えます。

【担当教員の専門分野等】

神経心理学、認知行動病理学

【Outline and objectives】

This lecture deals with educational psychology.

The aims of this course are to help students acquire an understanding of educational psychological findings, and to apply these findings to clinical psychological research/practice.

PSY500J2

発達心理学特論

小山 望

科目分類・科目群：専門展開科目（基礎心理科目）

配当年次／単位数：2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯発達心理学の観点から、それぞれの発達期に起こる心理的諸問題について学ぶ。また心理的な問題に対する心理的援助についてその理論や支援方法に理解する。現在の自分の行動パターンへの気づき、援助する側と援助される側の関係はどうあるべきかを体験を通じながら学ぶ。

【到達目標】

人に援助することにおいて生涯発達臨床的な視点を持てるようになること。発達障害など非定型発達についての基礎的な理解と支援についての考えが持てること

自身の人間関係の発達や行動パターンについてロールプレイング体験をもとに気づきが得られるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献や参考書を基に発達心理上の諸問題を講義し、発達心理学上主要なテーマを取り上げて、グループディスカッションを行う。臨床的な問題をロールプレイング体験しながら、役割上とった行動から、自身の気づきを得る。役割をもとにレビューとシェアリングを行う。積極的な参加が望まれる。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	エリクソンの心理社会的発達理論（1）乳幼児期及び児童期について	エリクソンの乳幼児期及び児童期の心理発達について資料をもとにディスカッションする
第2回	エリクソンの心理社会的発達理論（2）青年期について	エリクソンの青年期の心理発達について資料をもとにディスカッションする
第3回	エリクソンの心理社会的発達理論（3）成人期以降について	エリクソンの成人期以降の心理的特徴について資料をもとにディスカッションを行う。
第4回	乳幼児期の心理的問題（1）養育者との愛着形成について	乳幼児の時期の心理的問題 愛着について事例をもとに論じる
第5回	乳幼児期の心理と問題（2）	乳幼児以降の、人間関係の発達について論じる 養育者との人間関係、子育ての問題について事例をもとに論じる
第6回	学童期の心理と問題（人間関係の発達）	学童期の人間関係の発達に関する問題について事例をもとに討論する
第7回	青年期前期の心理と問題（人間関係の発達）	青年期前期（思春期）の人間関係について討論する。思春期に特有な心理状態、親との関係、友人との関係、不登校などについて論じる
第8回	青年期後期の心理と問題（人間関係の発達）	青年期の人間関係（自立、就職）について事例をもとに討論する。アイデンティティの形成、拡散、モラトリアム、自分探しについて論じる
第9回	青年期における人間関係の発達と問題	青年期の人間関係について討論する。孤立、引きこもりについて事例をもとに論じる
第10回	成人期の心理と問題（人間関係の発達）	成人期の心理と問題（人間関係の発達） 親密性の獲得、孤立について論じる
第11回	発達障害と心理的対応1）	自閉症スペクトラム（ASD）、LD、ADHD の特別支援教育とスクールカウンセラー、担任、チーム学校について事例をもとに論じる、
第12回	発達障害とインクルーシブ教育 多様性の受容 仲間関係をつくる	発達障害児の仲間関係の支援、保護者への支援 心理支援、インクルーシブ教育の推進
第13回	ロールプレイング体験 不登校生徒との面接	不登校問題を取り上げロールプレイング体験を行う
第14回	親子問題をロールプレイング体験	親子問題をロールプレイング体験を行い、親子関係について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発達心理学の主要なテーマ・トピック（アタッチメント、自我の発達、反抗期の問題、自我同一性、引きこもり、発達障害、親子関係、仲間関係など人間関係などについて関連文献を読んでおくこと本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。適宜プリントを配布する

【参考書】

「ライフサイクルと臨床心理学」氏原寛著 金剛出版
「人間関係ハンドブック」小山望監修 福村出版

【成績評価の方法と基準】

受講中の参加度や意欲や行動（40%）提出レポートの評価（60%）の総合評価を行う

【学生の意見等からの気づき】

受講した学生がロールプレイ体験を行うことにより、自身の行動パターンに気が付き、今後の対人支援のためになったという感想があり、今年度も引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない

【その他の重要事項】

市ヶ谷校舎で集中講義を行っていますが、受講の条件は集中講義期間に出席できることが、望ましいです。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>
発達臨床、インクルージョン教育・保育、人間関係とロールプレイング、認知行動療法、集団心理療法、サイコドラマ

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline and objectives】

From the viewpoint of genetic psychology, we learn about a psychological problem in each stages of development throughout the life.

PSY500J2

社会病理学特論

久田 満

科目分類・科目群：専門展開科目（家族・社会心理科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

PSY500J2

家族心理学特論

松本 聡子

科目分類・科目群：専門展開科目（家族・社会心理科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、個人の発達と家族関係との関わりについて、心理学的視点からの包括的な理解を深めることを目的とします。特に、生涯発達における家族の変化とそれに関わる様々な要因について、文献研究を通して考察します。

【到達目標】

生涯発達における家族の変化について、多視点から理解を深めることを目標とします。また、人間発達の視点をふまえた心理学的研究に必要な手法（計画立案、実施、分析）の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は集中講義です。まず、オリエンテーションおよび概論の講義を行い、その後、家族関係や家族の発達に関連する研究論文（英文）の講読を行います。各受講生の担当を決め、担当部分の発表、およびその内容について、受講者全体で議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、講義の進め方について	本講義の概要と目的の説明、および進め方についての説明
第2回	心理学における家族に関する研究の概要	本講義で扱う内容について概観する
第3回	家族に関する研究の方法論：計画立案	家族に関する研究について、計画立案の概要を紹介する
第4回	家族に関する研究の方法論：分析手法	家族に関する研究について、分析手法の概要について紹介する
第5回	家族関係の変化とは	担当受講者による家族関係の変化に関する発表と議論を行う
第6回	家族関係の変化を捉える研究手法	担当受講者による家族関係の変化を捉える研究方法に関する発表と議論を行う
第7回	生涯発達と家族関係：概論	担当受講者による生涯発達と家族関係に関する発表と議論を行う
第8回	生涯発達における家族関係：乳幼児期	担当受講者による乳幼児期の家族関係に関する発表と議論を行う
第9回	生涯発達における家族関係：児童期	担当受講者による児童期の家族関係に関する発表と議論を行う
第10回	生涯発達における家族関係：青年期	担当受講者による青年期の家族関係に関する発表と議論を行う
第11回	生涯発達における家族関係：成人期	担当受講者による成人期の家族関係に関する発表と議論を行う
第12回	生涯発達における家族関係：老年期	担当受講者による老年期の家族関係に関する発表と議論を行う
第13回	家族関係の研究動向	担当受講者による家族関係の研究動向に関する発表と議論を行う
第14回	総合考察	発表および議論で取り上げた内容について総合的に考察し、講義全体の総括と今後の課題について議論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当部分についての発表の準備および発表資料の作成をしてください。事前の発表準備・資料作成は10時間、各日の復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談のうえ、決定します。

【参考書】

講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表・発表資料の内容と議論への参加（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果を踏まえ、それを講義に活かしていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

上記の授業計画や内容は、講義の進行や状況により変更があり得ます。

【担当教員の研究テーマ】

子どもや家族をとりまく環境について心理学的視点から研究しています。

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to acquire comprehensive understanding of how family relationship is interrelated with individual development. Life-span development of family and related factors are discussed through critically reading related articles.

PSY500J2

司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開

西田 俊男

サブタイトル：犯罪心理学特論 (2017 年度以前入学生)
 科目分類・科目群：専門展開科目 (家族・社会心理科目)
 配当年次/単位数：1・2 年次 / 2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

司法、犯罪分野に関わる理論を概観し、次に心理師としての関与の方法、再非行のリスク評価、更生のための処遇プログラムなどについて学びます。また、家事事件における基礎的な知識についても学びます。演習では、支援する側とされる側の両方の視点から助言や支援策を考えられるようにします。そして、単なる知識だけでなく、幅広くあたたかな人間理解の方法を学び、実践的な臨床家を育てます。

【到達目標】

司法、犯罪分野における諸問題に対して公認心理師の視点から支援について説明できる。また、実際の支援・実践策を構築、提供できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイントを使って進めます。事例を用いて演習形式で進め、ケース理解や支援策、心理師の支援のあり方などについても学びます。随時 DVD の視聴及び施設見学も取り入れます。

公認心理師の国家試験の設問の中から授業に関連した問題を取り上げ、解説する形で、知識を増やしていきます。また、授業の冒頭で、順番 (1 回につき、2 人) に 5 分間プレゼン (テーマは各自が選択) の練習を行い、ケースに関するプレゼン能力を高めます。そして、社会で起きている事件を取り上げ、授業の内容に絡めて考察します。毎回リアクションペーパーの提出を求め、出席カードの代わり及び講師とのコミュニケーションツールとして使い、次回必要に応じて内容を取り上げます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、非行の動機など	犯罪・非行について概説し、各事件別に統計から見た犯罪・非行の推移、実態及び主な動機・背景などをみていきます。
2	犯罪心理学の系譜 1	前回到続き非行の動機を学びます。さらに生物学的原因論、心理学的原因論について学びます。
3	犯罪心理学の系譜 2	家族理論、社会学的原因論について学びます。
4	新たな犯罪心理学	犯罪心理学分野における新たな考え方、セントラルエイト、ビッグ4、RNR モデルなど概観し、行動科学の知見の活用について学びます。さらに BPS の視点について学びます。
5	家庭裁判所の事件処理	少年法の目的、検挙から送致、家庭裁判所での事件処理の流れについて学びます。
6	家庭裁判所の調査と決定	BPS の視点について、さらに深めます。また、家庭裁判所調査官の調査と試験観察について学びます。
7	保護観察と少年院の処遇	保護観察所及び少年院での指導・助言、処遇プログラムなどについて、心理師としての関わりについて学びます。
8	成人事件と裁判員裁判制度	地方裁判所での事件処理、刑務所、裁判員裁判制度について学びます。
9	事例によるケース理解 (演習形式)	心理テストを用いた事例を用いて、なぜ事件を起こしたのか、その動機及び仮説などを班別で討議、検討し、発表します。
10	事例によるケース理解 (演習形式、その2)	引き続き同じ事例を用いて、その仮説に基づき、どのように働きかけたら良いか班別にて検討し、発表します。
11	事例によるケース理解 (演習形式、その3)	引き続き同じ事例を用いて、心理テスト (SCT と TAT) からみた理解を学びます。
12	事例によるケース理解 (演習形式、その4)	引き続き同じ事例を用いて、テスト結果のフィードバックについて学びます。

13 被害者配慮制度、司法面接と動機付け面接

被害者保護に関して、その制度、警察、検察段階での心理師としての関わりについて学びます。さらに、相談援助、非行防止に関する地域社会への情報提供について学びます。子どもから事実を聞き出すための技法である司法面接、さらに、動機付け面接について学びます。離婚による母子、父子家庭について学びます。その離婚の際の親権者決定の過程、面会交流のあり方、ハーグ条約、子の引き渡しなど心理師が関わる際の視点、実際に紛争の中に置かれた子どもの声、などについて学びます。

14 多様な家族

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業で配布した資料をもとに文献学習を行います。その学習を基礎として演習を進めていきます。各施設見学なども随時行います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

原田隆之「入門 犯罪心理学」ちくま新書
 河原俊也編「ケースから読み解く 少年事件 - 実務の技」青林書院
 他、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業態度・発表・意欲：52%
 レポート課題の提出・評価：48%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの内容に関し、随時授業で触れ、疑問点などにもこたえていきます。また、2020年度の改善意見等も参考にして授業内容を改善、工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

司法・矯正領域。特に家庭裁判所での事件処理、調査官調査と処遇について。

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline and objectives】

After studying the rough theory about justice and crime, we learn how to be concerned in delinquency as a psychologist, the risk assessment and treatment program for rehabilitation. We also acquire the basic knowledge domestic case. In class, we study advice and support measures from both viewpoints of the side to be supported and the side to be supported. This class is designed to become practical psychologist who have not only knowledge but also warm heart and learn extensive ways to understand human.

CIM500J2

精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）

関谷 秀子

サブタイトル：精神医学特論（2017年度以前入学生）
 科目分類・科目群：専門展開科目（関連専門領域科目）
 配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では公認心理士に求められる保健医療分野の実践について学ぶ。具体的にはライフサイクルと精神発達、代表的な精神疾患とその治療についての知識を習得し、保健医療分野における理論と支援について学ぶ。心理専門職に必要な精神医学的見地を身につける。

【到達目標】

人間のライフサイクルと精神発達を理解する。
 精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解する。
 代表的な精神疾患の症状・経過・診断・治療・本人や家族への支援に関する基本的知識を習得する。
 精神医療において公認心理師が担うべき役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って発表者の分担を決める。授業は発表とディスカッションの形式で行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	ライフサイクル	乳児期、幼児期、児童期、思春期青年期、初期成人期、成人期、老年期について
第3回	精神性的発達論	口唇期、肛門期、幼児性器期、潜伏期、思春期、性器統裁について
第4回	精神医学序論	精神医学の概念、精神障害の成因と分類
第5回	精神症状学	精神症状と状態像
第6回	精神障害①	統合失調症
第7回	精神障害②	気分障害
第8回	精神障害③	神経症性障害
第9回	精神障害④	パーソナリティ障害
第10回	精神障害⑤	器質性障害
第11回	精神障害⑥	物質関連精神障害
第12回	精神障害⑦	児童・思春期精神障害
第13回	精神医学的治療学①	薬物療法
第14回	精神医学的治療学②	心理療法（力動的心理療法、認知行動療法、家族療法、集団療法） 精神医療における公認心理師の役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定箇所を事前に予習し、授業で討論できるように準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

カプラン臨床精神医学テキスト（メディカルサイエンスインターナショナル）

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は授業への積極的な参加（100%）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達心理学

【Outline and objectives】

We learn about the practice of the field of medical health care required as a licensed psychologist. Specifically, we will learn the life cycle and mind development, representative psychiatric disorders and their treatments. We will learn about theory and support in the field of medical health care. We will learn the psychiatric viewpoint necessary for psychologists.

PSY500J2

福祉分野に関する理論と支援の展開

金子 真人

サブタイトル：障害者（児）心理学特論（2017年度以前入学生）

科目分類・科目群：専門展開科目（関連専門領域科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、脳の機能的障害として捉えられる発達障害が成人の高度大脳機能障害と極めて近似する症状を呈することを学ぶ。同時に、発達途上である発達障害児への対応方法を障害機序を通じた観点から理解することである。そして、発達障害などの障害を抱えた小児期から青年期へとより良い発達の支援を行うための柔軟な方法論とその有り様を福祉的な視点も交えて学ぶ。

特に、学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、発達性協調運動障害（DCD）、自閉症スペクトラム（ASD）、知的発達障害（MR）をはじめ、虐待、引きこもりなどを臨床発達神経心理学の立場から学ぶ。

また、

【到達目標】

発達障害は脳の機能的障害と考えられるが、これらの機能的障害は神経心理学や成人の高度大脳機能障害と密接な関係にある。講義では小児の障害や成人の障害といった対象領域を超えた観点から発達障害を捉える。そして、脳の機能的障害が小児と成人において共通のメカニズムで生じることを学ぶ。

また、発達障害をはじめとするさまざまな障害において早期発見が障害の予後に重要な要因となることを理解し、成人期へと発達する個がどのような転帰をたどるかを福祉的な視点から知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生の関心領域に即した講義を適宜展開していきたい。また、LDの中核である発達性読み書き障害（Dyslexia；発達性ディスレクシア）や特異的言語障害（specific language impairment; SLI）、さらにADHDやPDDなどの臨床を通して、臨床的評価法の基礎と解釈、指導法および小児言語障害全般についての知見を深めていきたい。講義では、適宜発表形式の講義も行い討議を深めていきたいと考える。参考文献および資料は適宜紹介もしくは配布する。尚、授業の展開によって、若干の変更があり得る。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の進め方
第2回	発達障害に関わる中枢神経系の基礎	中枢神経系の発達理解および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第3回	大脳の機能的障害としての発達障害	大脳の機能的障害としての発達障害理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第4回	脳機能障害としてのADHD	脳機能障害としてのADHDの理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第5回	脳機能障害としての発達性協調運動障害	脳機能障害としての発達性協調運動障害の理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第6回	学習障害の中核である発達性ディスレクシアの理解	学習障害の中核である発達性ディスレクシアの理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第7回	脳機能障害としての発達性ディスレクシアの障害機序	発達性ディスレクシアの障害機序の理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第8回	発達性ディスレクシアへの介入方法	発達性ディスレクシアの介入方法、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第9回	認知心理学から捉えたASD	ASDの理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第10回	知能検査と知的発達障害	知的障害の質的理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第11回	発達障害と虐待	発達障害に関わる虐待の理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第12回	発達障害と引きこもり	発達障害に関わる引きこもりの捉え方、および学生の関心領域ごとの発表形式講義

第13回 発達障害への介入とは、多様な発達障害と介入方法を臨床検査から考える。および学生の関心領域ごとの発表形式講義

第14回 まとめ 障害とはなにか。多様な障害の中核を捉えその予後を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発達障害に関する概略を理解しておくことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

ことばとこころの発達と障害 永井書店

よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション 永井書店

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加70%および発表形式講義の参加30%の様子から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

発達期における多様な障害を大脳機能の関わりから理解することは難しいという印象を持ちがちであるが、なるべく平易にかつ臨床に役立つ観点から話題を展開していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 臨床発達神経心理学、小児と成人の大脳機能障害、高度大脳機能障害、認知神経心理学

<研究テーマ>① 発達性読み書き障害の機序と援助、②小児と成人の大脳機能障害における情報処理過程と認知機能に関する評価・検査法の開発研究、③ 高度大脳機能障害者の長期予後と回復

<主要研究業績>①「標準抽象語理解力検査」、インテルナ出版、2017年。②「小学生の読み書きスクリーニング検査-発達性読み書き障害（発達性ディスレクシア）検出のために」インテルナ出版、2006年。③よく分かる失語症と認知リハビリテーション；Ⅳ発達障害に対する神経心理学的アプローチ、6. 発達性計算障害、8. 注意欠陥/多動性障害（ADHD）と発達性協調運動障害（DCD）。永井書店、2008年。

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline and objectives】

In this lecture, we learn that developmental disorders that are regarded as functional disorders of the brain exhibit symptoms similar to higher-order cerebral dysfunction in adults.

And we learn the fundamentals of flexible methodology for providing better support from childhood to adolescence in children with developmental disorders(LD, ASD, DCD, MR,etc).

PSY500J2

障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）

金子 真人

科目分類・科目群：専門展開科目（関連専門領域科目）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、脳の機能的障害として捉えられる発達障害が成人の高次大脳機能障害と極めて近似する症状を呈することを学ぶ。同時に、発達途上である発達障害児への対応方法を障害機序を通じた観点から理解することである。そして、発達障害などの障害を抱えた小児期から青年期へとより良い発達の支援を行うための柔軟な方法論とその有り様を福祉的な視点も交えて学ぶ。

特に、学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、発達性協調運動障害（DCD）、自閉症スペクトラム（ASD）、知的発達障害（MR）をはじめ、虐待、引きこもりなどを臨床発達神経心理学の立場から学ぶ。

また、

【到達目標】

発達障害は脳の機能的障害と考えられるが、これらの機能的障害は神経心理学や成人の高次大脳機能障害と密接な関係にある。講義では小児の障害や成人の障害といった対象領域を超えた観点から発達障害を捉える。そして、脳の機能的障害が小児と成人において共通のメカニズムで生じることを学ぶ。

また、発達障害をはじめとするさまざまな障害において早期発見が障害の予後に重要な要因となることを理解し、成人期へと発達する個がどのような転帰をたどるかを福祉的な視点から知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生の関心領域に即した講義を適宜展開していきたい。また、LDの中核である発達性読み書き障害（Dyslexia：発達性ディスレクシア）や特異的言語障害（specific language impairment; SLI）、さらに ADHD や PDD などの臨床を通して、臨床的評価法の基礎と解釈、指導法および小児言語障害全般についての知見を深めていきたい。講義では、適宜発表形式の講義も行う討議を深めていきたいと考える。参考文献および資料は適宜紹介もしくは配布する。尚、授業の展開によって、若干の変更があり得る。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の進め方
第2回	発達障害に関わる中枢神経系の基礎	中枢神経系の発達理解および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第3回	大脳の機能的障害としての発達障害	大脳の機能的障害としての発達障害理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第4回	脳機能障害としての ADHD	脳機能障害としての ADHD の理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第5回	脳機能障害としての発達性協調運動障害	脳機能障害としての発達性協調運動障害の理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第6回	学習障害の中核である発達性ディスレクシアの理解	学習障害の中核である発達性ディスレクシアの理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第7回	脳機能障害としての発達性ディスレクシアの障害機序	発達性ディスレクシアの障害機序の理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第8回	発達性ディスレクシアへの介入方法	発達性ディスレクシアの介入方法、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第9回	認知心理学から捉えた ASD	ASD の理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第10回	知能検査と知的発達障害	知的障害の質的理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第11回	発達障害と虐待	発達障害に関わる虐待の理解、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第12回	発達障害と引きこもり	発達障害に関わる引きこもりの捉え方、および学生の関心領域ごとの発表形式講義
第13回	発達障害への介入とは、	多様な発達障害と介入方法を臨床検査から考える。および学生の関心領域ごとの発表形式講義

第14回 まとめ

障害とはなにか。多様な障害の中核を捉えその予後を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発達障害に関する概略を理解しておくことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

ことばとこころの発達と障害 永井書店

よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション 永井書店

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 70%および発表形式講義の参加 30%の様子から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

発達期における多様な障害を大脳機能徒の関わりから理解することは難しいという印象を持ちがちであるが、なるべく平易にかつ臨床に役立つ観点から話題を展開していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 臨床発達神経心理学、小児と成人の大脳機能障害、高次脳機能障害、認知神経心理学

<研究テーマ>① 発達性読み書き障害の機序と援助、②小児と成人の大脳機能障害における情報処理過程と認知機能に関する評価・検査法の開発研究、③高次大脳機能障害者の長期予後と回復

<主要研究業績>①「標準抽象語理解力検査」、インテルナ出版、2017年。

②「小学生の読み書きスクリーニング検査-発達性読み書き障害（発達性ディスレクシア）検出のために」インテルナ出版、2006年。

③よく分かる失語症と認知リハビリテーション；IV発達障害に対する神経心理学的アプローチ、6. 発達性計算障害、8. 注意欠陥/多動性障害（ADHD）と発達性協調運動障害（DCD）、永井書店、2008年。

④「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2017年。

⑤「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑥「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑦「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑧「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑨「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑩「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑪「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑫「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑬「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑭「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑮「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑯「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑰「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑱「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑲「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

⑳「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉑「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉒「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉓「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉔「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉕「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉖「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉗「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉘「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉙「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉚「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉛「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉜「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉝「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉞「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㉟「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊱「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊲「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊳「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊴「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊵「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊶「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊷「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊸「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊹「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊺「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊻「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊼「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊽「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊾「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

㊿「発達性読み書き障害の機序と援助」、インテルナ出版、2006年。

PSY500J2

産業・労働分野に関する理論と支援の展開

梅澤 志乃

サブタイトル：産業メンタルヘルス特論

科目分類・科目群：専門展開科目（関連専門領域科目）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、勤労者のメンタルヘルス問題を予防・軽減するために有益な知識・スキルを習得する。

【到達目標】

産業・労働分野で活躍し得る心理職を目指す。しかしながら産業・労働分野は、心理職の職域としては対応範囲が広く、また就労形態によっても役割が異なる等、難易度が高いといえる。そこで、現場に必要な知識やキーワードを少なくとも「知っている」状態にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

産業・労働分野の心理職には精神医学の基礎知識を必須として、インターベンション、コンサルテーション等、幅広い知識・スキルが必要となる。そこで適宜、現場のゲスト講師を交えて事例検討・演習等実践的な内容を多く盛り込む。

なお、状況によって内容や方法が変更になる可能性はあるが、その場合も到達目標は維持する。課題等の提出やフィードバックは、原則授業支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義への期待ヒアリングと産業領域で求められる力	自己紹介と今後のすすめ方のオリエンテーション、また産業領域全体を概観して心理職に必要とされるコンピテンシーを把握する
第 2 回	メンタルヘルス対策の動向とトレンド	産業動向を踏まえ、関連する労働衛生法規・指針を押さえると同時に直近の法定労働衛生を把握する
第 3 回	EAP 概論	近年、多くの臨床心理士雇用を創出している EAP について紹介
第 4 回	【相談の実際】概観	人間関係・過重労働を発端としたうつ病、ハラスメントなどの事例を紹介
第 5 回	【相談の実際】産業・労働分野に多い精神疾患	うつ病、適応障害、アルコール依存など、勤労者のメンタルヘルス不調の概要を、EAP の成り立ちでもあるアディクション観点を含めて学ぶ
第 6 回	【相談の実際】メール相談回答コンテスト	同一のメール相談に対して全員が回答を持ち寄り、コンテスト形式で自分のスタイルを把握するとともに他者のスタイルやポキャプラーを学ぶ
第 7 回	【相談の実際】メール相談を通じた説明性の向上	メールでの相談対応で特に重要な言語的説明について実践しながら学ぶ
第 8 回	【相談の実際】職場復帰支援の流れ	メンタルヘルス問題による休職者の職場復帰支援策について学ぶ
第 9 回	【相談の実際】マネジメント・コンサルテーション	産業臨床の醍醐味、EAP の存在価値ともいえるコンサルテーション法について学ぶ
第 10 回	【相談の実際】キャリア・カウンセリング	産業労働分野で持つべき視点、キャリアカウンセリングについて学ぶ
第 11 回	【相談の実際】CISM・緊急事態のポストベンション	職場で自殺、事故、災害が発生した場合の事後対応について学ぶ
第 12 回	研修プレゼンテーションスキル	傾聴や相談の受容だけでなく、説明性を以って「分かりやすく」「伝える」技術を学ぶ
第 13 回	組織への対応	レポートやストレスチェック制度の概要、その活用方法について学ぶ
第 14 回	演習	事例検討を通じて、講義全体で理解してきた知識を有機的に連動し活用するイメージを持つ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回講義までに、ニュースや新聞等を読む、あるいは近親者にヒアリングするなどして、【働く人のメンタルヘルス問題】に関して気になる話題、トピックの一つ見つけておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストなどは使用しない。講義で使用する資料は講義毎に配布、または知らせる。

【参考書】

「メンタルヘルス・マネジメント検定試験マスターコース公式テキスト」大阪商工会議所編（中央経済社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（80％）＋期末レポート（20％）

【学生の意見等からの気づき】

実技やディスカッション、質疑の時間を充実させるよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】

昨今の事情を鑑み、オンライン授業になることも想定して wifi など通信環境の準備をしておくこと。

【担当教員の専門分野等】

企業メンタルヘルス対策、EAP、産業カウンセリング、臨床心理学

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline and objectives】

In this lecture, students are required to acquire useful knowledge and skills to improve mental health of workers.

SOW500J2

児童福祉特論

岩田 美香

科目分類・科目群：専門展開科目（関連専門領域科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもにとって家族は、安寧と権利を保障される場であると同時に、ストレスをもたらすような権利侵害の場としても存在している。この講義では、文献の検討を通して、広く社会構造の中で子ども・家族をとらえ直し、その求められる役割と機能等について社会福祉の立場から考察を深める。あわせて、子どもと家族への援助についての検討を行う。

【到達目標】

- ・子どもと家族がおかれている現状を把握する。
- ・子ども家庭福祉、教育、それらに関連する研究論文を読み解く。
- ・子どもと家族に対するソーシャルワークおよび教育に関して、学際的な検討を行う。
- ・履修者の研究関心と照らし合わせ、批判的意見も含めて検討する。
- ・議論の積み重ねを各自の研究にフィードバックしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・上記の到達目標を達成するため、本年度は、親子関係と子育てに関する文献を題材として、各自の研究関心との関連で議論していく。
- ・履修者は、自身の研究関心をもとに、全員が文献に関する論点を書き出したペーパーを毎回用意し、それをもとに議論を進めていく。
- ・各自の研究について発表し、様々な領域や視点からの検討を行う。
- ・授業の最後に、課題についての講評を行い、フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、各自の問題関心についての発表
第2回	「育児の社会化」の再構想	実施主義と「ハイブリッドな親子関係」、何が育児の社会化を阻むのか
第3回	代理出産における親子・血縁	代理出産の歴史、他人の受精卵、棄てられる子ども、ゲイカップルの依頼者
第4回	個人研究発表1	各自の研究関心について発表し議論する（2名）
第5回	特別養子制度の立法過程からみる親子観	戸籍の記載をめぐる議論、実親子の法律関係をめぐる議論、「実親子」と「血縁」をめぐるポリティックス
第6回	「家族」のリスクと里親養育	里親制度の変遷、被支援者としての「里親」の構築、「普通の家族」というフィクション
第7回	個人研究発表2	各自の研究関心について発表し議論する（2名）
第8回	「施設養護」での育児規範の「理想形の上昇」	戦後における乳児院と児童養護施設の増加、1960年代後半から70年代前半の「新しい児童問題」の興隆
第9回	<ハイブリッド>性からみる「ハイブリッドな親子」のゆくえ	「親子」の要素の分節・接合と解釈の政治、親子の序列化
第10回	個人研究発表3	各自の研究関心について発表し議論する（2名）
第11回	子育ての脱家族化をめぐる「家庭」ロジックの検討	施設養護と家庭的養護との優劣をめぐる論争、「家庭化」への収斂の背景
第12回	社会的養護施策の推進における家庭的養護観の検討	子ども家庭福祉における家庭養護観、家族社会学研究における家庭養護観、家庭的養護志向の今後
第13回	個人研究発表4	各自の研究関心について発表し議論する（2名）
第14回	総括	全体を通してのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に文献を読み、自身の研究関心をもとにテーマに関する論点を書き出したペーパーを毎回用意すること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

野辺陽子・松木洋人・日比野由利・和泉広恵・土屋敦（2016）『<ハイブリッドな親子>の社会学—血縁・家族へのこだわりを解きほぐす』青弓社

【参考書】

・藤間公太（2013）「子育ての脱家族化をめぐる『家庭』ロジックの検討—社会的養護に関する議論を手がかりに—」『家族福祉研究』No.38、91-107。
 ・武石卓也・山縣文治（2020）「社会的養護施策の推進における家庭的養護観の検討：家族社会学科らの批判を踏まえ」『人間健康学研究』13巻、97-108。
 他は、履修者の関心に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内発表と討論参加（30%）、課題の提出（30%）、最終レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野】

〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論
 〈研究テーマ〉

1. 子育て・子育ての社会的不平等
2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline and objectives】

This course will examine the major issues of children and their families in a social context.

SOW500J2

高齢者福祉特論

中村 律子

科目分類・科目群：専門展開科目（関連専門領域科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、高齢者福祉関連分野の研究をとおして、老いやケアをめぐる諸説を整理し、その特質を理解する。さらには、高齢者福祉研究方法論の再構築を試みる。

【到達目標】

高齢者福祉論、老いの文化論、老年社会学などに関する研究論文や実践事例を分析検討し、高齢者福祉研究のあり方を展望することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の講義テーマにしたがって、具体的な現実（生きる場としての地域と高齢者の生活世界）のなかから、高齢者福祉研究のあり方（老いと近代社会論、高齢期と家族、社会的ネットワーク、老いとケア）を考察する。また、老いの文化論に関する文献を取り上げ、高齢者福祉研究の議論を深めていくことが狙いである。そのため、授業内発表やディスカッションなどを取り入れる。また、リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し議論に活かします。課題提出へのフィードバックについては学習支援システムへ展開します。なお、方法授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容及びスケジュールの説明、研究テーマの紹介
第2回	老いと近代化論①	社会福祉学の代表的な文献整理
第3回	老いと近代化論②	人類学、民俗学、社会学の文献整理
第4回	アイデンティティ論	老年心理学、老年精神学、ライフサイクル論、宗教論などの文献整理
第5回	高齢社会と高齢者の社会適応、生きがい①	家族や地域の視点で、高齢者の社会活動や生きがいに関する先行研究（人類学、民俗学、社会学の文献を参考）を整理し議論する
第6回	高齢社会と高齢者の社会適応、生きがい②	現代社会における職業、人間関係、社会関係との関連で、生きがいに関する先行研究（統計学、社会学、社会福祉学の文献を参考）を整理し議論する
第7回	高齢者をとりまく福祉・医療・ケアについて	福祉・医療・ケアに関する諸制度の現状と課題を整理する
第8回	高齢者をとりまく福祉的支援論について	生活困難事例から専門的援助・支援のあり方を検討する
第9回	高齢者福祉制度政策研究①	日本における高齢者福祉制度政策の歴史的な流れを検討する
第10回	高齢者福祉制度政策研究②	近年の高齢者福祉制度政策の発展と課題を、公・共・私の組織論や制度論を中心に検討する
第11回	国際比較（諸外国の高齢者福祉の実際から学ぶ）①	北欧の高齢者福祉の現状、特徴を整理し、これからの高齢者福祉を展望する
第12回	国際比較（諸外国の高齢者福祉の実際から学ぶ）②	アジアの高齢者福祉の現状、特徴を整理し、これからの高齢者福祉を展望する
第13回	国際比較研究方法論の再検討	諸外国と日本の比較研究と日本の高齢者福祉を展望する
第14回	まとめ	高齢者福祉研究方法論の再構築と研究課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高齢者福祉に限らず、人類学、社会学の領域で取り上げられている「高齢者」に関する文献を検索し、老いやケアの研究に関する視角ならびに、実社会の中から問題の背景、特質などを整理する。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介します。受講者と相談のうえ、決定します。

【参考書】

田多英範（2018）『厚生（労働）白書』を読む：社会問題の変遷をどう捉えたか？ ミネルヴァ書房、上野千鶴子他編（2008）『ケアその思想と実践』岩波書店など、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加姿勢（70%）、課題レポート（30%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：社会福祉学、高齢者福祉、地域福祉

主要業績：

- ・『東アジアの高齢者ケア：国・地域・家族のゆくえ』（共著、東信堂、2018年）
- ・『介護サービスへのアクセスの問題——介護保険制度における利用者調査・分析』（単著、明石書店、2014年）
- ・『利用者からみた介護サービスへのアクセス時の困難』『社会福祉学』（単著、53（3）、2012年）

【Outline and objectives】

This lecture aims at understanding the natures of the various theories regarding aging through researched documents on the welfare for the aged and other related fields. Moreover, we will try re-structuring of research methods concerning the welfare system for the aged.

PSY500J2

教育分野に関する理論と支援の展開

谷 由紀子

サブタイトル：学校臨床心理学特論 (2017 年度以前入学生)

科目分類・科目群：専門展開科目 (専門技能科目)

配当年次/単位数：1・2 年次 / 2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- ・学校という組織の中で心理専門職が担う役割について説明します。
- ・学校現場で求められる専門的な知識やスキルを習得することを目的とします。

【到達目標】

自分自身の個性や特徴を踏まえながら、チーム学校の一員である心理専門職としてどのように貢献するか、自分なりのイメージを描けるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員と学生間で、学生同士でも質問や意見が飛び交うような活発な時間を一緒に作りましょう。事例をもとに小グループで話し合う、発表する、感じたことを伝えあう、ロールプレイをするなどの機会を作っていきます。相互コミュニケーションを重視するため、開講前の行動制限レベルの状況を踏まえて、オンラインによる実施か対面授業で実施するかを判断します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的、進め方を説明します。この授業に期待すること、これまで身に付けたことなどを中心に自己紹介します。
第 2 回	聴く力と自己理解度、アセスメント力、今の私の自己評価	相談者とカウンセラーのロールプレイを通してお互いをアセスメントし合います。自分は他者からどのような印象をもたれるのか、その根拠は何かを理解します。
第 3 回	学校における心理専門職の役割	自分が学校についてどういうイメージや印象をもっているか明らかにします。学校組織や風土を理解し、教師とは異なるスクールカウンセラーの役割を考えます。
第 4 回	学校組織のアセスメント	事例をもとに、スクールカウンセラーとして必要な情報を収集し、学校組織をアセスメントします。
第 5 回	スクールカウンセリングの活動計画	アセスメントから得られた情報を用いて学校の現状を把握し、その学校に必要な支援活動計画を作ります。
第 6 回	発達の特徴と支援	事例をもとに、発達の特徴をもった児童・生徒への支援を考えます。
第 7 回	愛着障害の支援	発達の問題と見極めが難しい、愛着の問題を抱えているケースの対応事例をもとに支援の方法を考えます。
第 8 回	いじめ	いじめの予防と対応について考えます。
第 9 回	不登校	不登校の実態や現状を説明します。その上で事例をもとに不登校の対応について考えます。
第 10 回	虐待	学校で虐待を把握した際の対応や他機関との連携のあり方を考えます。
第 11 回	当事者の話	当事者の話をもとに、様々なニーズがある中で、心理職として「どうあるべきか」、「どうありたいか」を考えます。
第 12 回	コンサルテーション	教師役、スクールカウンセラー役に分かれてコンサルテーションのロールプレイを体験します。教師がわかりやすく、納得するコンサルテーションのあり方について考えます。
第 13 回	成長や変化への気付き	参加者同士で 1 日目との変化や違いがあれば伝えあいます。自己評価します。
第 14 回	まとめ	疑問、質問、感想を自由に発言しあいます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

スクールカウンセリング、学校心理学の著書を 1 冊は読んでおいてください。できれば、学校で相談活動に従事しておられる方にインタビューして、学校のイメージづくりをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書としては使いません。

【参考書】

「近藤邦夫論考集 学校臨床心理学への歩み—子供たちとの出会い、教師たちとの出会い」 近藤邦夫著 福村出版
 「発達障害 生きづらさを抱える少数派の「種族」たち」 本田秀夫著 SB 新書
 「子どもの脳を傷つける親たち」 友田明美 NHK 出版新書

【成績評価の方法と基準】

自己分析レポート 40%

第 2 回と第 12 回のロールプレイの自己分析の質。自己理解は深まったか。授業全般についての意見の発表 30%

第 1 回と第 14 回の全体への表現。わかり易いか、変化はみえるか。

平常点 30%

ファシリテートするセンスがあるか。積極的に興味をもってこの場やテーマにかかわれたか。

【学生の意見等からの気づき】

前年度も好評であった、ケースや当事者の体験談など、現場の感覚を捉える機会を豊富にもちながら、相互の議論を深めていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【担当教員の専門分野等】

学校臨床

キャリアカウンセリング

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline and objectives】

- ・ This class focuses on defining roles of school counselor as a professional psychologist in a school organization.
- ・ The purpose of this class is to get the specialized knowledge and skills required in a school field.

PSY500J2

グループ・アプローチ特論

大竹 直子

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グループ・アプローチの発展、グループ・アプローチの意味、形態、適用、理論を概観した上で、臨床場面における治療的グループ・アプローチ、教育的グループ・アプローチ、成長傾向のグループ・アプローチの意義と実際に学習するとともに、体験的に理解を深めます。

【到達目標】

グループ・アプローチへの理解を深めるとともに、あらためて自己理解を深め、人間理解を深め、グループ・ファシリテーターとして必要な視点や態度を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

概要

グループ・アプローチの理論

グループ・アプローチの実践

グループ体験

グループ・ファシリテーターの役割

方法

講義

演習（グループ体験）

※秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

課題に対しては、授業内や学習支援システム等を活用してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の計画、ねらい、進め方など
2	グループ・アプローチの理論	講義①
3	治療的グループ・アプローチ（1）	講義②
4	治療的グループ・アプローチ（2）	講義③
5	グループ体験（1）	演習①
6	教育的グループ・アプローチ（1）	講義④と演習②
7	教育的グループ・アプローチ（2）	講義⑤と演習③
8	ベーシック・エンカウンター・グループ	講義⑥とVTR①
9	成長傾向のグループ・アプローチ（1）	演習④
10	グループ・アプローチの構造・内容・対象	講義⑦とディスカッション①
11	グループ・ファシリテーターの役割	講義⑧とディスカッション②
12	グループ体験（1）	演習⑤
13	グループ体験（2）	演習⑥
14	まとめ	講義⑨とディスカッション③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ベーシック・エンカウンター・グループなどの集中的グループに参加することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

講義の中で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、討論への参加 40%、期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

授業では、グループアプローチを体験的に理解するために、グループワーク、ディスカッションなどを多く取り入れています。「グループで話し合うことで、さまざまな視点で理解することができた」「自分と向き合う機会になった」などのフィードバックをいただきました。

授業内の限られた時間と空間の中ですが、皆さんに、安心してグループ体験をしていただけるよう工夫をしていきたいと考えております。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> カウンセリング、グループ・アプローチ

<研究テーマ> 主体性の回復、自己表現支援、教師・保育士のサポートグループなど

<主要研究業績>

①『やさしく学べる保育カウンセリング』（金子書房、2014年8月）

②『自己表現ワークシート』『自己表現ワークシート2』（図書文化社、2005年3月、2008年6月）

③『祈りと心理療法』『最新トランスパーソナル心理技法』（コスモスライブラリー、2015）ほか

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline and objectives】

After reviewing the development of group approaches and the meaning, forms, application and theory of group approaches, we will learn the significance and practicality of group approaches and deepen understanding experientially.

PSY500J2

臨床心理地域援助特論

久田 満

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

PSY500J2

投映法特論

北村 麻紀子

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：2 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

投映法の代表的な心理検査であるロールシャッハ・テストについて、基本的理解、施行方法、解釈の仕方について学ぶ。ロールシャッハ法は片口式、解釈は精神力動的な理解に基づく。

【到達目標】

ロールシャッハにおける量的分析と継起分析による解釈について、具体的に、体験的に学ぶとともに、他のテスト・バッテリーを加えて、より全体的で総合的な心理アセスメントについて学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストは各自が予め講読し、ロールシャッハ（片口法）の基本的構造や概念、施行方法、結果の整理の仕方などについて概要を把握しておいてもらいたい。授業では精神力動的な観点から心理アセスメントの実際について、演習の形式で学習する。課題に対しては、授業内や学習支援システム等を活用してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	心理アセスメント	心理検査の構造、投映法
第2回	ロールシャッハ・テスト	ロールシャッハ・テストの成り立ちと臨床的意義
第3回	施行法	ロールシャッハ・テストの施行法とテスト状況
第4回	スコアリングの概要	スコアリングの方法
第5回	スコアリングと集計①	スコアリングの演習
第6回	スコアリングと集計②	スコアリングの演習
第7回	スコアリングと集計③	結果の整理の仕方
第8回	スコアの意味と解釈	量的分析の解釈法
第9回	量的分析	量的分析の演習
第10回	継起分析による解釈	継起分析の解釈法
第11回	継起分析	継起分析の演習
第12回	テストバッテリー	総合的解釈
第13回	パーソナリティと精神病	パーソナリティ傾向の理解
	理の理解①	
第14回	パーソナリティと精神病	精神病理の理解
	理の理解②	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを予め読み、片口法の概要や記号の意味、結果の整理の仕方について予習しておいてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

片口安史著「新・心理診断法」金子書房

【参考書】

随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート50%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ロールシャッハ図版

【担当教員の専門分野等】

臨床心理学

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline and objectives】

Katakuchi method and sequence analysis of the Rorschach test in Japanese.

PSY500J2

心の健康教育に関する理論と実践

金築 優

サブタイトル：カウンセリング特論（2017年度以前入学生）

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理専門職の専門業務として、心の健康教育の実践の重要性が高まっています。本講義では、心の健康教育としての、心理教育やグループアプローチを重視し、その理論（主に認知行動療法の理論）を学びます。そして、役割演技を通して、心の健康教育の実践のためのスキルを向上させることを目的とします。

【到達目標】

心の健康教育に関する理論を理解し、実践に必要なスキルを身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

心の健康教育に関する理論に関しては、資料を講読した上で、ディスカッションをし、理解を深めます。心の健康教育に関する実践に関しては、グループに分かれ、役割演技を通して、実践に必要なスキルを学びます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方について話し合います。
第2回	心の健康教育に関する理論①	健康の捉え方についてディスカッションします。
第3回	心の健康教育に関する理論②	予防的アプローチについてディスカッションします。
第4回	心の健康教育に関する理論③	行動論的アプローチについてディスカッションします。
第5回	心の健康教育に関する理論④	認知論的アプローチについてディスカッションします。
第6回	心の健康教育に関する理論⑤	身体的アプローチについてディスカッションします。
第7回	心の健康教育に関する実践①	グループによる心理教育の実施の役割演技を通して学びます。
第8回	心の健康教育に関する実践②	グループによる社会的スキル訓練の実施の役割演技を通して学びます。
第9回	心の健康教育に関する実践③	グループによるリラクゼーション技法の実施の役割演技を通して学びます。
第10回	心の健康教育に関する実践④	グループによる認知療法の実施の役割演技を通して学びます①。
第11回	心の健康教育に関する実践⑤	グループによる認知療法の実施の役割演技を通して学びます②。
第12回	心の健康教育に関する実践⑥	グループによるマインドフルネス技法の実施の役割演技を通して学びます①。
第13回	心の健康教育に関する実践⑦	グループによるマインドフルネス技法の実施の役割演技を通して学びます②。
第14回	まとめ	これまでの講義を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を熟読し、感想や疑問点を明確にした上で、ディスカッションに臨むことを求めます。また、グループによる心の健康教育の実施の役割演技について、事前に相当分の準備が必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）とレポート（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

役割演技を用いて学ぶ機会を増やす予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

主に学校・教育領域において、認知行動療法の実践と研究をしています。

【Outline and objectives】

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to mental health education. This course will provide training in psychological education, relaxation techniques, social skills training, and cognitive therapy.

PSY500J2

力動的心理療法特論

中 康

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

力動的心理療法の基本を学ぶ。

【到達目標】

力動的心理療法の治療過程について学ぶ。

治療者－患者間の治療契約を基軸として、治療契約、退行、抵抗、防衛、転移と逆転移、解釈、治療の終結について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書または論文をあらかじめ指定し、発表の分担を決める。授業は発表とディスカッションの形式で行う。発表の内容やディスカッションでの発言について、毎回の授業の中でフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題に対しては、授業内や学習支援システム等を活用してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と進め方を説明し、各回の担当者を決める。
第2回	歴史的概説	力動的心理療法の歴史について
第3回	力動的心理療法のすすめ方	アセスメントと治療計画について
第4回	治療契約	治療構造、治療契約、料金
第5回	退行①	治療的退行、その形態
第6回	退行②	事例検討
第7回	転移と逆転移①	転移の概念、分析状況と転移、入院精神療法における転移、逆転移、中立性、倫理
第8回	転移と逆転移②	事例検討
第9回	抵抗①	抵抗の形式、抵抗の扱い方
第10回	抵抗②	事例検討
第11回	解釈技法①	転移解釈と洞察
第12回	解釈技法②	事例検討
第13回	治療の終結①	終結に関する原則、別れ
第14回	治療の終結②	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業テーマについて事前に予習し、討論できるように準備をしておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

フロイト著作集（人文書院）またはフロイト全集（岩波書店）
カール・メニンガー：精神分析技法論（岩崎学術出版社）

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業での話し合いや質疑への積極的な参加や、理解度に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合は、パソコンを使用し zoom を用いて授業を行う。

【担当教員の専門分野】

精神分析的精神療法、思春期青年期精神医学

【Outline and objectives】

We will learn the fundamentals of the psychodynamic psychotherapy.

PSY500J2

比較心理療法特論

長山 恵一

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

精神分析的精神療法、森田療法、内観療法の構造や技法について学ぶとともに、それら心理療法の基本に通底する心理療法としての基本原理を治療構造や技法、あるいは治療者・患者関係の3側面から理解する。

【到達目標】

精神分析的精神療法、森田療法、内観療法の構造や技法、それらの心理療法に通底する心理療法の基本原理や治療構造、技法、治療者・患者関係を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的かつ実践的な臨床上のポイントに焦点をあてながら、精神分析的精神療法、森田療法、内観療法の本質を理解できるよう授業を進めていく。オンラインでの開講となった場合、それにとまなう各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度お知らせします。課題等のフィードバックは学習支援システムを通して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	半年の授業の進め方	授業の進め方とテキストの説明
第2回	心理療法の治療者・患者関係の基本原則	心理療法の治療者患者関係の共通原理を理解する
第3回	心理療法の治療構造の基本原則	心理療法の構造についてその共通する原理や要素を臨床的に理解する
第4回	心理療法における「禁欲」の普遍的意味合いについて	心理療法に共通する「禁欲」規則の原理や治療機能を臨床的に理解する
第5回	精神分析精神療法と森田療法の比較理解(1)	精神分析的精神療法と森田療法を全般的に比較しながら理解する
第6回	精神分析精神療法と森田療法の比較理解(2)	精神分析的精神療法と森田療法を治療構造に関連させながら比較して理解する
第7回	精神分析精神療法と森田療法の比較理解(3)	精神分析的精神療法と森田療法を治療抵抗と関係させながら比較して理解する。
第8回	精神分析精神療法と森田療法の比較理解(4)	精神分析的精神療法と森田療法を治療抵抗と関係させながら比較して理解する。
第9回	精神分析精神療法と森田療法の比較理解(5)	精神分析的精神療法と森田療法を「禁欲」規則と関係させながら比較して理解する。
第10回	内観療法について理解する(1)	内観療法の概要を理解する。
第11回	内観療法について理解する(2)	内観療法の治療構造を理解する。
第12回	内観療法について理解する(3)	内観療法の「禁欲」原理を理解する。
第13回	内観療法について理解する(4)	内観療法の抵抗について理解する。
第14回	内観療法について理解する(5)	内観療法の洞察過程を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義予定の部分についてのテキストは事前に精読しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1)『対話精神療法の初心者への手引き』平成9年刊、神田橋條治著、花クリニク神田橋研究会 電話 0492-46-1065 FAX03-3375-6035 で購入してください(500円程度)
(2)『内省心理療法入門』光元和憲著、山王出版、1997 2700円程度

【参考書】

『内観法－実践の仕組みと理論』長山・清水著、日本評論社（2006）
『森田療法と精神分析的精神療法』北西・皆川・三宅・長山・豊原・橋本著、誠信書房（2008）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度等）にて成績を評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度の授業改善アンケートは現在集計中であり、そこで得られた意見や知見をもとに今後の授業改善のための工夫を行っていききたい。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、上記の授業計画は若干の変更があり得ます。

【担当教員の専門分野】

比較精神療法、精神医学

【Outline and objectives】

In this course, students will gain psychotherapeutic interview knowledge and techniques that are applicable in clinical practice.

PSY500J2

心理臨床演習

丹羽 郁夫

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもの心理療法に関する基本的な理論と技法、そして実際に学ぶこと。

【到達目標】

子どもの心理療法において何が起きているかの基本的な理解ができ、どのように対応したらよいかのおおよその見当がつくようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に、教員が子どもの心理療法の導入をおこなった後、子どもの心理療法に関する事例を読み、検討する。最後に、子どもの心理療法の歴史、理論、技法などをより詳細に講義し、セラピストが対応に困る場面をロールプレイを通して実践的に検討する。また課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容と進め方の説明
第2回	子どもの心理療法の基礎	子どもの心理療法の基本事項について講義
第3回	子どもの心理療法の事例を読む①	虐待事例（前半）
第4回	子どもの心理療法の事例を読む②	虐待事例（後半）
第5回	子どもの心理療法の事例を読む③	別の虐待事例（前半）
第6回	子どもの心理療法の事例を読む④	別の虐待事例（後半）
第7回	子どもの心理療法の事例を読む⑤	PTSDの事例（後半）
第8回	子どもの心理療法の事例を読む⑥	PTSDの事例（後半）
第9回	箱庭療法	箱庭療法の体験と講義
第10回	子どもの心理療法の事例を読む⑦	箱庭療法の事例（前半）
第11回	子どもの心理療法の事例を読む⑧	箱庭療法の事例（後半）
第12回	子どもの心理療法の歴史と理論、技法	子どもの心理療法の歴史と理論、技法の講義
第13回	子ども中心プレイセラピー	子ども中心プレイセラピーの技法を中心に学ぶ
第14回	子どもの心理療法における困る場面への対応	ロールプレイなどを用いて検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の前に事例を読み、疑問点を整理しておくことが求められます。演習後は、事例を読み返し、演習での教員や仲間からのコメントなどを振り返ることで、事例をより豊かに理解できるようになることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。心理臨床の研究雑誌に掲載されている子どもの心理療法の事例を用いる。

【参考書】

授業の中で、適宜、参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

事例検討への参加（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度はアンケートを実施しておりません。

【担当教員の専門領域】

臨床心理学（子どもの心理療法、D.W. ウィニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）
<主要研究業績>

『最初の児童分析家ヘルミーネ・フーカー・ヘルムートの児童分析の技法について』（単著、現代福祉研究 14、2014年）

『D.W. ウィニコットの「ビグル」に関する海外文献の概観－ビグルの症状をめぐる背景要因に焦点を当てて－』（単著、現代福祉研究 11、2011年）

【Outline and objectives】

Students will learn basic theories, techniques and practices related to children's psychotherapy.

PSY500J2

家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践

久田 満

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、家族や地域社会といった人間集団に対する心理支援に関する諸理論と、それらを基にした心理学的援助実践について体系的に学ぶ。はじめに人間集団として最も身近な「家族」に焦点を当て、家族関係がもたらす精神病理を理解し、家族療法などの心理支援の実践を学ぶ。続いて、家族を取り巻く人間集団としての「地域社会」における心理支援の在り方を、主としてコミュニティ心理学の考え方を基に学んでいく。

【到達目標】

・家族関係がもたらす精神病理に関する理論的理解を深め、心理学的支援の方法を習得する。
・コミュニティ心理学の基本的な考え方を理解し、学校コミュニティや地域社会での心理学的支援の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とするが、適宜、授業内での発表や受講者とのディスカッションを取り入れる。数回のリアクションペーパーを課し、その内容についても授業内に取り上げる。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標、授業内容、成績評価方法、参考文献の紹介
第2回	家族とは何か	近年における家族形態の多様化と家族機能の変化
第3回	親子関係	親の態度や価値観が子どもの成長に及ぼす影響
第4回	きょうだい関係	きょうだい関係が子どもの成長に及ぼす影響
第5回	家族療法	各種家族療法の実践
第6回	コミュニティとは	学校や地域社会などのコミュニティが担う役割
第7回	コミュニティ心理学	コミュニティ心理学の基本的考え方
第8回	予防の概念	一次予防、二次予防、三次予防の考え方と具体例
第9回	危機介入	危機介入の理論と実際
第10回	コンサルテーション	学校コンサルテーションの理論と実際
第11回	ソーシャルサポート	ソーシャルサポートの概念と機能
第12回	自助グループ	地域社会における自助グループの役割
第13回	エンパワメント	個人のエンパワメントと集団・コミュニティのエンパワメント
第14回	他職種との協働（コラボレーション）	協働の今日的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業内容に関連する書籍や論文を読んでおき、授業内での発表（プレゼン）の準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への能動的参加（50%）、発表（25%）、リアクションペーパー（25%）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業では、教員と受講生とのディスカッションの時間を十分に確保できなかった。本年は、教員からの解説は最小限に留めて、できる限り受講生の考えを取り入れるよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

初回の授業に必ず出席すること。

【担当教員の専門分野等】

臨床心理学、コミュニティ心理学、災害心理学

【オフィスアワー】

授業の開始前または授業後に質問・相談を受け付けます。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to understand some theories of psychological support for a group or system of human being such as family and community. First, we learn the theories and skills of family therapy. Then we focus on so called community approach to solve psychological problems in communities.

PSY500J2

医療心理学特論

久保田 幹子

科目分類・科目群：専門展開科目（専門技能科目）

配当年次／単位数：1・2年次／2単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療現場における心理学的アプローチ、心理臨床家の姿勢、役割について学ぶ。

【到達目標】

医療現場における心理臨床家の姿勢・役割を理解するとともに、現場に必要な精神医学的知識、幾つかの心理療法の理論と具体的な介入の仕方について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

心理臨床家に必要な姿勢、医療現場における心理臨床家の役割について、文献を通して学ぶ。

また上記のテーマについて、ディスカッションを通して問題意識や理解を深めていく。

医療現場における心理学的アプローチについて、グループ発表を行い、幅広い知識を身につける。

なお、課題等の提出・フィードバックは授業内、もしくは「学習支援システム」を通じて行う予定です。また各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション、グループ発表の内容確認とスケジュール決め
第2回	医療現場における心理臨床家の役割	いくつかの論文を読みながら、医療現場における心理臨床家の役割について学ぶ。
第3回	医療現場における心理臨床家の姿勢①	医療現場における心理臨床家の役割について、過去の文献・研究を通して理解を深める。
第4回	医療現場における心理臨床家の姿勢②	グループ発表とディスカッション
第5回	患者の抱える問題を心理学的に理解し、その援助について学ぶ①	関心のある疾患を選択し、グループ発表、ディスカッション（例：不安障害）
第6回	患者の抱える問題を心理学的に理解し、その援助について学ぶ②	関心のある疾患を選択し、グループ発表、ディスカッション（例：うつ病）
第7回	患者の抱える問題を心理学的に理解し、その援助について学ぶ③	関心のある疾患を選択し、グループ発表、ディスカッション（例：パーソナリティ障害）
第8回	患者の抱える問題を心理学的に理解し、その援助について学ぶ④	関心のある疾患を選択し、グループ発表、ディスカッション（心身症、身体表現性障害）
第9回	医療現場における心理学的アプローチの実際① ＜森田療法＞	森田療法についてグループ発表、ディスカッション①
第10回	医療現場における心理学的アプローチの実際② ＜森田療法＞	森田療法についてグループ発表、ディスカッション②
第11回	医療現場における心理学的アプローチの実際③ ＜森田療法＞	症例を通して森田療法の実際を学ぶ。ビデオ学習。
第12回	医療現場における心理学的アプローチの実際④ ＜認知行動療法＞	認知行動療法についてグループ発表、ディスカッション①
第13回	医療現場における心理学的アプローチの実際⑤ ＜認知行動療法＞	認知行動療法についてグループ発表、ディスカッション②
第14回	医療現場における心理学的アプローチの実際⑥ ＜他の心理療法＞	他の心理療法についてグループ発表、ディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

医療現場における心理臨床家の役割、精神疾患、さまざまな心理療法に関する文献を自主的に読むこと。グループ発表の準備など。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

【参考書】

「心理療法プライマーズ 森田療法」 北西憲二、中村敬編 ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、授業態度および発表内容（50％）によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、医療現場の現状を伝えながら、理論と実際の臨床を繋げられるように努めるとともに、臨床心理士の役割や姿勢を考える機会としていきたい。ディスカッションの時間も多く取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表にはパワーポイントなどを使用することをお勧めします。

【その他の重要事項】

医療機関における臨床の実務経験があります。実際の病院臨床の経験を紹介しつつ、医療現場における臨床家の課題、必要な知識を学べるよう進めていきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

森田療法、比較心理療法、心理検査法

<研究テーマ>

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など

<主要研究業績>

- 1) 『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者、東京、白揚社、2015年3月）
- 2) 『女性はずせ生きづらいつらいのか』（共著書、東京、白揚社、2018年8月）
- 3) 久保田幹子：対人恐怖の森田療法。こころの科学, 2009;147:72-78
- 4) 久保田幹子：森田療法における受容。精神療法, 2013;39(6):12-17

【Outline and objectives】

Psychological approach in medical settings, attitude and role of a clinical psychologist

SOW500J3

福祉政策系特殊講義 I

布川 日佐史

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

就労可能な生活困窮者への公的扶助と雇用政策の交錯領域について、日独比較をもとに検討する。受講者のテーマに沿って、日独どちらかの制度の検討に重点を置く場合もある。

【到達目標】

日独比較を通じて、日本の政策展開の特徴とそれを評価する視点を明らかにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 公的扶助と雇用政策の交錯分野に関する日独比較研究の文献を読み、議論する。
- 2) オンライン授業を取り入れる。
- 3) 課題や提出物などへのフィードバックは、授業支援システムやメールで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	就労可能な生活困窮者
2	雇用保険制度の現状と課題	受給状況・カバー率
3	ドイツの失業扶助	役割と課題
4	日本の求職者支援制度	実態と課題
5	職業訓練の日独比較	特徴と課題
6	独：社会扶助改革①	稼働能力活用要件
7	独：社会扶助改革②	就労扶助の展開
8	独：求職者基礎保障①	最低生活保障基準
9	独：求職者基礎保障②	実施主体（国と自治体）
10	独：求職者基礎保障③	就労支援の特徴と課題
11	住宅手当の日独比較①	ドイツ住宅手当の意義
12	住宅手当の日独比較②	日本の住宅政策
13	児童手当の日独比較①	独：児童手当の特徴・役割
14	児童手当の日独比較②	「子ども手当」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日独の政策展開のポイントをまとめ、特徴を検討しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な文献を適宜配布する。

【参考書】

布川編著『雇用政策と公的扶助の交錯』御茶の水書房、2002年など。

【成績評価の方法と基準】

毎回の報告（50％）と、まとめ（50％）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ドイツについて豊富なイメージが持てるようにする。

【担当教員の専門分野】

雇用政策 公的扶助

【Outline and objectives】

On the "basic income support for job-seekers" (SGB II) in Germany and concludes with proposals on Japan's policy for employable people in need

PSY600J2

論文研究指導

小野 純平

科目分類・科目群：研究指導科目

配当年次／単位数：1・2年次／4単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学的援助を基盤として、修士論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査・分析の後、文章を完成します。

【到達目標】

当該領域のける専門性の高い知識を獲得し、あわせて論文作成の基本的なスキルを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文の作成に向けて、国内外の文献の読み込み、テーマの決定、調査・実施方法の検討、論文の執筆などについて、きめ細かな個人指導を行います。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文作成の過程について
第2回	文献収集の技法	国内文献収集技法
第3回	文献収集の技法	海外文献収集技法
第4回	テーマ決定に関する国内外の文献の読み込み	収集した文献から当該分野の研究動向を明らかにする
第5回	テーマ決定に関する国内外の文献の読み込み	収集した文献から当該分野における課題を明らかにする
第6回	テーマ決定	問題の所在から目的を絞り込む
第7回	研究方法の検討①	質問紙調査法、実験法インタビュー法などの精査①
第8回	研究方法の検討②	質問紙調査法、実験法インタビュー法などの精査②
第9回	研究方法の検討③	質問紙調査法、実験法インタビュー法などの精査③
第10回	分析法の検討①	分析方法についての精査①
第11回	分析法の検討②	分析方法についての精査②
第12回	分析法の検討③	分析方法についての精査③
第13回	調査等の実施の報告①	調査等の実施に関する報告と指導①
第14回	調査等の実施の報告②	調査等の実施に関する報告と指導②
第15回	調査等の実施の報告③	調査等の実施に関する報告と指導③
第16回	中間報告①	調査等の実施および分析に関する報告と指導①
第17回	中間報告②	調査等の実施および分析に関する報告と指導②
第18回	中間報告③	調査等の実施および分析に関する報告と指導③
第19回	中間報告④	調査等の実施および分析に関する報告と指導④
第20回	論文執筆指導①	結果の記述と考察の方向性についての指導①
第21回	論文執筆指導②	結果の記述と考察の方向性についての指導②
第22回	論文執筆指導③	結果の記述と考察の方向性についての指導③
第23回	論文執筆指導④	結果の記述と考察の方向性についての指導④
第24回	論文執筆指導⑤	結果の記述と考察の方向性についての指導⑤
第25回	論文執筆指導⑥	結果の記述と考察の方向性についての指導⑥
第26回	論文執筆指導⑦	考察を中心とした指導①
第27回	論文執筆指導⑧	考察を中心とした指導②
第28回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文は、文献の精査から問題の洗い出し、調査・実施方法の決定など、主体的な取り組みが必要となります。論文指導日までに、現在の進捗状況について簡潔に説明できるよう、入念な準備が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】

参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

修士論文指導への参加（50％）

論文作成にかかわる知識・技術の修得（50％）

【学生の意見等からの気づき】

個別指導の時間をより多くとる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 臨床心理学、臨床心理査定

<研究テーマ> 虐待とその支援、発達障害とその支援

<主要研究業績>

【著書】

『精神・心理機能評価ハンドブック』（中山書店、2015年6月）

『エッセンシャルズ KABC-IIによる心理アセスメントの要点』（丸善出版、2014年8月）

『発達と臨床の心理学』（ナカニシヤ出版、2012年4月）

『臨床心理学 30章』（日本文化化学社、2006年6月）

【論文】

『新しい検査 KABC-IIとCHC理論に基づくクロスバタリーアセスメント(XBA)の展開』（日本学校心理学会年報7巻1号、2015年4月）

『発達障害と愛着障害の理解と支援—事例を通して—』（至誠学園紀要5巻、2012年5月）

『被虐待児の認知特性と学習の遅れ』（LD研究21巻2号、2012年5月）

【Outline and objectives】

The purpose of the master's thesis is to help develop students' research and scholarship skills. These skills include concise, focused conceptualization and writing.

SOW500J3

福祉政策系特殊講義Ⅱ

布川 日佐史

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活保護法改正と生活困窮者自立支援法を対象に、その背景、内容、成果と課題を検討する。

【到達目標】

政策展開の特徴とそれを評価する視点を明らかにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 生活保護法改正および生活困窮者自立支援法に関する文献を検討する。
- 2) オンライン授業を取り入れる。
- 3) 課題や提出物などへのフィードバックは、授業支援システムやメール等で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	就労可能な生活困窮者の増加と生活支援・就労支援制度の構築
2	制度改革の背景	雇用の不安定化と貧困の拡大
3	第2のセーフティネット①	「派遣切り」とセーフティネット
4	第2のセーフティネット②	求職者支援制度、住宅手当
5	生活保護法改正①	就労可能な要保護者への対応
6	生活保護法改正②	自立支援プログラムの展開
7	生活保護法改正③	自立支援プログラムの成果と課題
8	生活保護法改正④	稼働能力活用要件の検討
9	生活保護法改正⑤	扶養義務の位置づけ
10	生活保護法改正⑥	生活上の義務強化
11	生活保護法改正⑦	生活保護法改正の課題
12	生活困窮者自立支援①	対象者と位置づけ
13	生活困窮者自立支援②	支援事業のメニュー
14	全体総括	意見交換と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み込んでおくこと本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業開始時に指示する。

【参考書】

必要な文献を適宜配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の報告（50%）と、まとめ（50%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

支援の現状について、現場の声を聞く必要がある。

【担当教員の専門分野】

公的扶助、雇用政策

【Outline and objectives】

On the fundamental principles of the Public Assistance Act in Japan.

PSY600J2

論文研究指導

金築 優

科目分類・科目群：研究指導科目

配当年次／単位数：1・2 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学に関する修士論文を作成するために必要なスキルについて指導します。

【到達目標】

修士論文を最終提出することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生の修士論文の作成段階に応じて、必要なスキルを指導します。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題に対しては、授業内や学習支援システム等を活用してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の指導の進め方について説明します。
第2回	修士論文のテーマについて1	各自の修士論文のテーマについて個人発表してもらいます。
第3回	修士論文のテーマについて2	各自の修士論文の問題意識について個人発表してもらいます。
第4回	先行研究について1	各自の修士論文のテーマに関連した先行研究を展望します。
第5回	先行研究について2	各自の修士論文のテーマに関連した先行研究の課題を展望します。
第6回	研究デザインについて1	修士論文の研究デザイン（例、研究参加者等）を検討します。
第7回	研究デザインについて2	修士論文の研究デザイン（例、用いる質問紙等）を検討します。
第8回	研究デザインについて3	修士論文の研究デザイン（例、手続き等）を検討します。
第9回	研究デザインについて4	修士論文の研究デザイン（例、教示等）を検討します。
第10回	研究デザインについて5	修士論文の研究デザイン（例、データの分析方法等）を検討します。
第11回	データ収集のための準備1	データ収集の仕方（例、調査法等）について確認を行います。
第12回	データ収集のための準備2	データ収集の仕方（例、実験法等）について確認を行います。
第13回	データ収集のための準備3	データ収集の仕方（例、面接法等）について確認を行います。
第14回	データ収集とデータの処理1	データ収集の進捗状況を報告してもらい、また、データの処理について検討します。
第15回	データ収集とデータの処理2	データ収集の進捗状況を報告してもらい、また、データの処理について指導します。
第16回	データ収集とデータの処理3	データ収集の進捗状況を報告してもらい、また、データの処理について指導します。
第17回	データ収集とデータの処理4	データ収集の進捗状況を報告してもらい、データの処理について指導します。
第18回	データ収集とデータの処理5	データ収集の進捗状況を報告してもらい、データの処理を検討します。
第19回	データの分析と結果のまとめ1	データの分析（例、基本統計量等）を進め、結果をまとめます。
第20回	データの分析と結果のまとめ2	データの分析（例、分散分析等）を進め、結果をまとめます。
第21回	データの分析と結果のまとめ3	データの分析（例、相関分析等）を進め、結果をまとめます。
第22回	データの分析と結果のまとめ4	データの分析（例、多変量解析等）を進め、結果をまとめます。
第23回	データの分析と結果のまとめ5	データの分析（例、質的分析）を進め、結果をまとめます。
第24回	考察について1	研究結果を踏まえ、考察を進めます。
第25回	考察について2	研究結果を踏まえ、どのように考察をするか検討します。
第26回	考察について3	研究結果を踏まえ、考察を深めます。
第27回	修士論文の本文の推敲	論文の構成を確認します。

第 28 回 修士論文の本文の推敲 論文の文章表現を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、随時修士論文の進捗状況の報告を求めますので、その際には、資料を用いて説明するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の制作過程（60%）と最終的に提出された修士論文の内容（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく早い段階でデータ収集ができるように進めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

臨床心理学、認知行動療法（認知行動カウンセリング）

<研究テーマ>

認知行動療法の理論（特に、知覚制御理論）に関する研究

<主要研究業績>

『心配に関するメタ認知的信念尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討』（共著、パーソナリティ研究 16(3)、2008 年）

『大学生の心配に対するメタ認知に焦点を当てた認知行動的介入の効果』（共著、感情心理学研究 17(3)、2010 年）

【Outline and objectives】

The goal of this seminar is to undertake thesis project about cognitive behavior therapy. Students will acquire enhanced research skills. They will develop their ability to design, organize and manage their own research.

SOW500J3

福祉社会系特殊講義 I

岩崎 晋也

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉の原理および思想に関する研究動向について講義する

【到達目標】

社会福祉の原理および思想に関する研究動向を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

指定する文献をもとに講義とディスカッションをする。文献は、受講者と相談しながら決定する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第 2 回	文献研究 1	文献研究を行う 1
第 3 回	文献研究 2	文献研究を行う 2
第 4 回	文献研究 3	文献研究を行う 3
第 5 回	文献研究 4	文献研究を行う 4
第 6 回	文献研究 5	文献研究を行う 5
第 7 回	文献研究 6	文献研究を行う 6
第 8 回	文献研究 7	文献研究を行う 7
第 9 回	文献研究 8	文献研究を行う 8
第 10 回	文献研究 9	文献研究を行う 9
第 11 回	文献研究 10	文献研究を行う 10
第 12 回	文献研究 11	文献研究を行う 11
第 13 回	文献研究 12	文献研究を行う 12
第 14 回	文献研究 13	文献研究を行う 13

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を読み、考察していただくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）による 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととしない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施しませんでした。

【担当教員の専門分野】

社会福祉原理・思想

【Outline and objectives】

Lecture on research trends on social welfare principles and thought

PSY600J2

論文研究指導

久保田 幹子

科目分類・科目群：研究指導科目

配当年次／単位数：1・2年次／4単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文を作成する

【到達目標】

修士論文のテーマを設定し、先行研究の調査、研究の実施を通して論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文作成に向けて、関心のあるテーマについて事前学習を行う。

修士論文の研究テーマを決定し、研究計画の作成、研究の実施、論文の作成を行う。

なお、課題等のフィードバックはオフィスアワーや、学習支援システムを通じて行う予定です。各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション、論文作成の手順について
第2回	テーマ決定の事前学習	関心のあるテーマについてディスカッション
第3回	文献収集の技法	文献収集の方法について
第4回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表①	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる①
第5回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表②	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる②
第6回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表③	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる③
第7回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表④	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる④
第8回	テーマ決定	修士論文のテーマを決定する。
第9回	調査・研究法の検討①	研究の目的、方法を検討し、実施する①
第10回	調査・研究法の検討②	研究の目的、方法を検討し、実施する②
第11回	調査・研究法の検討③	研究の目的、方法を検討し、実施する③
第12回	調査・研究法の検討④	研究の目的、方法を検討し、実施する④
第13回	調査・研究法の検討⑤	研究の目的、方法を検討し、実施する⑤
第14回	調査・研究法の検討⑥	研究の目的、方法を検討し、実施する⑥
第15回	調査・研究結果の検討①	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める①
第16回	調査・研究結果の検討②	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める②
第17回	調査・研究結果の検討③	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める③
第18回	調査・研究結果の検討④	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める④
第19回	調査・研究結果の検討⑤	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める⑤
第20回	調査・研究結果の検討⑥	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める⑥
第21回	論文執筆指導①	研究結果を元に論文を作成する①
第22回	論文執筆指導②	研究結果を元に論文を作成する②
第23回	論文執筆指導③	研究結果を元に論文を作成する③
第24回	論文執筆指導④	研究結果を元に論文を作成する④
第25回	論文執筆指導⑤	研究結果を元に論文を作成する⑤
第26回	論文執筆指導⑥	研究結果を元に論文を作成する⑥
第27回	論文執筆指導⑦	研究結果を元に論文を作成する⑦
第28回	論文執筆指導⑧	研究結果を元に論文を作成する⑧

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマの選択、方法論を吟味するために、主体的に文献を検索し、先行研究を調査すること。研究テーマの理解を深めるためにも、幅広く情報収集すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文作成に向けての研究姿勢（50%）および修士論文（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

関心のあるテーマを尊重し、実際の臨床に役立つ研究・修士論文となるよう段階的に指導していきたい。

【その他の重要事項】

医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提議・論文構想に関してアドバイスを行っていきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

森田療法、比較心理療法、心理検査法

<研究テーマ>

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など

<主要研究業績>

1) 『森田療法で読む強迫性障害』(共著書・編者, 東京, 白揚社, 2015年3月)

2) 『女性はずせ生きづらいつらいのか』(共著書, 東京, 白揚社, 2018年8月)

3) 久保田幹子: 対人恐怖の森田療法. こころの科学, 2009;147:72-78

4) 久保田幹子: 森田療法における受容. 精神療法, 2013;39(6):12-17

【Outline and objectives】

Creating a master's thesis

SOW500J3

福祉社会系特殊講義Ⅱ

岩崎 晋也

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉の原理および思想に関する研究動向について講義する

【到達目標】

社会福祉の原理および思想に関する研究動向を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

指定する文献をもとに講義とディスカッションをする。文献は、受講者と相談しながら決定する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第2回	文献研究 1	文献研究を行う 1
第3回	文献研究 2	文献研究を行う 2
第4回	文献研究 3	文献研究を行う 3
第5回	文献研究 4	文献研究を行う 4
第6回	文献研究 5	文献研究を行う 5
第7回	文献研究 6	文献研究を行う 6
第8回	文献研究 7	文献研究を行う 7
第9回	文献研究 8	文献研究を行う 8
第10回	文献研究 9	文献研究を行う 9
第11回	文献研究 10	文献研究を行う 10
第12回	文献研究 11	文献研究を行う 11
第13回	文献研究 12	文献研究を行う 12
第14回	文献研究 13	文献研究を行う 13

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を読み、考察してくる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) による

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施しました。

【担当教員の専門分野】

社会福祉原理・思想

【Outline and objectives】

Lecture on research trends on social welfare principles and thought

PSY600J2

論文研究指導

末武 康弘

科目分類・科目群：研究指導科目

配当年次／単位数：1・2 年次／4 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学の修士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力身につけます。

【到達目標】

修士論文の作成が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学の修士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	論文研究指導の概要を示します
第2回	研究計画の概要の検討①	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生 A を中心に指導
第3回	研究計画の概要の検討②	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生 B を中心に指導
第4回	研究計画の概要の検討③	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生 C を中心に指導
第5回	先行研究の探索と検討①	先行研究の探索と分析について概説します。
第6回	先行研究の探索と検討②	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生 A を中心に指導
第7回	先行研究の探索と検討③	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生 B を中心に指導
第8回	先行研究の探索と検討④	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生 C を中心に指導
第9回	研究デザインの検討①	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を概説します。
第10回	研究デザインの検討②	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生 A を中心に指導
第11回	研究デザインの検討③	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生 B を中心に指導
第12回	研究デザインの検討④	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生 C を中心に指導
第13回	リサーチエッセイの検討とチェック①	データ収集のためのリサーチエッセイを作成し検討します。院生 A を中心に指導。
第14回	リサーチエッセイの検討とチェック②	データ収集のためのリサーチエッセイを作成し検討します。院生 B、C を中心に指導
第15回	秋学期のオリエンテーション	秋学期の進め方について示します。
第16回	データ収集との処理の検討①	収集されたデータの処理と分析方法を解説します。
第17回	データ収集との処理の検討②	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生 A を中心に指導
第18回	データ収集との処理の検討③	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生 B を中心に指導
第19回	データ収集との処理の検討④	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生 C を中心に指導
第20回	処理結果のまとめと検討①	データの処理と分析によって結果を検討します。院生 A を中心に指導
第21回	処理結果のまとめと検討②	データの処理と分析によって結果を検討します。院生 B を中心に指導
第22回	処理結果のまとめと検討③	データの処理と分析によって結果を検討します。院生 C を中心に指導
第23回	考察の検討①	結果についての考察を検討します。院生 A を中心に指導

第 24 回	考察の検討②	結果についての考察を検討します。院 生 B を中心に指導
第 25 回	考察の検討③	結果についての考察を検討します。院 生 C を中心に指導
第 26 回	論文執筆の指導①	論文の構成、文章表現、引用や注、文 献の書き方等を指導します。院生 A を中心に指導
第 27 回	論文執筆の指導②	論文の構成、文章表現、引用や注、文 献の書き方等を指導します。院生 B を中心に指導
第 28 回	論文執筆の指導③、ま とめ	論文の構成、文章表現、引用や注、文 献の書き方等を指導します。院生 C を 中心に指導。授業のまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文作成のための学習活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、論文執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の執筆過程（60 %）と論文の内容（40 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見から、より各自の研究意図に沿った指導を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

データの分析や論文執筆にはパソコンを使用してください。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

<主要研究業績>

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012 年）

③ 『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016 年）

【Outline and objectives】

You learn the knowledge, research method, ability to write a master's thesis in clinical psychology.

PSY600J2

論文研究指導

関谷 秀子

科目分類・科目群：研究指導科目

配当年次／単位数：1・2 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学の分野に関連したテーマについて、専門書や論文を調べ、研究計画をたて、修士論文としてふさわしい論文を書き上げる。

【到達目標】

修士論文にふさわしく、適切な研究方法を用いて先行研究を踏まえ、論理的な内容と適切な形式を備えた修士論文を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文を書き上げることを目標に論文指導をする。基本的に個別的な指導を原則とする。授業計画は学生のテーマや進捗状況に応じて若干の変更の可能性があり得る。それぞれの課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の概要の検討 1	研究計画の要点を検討。
第 2 回	研究計画の概要の検討 2	研究計画の要点を精査
第 3 回	研究計画の概要の検討 3	構想発表会に向けての整理
第 4 回	研究計画の概要の検討 4	構想発表会に向けての仕上げ
第 5 回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習 1	先行研究の資料を収集
第 6 回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習 2	先行研究を整理
第 7 回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習 3	先行研究からみた研究計画の妥当性を再考
第 8 回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習 4	先行研究のおおまかな「まとめ」を行う
第 9 回	調査研究の学習	調査方法の概要を学習していく
第 10 回	調査研究の内容の検討 1	調査方法を具体的に検討していく
第 11 回	調査研究の内容の検討 2	調査対象の選定を議論する
第 12 回	調査研究の内容の検討 3	調査対象を検討
第 13 回	調査研究の内容の検討 4	統計処理方法を検討
第 14 回	完成した調査計画や調査表のチェック 1	調査方法やスケジュール検討
第 15 回	完成した調査計画や調査表のチェック 2	調査の具体方法や項目のチェックー夏休み中に行うデータ収集のスケジュール整理
第 16 回	調査したデータの処理 1	収集したデータを実際に統計処理
第 17 回	調査したデータの処理 2	統計処理された結果のまとめ
第 18 回	調査したデータの処理 3	統計処理された結果を読み込む
第 19 回	調査したデータの処理 4	統計処理データの結果を検証
第 20 回	調査結果のまとめと検討 1	先行研究とデータから得られた結果を比較
第 21 回	調査結果のまとめと検討 2	先行研究とデータから得られた結果をまとめ考察につなげていく
第 22 回	考察の検討 1	考察の概要を整理。
第 23 回	考察の検討 2	考察の詳細を検討していく
第 24 回	考察の検討 3	考察の内容を論理的に組み立てていく
第 25 回	考察の検討 4	考察の内容を最終的に決定していく
第 26 回	論文の実際の仕上げ 1	論文の「はじめに」「目的」を仕上げる。
第 27 回	論文の実際の仕上げ 2	論文の「仮説」「先行研究」を仕上げる。
第 28 回	論文の実際の仕上げ 3	論文の「結果」を仕上げる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の指導までに必要な修士論文の諸課題を準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文指導にかかわる学習態度や平常点（50 %）と論文作成の知識・技術の習得（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度のアンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを授業に生かしたい。

【担当教員の専門分野】

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline and objectives】

We will read specialized books and articles, make study plans and finish writing an article that is suitable for a master's thesis concerning your thesis in the field of the clinical psychology.

SOW500J3

福祉社会系特殊講義 I

眞保 智子

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

障害者政策における社会的な課題とそれに対応する制度等のあり方に関する近年の研究動向について講義します。

【到達目標】

障害者雇用に関わる制度・政策論と就労支援について、障害者福祉制度を踏まえ、障害者の雇用・就労について、障害者の労働参加のあり方を考える視点から、障害者雇用・就労に関する研究方法の展開と課題を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

障害者雇用・就労に関する制度・政策論と支援実践について、関連文献をもとに障害者雇用・就労研究方法の展開と課題を講義し、ディスカッションを行います。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、スケジュールの説明
第2回	近代社会と労働	近代思想と労働について、その認識や発見について整理する
第3回	近代社会と障害者の生活世界	障害者福祉の位置づけについて
第4回	障害者福祉制度・政策体系	歴史の変遷から特質を学ぶ
第5回	障害者福祉制度・政策体系（障害別制度の体系）	障害者福祉制度の特質と課題について
第6回	障害者の就労に関する制度・政策体系（福祉的就労制度）	所謂福祉的就労制度の特質と課題について
第7回	障害者雇用に関する制度・政策体系（雇用促進法と雇用率制度）	雇用促進法の体系と雇用率の特質と課題について
第8回	障害者雇用に関する制度・政策体系（特例子会社制度）	特例子会社制度の特質と課題について
第9回	障害者就労支援に関する制度・政策体系（福祉サイドの支援）	障害者就労支援制度の特質と課題について（障害者総合支援法等による支援）
第10回	障害者就労支援に関する制度・政策体系（労働サイドの支援）	障害者就労支援制度の特質と課題について（労働施策における支援）
第11回	障害者就労とソーシャルワーク	IPSの理論と実践
第12回	障害者就労とソーシャルワークの理論	ストレングスモデルの理論と実践
第13回	障害者就労支援とソーシャルワークの実践	「比較優位」の視点による就労支援の実践
第14回	差別禁止法制と割当雇用制度	わが国と諸外国の障害者雇用制度の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外の文献や諸状況を事前に学習してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

眞保智子（2017）『障害者雇用の実務と就労支援「合理的配慮」のアプローチ』日本法令
その他適宜紹介します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加準備および発言：50% 課題レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のため、アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントなどを使用します。

【その他の重要事項】

精神保健福祉士として、知的障害のある方、発達障害のある方、精神障害のある方に対する就労支援および生活支援の実践を通じての知識および技能についても紹介します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>若者支援論、障害者雇用

<研究テーマ>

- 1 障害者のキャリアデザイン
- 2 障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
- 3 企業における精神科ソーシャルワーク

【Outline and objectives】

This class provides a lecture on current issues and progress of policy for persons with disabilities. As described in the seminar title, students will mainly learn the framework for disability studies, not just welfare perspectives. At the seminar we will discuss well-being for all people, whether they are disabled or not disabled.

PSY600J2

論文研究指導

長山 恵一

科目分類・科目群：研究指導科目

配当年次／単位数：1・2年次／4単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学の分野に関連したテーマについて、個々の学生さんが各自の修士論文のテーマにそって専門書や論文を調べ、研究計画をたて、修士論文としてふさわしい論文を書き上げるための研究指導。

【到達目標】

修士論文にふさわしく、適切な研究方法を用いて先行研究を踏まえ、論理的な内容と適切な形式を備えた修士論文を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文を書き上げることを目標に論文指導をする授業なので、個々の学生さんのテーマや修士論文の内容や進行状況によって大きく授業の内容は異なり、基本的に個別的な指導を原則として授業を進めます。オンラインでの開講となった場合、それにとまなう各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度お知らせします。

課題等のフィードバックは学習支援システムを通して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の概要の検討 1	修士論文の研究計画の問題点や要点を検討する。
第2回	研究計画の概要の検討 2	修士論文の研究計画の問題点と要点を精査する
第3回	研究計画の概要の検討 3	修士論文の構想発表会に向けてのおまかな整をする。
第4回	研究計画の概要の検討 4	修士論文の構想発表会に向けての仕上げを行う。
第5回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習 1	先行研究の資料を収集する
第6回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習 2	先行研究を整理していく
第7回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習 3	先行研究からみた研究計画の妥当性を再考する
第8回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習 4	先行研究のおおまかな「まとめ」を行う
第9回	調査研究の学習	調査方法の概要を学習していく
第10回	調査研究の内容の検討 1	調査方法を具体的に検討していく
第11回	調査研究の内容の検討 2	調査対象の選定を議論する
第12回	調査研究の内容の検討 3	調査対象を具体的に検討していく
第13回	調査研究の内容の検討 4	統計処理方法について検討していく
第14回	完成した調査計画や調査表のチェック 1	調査の具体方法や項目、スケジュールを検討していく
第15回	完成した調査計画や調査表のチェック 2	調査の具体方法や項目のチェックー夏休み中に行うデータ収集のスケジュール整理
第16回	調査したデータの処理 1	収集したデータを実際に統計処理していく
第17回	調査したデータの処理 2	統計処理された結果をまとめる
第18回	調査したデータの処理 3	統計処理された結果を読み込む
第19回	調査したデータの処理 4	統計処理されたデータの結果を検証していく
第20回	調査結果のまとめと検討 1	先行研究とデータから得られた結果を比較してみる
第21回	調査結果のまとめと検討 2	先行研究とデータから得られた結果をまとめ考察につなげていく
第22回	考察の検討 1	考察の概要を整理する。
第23回	考察の検討 2	考察の詳細を検討していく
第24回	考察の検討 3	考察の内容を論理的に組み立てていく
第25回	考察の検討 4	考察の内容を最終的に決定していく
第26回	論文の実際の仕上げ 1	論文の「はじめに」「目的」を仕上げる。
第27回	論文の実際の仕上げ 2	論文の「仮説」「先行研究」を仕上げる。
第28回	論文の実際の仕上げ 3	論文の「結果」「考察」「おわりに」を仕上げる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の指導までに必要な修士論文の諸課題を準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学生さん個別によって異なり、必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

学生さん個別によって異なり、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

修士論文指導にかかわる学習態度や平常点（50%）と論文作成の知識・技術の習得（50%）によって評価する。オンラインでの開講となった場合、それにともない、成績評価の方法と基準も変更することがあります。具体的な方法や基準は、授業開始日に学習支援システムにてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

複数の学生を同時に指導する機会をなるべく多く設けて、学生さんが相互に修士論文の作成の仕方やまとめ方を学びあい議論できるように修士論文の指導の仕方を工夫していきたい。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、上記の授業計画は若干の変更があり得ます。

【担当教員の専門分野】

比較精神療法、精神医学

【Outline and objectives】

In this course, students will explore, present and discuss about each independent clinical psychological research activity relevant for the master's thesis.

SOW500J3

福祉社会系特殊講義Ⅱ

眞保 智子

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会的な問題状況、福祉課題について、その問題解決のための研究動向を講義する。

【到達目標】

社会福祉系特殊講義Ⅰをふまえ、障害者福祉を含む学際的研究の視点や方法、知見から障害者雇用・就労制度・政策論と実践論とを関連させて理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

障害者雇用・就労制度・政策論と実践論との関連文献をもとに講義し、ディスカッションします。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらいとスケジュールについて
第2回	職業リハビリテーション学とは	障害者の職業リハビリテーション研究の意義
第3回	職業リハビリテーションのアプローチ	学際的知見を整理する
第4回	職業リハビリテーションの現状	わが国および海外の研究の現状を理解する
第5回	職業リハビリテーション学の理論	職業リハビリテーションの理論と実践
第6回	障害者雇用・就労の学際的視点 障害学	障害学の知見から障害者雇用・就労を学ぶ
第7回	障害者雇用・就労の学際的視点 社会学	社会学の知見から障害者雇用・就労を学ぶ
第8回	障害者雇用・就労の学際的視点 経済学	経済学の知見から障害者雇用・就労を学ぶ
第9回	障害者の雇用・就労と人的資源管理論	人的資源管理論で障害者の雇用・就労を考える
第10回	障害者の雇用・就労と企業	企業の視点で障害者の雇用・就労を考える
第11回	社会福祉行政と労働行政	社会福祉行政と労働行政の連携（労働者の生活支援）
第12回	社会福祉行政と労働行政のあり方	社会福祉行政と労働行政の連携（就労移行支援）
第13回	わが国の障害者雇用・就労制度・政策の現状と課題	差別禁止法制と合理的配慮提供から障害者雇用・就労の将来を展望する
第14回	海外の障害者雇用・就労制度・政策の現状と課題	差別禁止法制と割当雇用制度から障害者雇用・就労の将来像を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

障害者雇用・就労に関わる研究論文および労働研究論文（日本語、英文を問わず）を事前に読んでいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

眞保智子（2017）『障害者雇用の実務と就労支援「合理的配慮」のアプローチ』日本法令
その他適宜、紹介します。

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加準備と発言:50%、レポート提出：50%

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のためアンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントなどを使用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>若者支援論、障害者雇用
<研究テーマ>

1 障害者のキャリアデザイン

- 2 障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
3 企業における精神科ソーシャルワーク

【Outline and objectives】

This seminar provides a lecture on current issues and progress of policy for persons with disabilities. As described in the seminar title, students will mainly learn the framework for disability studies, not just welfare perspectives. At the seminar we will discuss Well-being for all people, whether they are disabled or not disabled.

PSY600J2

論文研究指導

丹羽 郁夫

科目分類・科目群：研究指導科目

配当年次／単位数：1・2 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目はオリジナリティがあり、臨床的価値が高い修士論文を学生が作成できるのを目指す。

【到達目標】

修士論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文を作成するため、先行研究の検索、研究テーマの設定、データ解析の方法、調査結果の解釈、論文の構成などについて個別に指導する。また課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。また課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	修士論文の作成の進め方とタイムテーブル
第 2 回	文献検索と収集の仕方①	文献の検索と収集の仕方
第 3 回	文献検索と収集の仕方②	文献検索と収集の実践
第 4 回	研究テーマの絞り込み①	関心の報告
第 5 回	研究テーマの絞り込み②	関心を絞り込む
第 6 回	研究テーマの絞り込み③	明確にされた関心に関連する先行研究の探索
第 7 回	研究テーマの絞り込み④	関連する先行研究から関心の絞り込み
第 8 回	研究テーマの決定	研究テーマの決定
第 9 回	調査方法の検討①	研究テーマに合った調査方法の検討
第 10 回	調査方法の検討②	研究テーマに関する先行研究の調査方法を探索
第 11 回	調査方法の検討③	研究テーマに合った先行研究の調査方法を検討
第 12 回	調査方法の検討④	研究テーマに合った先行研究の調査方法の絞り込み
第 13 回	調査方法の検討⑤	研究テーマに合った調査方法の決定
第 14 回	調査の実施	調査の実施の指導
第 15 回	調査データの解析方法の検討①	調査で得たデータの解析方法の検討
第 16 回	調査データの解析方法の検討②	解析方法を絞り込む
第 17 回	解析結果①	基本的な統計結果を出す
第 18 回	解析結果②	必要な解析をほぼ全て行う
第 19 回	解析結果の解釈①	結果の解釈を行う
第 20 回	解析結果の解釈②	結果全体を説明できる物語の構築
第 21 回	論文執筆①	論文執筆の開始
第 22 回	論文執筆②	先行研究の再検討の執筆
第 23 回	論文執筆③	目的と方法の執筆
第 24 回	論文執筆④	調査結果の執筆
第 25 回	論文執筆⑤	調査結果の修正
第 26 回	論文執筆⑥	考察の執筆
第 27 回	論文執筆⑦	考察の修正
第 28 回	論文の最終チェック	完成した修士論文の最終チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導前は、修士論文の作成を進め、その進行状況と疑問点などを報告できるように準備をすることが求められます。指導の後は、教員からの助言やコメントを修士論文の作成に反映させる改善が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

研究テーマと研究方法に応じて重要な参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文作成への取り組み (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はアンケートを実施しておりません。

【その他の重要事項】

研究の進み具合に応じて変更することがある。

【担当教員の専門分野】

臨床心理学（子どもの心理療法、D.W. ウィニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）
 <主要研究業績>
 『ジェラルド・キャプランのメンタルヘルスコンサルテーションの概観』（単著、コミュニティ心理学研究 18(2)、2015 年）
 『最初の児童分析家ヘルミーネ・フークーヘルムートの児童分析の技法について』（単著、現代福祉研究 14、2014 年）主な研究業績
 『中国帰国者におけるソーシャル・サポート利用の精神健康への影響』（単著、コミュニティ心理学研究）2(2)、1999 年）

【Outline and objectives】

This subject aims to allow students to create a master's thesis with originality and high clinical value.

SOW500J3

福祉社会系特殊講義 I

中村 律子

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高齢者福祉制度・政策論と援助実践が高齢者の生活世界とどのように関連するのかといった観点から、高齢者福祉研究方法の到達点と新たな課題を学びます。

【到達目標】

高齢者福祉をめぐる社会的な問題状況やそれに対応するあり方について、高齢者福祉制度・政策と援助実践に関する近年の研究動向について理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

高齢者福祉制度・政策論と援助実践が高齢者の生活世界との関連文献をもとに高齢者福祉研究方法の展開と課題を講義し、ディスカッションをおこない、理解を深めます。リアクションペーパーなどで良いコメントは授業で紹介し議論に活かします。課題提出へのフィードバックについては学習支援システムへ展開します。授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のねらい、スケジュールの説明
第 2 回	近代社会と老い、老年学と高齢者福祉	老い思想、認識や発見について整理する
第 3 回	近代社会と老い、老年学と高齢者福祉	老年学の誕生や高齢者福祉論の位置づけについて
第 4 回	高齢者福祉制度・政策体系	歴史の変遷から特質を学ぶ
第 5 回	高齢者福祉制度・政策体系（医療制度）	医療制度の特質と課題検討
第 6 回	高齢者福祉制度・政策体系（所得保障）	所得保障の特質と課題検討
第 7 回	高齢者福祉制度・政策体系（福祉制度）	介護／福祉サービスの特徴と課題について
第 8 回	高齢者福祉とソーシャルワーク	ソーシャルワークの理念や方法／技術について
第 9 回	高齢者福祉とソーシャルワーク（ソーシャルサポートネットワーク）	高齢者をとりまくネットワークの特質について
第 10 回	高齢者福祉とソーシャルワーク（援助困難事例と地域ケアシステム）	地域生活を支えるケアシステム
第 11 回	新しい高齢者福祉の動向（ニューエイジング論）	ラディカルエイジング論
第 12 回	高齢者福祉とソーシャルワーク	サクセスフルエイジング論
第 13 回	福祉国家とケアの倫理	諸外国の高齢者福祉研究方法から学ぶ
第 14 回	まとめ	高齢者福祉研究の到達点と新たな研究課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備（国内外の文献や諸状況の事前学習と報告）時間、復習（報告後の再整理）時間は、各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜紹介します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加姿勢・報告内容（70%）、課題レポート（30%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは実施していませんが、高齢者福祉領域の古典や最新の研究論文を用いながら、講義を進めたいと思います。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：社会福祉学、高齢者福祉論、社会福祉処遇史
 主要業績：
 ・「ネパール震災と高齢者ケアコミュニティ・ケアの再創造」現代福祉研究 第 16 号 法政大学現代福祉学部 2016 年
 ・『浴風園ケース記録集-100 人』共著、学文社、2015 年

・「ネパール社会における「sewa・コミュニティ」に関する一考察」現代福祉研究第13号、法政大学現代福祉学部 2013年
 ・『実践のコミュニティ』共著、京都大学出会、2012年
 ・「戦前の養老院の社会的意義について-開園から救護法施行期までの浴風園の原史料分析-」、現代福祉研究第8号、法政大学現代福祉学部、2008年

【Outline and objectives】

This lecture explores new challenges as well as the attainable goal in the current welfare research method for the elderly based on a perspective of how the welfare system, policy and actual care are intertwined with the lives of elderly people.

PSY600J2

論文研究指導

服部 環

科目分類・科目群：研究指導科目

配当年次／単位数：1・2年次／4単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成に向け、専門的知識と研究方法を習得します。

【到達目標】

先行研究を幅広く概観し研究テーマと研究が依拠する方法論の方向性を定め、同時に専門的知識と技術を習得していくこと目標とし、修士論文の作成へとつなげます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

内外の研究論文と書籍を通して先行研究を概観し、その意義と問題点、残された課題等を確認していきます。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究指導内容について確認する
第2回	先行研究の調査	各自の研究テーマに関連する内外の先行研究を調べます
第3回	先行研究の精査	不足のないよう内外の先行研究を調べます
第4回	研究テーマの確定	先行研究の意義と問題点、残された課題等を整理します
第5回	研究計画の立案(1)	研究計画を立てます
第6回	研究計画の立案(2)	引き続き研究計画を立てます
第7回	研究計画の立案(3)	研究計画を見直します
第8回	研究の遂行(1)	データ収集の準備をします
第9回	研究の遂行(2)	研究を遂行し、データ収集を行います
第10回	データの確認	収集したデータの妥当性を確認します
第11回	データの基礎分析(1)	基本的な分析を行います
第12回	データの基礎分析(2)	引き続き収集したデータを分析します
第13回	分析の見直し	分析手法を見直します
第14回	データの再分析	収集したデータを再度、分析します
第15回	ガイダンス	後期の予定を確認します
第16回	執筆状況の確認	それまでの論文執筆状況を確認します
第17回	論文執筆(1)	論文執筆を続けます
第18回	論文執筆(2)	引き続き、論文執筆を続けます
第19回	見直しと論文執筆	執筆内容を見直しながら論文執筆を続けます
第20回	執筆内容の検討	執筆内容を検討します
第21回	中間発表	中間発表を行います
第22回	推敲(1)	論文を推敲していきます
第23回	推敲(2)	引き続き、論文を推敲していきます
第24回	全体の見直し	論文全体を見直します
第25回	配布資料の作成(1)	配布する資料を作成します
第26回	配布資料の作成(2)	引き続き、配布する資料を作成します
第27回	スライドの作成(1)	スライドを作成します
第28回	スライドの作成(2)	引き続き、スライドを作成します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究論文と書籍を読み込んでいきますが、特に研究論文は自身でポイントを整理していくことが理解を深めることになりますので、論文ごとに問題と研究目的、研究方法、結果とその分析方法、考察をまとめていきます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、適宜、論文と書籍を紹介します。

【参考書】

心理学研究法や心理データ解析法に関する書籍が参考になります。

【成績評価の方法と基準】

論文執筆への姿勢(40%)、研究成果(30%)、修士論文の内容(30%)を総合して評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に論文や書籍を読み進めていくことを期待しています。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

教育心理測定学、心理データ解析

<研究テーマ>

項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用

<主要研究業績>

(1) 読んでわかる心理統計法 (共著、サイエンス社)

(2) 心理・教育のための R によるデータ解析 (単著、福村出版)

(3) 日本版 KABC-II マニュアル・換算表 (共訳編、丸善出版)

(4) Q&A 心理データ解析 (共著、福村出版)

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with the academic skills related to psychological research and writing master's thesis.

SOW500J3

福祉社会系特殊講義 II

中村 律子

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会福祉系特殊講義 I をふまえ、高齢者福祉をめぐる学際的研究の視点や方法、知見を整理し、老年学や高齢者福祉制度・政策論、実践論の研究動向、到達点を明確にします。また諸外国 (アジア地域や欧米) と日本との高齢者福祉比較研究からそれぞれの特質を学びます。

【到達目標】

高齢者福祉を含む学際的研究の視点や方法、知見から老年学や高齢者福祉制度・政策論と実践論とを関連させて理解し、高齢者福祉と実践とをとりまく問題状況、今後の研究課題を明確化します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

老年学や高齢者福祉制度・政策論と実践論に関する内外の関連文献をもとに講義し、ディスカッションしながら理解を深めます。また、リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し議論に活かします。課題提出へのフィードバックについては学習支援システムへ展開します。なお、授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のねらいとスケジュールについて
第 2 回	老年学について①	学際的老年学などの知見を整理する
第 3 回	老年学について②	欧米と日本の「老年学」に関する比較研究
第 4 回	老年学について③	老年医学からサクセスフルエイジング学にいたる研究検証
第 5 回	エイジング心理学①	変容する高齢者像と高齢期のアイデンティティ研究
第 6 回	エイジング心理学②	変容する高齢者像と高齢期のアイデンティティ
第 7 回	高齢者と福祉文化論①	高齢者が創造する文化的実践
第 8 回	高齢者と福祉文化論②	高齢者が創造する社会文化的実践
第 9 回	老いの福祉人類学①	社会史や民俗学から老いや福祉を学ぶ
第 10 回	老いの福祉人類学②	欧米の「老年人類学」の研究動向とその特質
第 11 回	老いの福祉人類学③	高齢者の生活や生き方の実践
第 12 回	高齢者と地域社会	高齢社会における「コミュニティ」の意義について
第 13 回	海外の高齢者福祉	欧米型、アジア型の高齢者福祉論を展望する
第 14 回	まとめ	講義のまとめと今後の研究課題の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備 (社会老年学や老年人類学などの研究論文 (日本語、英文を問わず) のレビューや整理、報告) 時間、復習 (報告後の再整理など) 時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

適宜、紹介します。

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加姿勢・報告内容 (70 %)、レポート提出 (30 %) によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは実施していませんが、古典から最新の研究動向などを紹介しながら、講義を進めたい。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：社会福祉学、高齢者福祉論、社会福祉処遇史

主要業績：

・「ネパール震災と高齢者ケアコミュニティ・ケアの再創造」現代福祉研究

第 16 号 法政大学現代福祉学部 2016 年

・『浴風園ケース記録集- 100 人』共著、学文社、2015 年

・「ネパール社会における「sewa」コミュニティ」に関する一考察」現代福祉

研究第 13 号、法政大学現代福祉学部 2013 年

・『実践のコミュニティ』共著、京都大学出会、2012 年

・「戦前の養老院の社会的意義について- 開園から救護法施行期までの浴風園の原史料分析-」、現代福祉研究第 8 号、法政大学現代福祉学部、2008 年

【Outline and objectives】

This course aims at defining gerontology, welfare system, policy, practice theory movement/trend for elderly as well as the current attainable goals through examining interdisciplinary research method, perspective, and knowledge. Furthermore, this lecture enables students to learn different characteristic features of the welfare system for the aged by the comparison study of different countries (Asia and the Western countries).

PSY600J2

論文研究指導

望月 聡

科目分類・科目群：研究指導科目

配当年次／単位数：1・2 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文に関わる研究遂行や論文執筆に関する指導を行います。完成度の高い修士論文を作成することを目的とします。

【到達目標】

研究テーマに関わる専門的な知見や手法を学ぶことができます。実際に研究を遂行する経験によって、研究デザインや研究法、統計的分析などの技能を深く身につけることができます。修士論文の執筆を経験することにより、研究論文執筆の技能を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式です。修士論文にかかる研究指導のための科目ですから、基本的には受講生が能動的に学修を進めていくスタイルになります。

受講生各自により研究は進められ、その進捗状況に応じて指導・助言を行います。授業計画に記載された各回の進捗は受講生それぞれに変わることがあります。

対面時に直接もしくはメールにより、随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	修士論文作成のプロセスについて。
第 2 回	研究のかたちをつくる (1-1) リサーチエス ションの設定	研究のアイデアから、関連する研究論文を検索・調査し、読んでみる。
第 3 回	研究のかたちをつくる (1-2) リサーチエス ションの設定	自分の経験から生じた疑問や関心をリサーチエスションの形に構造化する。
第 4 回	研究のかたちをつくる (1-3) リサーチエス ションの設定	臨床心理学研究における典型的な問いの形、研究デザインや統計的手法のバリエーションの観点から、自らのリサーチエスションを洗練させる。
第 5 回	研究のかたちをつくる (1-4) リサーチエス ションの設定	優れたリサーチエスションが備えるべき 5 つの条件に照らして吟味し、リサーチエスションを確定させる。
第 6 回	研究のかたちをつくる (2-1) 仮説の導出	仮説検証型研究となるのか、仮説生成型研究になるのかを吟味する。
第 7 回	研究のかたちをつくる (2-2) 仮説の導出	データの分析枠組み、研究者と対象との関係性などについて検討し、仮説を設定する（仮説検証型研究の場合）。
第 8 回	研究のかたちをつくる (3-1) 研究デザインの立案	量的研究を行う場合、質的研究を行う場合の研究デザインについて検討し、研究計画の原案を作成する。
第 9 回	研究のかたちをつくる (3-2) 研究デザインの立案	研究法（実験法・調査法・観察法・面接法・検査法）について検討する。
第 10 回	研究のかたちをつくる (3-3) 研究デザインの立案	研究デザイン（仮説検証型／仮説生成型、量的研究／質的研究）の観点、および研究法の観点から総合的に吟味し、研究計画を決定する。
第 11 回	研究を遂行する (1-1) データの収集	研究計画に沿ってデータ収集を進める。(1)
第 12 回	研究を遂行する (1-2) データの収集	研究計画に沿ってデータ収集を進める。(2)
第 13 回	研究を遂行する (1-3) データの収集	研究計画に沿ってデータ収集を進める。(3)
第 14 回	中間まとめ	現在までの進捗状況を確認し、第 15 回以降の予定を確認します。
第 15 回	研究を遂行する (2-1) データの分析	収集されたデータに対して、分析計画に沿って分析を行う。(1)
第 16 回	研究を遂行する (2-2) データの分析	収集されたデータに対して、分析計画に沿って分析を行う。(2)
第 17 回	研究を遂行する (2-3) データの分析	収集されたデータに対して、分析計画に沿って分析を行う。(3)
第 18 回	研究を遂行する (3-1) 結 論の導出	分析結果をもとに、研究成果について考察を行い、結論を導く。(1)
第 19 回	研究を遂行する (3-2) 結 論の導出	分析結果をもとに、研究成果について考察を行い、結論を導く。(2)

第 20 回	研究を遂行する (3-3) 結論の導出	分析結果をもとに、研究成果について考察を行い、結論を導く。(3)
第 21 回	論文を執筆する (1)	論文の「方法」セクションの執筆完了を目指す。
第 22 回	論文を執筆する (2)	論文の「結果」セクションの執筆完了を目指す。
第 23 回	論文を執筆する (3)	論文の「問題と目的」セクションの執筆完了を目指す。
第 24 回	論文を執筆する (4)	論文の「考察」セクションの執筆完了を目指す。
第 25 回	論文を執筆する (5)	論文のその他のセクション (「引用文献」「目次」等) の執筆完了を目指す。論文全体の完成に近づける。
第 26 回	論文を完成させる	論文全体を通して推敲し、修士論文を完成させる。
第 27 回	発表準備	口頭試問や修士論文発表会に向けてプレゼンテーションを作成する。
第 28 回	まとめ	口頭試問、修士論文発表会

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

修士論文作成に係る指導を受ける科目であるため、主体的に取り組み、研究を進めていく必要があります。したがって、授業時間外の学習に多くの時間を必要とします。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

使用しません。

【参考書】

日本心理学会 (2015). 執筆・投稿の手びき <https://psych.or.jp/manual>
『臨床心理学研究法特論』 小川俊樹・望月聡 (編著) 放送大学教育振興会
『心理学の実践的研究法を学ぶ (臨床心理学研究法 1)』 下山晴彦・能智正博 (編) 新曜社
『アナログ研究の方法 (臨床心理学研究法 4)』 杉浦義典 新曜社
『量的研究法 (臨床心理学をまなぶ 7)』 南風原朝和 東京大学出版会
『質的研究法 (臨床心理学をまなぶ 6)』 能智正博 東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

修士論文の完成度 (50%)、研究への取り組み (50%) として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

神経心理学、認知行動病理学

【Outline and objectives】

This course guides students in their conducting research and writing master's thesis.

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義 I

伊藤 正子

配当年次/単位数：1～3 年次 / 2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ソーシャルワークにおけるクライアント理解の視点を学ぶ。

【到達目標】

現代社会における生活問題の特質を説明できる。
クライアントの人格発達に影響を及ぼす諸要因を理解し、援助モデルを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、生活を既定する諸要因ごとに、それらが人間発達および生活問題に及ぼす影響について検討し、次に資本主義社会における現代生活の一般的な問題状況の把握を試みる。さらに、グローバリゼーションという視点から再度現代社会における社会問題、およびそれによる生活問題という視点からその特質を捉え直し、そこに求められる社会福祉援助について考察する。オンラインまたは対面での開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第 2 回	生活問題論①	経済的規定性
第 3 回	生活問題論②	生活と人格発達
第 4 回	生活問題論③	集団と人格発達
第 5 回	生活問題論④	障害と人格発達
第 6 回	生活問題論⑤	病と人格発達
第 7 回	生活問題論⑥	文化とこころ
第 8 回	生活問題論⑦	文化、宗教とエスニシティ
第 9 回	生活問題論⑧	個別化と社会化の同時進行
第 10 回	生活問題論⑨	生活問題の重層性の理解
第 11 回	グローバリゼーション時代の生活問題①	資本と労働の国際移動
第 12 回	グローバリゼーション時代の生活問題②	液状化した社会における個人
第 13 回	グローバリゼーション時代の生活問題③	開発途上国における生活問題
第 14 回	グローバリゼーション時代の生活問題④とまとめ	世界都市における生活問題とまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業中に紹介した文献・資料などを中心に、該当箇所について復習し、理解を深めておくこと。また、報告を求められることがあるので、報告を担当する際には、入念な準備を行い、プレゼンテーションの予行を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に定めず、毎回資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 (40%)
2. 最終レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインのための機器 (パソコン、スマートフォン等)

【その他の重要事項】

医療機関・NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
<研究テーマ>エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

【Outline and objectives】

This course introduces the perspectives of social work practices for understanding client reality.

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

伊藤 正子

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

移民、エスニックマイノリティの現状と反抑圧的实践を学ぶ。

【到達目標】

反抑圧的实践の重要概念を説明できる。

移民、エスニックマイノリティの生活問題と援助者の役割について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

エスニックマイノリティを中心としつつ、マイノリティとよばれる人びとのおかれた状況とそれに対する社会福祉実践について、アメリカを中心として概観し、その上で、近年のマイノリティ援助理論の動向を検討し、その特徴を整理する。オンラインまたは対面での開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第2回	マイノリティについて	マイノリティとは何かー社会・経済的システム、偏見・差別、文化的背景からの検討
第3回	マイノリティに関する研究動向	マイノリティの福祉的課題
第4回	社会福祉実践におけるマイノリティ①	アメリカにおける移民支援の起源
第5回	社会福祉実践におけるマイノリティ②	アメリカにおけるマイノリティ援助の歴史の変遷
第6回	社会福祉実践におけるマイノリティ③	アメリカにおける黒人問題とソーシャルワーク
第7回	社会福祉実践におけるマイノリティ④	日本におけるオールドカマーとニューカマーの生活問題
第8回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論①	ラディカルソーシャルワーク
第9回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論②	エンパワメントアプローチ
第10回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論③	エスニックセンシティブソーシャルワーク
第11回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論④	クリティカルソーシャルワーク
第12回	マイノリティに関する最近の実践動向①	アメリカの事例
第13回	マイノリティに関する最近の実践動向②	日本の事例
第14回	まとめ	ソーシャルワークにおけるマイノリティ支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介した文献・資料などを中心に、該当箇所について復習し、理解を深めておくこと。また、報告を求めることがあるので、報告を担当する際には、入念な準備を行い、プレゼンテーションの予行を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、必要に応じて資料を配布し、後半の文献研究は受講者の関心に沿って文献を選定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（40%）
2. 最終レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】

医療機関・NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【担当教員の専門分野等】＜専門領域＞社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
＜研究テーマ＞エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題**【Outline and objectives】**

This course introduces the realities of migrants and ethnic minorities in Japan and anti-oppressive practice of social work.

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義 I

岩田 美香

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代家族の多様性を原書講読を通して考察する。

【到達目標】

- ・諸外国、主にアメリカの家族の現状について家族に関する神話も含めて理解する。
- ・日本の現状も踏まえて、家族の多様性と社会について検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・主にアメリカにおける現代家族のペーパーを読み、日本の現状も踏まえた上で討論を進める。
- ・課題のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	テキスト・文献の紹介、講義の進め方
第2回	Images, Ideals, and Myths	家族をめぐるイメージや神話に関する文献
第3回	Family Diversity 1	家族の多様性に関する文献1
第4回	Family Diversity 2	家族の多様性に関する文献2
第5回	Class, Race, and Gender 1	階層、人種、ジェンダーに関する文献1
第6回	Class, Race, and Gender 2	階層、人種、ジェンダーに関する文献2
第7回	Cohabitation and Marriage	同棲と結婚に関する文献
第8回	Parents and Children 1	親子関係に関する文献1
第9回	Parents and Children 2	親子関係に関する文献2
第10回	Foster Parent and Adoption	里親と養子縁組に関する文献
第11回	Violence in Families 1	家庭内暴力に関する文献1
第12回	Violence in Families 2	家庭内暴力に関する文献2
第13回	Divorce and Remarriage	離婚と再婚に関する文献
第14回	Family Policy	家族政策に関する文献

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・履修者は順番でレポーターを担当して発表すると同時に、レポーター以外の履修者も、事前にペーパーを読み、全員が論点を書き出したペーパーを用意して討論を進めていく。
- ・本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義内で指定する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内発表と討論参加（30％）、課題の提出（40％）、最終レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野】

〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論
〈研究テーマ〉

1. 子育て・子育ての社会的不平等
2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline and objectives】

In this course, we will examine family diversity through reading American research papers.

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義 II

岩田 美香

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉援助実践を深めていくために、その背景にある理論を実践に展開し、また実践の積み重ねを理論化していくための検討を行う。

【到達目標】

- ・本年度は、福祉臨床においても重要となる「家族」のについて考察する。特に、日本における家族制度の単位である「戸籍」を手がかりに、歴史的経緯も含めた検討を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・履修者は順番でレポーターを担当して発表すると同時に、レポーター以外の履修者も事前にテキストを読み、各自の研究関心との関連で論点を書き出したペーパーを全員が用意し、討論を進めていく。
- ・課題のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、各自の問題関心の紹介
第2回	戸籍の何が問題なのか	戸籍とは、個人の生涯にわたる身分証明、戸籍と家族の結びつき
第3回	戸籍の単位をめぐって	家族単位か個人単位か、家族単位の戸籍を問う
第4回	「家族単位」という選択	「夫婦と未婚の子」という妥協点、民法・戸籍法改正案起草委員会案
第5回	公証ツールとしての機能性	「家」単位、個人カード方式をめぐって
第6回	「家族単位」成立の時代性	最小限度の法改正、民法応急措置法に伴う緊急対応
第7回	GHQ 提案に対する抵抗	家族単位の死守、人々の生活に直結する制度
第8回	戸籍と格闘する人々ー婚外子にまつわる「身の上相談」から	虚偽の出生届、戸籍に翻弄される女性たち、特別養子縁組
第9回	認知がもたらす葛藤	戸籍に記載される認知の事実、認知された子の入籍
第10回	戸籍の不条理	結婚と戸籍謄本、嫡出推定にかかる子の籍
第11回	家族と非家族の境界	離婚・再婚と子の籍、再婚の障害、連れ子の入籍、前婚の子の除籍
第12回	家族政策としての戸籍制度	「家族単位」の選択と作用、「婚姻家族」の規範化の背景
第13回	個人単位へ向けて	失われた視点の回復、家族政策からの脱却
第14回	総括：文献全体を通してのディスカッション	自らの研究との関連での検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読み、各自の研究関心との関連で論点を書き出したペーパーを用意すること。本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

下夷美幸（2019）『日本の家族と戸籍 なぜ「夫婦と未婚の子」単位なのか』東京大学出版会

【参考書】

履修者の関心も含めて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内発表と討論参加（30％）、課題の提出（30％）、最終レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野】

〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論
〈研究テーマ〉1. 子育て・子育ての社会的不平等
2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline and objectives】

This course focuses specifically on the theoretical framework for social work practice.

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義 I

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの中核をなす「当事者性」について考究する。

【到達目標】

授業では、受講者とソーシャルワークにおける当事者性の基本事項について共有したうえで、関連する知識を学習し、理論的な側面を含め、当事者理解を深めていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義のテーマと受講生の研究テーマを合わせながら、取り扱うテーマを絞り込み、それに関連する文献を取集し、輪読、議論を行います。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テキスト・文献の紹介と講義の進め方
第 2 回	ソーシャルワークに関する研究動向	論文をとおして学習する
第 3 回	ソーシャルワークに関する最近の研究動向	最近の論文をとおして学習する
第 4 回	当事者性とは何か	当事者とは何かを理解する
第 5 回	セルフヘルプ・グループに関する研究	先行研究のレビュー
第 6 回	セルフヘルプ・グループに関する最新の研究	先行研究のレビュー
第 7 回	セルフヘルプ・グループに関する文献を用いた検討	先行研究をレビューしながらの討議
第 8 回	セルフヘルプ・グループに関する解釈	先行研究のレビューと課題の探求
第 9 回	セルフヘルプ・グループに関する研究課題の検討	課題について、討議を行う
第 10 回	セルフヘルプ・グループに関する研究課題の設定	先行研究の検討と研究課題設定
第 11 回	セルフヘルプ・グループに関する研究内容の報告	これまでの議論を踏まえた研究内容の報告
第 12 回	当事者と専門職者との関係性	援助関係の検討
第 13 回	当事者と専門職者の関係性とその課題	援助関係とその課題に関する検討を行う
第 14 回	春学期のまとめと議論	「援助」「支援」についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に提示された文献を通読した上で、論点を洗い出しておくこと。また、報告を求める場合は、単なる発表にならないよう、議論をする準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

あらかじめ指定しない。授業の中で話し合い、決定する。

【参考書】

- ・石川到覚・久保絃章（1998）『セルフヘルプ・グループの理論と展開』中央法規
- ・石川到覚・久保絃章（1998）『セルフヘルプ・グループ活動の実際』中央法規

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内報告 50%
- ・課題提出 50%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の課題や研究の方向性について、積極的にコミュニケーションを図りながら授業を改善していきたい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、自洗と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野】

＜専門領域＞ソーシャルワーク論、グリーフケア
 ＜研究テーマ＞ソーシャルワークにおける死別ケア研究、セルフヘルプグループ研究

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices for people with difficulties.

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークにおける死別ケアに関する研究を理解する

【到達目標】

本講義では、ソーシャルワークにおける援助関係を理解した上で、人が生きるということの線上にある「死」について、専門職としてのアプローチの仕方について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

死生にかかわるテーマを設定し、受講者の関心と合わせながら、輪読・議論を行っていく。具体的には、担当教員の専門領域やこれまでの研究から導出されたことを明らかにし、本講義の基盤を形成して行く。その上で、受講者の関心に合わせたテーマを定め、関連する文献等を収集し、報告を行っていく。報告された内容・文献について、提起された課題について議論して行く。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、文献紹介
第 2 回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際①	死別に関する研究
第 3 回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際②	悲嘆に関する研究
第 4 回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際③	グリーフケアに関する研究
第 5 回	成年後見と尊厳死①	ドイツにおける事前指示書の概要
第 6 回	成年後見と尊厳死②	事前指示書の法的概要
第 7 回	意思決定支援と尊厳死①	意思決定支援の方法
第 8 回	意思決定支援と尊厳死②	意思決定支援の課題
第 9 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究①	文献読み込み
第 10 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究②	課題検討
第 11 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究③	ディスカッション
第 12 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究④	死生をめぐる感情とケア
第 13 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究⑤	専門職の死生観
第 14 回	研究の動向についてのまとめと議論	秋学期を通して学んだことを議論しまとめとする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に提示された文献を通読した上で、論点を洗い出しておくこと。また、報告を求める場合は、単なる発表にならないよう、議論をする準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

あらかじめ指定しない。授業の中で話し合い、決定する。

【参考書】

清水哲郎・島蘭進（2010）『ケア従事者のための死生学』

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内報告 50%
- ・課題提出 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生とコミュニケーションをとることが評価されているので、その点を意識して取り組みたい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野】

<専門領域> ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

<主要研究業績>

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline and objectives】

This course introduces the bereavement care in social work practices to students taking this course.

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅰ

宮城 孝

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域を基盤としたソーシャルワーク（コミュニティソーシャルワーク）の概念、理論、先進的事例の分析を交えて講義する。また、地域福祉に関するネットワーク、システムについて、地域福祉計画の策定方法を交えて講義する。

【到達目標】

地域を基盤としたソーシャルワークについて、理論的に説明できる
地域福祉のシステムや計画策定の方法について説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前半では、コミュニティソーシャルワークについての講義と文献解説、先進事例の分析について中心に取り組む。

後半では、地域福祉のネットワーク、システム、地域福祉計画の策定方法について、理論や先進事例についての分析に取り組む。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コミュニティソーシャルワーク	概念と今日的意義
第 2 回	コミュニティソーシャルワーク	理論
第 3 回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス①）	個別課題アセスメント
第 4 回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス②）	地域アセスメント
第 5 回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス③）	アセスメントの統合
第 6 回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス④）	プランニング
第 7 回	チームアプローチ	理論と実践
第 8 回	ネットワーク形成	理論と実践
第 9 回	地域福祉システム	内容と事例分析
第 10 回	地域福祉計画①	今日的意義
第 11 回	地域福祉計画②	ニーズ把握の方法
第 12 回	地域福祉計画③	課題の明確化
第 13 回	地域福祉計画④	目標の設定と資源化
第 14 回	地域福祉計画⑤	関連公共施策との連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業までに、先行研究や事例に関するレポートをまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）と提出課題の内容（40％）により評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととまなない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（編著）中央法規、2019 年

- ・『地域福祉とファンディング－財源確保の理論と先進事例－』（中央法規）2018 年
- ・『地域福祉とファンディング－財源確保の方法と先進事例－』（中央法規、2018 年
- ・『地域福祉とイノベーション』編集代表、中央法規、2017 年
- ・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015 年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規、2014 年
- ・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル』（監訳）丸善、2012 年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010 年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008 年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規、2007 年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006 年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000 年

【Outline and objectives】

In this lecture, it attempts to understand the concept, theory of the community social work, also, it improves to analyze the case of the community social work

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

宮城 孝

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：○

【Outline and objectives】

in this lecture, it attempts to understand the community social work practice, system of community welfare, community welfare planning, through, it improve to analyze the case.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、また将来の福祉問題に対応する地域を基盤としたソーシャルワーク実践、地域福祉のシステム、計画策定に関して、先行研究や先進事例をとおして検討する。履修希望者の関心領域に応じてテーマを変えることもある。

【到達目標】

地域を基盤としたソーシャルワーク、地域福祉のシステム形成において、理論的、応用的なレベルで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

先行研究に関する文献のレビューや、先進事例の分析に関してレポートを作成し報告を行う。レポートの報告と個別指導による。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文献・データの選択①	先行研究・先進事例の検討①
第2回	文献・データの選択②	先行研究・先進事例の検討②
第3回	レポートによる報告①	報告に基づく検討①
第4回	レポートによる報告②	報告に基づく検討②
第5回	先行研究の選択①	先行研究の検討①
第6回	レポートによる報告③	報告に基づく検討③
第7回	レポートによる報告④	報告に基づく検討④
第8回	前半のまとめ	まとめと今後の目標
第9回	先行研究の選択②	先行研究の検討②
第10回	レポートによる報告⑤	報告に基づく検討⑤
第11回	レポートによる報告⑥	報告に基づく検討⑥
第12回	先進事例の選択	事例分析と検討
第13回	レポートによる報告⑦	報告に基づく検討⑦
第14回	レポートによる報告⑧	報告に基づく検討⑧

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、課題を課したり、自ら課題を設定し、レポートにまとめて報告できるように準備すること。準備・復習時間を4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、レポートの提出と報告内容 60%により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行う。

【担当教員の専門分野等】

【専門領域】 地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展- 理論と先進事例-』（編著）中央法規 2019 年
- ・『地域福祉とファンドレイジング- 財源確保の理論と方法-』（編著）中央法規、2018 年
- ・『地域福祉のイノベーション- コミュニティの持続可能性の危機に挑む』（編集代表）中央法規、2017 年
- ・『東日本大震災と地域福祉- 次代への継承を探る-』（共編著）中央法規、2015 年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規、2014 年
- ・『ソーシャルワークと社会開発- 開発的ソーシャルワークの理論とスキル-』（監訳）丸善、2012 年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010 年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008 年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規 2007 年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006 年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000 年

ARSk500J3

地域・政策系特殊講義 I

関司 直也

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、各地で地域再生に向けた様々な取り組みが展開している。本講義では、そのような取り組みの主体、それを支える仕組みや制度、財源など、地域政策、地域経営の観点から、地域再生の取り組みを分析・評価することに関心を寄せる。

【到達目標】

授業では、受講生と地域に関する認識を共有した上で、関連文献や収集事例をもとに議論を深め、今日的局面への理解に繋げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当教員の専門分野をもとに、受講生の研究テーマに合わせて、取り扱うテーマを絞り込み、それに関連する文献や論文を収集して、輪読・議論を行っていく。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究内容について共有し、進め方を決定する。
第 2 回	受講生の研究発表・議論	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する。
第 3 回	候補文献についての検討	輪読する文献を持ち寄り、検討する。
第 4 回	文献論点の報告①	第 1 章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第 5 回	文献論点の議論①	第 1 章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第 6 回	文献論点の報告②	第 2 章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第 7 回	文献論点の議論②	第 2 章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第 8 回	文献論点の報告③	第 3 章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第 9 回	文献論点の議論③	第 3 章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第 10 回	文献論点の報告④	第 4 章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第 11 回	文献論点の議論④	第 4 章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第 12 回	文献論点の報告⑤	第 5 章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第 13 回	文献論点の議論⑤	第 5 章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第 14 回	まとめ	全体を通して議論し、学んだ視点を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究発表や輪読の順番に応じて準備を行う。自分が報告する時以外も、課題文献に予め目通して議論に備えておく。準備・復習時間として各 2 時間を確保してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義時間中に必要に応じて配布するとともに、適宜指示する。

【参考書】

講義時間中に必要に応じて配布・紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %，研究・文献報告 60 %

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは非実施だが、受講生から寄せられた意見も踏まえながら、授業内容に反映させたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論
 <研究テーマ> 農山村地域における地域資源管理の担い手問題、地域マネジメントのあり方
 <主要研究業績>
 『プロセス重視の地方創生:農山村からの展望』（共著、筑波書房、2019 年）
 『内発的農村発展論』（共著、農林統計出版、2018 年）
 『田園帰郷の過去・現在・未来』（共著、農山漁村文化協会、2016 年）

『人口減少時代の地域づくり読本』（共著、公職研、2015 年）

【Outline and objectives】

Today, various approaches to regional revitalization are being developed in various places. In this lecture, we will be interested in analyzing and evaluating initiatives for regional revitalization from the perspective of regional policies and regional management, including the main constituents of such efforts, the mechanisms and systems that support them, and financial resources.

ARSk500J3

地域・政策系特殊講義Ⅱ

図司 直也

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、各地で地域再生に向けた様々な取り組みが展開している。本講義では、そのような取り組みの主体、それを支える仕組みや制度、財源など、地域政策、地域経営の観点から、地域再生の取り組みを分析・評価することに関心を寄せる。

【到達目標】

授業では、受講生と地域に関する認識を共有した上で、関連文献や収集事例をもとに議論を深め、今日的局面への理解に繋げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当教員の専門分野をもとに、受講生の研究テーマに合わせて、取り扱うテーマを絞り込み、それに関連する文献や論文を収集して、輪読・議論を行っていく。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究内容について共有し、進め方を決定する。
第 2 回	受講生の研究発表・議論	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する。
第 3 回	候補文献についての検討	輪読する文献を持ち寄り、検討する。
第 4 回	文献論点の報告①	第 1 章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第 5 回	文献論点の議論①	第 1 章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第 6 回	文献論点の報告②	第 2 章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第 7 回	文献論点の議論②	第 2 章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第 8 回	文献論点の報告③	第 3 章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第 9 回	文献論点の議論③	第 3 章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第 10 回	文献論点の報告④	第 4 章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第 11 回	文献論点の議論④	第 4 章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第 12 回	文献論点の報告⑤	第 5 章の発表担当者がレジュメを作成し、文献の内容と論点を報告する。
第 13 回	文献論点の議論⑤	第 5 章の報告を受けて、受講生で議論を深める。
第 14 回	まとめ	全体を通して議論し、学んだ視点を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究発表や輪読の順番に応じて準備を行う。自分が報告する時以外も、課題文献に予め目通して議論に備えておく。準備・復習時間として各 2 時間を確保してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義時間中に必要に応じて配布するとともに、適宜指示する。

【参考書】

講義時間中に必要に応じて配布・紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %，研究・文献報告 60 %

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは非実施だが、受講生から寄せられた意見も踏まえながら、授業内容に反映させたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論
<研究テーマ> 農山村地域における地域資源管理の担い手問題、地域マネジメントのあり方
<主要研究業績>
『プロセス重視の地方創生:農山村からの展望』（共著、筑波書房、2019 年）
『内発的農村発展論』（共著、農林統計出版、2018 年）
『田園回帰の過去・現在・未来』（共著、農山漁村文化協会、2016 年）

『人口減少時代の地域づくり読本』（共著、公職研、2015 年）

【Outline and objectives】

Today, various approaches to regional revitalization are being developed in various places. In this lecture, we will be interested in analyzing and evaluating initiatives for regional revitalization from the perspective of regional policies and regional management, including the main constituents of such efforts, the mechanisms and systems that support them, and financial resources.

ARSk500J3

地域・政策系特殊講義 I**土肥 将敦**

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と社会のインターフェース（境界領域）にかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任、企業と NPO/NGO のコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSR は近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているため、ゼミナールの大きな研究テーマの 1 つになる。また、企業社会を理解する上で NPO や NGO の存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。この他にも、環境、福祉、教育、都市再開発、途上国支援など多様な社会的課題の解決をミッションとしてビジネスを立ち上げる社会的企業家の台頭の背景やその意義についても議論する。

【到達目標】

企業と社会の関係性を理解するとともに、CSR のグローバルな潮流や、社会的企業家が生み出すソーシャル・ビジネスの意義や課題等について理解する。また、テーマ設定、問い・仮説を立てる、既存研究を読む、考える、書く、という一連の作業を辛抱強く取り組むことで企業社会に関する思考をより深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当教員の専門分野をもとに、受講生の研究テーマに合わせて、取り扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・議論を行っていく。またインタビュー調査を実施した上で、新たな仮説やリサーチ・クエスションの導出を行う。COVID-19 にもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックについても学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究内容について共有し、進め方を決定する
第 2 回	受講生の研究発表・議論	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する①
第 3 回	受講生の研究発表・議論	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する②
第 4 回	候補文献についての検討	輪読文献を持ち寄り検討する
第 5 回	文献輪読①	文献論点を報告し議論する①
第 6 回	文献輪読②	文献論点を報告し議論する②
第 7 回	文献輪読③	文献論点を報告し議論する③
第 8 回	文献輪読④	文献論点を報告し議論する④
第 9 回	文献輪読⑤	文献論点を報告し議論する⑤
第 10 回	文献輪読⑥	文献論点を報告し議論する⑥
第 11 回	文献輪読⑦	文献論点を報告し議論する⑦
第 12 回	文献輪読⑧	文献論点を報告し議論する⑧
第 13 回	文献輪読⑨	文献論点を報告し議論する⑨
第 14 回	文献輪読⑩	文献論点を報告し議論する⑩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究発表や輪読の順番に応じて準備を行う。自分が報告する時以外も、課題文献に予め目通しして議論に備えておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時間中に必要に応じて配布するとともに、適宜指示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %，研究報告 50 %

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

講義アンケートは非実施であるが、受講生からの意見に耳を傾けながら、授業内容がより良いものになるように努めていく。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR 論

＜研究テーマ＞ ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方

＜主要研究業績＞

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015 年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014 年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT 出版、2013 年）

【Outline and objectives】

Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/ sustainability into their core business strategies. The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.

ARSk500J3

地域・政策系特殊講義Ⅱ

土肥 将敦

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と社会のインターフェース（境界領域）にかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任、企業と NPO/NGO のコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSR は近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているため、講義の大きな研究テーマの 1 つになる。また、企業社会を理解する上で NPO や NGO の存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。

【到達目標】

「地域・政策系特殊講義Ⅰ」をさらに発展させ、企業と社会の関係性を理解するとともに、CSR のグローバルな潮流や、社会的企業家が生み出すソーシャル・ビジネスの意義や課題等について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当教員の専門分野をもとに、受講生の研究テーマに合わせて、取り扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・議論を行っていく。またインタビュー調査を実施した上で、新たな仮説やリサーチ・クエスションの導出を行う。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究内容について共有し、進め方を決定する
第 2 回	受講生の研究発表・議論①	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する①
第 3 回	受講生の研究発表・議論②	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する②
第 4 回	候補文献についての検討	輪読する文献を持ち寄り、検討する
第 5 回	文献輪読①	文献の論点を報告し議論する①
第 6 回	文献輪読②	文献の論点を報告し議論する②
第 7 回	文献輪読③	文献の論点を報告し議論する③
第 8 回	文献輪読④	文献の論点を報告し議論する④
第 9 回	文献輪読⑤	文献の論点を報告し議論する⑤
第 10 回	文献輪読⑥	文献の論点を報告し議論する⑥
第 11 回	文献輪読⑦	文献の論点を報告し議論する⑦
第 12 回	文献輪読⑧	文献の論点を報告し議論する⑧
第 13 回	文献輪読⑨	文献の論点を報告し議論する⑨
第 14 回	文献輪読⑩	文献の論点を報告し議論する⑩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究発表や輪読の順番に応じて準備を行う。自分が報告する時以外も、課題文献に予め目通しして議論に備えておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時間中に必要に応じて配布するとともに、適宜指示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % , 研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】

講義アンケートは非実施であるが、受講生からの意見に耳を傾けながら、授業内容がより良いものになるように努めていく。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR 論

<研究テーマ> ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方

<主要研究業績>

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015 年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014 年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT 出版、2013 年）

【Outline and objectives】

Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/ sustainability into their core business strategies. The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.

ARSK500J3

地域・政策系特殊講義 I

保井 美樹

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全国で地域再生の様々な取組みが進んでいる。本講義はそうした取組の主体、それを支える仕組みや制度、財源等、地域経営的な視点から、地域再生の取組みを分析・評価する。

【到達目標】

授業では受講者と地域に関する認識を共有した上で、関連する知識を集め、そこから新たな視点を生み出すべく議論を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義のテーマに関連する文献や論文収集結果の報告を受け、全体議論を進める。前半は、課題文献を設定し、輪読・議論を行う。後半は、受講生の研究テーマに合わせ、既往研究のレビューを行い、その報告を受けて全体議論を行う。授業はオンラインと対面を適切に組み合わせ、或いは選択しつつ開講する。各回の授業方法については、受講者に個別に連絡するか、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究内容について共有し、今後の進め方を決定する。
第 2 回	受講生の研究発表・議論-1	受講者の研究内容を発表し、本授業で取り上げる内容との関連について議論する。-1
第 3 回	受講生の研究発表・議論-2	受講者の研究内容を発表し、本授業で取り上げる内容との関連について議論する。-2
第 4 回	候補文献についての概説と話し合い	輪読する文献を持ち寄り、それについて話し合う。
第 5 回	文献輪読・議論-1	発表担当者によるレジメ提出、報告、議論-1
第 6 回	文献輪読・議論-2	発表担当者によるレジメ提出、報告、議論-2
第 7 回	文献輪読・議論-3	発表担当者によるレジメ提出、報告、議論-3
第 8 回	文献輪読・議論-4	発表担当者によるレジメ提出、報告、議論-4
第 9 回	文献輪読・議論-5	発表担当者によるレジメ提出、報告、議論-5
第 10 回	テーマ別文献レビュー-1	関心あるテーマについて論文を中心に収集し、その要約を担当者から報告、全体議論-1
第 11 回	テーマ別文献レビュー-2	関心あるテーマについて論文を中心に収集し、その要約を担当者から報告、全体議論-2
第 12 回	テーマ別文献レビュー-3	関心あるテーマについて論文を中心に収集し、その要約を担当者から報告、全体議論-3
第 13 回	テーマ別文献レビュー-4	関心あるテーマについて論文を中心に収集し、その要約を担当者から報告、全体議論-4
第 14 回	まとめ	文献や研究レビューから得られた示唆について総合的に議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究発表や輪読の順番に応じて準備を行う。自分が報告するとき以外も、課題文献を予め読むなどの予習を行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

予め指定しない。授業の中で話し合い、決定する。

【参考書】

必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席のみならず、主体的な議論への参加） 40 %

研究・文献報告 60 %

より具体的な内容及び基準は、授業内に伝える。

【学生の意見等からの気づき】

常に受講者とよく話し合い、その研究に役立つ授業に改善していきたい。

【担当教員の専門分野等】

<研究テーマ> 都市・地域計画、エリアマネジメント、コミュニティ再生、公民連携

【Outline and objectives】

This lecture is interested in regional and community management including system, governance, finance and actors. Discussion is developed in the class to analyze challenges and researches related to this theme.

ARSk500J3

地域・政策系特殊講義Ⅱ

保井 美樹

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全国各地で地域再生の様々な取組みが行われている。本講義では、そうした取組の主体、それを支える仕組みや制度、財源等、地域経営的な視点から、地域再生の取組みを分析・評価する。

【到達目標】

授業では受講者と地域やコミュニティに関する認識を共有した上で、関連する知識を集め、そこから新たな視点を生み出すべく議論を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義のテーマに関連する文献や論文収集結果の報告を受け、全体議論を進める。まず受講生の研究発表を受けたのち、前半は、課題文献を設定し、輪読・議論を行う。後半は、受講生の研究テーマに合わせ、既往研究のレビューを行い、その報告を受けて全体議論を行う。授業はオンラインと対面を適切に組み合わせながら開講すると。各回の具体的な授業方法については、受講者に個別連絡するか、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究内容について共有し、今後の進め方を決定する。
第 2 回	受講生の研究発表・議論-1	受講者の研究内容を発表し、本授業で取り上げる内容との関連について議論する。-1
第 3 回	受講生の研究発表・議論-2	受講者の研究内容を発表し、本授業で取り上げる内容との関連について議論する。-2
第 4 回	候補文献等についての概説と話し合い	輪読する文献を持ち寄り、それについて話し合う。
第 5 回	文献輪読・議論-1	発表担当者によるレジメ提出、報告、議論-1
第 6 回	文献輪読・議論-2	発表担当者によるレジメ提出、報告、議論-2
第 7 回	文献輪読・議論-3	発表担当者によるレジメ提出、報告、議論-3
第 8 回	文献輪読・議論-4	発表担当者によるレジメ提出、報告、議論-4
第 9 回	文献輪読・議論-5	発表担当者によるレジメ提出、報告、議論-5
第 10 回	テーマ別文献レビュー-1	関心あるテーマについて論文を中心に収集し、その要約を担当者から報告、全体議論-1
第 11 回	テーマ別文献レビュー-2	関心あるテーマについて論文を中心に収集し、その要約を担当者から報告、全体議論-2
第 12 回	テーマ別文献レビュー-3	関心あるテーマについて論文を中心に収集し、その要約を担当者から報告、全体議論-3
第 13 回	テーマ別文献レビュー-4	関心あるテーマについて論文を中心に収集し、その要約を担当者から報告、全体議論-4
第 14 回	まとめ	文献や論文レビューから得られた示唆について総合的に議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究発表や輪読の順番に応じて準備を行う。自分が報告するとき以外も、課題文献を予め読むなどの予習を行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

予め指定しない。授業の中で話し合い、決定する。

【参考書】

必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席のみならず、主体的な議論への参加） 40 %
研究・文献報告 60 %

【学生の意見等からの気づき】

常に受講者と話し合い、その研究に役立つ授業にしていきたい。

【担当教員の専門分野等】

<研究テーマ> 都市・地域計画、エリアマネジメント、コミュニティ再生、公民連携

【Outline and objectives】

This lecture comes after Regional and Policy Special Lecture I. It is interested in regional and community management including system, governance, finance and actors. Discussion is developed in the class to analyze challenges and researches related to this theme.

ARSk500J3

地域・文化系特殊講義 I

水野 雅男

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「成熟化社会における豊かな地域社会を創造するための景観政策のあり方」

成熟化社会において、生活の豊かさを醸し出すとともに、地域の個性を演出する上で重要な景観政策への取り組みについて、その歴史的な変遷と近年の取り組みについて、国内外を比較しながら検討する。

【到達目標】

豊かさを享受できる地域社会を標榜する上での「景観」の果たす役割を「政策」という観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で行うので、講義内容は開講時に受講生と話し合い受講生の問題関心などに合わせて、柔軟に対応していく。

毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュール
第 2 回	我が国の風景の変遷①	異邦人がみた風景
第 3 回	我が国の風景の変遷②	風景の乱れ・歪み
第 4 回	我が国の風景の変遷③	明治から大正時代の風景論
第 5 回	我が国の風景の変遷④	風景づくりの作法
第 6 回	海外の風景づくり①	英国でのユートピア
第 7 回	海外の風景づくり②	西欧でのアメニティ論
第 8 回	海外の風景づくり③	イタリアの小都市
第 9 回	海外の風景づくり④	イタリアの農山村
第 10 回	海外の風景づくり⑤	イタリアの景観政策
第 11 回	生活景①	中心市街地と郊外住宅地
第 12 回	生活景②	景観を育む取り組み 金沢大野
第 13 回	生活景③	景観を育む取り組み 伊勢河崎
第 14 回	生活景④	生活景と都市計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前にテーマに関連する資料に目を通し、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「都市をつくる風景」中村良夫、藤原書店、2010 年
「イタリア小さなまちの底力」陣内秀信、講談社、2000 年
「生活景」日本建築学会編、学芸出版社、2009 年

【参考書】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】

討論への参加（50％）とレポート（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった中で、町家再生生活や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を中心に授業で紹介する。

【担当教員の専門分野等】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第 707 号、2015 年
「地方都市の再生戦略」（共著）学芸出版社、2013 年
「生活景」（共著）学芸出版社、2009 年

【Outline and objectives】

Theme "Landscape policy to create a rich community in maturing society"

In the maturing society, we will examine the historical transition and recent efforts of landscape policy, which is important for directing the individuality of the region, while also enriching the living conditions, and considering it while comparing domestic and overseas.

ARSk500J3

地域・文化系特殊講義Ⅱ

水野 雅男

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：○

【Outline and objectives】

Theme "Creative city that can enjoy cultural diversity in maturing society"

After the 20th century pursuing economic efficiency, the 21st century respects individual diversity and each city in the world advocates "creative city" seeking new value created by culture. While considering what the creative city is and the economic aspect of it, consider the policy being undertaken while comparing domestic and overseas.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「成熟化社会における文化多様性を享受できる創造都市」
経済効率を追い求めた 20 世紀を経て、21 世紀は個々の多様性を尊重し、文化が生み出す新しい価値を求める「創造都市」を世界各都市が標榜している。創造都市とはどういうものか、その経済的な側面も考察しながら、取り組まれている政策について国内外を比較しながら検討する。

【到達目標】

21 世紀の新しい都市の在り方としての「創造都市」の果たす役割を「政策」という観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で行うので、講義内容は開講時に受講生と話し合い受講生の問題関心などに合わせて、柔軟に対応していく。

毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュール
第 2 回	創造都市の文化戦略①	文化多様性と社会包摂に向かう創造都市
第 3 回	創造都市の文化戦略②	都市の創造的縮小の時代
第 4 回	創造都市の文化戦略③	創造都市の文化ブランド戦略
第 5 回	創造都市の文化戦略④	アジアの創造産業と都市政策
第 6 回	創造都市への戦略①	アートによるイノベーション
第 7 回	創造都市への戦略②	都市のアイデンティティ創出、創造的産業創生
第 8 回	創造都市への戦略③	文化の空間戦略と都市計画
第 9 回	創造都市への戦略④	国内の創造都市の事例
第 10 回	創造都市への戦略⑤	海外の創造都市の事例
第 11 回	創造都市と観光振興①	地方都市の観光振興
第 12 回	創造都市と観光振興②	観光客を惹きつける街
第 13 回	創造都市と観光振興③	景観まちづくりと交通政策
第 14 回	創造都市と観光振興④	創造都市と雇用創出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前にテーマに関連する資料に目を通し、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「創造都市と社会包摂」佐々木雅幸・水内俊雄編、水曜社、2009 年
「創造性が都市を変えろ」横浜市・鈴木伸治編、学芸出版社、2010 年
「創造都市のための観光振興」宗田好史、学芸出版社、2009 年

【参考書】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】

討論への参加（50 %）とレポート（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに 24 年間関わった中で、創造都市構築に関する市民活動を企画運営してきた経験を中心に授業で紹介する。

【担当教員の専門分野等】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第 707 号、2015 年
「地方都市の再生戦略」（共著）学芸出版社、2013 年
「生活景」（共著）学芸出版社、2009 年

PSY500J3

臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義 I

金築 優

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義を通して、認知行動療法の理論や技法に関する諸問題について専門的な理解を深めます。

【到達目標】

認知行動療法の理論や技法に関する諸問題について専門的な知識を身につけて、自らの臨床活動や研究活動に活かすことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

認知行動療法の理論や技法に関する最新の論文等を講読することを通して、知識を深めていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について話し合います。
第 2 回	認知行動療法の歴史	認知行動療法の歴史を学びます。
第 3 回	第一世代の認知行動療法について 1	行動療法等の様々な第一世代の認知行動療法の歴史を学びます。
第 4 回	第一世代の認知行動療法について 2	行動療法等の様々な第一世代の認知行動療法の哲学を学びます。
第 5 回	第一世代の認知行動療法について 3	行動療法等の様々な第一世代の認知行動療法の理論を学びます。
第 6 回	第一世代の認知行動療法について 4	行動療法等の様々な第一世代の認知行動療法の技法を学びます。
第 7 回	第二世代の認知行動療法について 1	認知療法等の様々な第二世代の認知行動療法の歴史を学びます。
第 8 回	第二世代の認知行動療法について 2	認知療法等の様々な第二世代の認知行動療法の哲学を学びます。
第 9 回	第二世代の認知行動療法について 3	認知療法等の様々な第二世代の認知行動療法の理論を学びます。
第 10 回	第二世代の認知行動療法について 4	認知療法等の様々な第二世代の認知行動療法の技法を学びます。
第 11 回	第三世代の認知行動療法について 1	メタ認知療法等の様々な第三世代の認知行動療法の歴史を学びます。
第 12 回	第三世代の認知行動療法について 2	メタ認知療法等の様々な第三世代の認知行動療法の哲学を学びます。
第 13 回	第三世代の認知行動療法について 3	メタ認知療法等の様々な第三世代の認知行動療法の理論・技法を学びます。
第 14 回	まとめ	これまで学んだことを振り返り、今後の認知行動療法の課題を議論します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に配布する資料を読み、自らの意見を持って、授業に臨むことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) とディスカッションの内容 (50%) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

臨床心理学、認知行動療法 (認知行動カウンセリング)

<研究テーマ>

認知行動療法の理論 (特に、知覚制御理論) に関する研究

<主要研究業績>

『心配に関するメタ認知的信念尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討』(共著、パーソナリティ研究 16(3)、2008 年)

『大学生の心配に対するメタ認知に焦点を当てた認知行動的介入の効果』(共著、感情心理学研究 17(3)、2010 年)

【Outline and objectives】

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to effective cognitive behavior therapy. This course will review current cognitive behavior therapy such as Meta-Cognitive Therapy, Mindfulness-Based Cognitive Therapy, and Acceptance and Commitment Therapy.

PSY500J3

臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅱ

金築 優

配当年次/単位数：1～3 年次 / 2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

認知行動療法の技法や理論について、知覚制御理論の観点から、専門的な理解を深めます。

【到達目標】

知覚制御理論について理解を深めた上で、認知行動療法の技法や理論を、自らの臨床活動や研究活動に活かすことができることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

知覚制御理論に関する論文等を講読しながら、認知行動療法の技法や理論をどのように解釈し、活用できるかをディスカッションしていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について話し合います。
第2回	認知行動療法と知覚制御理論	認知行動療法と知覚制御理論の関連を学びます。
第3回	制御について1	制御という現象について学びます。
第4回	制御について2	制御という現象について、負のフィードバックループの観点から学びます。
第5回	葛藤について1	葛藤のメカニズムについて考えます。
第6回	葛藤について2	葛藤という視点から心理的障害を考えます。
第7回	再組織化について1	再組織化という原理を学びます。
第8回	再組織化について2	再組織化という原理から変化のメカニズムを考えます。
第9回	メソッド・オブ・レベル認知療法1	知覚制御理論に基づく心理療法であるメソッド・オブ・レベル認知療法を概説します。
第10回	メソッド・オブ・レベル認知療法2	知覚制御理論に基づく心理療法であるメソッド・オブ・レベル認知療法の特徴を学びます。
第11回	メソッド・オブ・レベル認知療法3	知覚制御理論に基づく心理療法であるメソッド・オブ・レベル認知療法の技法を学びます。
第12回	被制御変数のテストという研究法1	知覚制御理論に基づく研究法としての被制御変数のテストを概説します。
第13回	被制御変数のテストという研究法2	知覚制御理論に基づく研究法としての被制御変数のテストの特徴を学びます。
第14回	まとめ	これまで学んだことを振り返り、今後の認知行動療法と知覚制御理論の課題を考えます。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

事前に配布する資料を読み、自らの理解や疑問点を明確にした上で、授業に臨むことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(50%)とディスカッションの内容(50%)で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

臨床心理学、認知行動療法(認知行動カウンセリング)

<研究テーマ>

認知行動療法の理論(特に、知覚制御理論)に関する研究

【Outline and objectives】

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to effective cognitive behavior therapy. This course will review perceptual control theory. Perceptual control theory is a self-regulatory framework based on control system engineering which explains human behavior.

PSY500J3

臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ

末武 康弘

配当年次/単位数：1～3 年次 / 2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

心理療法の理論、とくにクライアント中心療法(パーソンセンタードセラピー)、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を原著や論文等で学びます。

【到達目標】

心理療法の理論、とくにクライアント中心療法(パーソンセンタードセラピー)、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を専門的に理解することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

心理療法の理論、とくにクライアント中心療法(パーソンセンタードセラピー)、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を原著や論文を受講者の要望をとり入れながら検討します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	心理療法概説	主要な心理療法の歴史や理論について概説します
第2回	心理療法におけるクライアント中心療法の位置づけ	心理療法の分野全体におけるクライアント中心療法の位置づけを考察します
第3回	クライアント中心療法の歴史	クライアント中心療法の歴史を考察します
第4回	クライアント中心療法の理論①	クライアント中心療法のパーソナリティ理論を考察します
第5回	クライアント中心療法の理論②	クライアント中心療法のセラピー理論を考察します
第6回	体験過程と体験的心理療法①	体験過程の理論を考察します
第7回	体験過程と体験的心理療法②	体験的心理療法の理論を考察します
第8回	フォーカシングと FOT ①	フォーカシングとについて考察します
第9回	フォーカシングと FOT ②	フォーカシングの実際を体験し、議論します
第10回	フォーカシングと FOT ③	フォーカシング指向心理療法について考察します
第11回	困難ケースとクライアント中心療法	対応が困難ケースへのクライアント中心療法の適用について考察します
第12回	プリセラピー	困難ケースへの対応方法としてのプリセラピーについて考察します
第13回	パーソンセンタードセラピー①	パーソンセンタードセラピーの展開について考察します
第14回	パーソンセンタードセラピー②	パーソンセンタードセラピーの各種の方法について考察します

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

関連する文献(英語文献を含む)を読んで分析し、自分の臨床的見解と照らし合わせる作業が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表(50%)、ディスカッションへの参加(50%)をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験(カウンセリングセンター等)を踏まえて、具体的に講義します。

【その他の重要事項】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法
 <研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
 <主要研究業績>

- ① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
- ② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』(監訳、岩崎学術出版社、2012年)
- ③ 『主観性を科学化する』質的研究法入門』(共編著、金子書房、2016年)

【Outline and objectives】

You learn theories and methods of person-centered therapy, experiential therapy and focusing-oriented therapy.

PSY500J3

臨床心理系(心理・地域) 特殊講義 II

末武 康弘

配当年次/単位数：1～3 年次 / 2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理療法、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を検討します。

【到達目標】

心理療法、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を専門的に理解することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主にジェンドリンの『パターンを超えて思考する(Thinking beyond patterns)』の講読を通して、クライアント中心療法やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を探求します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	パーソンセンタードセラピーやフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を概説します。
第 2 回	Thinking beyond patterns の背景	ジェンドリンの Thinking beyond patterns の背景を考察します。
第 3 回	Thinking beyond patterns 講読①	Thinking beyond patterns, ChapterA-1 を検討します。
第 4 回	Thinking beyond patterns 講読②	Thinking beyond patterns, ChapterA-2 を検討します。
第 5 回	Thinking beyond patterns 講読③	Thinking beyond patterns, ChapterA-3 を検討します。
第 6 回	Thinking beyond patterns 講読④	Thinking beyond patterns, ChapterA-4 を検討します。
第 7 回	Thinking beyond patterns 講読⑤	Thinking beyond patterns, ChapterA-5 を検討します。
第 8 回	Thinking beyond patterns 講読⑥	Thinking beyond patterns, ChapterB-1 を検討します。
第 9 回	Thinking beyond patterns 講読⑦	Thinking beyond patterns, ChapterB-2 を検討します。
第 10 回	Thinking beyond patterns 講読⑧	Thinking beyond patterns, ChapterB-3 を検討します。
第 11 回	Thinking beyond patterns 講読⑨	Thinking beyond patterns, ChapterB-4 を検討します。
第 12 回	Thinking beyond patterns 講読⑩	Thinking beyond patterns, ChapterB-5 を検討します。
第 13 回	Thinking beyond patterns 講読⑪	Thinking beyond patterns, ChapterB-6 を検討します。
第 14 回	まとめ	まとめとふりかえりを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト Thinking beyond patterns および、関連文献（英語文献を含む）の読解と分析が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Gendlin, E. T. (1991) Thinking beyond patterns. New York: The Focusing Institute. http://www.focusing.org/gendlin/docs/gol_2159.html

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表(50%)、ディスカッションへの参加(50%)をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験(カウンセリングセンター等)を踏まえて、具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞ 臨床心理学、カウンセリング・心理療法
 ＜研究テーマ＞ パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
 ＜主要研究業績＞

- ① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
- ② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年）
- ③ 『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016年）

【Outline and objectives】

You learn the philosophical bases on person-centered/focusing-oriented therapy.

PSY500J3

臨床心理系(心理・地域) 特殊講義 I

丹羽 郁夫

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理的地域援助（コミュニティ心理学）に関する重要かつ先端的な研究面の動向を知ること。

【到達目標】

臨床心理的地域援助（コミュニティ心理学）に関する重要かつ先端的な研究面の動向について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

上記の目標に到達するため、コミュニティ心理学の研究面における重要なテーマに関して最新の研究動向も踏まえて講義を行う。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義内容と進め方の説明をする。
第 2 回	コミュニティ心理学全般の動向	コミュニティ心理学全般の研究動向について講義する。
第 3 回	生態学的アプローチ	生態学の視点とそれに基づいたアプローチを講義する。
第 4 回	心理学ストレス①	心理学ストレス研究の歴史と基礎を講義する。
第 5 回	心理学ストレス②	心理学ストレスに関する最新の実証研究を講義する。
第 6 回	コーピング①	コーピング研究の歴史と基礎を講義する。
第 7 回	コーピング②	コーピングに関する最新の実証研究を講義する。
第 8 回	ソーシャルサポート①	ソーシャルサポート研究の歴史と基礎を講義する。
第 9 回	ソーシャルサポート②	ソーシャルサポートに関する最新の実証研究を紹介する。
第 10 回	予防①	予防研究に関する歴史と基礎を講義する。
第 11 回	予防②	予防に関する最新の実証研究を講義する。
第 12 回	コミュニティ感覚	コミュニティ感覚研究の歴史・基礎・近年の動向について講義する。
第 13 回	エンパワーメント	エンパワーメント研究の歴史・基礎・近年の動向について講義する。
第 14 回	コラボレーション	コラボレーション研究の歴史・基礎・近年の動向について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前にテキストを読み、疑問点などを整理しておくことが求められます。授業の後は、授業の内容を振り返り、興味を持ったことや新たに生じた疑問点について調べるのが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コミュニティ心理学ハンドブック』（日本コミュニティ心理学会編 東京大学出版会 2007年 12,960円）

【参考書】

テーマに応じて適切な参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はアンケートを実施しておりません。

【学生が準備すべき機器他】

使用しない。

【その他の重要事項】

履修者の関心に応じて内容を若干変更することがある。

【担当教員の専門領域】

臨床心理学（子どもの心理療法、D.W. ウィニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）
 ＜主要研究業績＞

『ジェラルド・キャプランのメンタルヘルスコンサルテーションの概観』（単著、コミュニティ心理学研究 18(2)、2015 年）
『コミュニティ心理学ハンドブック』（共著、東京大学出版社、2007 年）
『中国帰国者におけるソーシャル・サポート利用の精神健康への影響』（共著、コミュニティ心理学研究）2(2)、1999 年）

【Outline and objectives】

Knowing important and advanced research aspect of clinical psychological regional aid (community psychology).

PSY500J3

臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義 II

丹羽 郁夫

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理的地域援助（コミュニティ心理学）の領域における重要かつ先端的な研究の応用（実践）。

【到達目標】

臨床心理的地域援助（コミュニティ心理学）の領域における重要かつ先端的な研究の応用（実践）面に関する動向について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

上記の目標に到達するため、コミュニティ心理学の領域における実践面に関する重要なテーマについて講義する。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の内容と進め方の説明
第 2 回	コミュニティアプローチ全般	コミュニティアプローチ全般
第 3 回	予防プログラム①	一次予防プログラムの理論と実際
第 4 回	予防プログラム②	二次予防プログラムと三次予防プログラムの理論と実際
第 5 回	危機介入①	危機理論の理論
第 6 回	危機介入②	危機介入の実際
第 7 回	コンサルテーション①	コンサルテーションの理論
第 8 回	コンサルテーション②	コンサルテーションの実際
第 9 回	ソーシャルサポート介入①	ソーシャルサポート介入の理論
第 10 回	ソーシャルサポート介入②	ソーシャルサポート介入の実際
第 11 回	セルフヘルプグループ①	セルフヘルプグループの基礎
第 12 回	セルフヘルプグループ②	セルフヘルプグループの実際
第 13 回	エンパワーメント	エンパワーメント理論と実際
第 14 回	市民参加	市民参加による社会変革などの実際

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前にテキストを読み、疑問点などを整理しておくことが求められます。授業の後は、授業の内容を振り返り、興味を持ったことや新たに生じた疑問点について調べることを求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コミュニティ心理学ハンドブック』（コミュニティ心理学会編 東京大学出版会 2007 年 12,960 円）

【参考書】

テーマに応じて適切な参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

履修者の関心に応じて内容を若干変更することがある。

【担当教員の専門領域】

臨床心理学（子どもの心理療法、D.W. ウィニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）
<主要研究業績>

『ジェラルド・キャプランのメンタルヘルスコンサルテーションの概観』（単著、コミュニティ心理学研究 18(2)、2015 年）
『コミュニティ心理学ハンドブック』（共著、東京大学出版社、2007 年）
『中国帰国者におけるソーシャル・サポート利用の精神健康への影響』（共著、コミュニティ心理学研究）2(2)、1999 年）

【Outline and objectives】

Application of important and advanced research in the field of clinical psychological regional aid (community psychology) (practice).

PSY500J3

臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義 I**服部 環**

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学における量的な研究活動を支える心理統計法、心理データ解析法、計量心理学における重要なトピックスについて学びます。

【到達目標】

論点を理解できること、そして各自の研究に生かすことができるようになることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生は指定した文献 (論文および書籍) を輪読した上で論点を発表し、ディスカッションを行います。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画を確認し、輪読する文献を指定します
第 2 回	心理尺度構成	尺度構成法を学びます
第 3 回	尺度の信頼性と妥当性	尺度の信頼性と妥当性の検証方法を学びます
第 4 回	検定力	検定力を学びます
第 5 回	検定力分析	検定力分析の基礎と必要性を学びます
第 6 回	検定力分析の実際	平均値と相関係数の検定力分析を学びます
第 7 回	メタ分析の基礎	メタ分析の基礎を学びます
第 8 回	心理学研究法の基礎	研究法の基礎、ビットフォールを学びます
第 9 回	心理学研究の実践	実際の研究を通して研究法の理解を深めます
第 10 回	量的研究法の基礎	量的研究法で必要となる基礎的統計解析法を学びます
第 11 回	量的研究法の実際	実際の研究を通して量的研究法の理解を深めます
第 12 回	実験研究法	実験研究法を学びます
第 13 回	調査研究法の基礎	調査研究法の基礎を学びます
第 14 回	調査研究法の実際	調査研究法と個に注目した研究について実践的に学びます

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は指定された文献が述べている論点を発表しますので、事前に文献を精読し、十分に発表の準備をしておく必要があります。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業時に指定します。

【参考書】

南風原朝和 量的研究法 (シリーズ 臨床心理学をまなぶ) (東京大学出版会, 2011)

大久保街亜・岡田謙介 伝えるための心理統計: 効果量・信頼区間・検定力 (勁草書房, 2012)

【成績評価の方法と基準】

レポートの結果 (50%) と平常点 (50%) を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に研究技術を吸収して下さい。

【その他の重要事項】

受講生が持つ事前知識に応じて授業計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

教育心理測定学、心理データ解析

<研究テーマ>

項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用

<主要研究業績>

(1) 読んでわかる心理統計法 (共著, サイエンス社)

(2) 心理・教育のための R によるデータ解析 (単著, 福村出版)

(3) 日本版 KABC-II マニュアル・換算表 (共訳編, 丸善出版)

(4) Q&A 心理データ解析 (共著, 福村出版)

【Outline and objectives】

In this course, you will learn about psychological research methods. Topics covered include quantitative research methods, advanced statistical data analyses, item response theories, and statistical computing methods using several softwares.

PSY500J3

臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義Ⅱ**服部 環**

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

潜在変数モデルについて、特に構造方程式モデリングと項目反応モデルについて学びます。

【到達目標】

統計ソフトウェアを用いて潜在変数モデルと項目反応モデルを活用できるようになること、モデルの理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

文献講読と統計ソフトウェアの利用を並行しながら構造方程式モデリングと項目反応モデルについて学習していきます。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要と進め方を確認します
第 2 回	統計ソフトの基礎	分析に必要な統計ソフト (無償、有償) の基礎を学びます
第 3 回	構造方程式モデリングの基礎	構造方程式モデリングの基礎を学びます
第 4 回	構造方程式モデリングの応用	構造方程式モデリングを利用した研究論文を読みます
第 5 回	古典的テスト理論の数理的基礎	信頼性を高める方法と信頼性係数を推定する方法を学びます
第 6 回	項目反応理論の基礎	項目反応理論の基礎を学びます
第 7 回	因子分析と項目反応理論の関係	因子分析と項目反応理論の関係
第 8 回	1 母数モデル (ラッシュモデル)	1 母数モデル (ラッシュモデル) を学びます
第 9 回	2 母数モデル	2 母数モデルを学びます
第 10 回	3 母数モデル	3 母数モデルを学びます
第 11 回	段階反応モデル	段階反応モデルを学びます
第 12 回	部分採点モデル	部分採点モデルを学びます
第 13 回	一般化部分採点モデル	一般化部分採点モデルを学びます
第 14 回	等化法	等化法とその必要性を学びます

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定された文献に基づいて発表しますので、事前に精読し、十分に準備をしておく必要があります。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業時に指定します。

【参考書】

Rizopoulos, D. ltm: Latent Trait Models under IRT. <http://www.r-project.org/> (2012)

Rosseel, Y. lavaan: An R Package for Structural Equation Modeling. <http://www.r-project.org/> (2012)

【成績評価の方法と基準】

レポートの結果 (50 %) と平常点 (50 %) を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に研究技術を吸収して下さい。

【その他の重要事項】

受講生が持つ事前知識に応じて授業計画を変更することがあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

教育心理測定学、心理データ解析

<研究テーマ>

項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用

<主要研究業績>

(1) 読んでわかる心理統計法 (共著, サイエンス社)

(2) 心理・教育のための R によるデータ解析 (単著, 福村出版)

(3) 日本版 KABC-II マニュアル・換算表 (共訳編, 丸善出版)

(4) Q&A 心理データ解析 (共著, 福村出版)

【Outline and objectives】

In this course, you will learn about psychological research methods. Topics covered include quantitative research methods, advanced statistical data analyses, item response theories, and statistical computing methods using several softwares.

PSY500J3

臨床心理系(病理・発達)特殊講義 I

小野 純平

配当年次/単位数：1～3 年次 / 2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義を通して、発達科学、臨床心理学、精神医学、精神病理学等に関する重要かつ先端的な研究動向について学習します。

【到達目標】

発達科学、精神医学、精神病理学等に関する重要な研究について概説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学における基礎的研究および学際領域としての発達科学、精神医学、精神病理学等に関する重要かつ先端的な研究動向について講義します。特に、発達障害のアセスメントと援助を中心として、講義を行う予定です。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方
第 2 回	発達科学における最近の研究動向	研究動向についての概要
第 3 回	発達障害について	発達障害とは何か
第 4 回	発達障害のアセスメント	アセスメントの技法
第 5 回	発達障害と愛着障害、解離性障害について	類似した障害との差異
第 6 回	発達障害における人格発達	類似した障害との差異
第 7 回	発達障害における認知特性	特性に合わせた援助
第 8 回	発達障害に関する最近の研究動向 1	最近の研究課題
第 9 回	発達障害に関する最近の研究動向 2	先行研究のレビュー 1
第 10 回	発達障害に関する最近の研究動向 3	先行研究のレビュー 2
第 11 回	発達障害に関する最近の研究動向 4	先行研究のレビュー 3
第 12 回	発達障害に関する最近の研究動向 5	先行研究のレビュー 4
第 13 回	発達障害に関する最近の研究動向 6	先行研究のレビュー 5
第 14 回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の興味関心に沿って、主体的に文献収集と発表を行う必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】

参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %）

ディスカッション等への積極的な参加（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

個別指導の時間を多くとる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 臨床心理学、臨床心理査定

<研究テーマ> 虐待とその支援、発達障害とその支援

<主要研究業績>

【著書】

『精神・心理機能評価ハンドブック』（中山書店、2015 年 6 月）

『エッセンシャルズ KABC-II による心理アセスメントの要点』（丸善出版、2014 年 8 月）

『発達と臨床の心理学』（ナカニシヤ出版、2012 年 4 月）

『臨床心理学 30 章』（日本文化化学社、2006 年 6 月）

【論文】

『新しい検査 KABC-II と CHC 理論に基づくクロスバッテリーアセスメント (XBA) の展開』（日本学校心理学会年報 7 巻 1 号、2015 年 4 月）

『発達障害と愛着障害の理解と支援—事例を通して—』（至誠学園紀要 5 巻、2012 年 5 月）

『被虐待児の認知特性と学習の遅れ』（LD 研究 21 巻 2 号、2012 年 5 月）

【Outline and objectives】

This seminar provides students with knowledge about the latest trend in developmental psychology, clinical psychology, psychiatry and psychopathology.

PSY500J3

臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅱ

小野 純平

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特殊講義Ⅰで学習した内容を基盤として、発達科学、精神医学、精神病理学等に関する重要かつ先端的な研究動向について、さらに学習を進めます。

【到達目標】

発達科学、精神医学、精神病理学等に関する重要かつ先端的な研究動向について概説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学における基礎的研究および学際領域としての発達科学、精神医学、精神病理学等に関する重要かつ先端的な研究動向について講義します。特に、発達障害に関する最新の研究動向について、文献講読とディスカッションを通して学習を深めます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方
第2回	国内外における研究動向について	研究の現状と課題 1
第3回	発達障害に関する最近の研究動向 1	研究の現状と課題 2
第4回	発達障害に関する最近の研究動向 2	研究の現状と課題 3
第5回	発達障害に関する最近の研究動向 3	最新論文の読み込み 1
第6回	発達障害に関する最近の研究動向 4	最新論文の読み込み 2
第7回	発達障害に関する最近の研究動向 5	最新論文の読み込みと課題の洗い出し 1
第8回	発達障害に関する最近の研究動向 6	最新論文の読み込みと課題の洗い出し 2
第9回	発達障害に関する最近の研究動向 7	最新論文の読み込みと課題の洗い出し 3
第10回	発達障害に関する最近の研究動向 8	最新論文の読み込みと課題の洗い出し 4
第11回	発達障害に関する最近の研究動向 9	最新論文の読み込みと課題の洗い出し 5
第12回	発達障害に関する最近の研究動向 10	当該領域の研究動向のまとめと課題 1
第13回	発達障害に関する最近の研究動向 11	当該領域の研究動向のまとめと課題 2
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の興味関心に沿って、主体的に文献収集と発表を行う必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）

ディスカッション等への積極的な参加（40％）

【学生の意見等からの気づき】

個別指導の時間をより多くとる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 臨床心理学、臨床心理査定
<研究テーマ> 虐待とその支援、発達障害とその支援
<主要研究業績>

【著書】

『精神・心理機能評価ハンドブック』（中山書店、2015年6月）
『エッセンシャルズ KABC-IIによる心理アセスメントの要点』（丸善出版、2014年8月）

『発達と臨床の心理学』（ナカニシヤ出版、2012年4月）

『臨床心理学 30章』（日本文化化学社、2006年6月）

【論文】

『新しい検査 KABC-IIと CHC 理論に基づくクロスバタリーアセスメント (XBA) の展開』（日本学校心理学会年報 7 巻 1 号、2015 年 4 月）
『被虐待児の認知特性と学習の遅れ』（LD 研究 21 巻 2 号、2012 年 5 月）

【Outline and objectives】

This seminar provides students with knowledge about the latest trend in developmental psychology, clinical psychology, psychiatry and psychopathology.

PSY500J3

臨床心理系(病理・発達)特殊講義 I

久保田 幹子

配当年次/単位数：1～3 年次 / 2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本講義を通して、精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について学習します。

【到達目標】

精神医学、精神病理学、精神療法等の基本的知識を備えるとともに、最近の研究動向を調査し、理解することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学における基礎的研究および学術領域としての精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について講義します。特に、不安障害に対する理解と援助を中心として、講義を行う予定です。精神療法としては、森田療法を軸に扱っていきます。なお、課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。また各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	不安障害における最近の研究動向	最近の論文を通して学習する。
第3回	不安障害について	不安障害について具体的に理解する。
第4回	不安障害のアセスメント	不安障害のアセスメントについて理解する。
第5回	不安障害とその背後にある心理的問題	不安障害の背後にある心理的問題(個人、家族)について文献調査を行う。
第6回	不安障害に対する精神療法	最近の不安障害に対する精神療法について文献調査を行う。
第7回	不安障害に対する森田療法	森田療法の有効性について文献調査を行う。
第8回	不安障害に関する最近の研究動向 1	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う①
第9回	不安障害に関する最近の研究動向 2	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う②
第10回	不安障害に関する最近の研究動向 3	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う③
第11回	不安障害に関する最近の研究動向 4	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う④
第12回	不安障害に関する最近の研究動向 5	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う⑤
第13回	不安障害に関する最近の研究動向 6	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う⑥
第14回	不安障害に関する最近の研究動向 7	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う⑦

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

精神医学、精神病理学、精神療法について積極的に文献を読み、幅広く知識を得るよう努力すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】

参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点(60%) ディスカッション等への積極的な参加(40%)

【学生の意見等からの気づき】

これまでの研究の流れを基盤として、新たな疑問や関心を個々の研究につなげられるように指導したい。

【その他の重要事項】

医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提議・論文構想に関してアドバイスを行っていきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

森田療法、比較心理療法、心理検査法

<研究テーマ>

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など
<主要研究業績>

- 1) 『森田療法で読む強迫性障害』(共著書・編者, 東京, 白揚社, 2015年3月)
- 2) 『女性はずせ生きづらいのか』(共著書, 東京, 白揚社, 2018年8月)
- 3) 久保田幹子: 対人恐怖の森田療法. こころの科学, 2009;147:72-78
- 4) 久保田幹子: 森田療法における受容. 精神療法, 2013;39(6):12-17

【Outline and objectives】

Latest and important developments in the study of psychiatry, psychopathology, and psychotherapy

PSY500J3

臨床心理系 (病理・発達) 特殊講義Ⅱ

久保田 幹子

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

特殊講義Ⅰで学習した内容を基盤として、精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について、さらに学習を進めます。

【到達目標】

精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要な先行研究の概要を理解するとともに、最近の研究動向の概要についても理解することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学における基礎的研究および学際領域としての精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について講義します。特に、不安障害や森田療法に関する最新の研究動向について、文献講読とディスカッションを通して学習を深めます。

なお、課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。また各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	国内外における研究動向について	文献調査を元に理解を深める。
第 3 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 1	先行研究の調査、文献研究①
第 4 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 2	先行研究の調査、文献研究②
第 5 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 3	先行研究の調査、文献研究③
第 6 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 4	先行研究の調査、文献研究④
第 7 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 5	先行研究の調査、文献研究⑤
第 8 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 6	先行研究の調査、文献研究⑥
第 9 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 7	先行研究の調査、文献研究⑦
第 10 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 8	先行研究の調査、文献研究⑧
第 11 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 9	先行研究の調査、文献研究⑨
第 12 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 10	先行研究の調査、文献研究⑩
第 13 回	研究動向のまとめ 1	最近の研究概要を理解し、今後必要な研究テーマを探る①
第 14 回	研究動向のまとめ 2	最近の研究概要を理解し、今後必要な研究テーマを探る②

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

国内のみならず、海外の研究を理解するために、先行研究を主体的に探り、その内容を学習すること。独創的な研究テーマを探るために、幅広く知識を得ること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%)、ディスカッション等への積極的な参加 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

先行研究の学習や先端の研究動向の調査を基盤に、さらに個々の関心や疑問を掘り下げ、研究につなげられるように指導したい。

【その他の重要事項】

医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提議・論文構想に関してアドバイスを行っていきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

森田療法、比較心理療法、心理検査法

<研究テーマ>

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など

<主要研究業績>

- 1) 『森田療法で読む強迫性障害』(共著書・編者、東京、白揚社、2015 年 3 月)
- 2) 『女性はやせ生きづらいのか』(共著書、東京、白揚社、2018 年 8 月)
- 3) 久保田幹子：対人恐怖の森田療法。こころの科学、2009;147:72-78
- 4) 久保田幹子：森田療法における受容。精神療法、2013;39(6):12-17

【Outline and objectives】

Latest and important developments in the study of psychiatry, psychopathology, psychotherapy based on a foundation built in Special Lecture I.

PSY500J3

臨床心理系(病理・発達) 特殊講義 I

関谷 秀子

配当年次/単位数：1～3 年次 / 2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業の目的は、乳児期から幼児期、児童期、思春期青年期そして初期成人期に至る精神分析的発達論の基礎を形成するところにある。

【到達目標】

情緒発達の詳細をライフサイクル全体に渡って理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書または論文をあらかじめ指定する。発表の分担を定めてレジメを作成、30分で要点を発表する。発表者だけでなく、参加者すべてが熟読の上授業に参加する。そして残りの60分はディスカッションに用いる。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	妊娠中	妊娠中の胎児への幻想
第2回	乳児期	乳児期の発達と母親の幻想、愛着
第3回	幼児期前期①	母子の分離と幼児の個性化
第4回	幼児期前期②	自律性の発生と個性化、自己保存
第5回	幼児期後期①	エディプスコンプレクス
第6回	幼児期後期②	男児の去勢不安
第7回	幼児期後期③	女児の分離不安
第8回	児童期 (潜伏期)	超自我の内在化、対象関係の拡大、昇華チャンネルの発生と拡大
第9回	思春期①	前、初期、中期 (固有の)、後期思春期、思春期後
第10回	思春期②	親表象からの脱離給と自我理想の改訂、禁止系超自我の緩和、対象関係の拡大
第11回	青年期①	アイデンティティの確立
第12回	青年期②	サイコソーシャル・モラトリアム、孤独感の男女差と種の保存
第13回	青年期③	対象の発見と再発見
第14回	初期成人期	性器統裁とは

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

フロイト著作集に親しむこと本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

精神分析的発達論の統合① 岩崎学術出版社

【参考書】

モートン・チェシック (斉藤久美子ほか訳)：子どもの心理療法、創元社

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%)、発表 (40%) に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度には担当していなかったため、授業アンケートを実施していない。

【担当教員の専門分野】

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline and objectives】

We will learn the basics of psychoanalytic development through the period of infantile, childhood, adolescence, and early adulthood.

PSY500J3

臨床心理系(病理・発達) 特殊講義 II

関谷 秀子

配当年次/単位数：1～3 年次 / 2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

乳幼児期から初期成人期に至る発達の内的過程とそれに影響する環境要因との関係を理解して、力動的な心理療法の基礎知識を得る。

【到達目標】

情緒発達とそれに影響する環境要因との関係の詳細をライフサイクル全体に渡って理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を用いる。発表の分担を定めてレジメを作成、30分で要点を発表する。発表者だけでなく、参加者すべてが熟読の上授業に参加する。そして残りの60分はディスカッションに用いる。それぞれの課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	口唇期①	口唇期の欲動と対象、目的
第2回	口唇期②	口唇期の防衛、すなわち、現実歪曲、否認、投影、投影性同一視
第3回	口唇期③	欲求充足水準の対象関係
第4回	肛門期①	欲動満足か母親の愛情か → 自律性の発生
第5回	肛門期②	反動形成、理性化、合理化、隔離、取り消しやり直し
第6回	肛門期③	肛門期の対象関係
第7回	幼児性器期①	幼児性器期の対象は全体対象である。幼児期対象の性愛化と同性の親との葛藤
第8回	幼児性器期②	男児の去勢不安と女児の分離不安
第9回	幼児性器期③	性別同一性の確立と両親の役割
第10回	潜伏期	超自我の内在化と自我の発達
第11回	思春期	親表象からの脱離給、同性仲間による集団形成と禁止系超自我の緩和・自我理想の改訂
第12回	不安の増大と退行	欲動退行と自我退行
第13回	神経症病理	精神神経症と退行
第14回	パーソナリティ病理	自我親和的な防衛配置 (パーソナリティ形成)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

フロイト著作集に親しむこと本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

精神分析的発達論の統合② 岩崎学術出版社

【参考書】

モートン・チェシック (斉藤久美子ほか訳)：子どもの心理療法、創元社

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%)、発表 (40%) に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度には担当していなかったため、授業アンケートを実施していない。

【担当教員の専門分野】

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline and objectives】

We will learn the way environmental factors influence the process of internal development from infancy to early adulthood and acquire basic knowledge of psychodynamic psychotherapy.

PSY500J3

臨床心理系 (病理・発達) 特殊講義 I

長山 恵一

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

博士後期課程の研究に必要な人間理解について、深層心理や精神療法的観点から、日本人の心理特性や病理を学習する。

【到達目標】

深層心理や精神療法的観点から、日本人の心理特性や病理を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の研究テーマに沿う形で、専門書や論文を参照しながら精神分析的療法、森田療法、内観療法を題材に日本人の心理特性や病理について講義していく。オンラインでの開講となった場合、それにとまなう各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度お知らせします。課題等のフィードバックは学習支援システムを通して行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	受講者と講義内容や進め方について話し合う。	受講者の研究テーマと日本人の心理特性の関連性について議論し、講義内容のすり合わせを行う。
第 2 回	甘え理論についての学習 1	日本人の心理特性理論として土居健郎の「甘え異論」の概要を取り上げる。
第 3 回	甘え理論についての学習 2	「甘え理論」についての先行研究や諸議論を講義する。
第 4 回	甘え理論についての学習 3	「甘え理論」の理論としての問題点を講義する。
第 5 回	甘え理論についての学習 4	「甘え理論」の理論的誤謬と、そこから見えてくる日本人の心理特性を解説する。
第 6 回	阿闍世コンプレックスについての学習 1	原点としての古澤平作の「阿闍世コンプレックス」論を講義する。
第 7 回	阿闍世コンプレックスについての学習 2	古澤の阿闍世コンプレックス論を継承した小此木啓吾の阿闍世コンプレックス論を講義する。
第 8 回	阿闍世コンプレックスについての学習 3	古澤・小此木の阿闍世コンプレックス論に関する諸家の議論を紹介する。
第 9 回	阿闍世コンプレックスについての学習 4	古澤・小此木の阿闍世コンプレックス論に見られる誤謬とその誤謬に表れた日本人の心的特性を講義する。
第 10 回	森田療法理論からみた日本人の心理行動特性 1	精神療法として行動重視を特徴とする森田療法の治療理論に見られる日本の特性を講義する。
11 回	森田療法理論からみた日本人の心理行動特性 2	森田療法の治療構造に構造に表れた日本の特性を講義する。
第 12 回	森田療法理論からみた日本人の心理行動特性 3	森田療法の創始者・森田正馬の日本の特性を講義する。
第 13 回	内観法からみた日本人の心理行動特性 1	精神療法として罪意識を重視する内観療法の治療理論や構造に見られる日本の特性を講義する。
第 14 回	内観法からみた日本人の心理行動特性 2	内観療法の治療構造に構造に表れた日本の特性を講義する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて紹介する論文を事前に熟読していただくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

その都度、必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

その都度、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

日常の学習態度によって成績を評価します (100%)。オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更することがあります。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講生の学問的関心にそった形で講義内容やその進め方を修正・工夫していきたいと考えています。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、上記の授業計画は若干の変更があり得ます。

【担当教員の専門分野】

比較精神療法、精神医学

【Outline and objectives】

In this course, students will explore, present and discuss about Japanese culture and psychological characteristics from a perspective of Japanese traditional psychotherapy (Morita therapy and Naikan therapy).

PSY500J3

臨床心理系 (病理・発達) 特殊講義 II

長山 恵一

配当年次/単位数：1～3 年次 / 2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

博士後期課程の研究に必要な人間理解について、深層心理や精神療法、さらにはヴェーバーの理解社会学をもとに人間の規範意識や社会秩序の形成原理を理解していく。

【到達目標】

人間の規範意識や社会秩序の形成原理を深層心理学やヴェーバーの理解社会学から説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の研究テーマに沿う形で、専門書や論文を参照しつつ精神分析理論とヴェーバーの諒解概念の関連を講義していく。

オンラインでの開講となった場合、それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度お知らせします。

課題等のフィードバックは学習支援システムを通して行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	受講者と講義内容や進め方について話し合う。	受講者の研究テーマに沿う形で講義を行うために、最初に研究テーマと講義内容の刷りあわせ、微調整を行う。
第 2 回	精神分析理論についての学習 1	精神分析療法の概要の説明。
第 3 回	精神分析理論についての学習 2	精神分析理論、とりわけ内的規範・心的秩序装置としての超自我論を中心とした精神分析の心的構造論の講義。
第 4 回	精神分析理論についての学習 3	精神分析の理論とヤスパーの精神病理学 (= 了解心理学) の違いについて講義。
第 5 回	精神分析理論についての学習 4	防衛理論の発展について講義する。
第 6 回	ヴェーバー理論についての学習 1	ヴェーバーの社会学の位置づけについて、ヤスパー、クレペリン、フロイト、ニーチェの関係について。
第 7 回	ヴェーバー理論についての学習 2	ヴェーバーの行為論的社会学の方法論的特徴について講義。
第 8 回	ヴェーバー理論についての学習 3	『経済と社会』(ヴェーバー) の方法論について解説。
第 9 回	ヴェーバー理論についての学習 4	「社会学の基礎概念」と「理解社会学のカテゴリー」の説明と両者の方法論的スタンスの違いについて。
第 10 回	諒解概念についての学習 1	ヴェーバーの諒解概念と社会的秩序
第 11 回	諒解概念についての学習 2	ヴェーバーの諒解概念についての諸家の議論
第 12 回	諒解概念についての学習 3	ヴェーバーの諒解概念の理論的問題について。
第 13 回	社会秩序と諒解の様式についての学習 1	諒解という社会的相互行為現象と社会秩序の本質的關係について
第 14 回	社会秩序と諒解の様式についての学習 2	諒解と法学的「承認論」の關係について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて紹介する文献を事前に熟読しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

その都度、必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

その都度、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

日常の学習態度によって成績を評価します (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の興味関心に基づいて、講義内容や講義の進め方を修正・工夫していきたいと思っています。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、上記の授業計画は若干の変更があり得ます。

【担当教員の専門分野】

比較精神療法、精神医学

【Outline and objectives】

In this course, students will explore, present and discuss about norm consciousness from a perspective of depth psychology and Max Weber's theory.

PSY500J3

臨床心理系 (病理・発達) 特殊講義 I

望月 聡

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

講義と文献の講読を通して、異常心理学／精神病理学の研究に関する知見や研究方法を学びます。

特に、実験や質問紙調査によって明らかになる認知・行動・感情・パーソナリティの病理を扱うことで、量的・客観的・科学的観点からの実証的臨床心理学研究の理解を促し、認知心理学や感情心理学、人格心理学など、他の心理学領域における知見や研究手法との接点を意識してもらうことをねらいとします。

【到達目標】

異常心理学／精神病理学の科学研究に関する知見や研究方法を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習 (文献講読) 形式で進めます。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要について説明します。
第 2 回	抑うつ障害群の認知行動病理学	うつ病の発生・維持メカニズムを学びます。
第 3 回	双極性障害および関連障害群の認知行動病理学	双極性障害等の発生・維持メカニズムを学びます。
第 4 回	不安症の認知行動病理学 (1) 限局性恐怖症	限局性恐怖症の発生・維持メカニズムを学びます。
第 5 回	不安症の認知行動病理学 (2) パニック症・広場恐怖症	パニック症・広場恐怖症の発生・維持メカニズムを学びます。
第 6 回	不安症の認知行動病理学 (3) 社交不安症	社交不安症の発生・維持メカニズムを学びます。
第 7 回	不安症の認知行動病理学 (4) 全般不安症	全般不安症の発生・維持メカニズムを学びます。
第 8 回	強迫症および関連症群の認知行動病理学	強迫症、醜形恐怖症、ためこみ症等の発生・維持メカニズムを学びます。
第 9 回	心的外傷およびストレス因関連障害群の認知行動病理学	心的外傷後ストレス障害等の発生・維持メカニズムを学びます。
第 10 回	解離症群、身体症状および関連症群の認知行動病理学	解離症、病気不安症等の発生・維持メカニズムを学びます。
第 11 回	食行動障害および関連症群の認知行動病理学	神経性やせ症、神経性過食症、過食性障害の発生・維持メカニズムを学びます。
第 12 回	統合失調スペクトラム障害および他の精神病性障害群の認知行動病理学	統合失調症等の発生・維持メカニズムを学びます。
第 13 回	パーソナリティ障害群の認知行動病理学	境界性パーソナリティ障害を中心に、パーソナリティ障害の発生・維持メカニズムを学びます。
第 14 回	まとめ	診断横断的 (transdiagnostic) な観点から、本科目で学んだことをふりかえります。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業資料に基づいて復習を行い、興味を持った内容については自ら文献を検索し読んでみるなどの学習が望まれます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

指定しません。必要に応じて配付します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %、レポート課題 30 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

神経心理学、認知行動病理学

【Outline and objectives】

This lecture deals with abnormal psychology / psychopathology.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of cognitive-behavioral psychopathology with related research methods, and train to develop evidence-based attitudes for clinical psychological research.

PSY500J3

臨床心理系 (病理・発達) 特殊講義 II

望月 聡

配当年次/単位数：1～3 年次 / 2 単位

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

講義と文献の講読を通して、神経心理学や認知-感情-社会神経科学の先端的知見や研究方法を学びます。

さまざまな心的機能の神経的基盤について理解することを目的とします。

【到達目標】

神経心理学、認知-感情-社会神経科学の研究に関する知見や研究方法を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習 (文献講読) 形式で進めます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要について説明します。
第 2 回	知覚・認知の神経心理学	知覚・認知に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第 3 回	空間認知の神経心理学	空間認知に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第 4 回	身体認知の神経心理学	身体認知に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第 5 回	行為の神経心理学	行為表出に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第 6 回	記憶の神経心理学	記憶に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第 7 回	言語と計算の神経心理学	言語と計算に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第 8 回	脳の側性化	脳の側性化 (半球優位性) に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第 9 回	注意の神経心理学	注意に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第 10 回	遂行機能 (実行機能) の神経心理学	遂行機能 (実行機能) に関わる神経心理学や認知神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第 11 回	社会的認知の神経心理学	社会的認知に関わる神経心理学や社会神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第 12 回	感情の神経心理学	感情に関わる神経心理学や感情神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第 13 回	動機づけの神経心理学	動機づけに関わる神経心理学や認知-感情-社会神経科学の先端的なトピックスに触れます。
第 14 回	まとめ	神経心理学・認知-感情-社会神経科学研究と受講生各自の興味関心を結びつけながら、本科目で学んだことをふりかえります。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業資料に基づいて復習を行い、興味を持った内容については自ら文献を検索し読んでみるなどの学習が望まれます。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

指定しません。必要に応じて配付します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %、レポート課題 30 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

神経心理学、認知行動病理学

【Outline and objectives】

This lecture deals with neuropsychology and cognitive-affective-social neuroscience.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of neuropsychological/neuroscientific findings and research methods, and train to develop evidence-based attitudes for clinical psychological research.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

伊藤 正子

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：○

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
 < 研究テーマ > マイノリティ・解放に関わるソーシャルワーク、エスニック・マイノリティの生活問題

【Outline and objectives】

This course enhances the development of student's skills in consolidation the paper conception to prepare a doctoral thesis.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士學位論文の作成に向けて、論文構想を固めることを目的とする。

【到達目標】

テーマにそって必要な先行研究のレビュー、研究方法を確定し、研究計画書を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、各自の研究関心を明確することから始め、次に、先行研究のレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に研究課題を絞り込み、秋学期に入ってから、研究目的を明確化するとともに、研究構想の基盤を作り上げ、研究計画書の作成に取りかかる。オンラインまたは対面での開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第 2 回	研究関心の明確化①	研究関心の列挙
第 3 回	研究関心の明確化②	研究関心のグループ化
第 4 回	研究関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第 5 回	研究関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第 6 回	先行研究のレビュー①	隣接領域の文献研究
第 7 回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献研究
第 8 回	先行研究のレビュー③	隣接領域の論文研究
第 9 回	先行研究のレビュー④	関連領域の論文研究
第 10 回	研究課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第 11 回	研究課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第 12 回	研究課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第 13 回	研究課題の絞り込み④	研究実施フィールドの検討
第 14 回	研究課題の絞り込み⑤	研究仮説の検討
第 15 回	中間総括	明確化されたことの確認
第 16 回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第 17 回	研究目的の明確化①	研究の具体的目的の列挙
第 18 回	研究目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第 19 回	研究目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第 20 回	研究目的の明確化④	予想される結果の検討
第 21 回	研究構想の基盤作り①	研究仮説の明確化
第 22 回	研究構想の基盤作り②	研究手法（量的、質的）の検討
第 23 回	研究構想の基盤作り③	データ収集方法の検討
第 24 回	研究構想の基盤作り④	データ分析方法の検討
第 25 回	研究計画書の作成①	研究実施体制の検討
第 26 回	研究計画書の作成②	研究実施フィールドの確認
第 27 回	研究計画書の作成③	研究対象者の確認
第 28 回	まとめ	データ収集のスケジュール検討とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行うておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（60%）
2. 研究計画書（40%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】

医療機関・NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

岩崎 晋也

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成にむけた研究指導を行う。

【到達目標】

博士論文にむけて研究計画を明確にする。

先行研究の検討を行う。

第一次調査の設計を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導により、研究テーマの深化と、研究方法論の検討を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の概要の検討1	研究計画を検討する1
第2回	研究計画の概要の検討2	研究計画を検討する2
第3回	研究計画の概要の検討3	研究計画を検討する3
第4回	研究計画の概要の検討4	研究計画を検討する4
第5回	研究計画の概要の検討5	研究計画を検討する5
第6回	研究計画の概要の検討6	研究計画を検討する6
第7回	研究計画の概要の検討7	研究計画を検討する7
第8回	研究計画の概要の検討8	研究計画を検討する8
第9回	研究計画の概要の検討9	研究計画を検討する9
第10回	研究計画の概要の検討10	研究計画を検討する10
第11回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習1	先行研究を検討する1
第12回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習2	先行研究を検討する2
第13回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習3	先行研究を検討する3
第14回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習4	先行研究を検討する4
第15回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習5	先行研究を検討する5
第16回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習6	先行研究を検討する6
第17回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習7	先行研究を検討する7
第18回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習8	先行研究を検討する8
第19回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習9	先行研究を検討する9
第20回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習10	先行研究を検討する10
第21回	調査研究の内容の検討1	調査研究の内容を具体的に検討する1
第22回	調査研究の内容の検討2	調査研究の内容を具体的に検討する2
第23回	調査研究の内容の検討3	調査研究の内容を具体的に検討する3
第24回	調査研究の内容の検討4	調査研究の内容を具体的に検討する4
第25回	調査研究の内容の検討5	調査研究の内容を具体的に検討する5
第26回	調査研究の内容の検討6	調査研究の内容を具体的に検討する6
第27回	調査研究の内容の検討7	調査研究の内容を具体的に検討する7
第28回	調査研究の内容の検討8	調査研究の内容を具体的に検討する8

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示された課題を行い、考察すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)による春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施しました。

【担当教員の専門分野】

社会福祉原理・思想

【Outline and objectives】

Research guidance for doctor dissertation preparation.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

岩田 美香

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆に向けて、基礎的な研究、研究計画の検討など、論文構想を練り上げる。

【到達目標】

博士論文研究テーマを決定し、さまざま研究方法論（歴史研究、理論研究、政策研究、比較研究など）ならびに、先行研究をレビューし、仮説の設定、フィールドワークなど実証研究の方法を用いて、博士論文執筆にむけての研究デザインを構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・博士論文を執筆するための先行研究レビュー、研究課題の明確化、研究方法の検討などについて、個別指導を行う。また、博士論文構想発表会が予定されていることから、それに向けての指導・支援を行う。
・課題のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究指導の説明
第 2 回	関心領域・テーマ検討 1	関連領域の研究動向の整理
第 3 回	関心領域・テーマ検討 2	関連領域の研究動向を報告
第 4 回	関心領域・テーマ検討 3	海外論文の動向を整理
第 5 回	関連領域・テーマ検討 4	海外論文の動向を報告
第 6 回	先行研究のレビュー 1	先行研究の検索と整理
第 7 回	先行研究のレビュー 2	先行研究の報告
第 8 回	先行研究のレビュー 3	先行研究の検討
第 9 回	研究仮説の検討 1	研究課題と仮説の設定
第 10 回	研究仮説の検討 2	研究課題と仮説の検討
第 11 回	研究仮説の検討 3	研究課題と仮説の明確化
第 12 回	研究方法の検討	研究デザインと研究方法の明確化
第 13 回	博士論文構想発表会準備	研究目的、背景、研究計画の明確化
第 14 回	中間総括	構想発表会後の反省、研究課題再検討
第 15 回	秋学期の研究指導の概要	秋学期の計画の検討・確定
第 16 回	夏季中の課題報告	夏季中に実施したブレ調査の成果報告
第 17 回	調査研究構想の明確化 1	研究テーマと調査検討
第 18 回	調査研究構想の明確化 2	研究テーマと調査の確定
第 19 回	探索的調査の検討	研究調査に向けての課題設定
第 20 回	探索的調査の実施 1	研究テーマに基づく調査研究実施
第 21 回	探索的調査の実施 2	研究テーマに基づく調査研究まとめ
第 22 回	調査結果の検証 1	調査結果の報告
第 23 回	調査結果の検証 2	調査結果の分析
第 24 回	調査結果の検証 3	調査結果の考察
第 25 回	研究計画書の明確化 1	調査研究と論文章構成の検討
第 26 回	研究計画書の明確化 2	調査研究と論文章構成の報告
第 27 回	研究計画書の明確化 3	調査研究と論文章構成の再検討
第 28 回	総括	1 年間の総括と今後の研究課題検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・計画的に博士論文作成を進めると同時に、毎回、必ず検討するためのレジメを用意して演習に臨むこと。
・本授業の準備・復習時間は各回 8 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究テーマに即して適宜紹介する。

【参考書】

履修者の研究テーマに即して適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加（20％）、演習内課題（40％）、博士論文構想発表会（40％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論
〈研究テーマ〉

1. 子育て・子育ての社会的不平等、
2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline and objectives】

This course focuses especially on the knowledge, the theme, the research method, the research hypotheses, in order to write a doctoral dissertation.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

小野 純平

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学領域における博士論文作成のための基礎的な知識、研究方法、論文作成法を学習します。

【到達目標】

臨床心理学領域における博士論文作成のための基礎的な知識、研究方法、論文作成法を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の関心領域や研究テーマに応じて、まず、先行研究のレビューを丁寧に行い、次に、研究課題の明確化を行います。さらには、課題を達成するための研究方法（量的調査やインタビューなど）を検討し、実現可能性を探りながら論文構想を練り上げていきます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	博士論文執筆に向けて
第 2 回	関心領域・テーマ検討①	国内外の論文の精査①
第 3 回	関心領域・テーマ検討②	国内外の論文の精査②
第 4 回	関心領域・テーマ検討③	国内外の論文の精査③
第 5 回	関心領域・テーマ検討④	国内外の論文の精査④
第 6 回	先行研究のレビュー①	研究領域の決定と先行研究の精査①
第 7 回	先行研究のレビュー②	研究領域の決定と先行研究の精査②
第 8 回	先行研究のレビュー③	先行研究の精査①
第 9 回	先行研究のレビュー④	先行研究の精査②
第 10 回	先行研究のレビュー⑤	先行研究の精査③
第 11 回	研究テーマ明確化と仮説検討①	先行研究の精査と問題の明確化①
第 12 回	研究テーマ明確化と仮説検討②	先行研究の精査と問題の明確化②
第 13 回	研究テーマ明確化と仮説検討③	先行研究の精査と問題の明確化③
第 14 回	研究テーマ明確化と仮説検討④	先行研究の精査と問題の明確化④
第 15 回	中間総括	ふりかえり
第 16 回	オリエンテーション	論文執筆スケジュールの確認
第 17 回	研究方法の検討①	質問紙調査法、インタビュー、実験法などの精査①
第 18 回	研究方法の検討②	質問紙調査法、インタビュー、実験法などの精査②
第 19 回	研究方法の検討③	質問紙調査法、インタビュー、実験法などの精査③
第 20 回	研究方法の検討④	質問紙調査法、インタビュー、実験法などの精査④
第 21 回	分析方法の検討①	先行研究間の研究方法、結果の比較①
第 22 回	分析方法の検討②	先行研究間の研究方法、結果の比較②
第 23 回	分析方法の検討③	先行研究間の研究方法、結果の比較③
第 24 回	分析方法の検討④	先行研究間の研究方法、結果の比較④
第 25 回	論文構想の明確化①	問題の所在から目的へ①
第 26 回	論文構想の明確化②	問題の所在から目的へ②
第 27 回	論文構想の明確化③	問題の所在から目的へ③
第 28 回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文執筆に向けて、各回の指導において進捗状況を簡潔に説明できるよう、入念な準備が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（60 %）
提出課題の内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

個別指導の時間をより多くとる。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 臨床心理学、臨床心理査定
＜研究テーマ＞ 虐待とその支援、発達障害とその支援
＜主要研究業績＞

【著書】『エッセンシャルズ KABC-II による心理アセスメントの要点』（丸善出版、2014 年 8 月）

【論文】『新しい検査 KABC-II と CHC 理論に基づくクロスバタリーアセスメント（XBA）の展開』（日本学校心理学会年報 7 巻 1 号、2015 年 4 月）

【Outline and objectives】

This seminar provides students with knowledge about of how to plan and execute a doctoral dissertation.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

久保田 幹子

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学に関する高度な知識と専門家としての技能の習得を目指します。また、個々の学生の博士論文のテーマにそって専門書・論文を調べ、研究計画をたて、博士論文を書き上げるための学習を行います。

【到達目標】

臨床心理学に関する専門的な知識を有するとともに、個々のテーマを掘り下げ、博士論文を書き上げることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

専門家としての知識、技術を学ぶことに加え、博士論文を書き上げることを目標にした授業になります。原則的には、個々の学生のテーマや博士論文の内容や進行状況にそって進めていきます。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

なお、各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の概要の検討 1	研究テーマの検証①
第 2 回	研究計画の概要の検討 2	研究テーマの検証②
第 3 回	研究計画の概要の検討 3	研究テーマの検証③
第 4 回	研究計画の概要の検討 4	研究の目的、方法論の検討①
第 5 回	研究計画の概要の検討 5	研究の目的、方法論の検討②
第 6 回	研究計画の概要の検討 6	研究の目的、方法論の検討③
第 7 回	研究計画の概要の検討 7	研究の目的、方法論の検討④
第 8 回	研究計画の概要の検討 8	研究の目的、方法論の検討⑤
第 9 回	研究計画の概要の検討 9	研究の目的、方法論の検討⑥
第 10 回	研究計画の概要の検討 10	研究の目的、方法論の検討⑦
第 11 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 1	国内外の先行研究の学習①
第 12 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 2	国内外の先行研究の学習②
第 13 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 3	国内外の先行研究の学習③
第 14 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 4	国内外の先行研究の学習④
第 15 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 5	国内外の先行研究の学習⑤
第 16 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 6	国内外の先行研究の学習⑥
第 17 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 7	国内外の先行研究の学習⑦
第 18 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 8	国内外の先行研究の学習⑧
第 19 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 9	国内外の先行研究の学習⑨
第 20 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 10	国内外の先行研究の学習⑩
第 21 回	調査研究の内容の検討 1	研究の実施、および研究結果の検討①
第 22 回	調査研究の内容の検討 2	研究の実施、および研究結果の検討②
第 23 回	調査研究の内容の検討 3	研究の実施、および研究結果の検討③
第 24 回	調査研究の内容の検討 4	研究の実施、および研究結果の検討④
第 25 回	調査研究の内容の検討 5	研究の実施、および研究結果の検討⑤
第 26 回	調査研究の内容の検討 6	研究の実施、および研究結果の検討⑥
第 27 回	調査研究の内容の検討 7	研究の実施、および研究結果の検討⑦
第 28 回	調査研究の内容の検討 8	研究の実施、および研究結果の検討⑧

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文を完成させるための様々な準備（先行研究の探索、方法論の検討、関連したテーマの知識を得るなど）を積極的に行うこと。研究を主体的、速やかに進めていくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストはありませんが、参考文献は適宜紹介します。

【参考書】

参考文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％） 専門的知識、研究技法の習得（50％）

【学生の意見等からの気づき】

博士論文を作成するための準備・ディスカッションを段階的に行い、個々の関心のあるテーマを専門的な研究に繋げられるよう指導する。

【その他の重要事項】

医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提議・論文構想に関してアドバイスを行っていきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

森田療法、比較心理療法、心理検査法

<研究テーマ>

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など

<主要研究業績>

1) 『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者、東京、白揚社、2015 年 3 月）

2) 『女性なぜ生きづらいのか』（共著書、東京、白揚社、2018 年 8 月）

3) 久保田幹子：対人恐怖の森田療法。こころの科学, 2009;147:72-78

4) 久保田幹子：森田療法における受容。精神療法, 2013;39(6):12-17

【Outline and objectives】

Instruction for compiling a doctor's thesis: research conceptualization, literature review, research design, methodology and analysis

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士学位論文の作成に向けて、専門的な研究手法、先行研究のレビュー、研究課題や研究対象の設定など、論文執筆に向けた研究指導を行う。

【到達目標】

博士論文作成に必要な知識や専門的技術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の関心領域、研究テーマに応じて、先行研究のレビュー、仮説および研究方法の検討などについて個別指導を行う。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	博士論文執筆に向けたスケジュールの検討
第 2 回	関心領域・テーマの検討 1	関心に沿った課題設定 1
第 3 回	関心領域・テーマの検討 2	関心に沿った課題設定 2
第 4 回	関心領域・テーマの検討 3	関心に沿った課題設定 3
第 5 回	関心領域・テーマの検討 4	関心に沿った課題設定 4
第 6 回	先行研究のレビュー 1	先行研究の探索と検討 1
第 7 回	先行研究のレビュー 2	先行研究の探索と検討 2
第 8 回	先行研究のレビュー 3	先行研究の探索と検討 3
第 9 回	先行研究のレビュー 4	先行研究の整理と報告 1
第 10 回	先行研究のレビュー 5	先行研究の整理と報告 2
第 11 回	研究テーマの仮説検討 1	先行研究の精査と問題の明確化 1
第 12 回	研究テーマの仮説検討 2	先行研究の精査と問題の明確化 2
第 13 回	研究テーマの仮説検討 3	先行研究の精査と問題の明確化 3
第 14 回	春学期の総括	春学期の内容を総括し、夏季のフィールドワークや調査に関する指導
第 15 回	オリエンテーション	論文執筆スケジュールの確認
第 16 回	夏季課題報告	夏季に行ったフィールドワーク及び調査結果についての報告
第 17 回	研究方法の検討 1	論文で用いる研究方法の検討 1
第 18 回	研究方法の検討 2	論文で用いる研究方法の検討 2
第 19 回	研究方法の検討 3	論文で用いる研究方法の検討 3
第 20 回	研究方法の検討 4	論文で用いる研究方法の検討 4
第 21 回	探索的調査の検討	調査に向けての課題整理
第 22 回	探索的調査の実施 1	調査の実施 1
第 23 回	探索的調査の実施 2	調査の実施 2
第 24 回	調査結果の検証 1	調査の実施と成果の検証 1
第 25 回	調査結果の検証 2	調査の実施と成果の検証 2
第 26 回	調査結果の検証 3	調査の実施と成果の検証 3
第 27 回	論文構想の明確化	探索的調査をふまえた研究内容の修正と論文執筆に向けた研究内容の明確化
第 28 回	1 年間の成果まとめ	これまでの総括と今後の展望の議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究テーマに関連する国内外の先行研究について丁寧に整理し、各回の指導において報告できるよう準備すること本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

①演習への参加姿勢 20 % ②課題提出 40 % ③論文構想発表会 40 %
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

論文の完成に向け、受講生の困りごとや研究の方向性について話し合いながら、授業を改善していきたい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

<主要研究業績>

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline and objectives】

This course focuses especially on to examine the knowledge, the theme, the research method, the research hypotheses, in order to write a doctoral dissertation.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

眞保 智子

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士學位論文作成にむけて、課題の設定や分析枠組みの検討を含めた、研究デザインを行います。

【到達目標】

これまでの研究成果および今後の研究課題について、報告会での報告と研究成果報告書を作成し、博士論文執筆につなげることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

先行研究のレビュー、仮説の検討、研究方法の検討などを通して、学位博士論文の構想をもとに学術論文の執筆を個別指導の中で進めていきます。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期スケジュールの確認
第 2 回	領域・テーマの提示	関心テーマにそった課題設定の検討
第 3 回	課題設定	課題設定の検討と仮説
第 4 回	仮説の構築	仮説の検討
第 5 回	仮説と作業仮説	作業仮説の検討
第 6 回	先行研究のレビュー	研究課題に関する先行研究の探索
第 7 回	先行研究の検討	研究課題に関する先行研究の選定
第 8 回	先行研究の考察	研究課題に関する先行研究の検討
第 9 回	先行研究と仮説	研究課題に関する先行研究と仮説の検討
第 10 回	先行研究と作業仮説	研究課題に関する先行研究と作業仮説の検討
第 11 回	研究テーマの明確化	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説を検討
第 12 回	研究テーマと仮説検討	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説を検討し発表
第 13 回	研究テーマと仮説修正	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説の修正
第 14 回	研究テーマへのアプローチ	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説を修正し発表
第 15 回	中間総括	春学期での総括を発表
第 16 回	オリエンテーション	秋学期スケジュールの確認
第 17 回	研究方法の検討	論文で用いる研究方法の検討と課題の抽出
第 18 回	研究方法の実践	論文で用いる研究方法の実践
第 19 回	研究方法の修正	論文で用いる研究方法の検討と修正
第 20 回	研究方法の整理	論文で用いる研究方法の検討と発表
第 21 回	分析枠組み検討	論文で展開する分析枠組を検討する
第 22 回	分析枠組み報告	論文で展開する分析枠組の発表
第 23 回	先行研究の分析枠組み修正	論文で展開する分析枠組の修正
第 24 回	分析枠組み決定	論文で展開する分析枠組の決定
第 25 回	論文構想の明確化	博士論文を構成する学術論文を執筆
第 26 回	論文執筆	学術論文の執筆と報告・検討
第 27 回	論文要旨の報告	学術論文の執筆と報告・議論
第 28 回	論文要旨の修正	学術論文の執筆と報告・修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者は、計画的に博士論文執筆を進めると同時に、毎回、必ず検討するためのレジュメや資料を用意して演習に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

履修者の研究テーマに即して適宜紹介します。

【参考書】

履修者の研究テーマに即して適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究成果報告書 50 %、報告会 50 %

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のため授業改善アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントなどを使用します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>若者支援論、障害者雇用

<研究テーマ>

- 1 障害者のキャリアデザイン
- 2 障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
- 3 企業における精神科ソーシャルワーク

【Outline and objectives】

This seminar builds on the skills learned in other seminar and applies them to writing of a degree paper. Students are expected to take responsibility in choosing a theme and thoroughly researching it for the final paper. This seminar content includes essay organization, research strategies (collecting and evaluating references, conducting web searches, using electronic databases), bibliographic organization, and citation styles: footnotes, end notes.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

関司 直也

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自が関心を持っている分野に即して、博士論文作成に必要な考え方や手法について実践的に学ぶ。各自の関心分野に応じて、先行研究のレビューを重ねながら研究仮説とテーマを組み立てる。さらに、仮説に応じた実証方法を検討し、研究構成を組み立てる。

【到達目標】

関連する領域での博士論文を作成する上で求められる、知見や研究方法、論文執筆の能力を高め、習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

履修生と相談の上、指導助言のスケジュールと方法を決定する。課題等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	論文作成手順の確認	論文作成の流れを確認する
第 2 回	論文作成計画の検討	論文作成の計画を検討する
第 3 回	論文作成計画の作成	論文作成の計画を作成する
第 4 回	先行研究の検索テーマ検討	先行研究の検索テーマを検討する
第 5 回	先行研究の探索	先行研究の検索作業を行う
第 6 回	先行研究の読解	先行研究の目通しを進める
第 7 回	先行研究の論点出し	先行研究の整理メモを作成する
第 8 回	先行研究の論点整理	先行研究の到達点を確認する
第 9 回	研究課題の設定	研究課題を設定する
第 10 回	研究仮説の整理	研究仮説を整理する
第 11 回	研究仮説の設定	研究仮説を設定する
第 12 回	研究方法の基礎的理解	課題解決の研究方法を学ぶ
第 13 回	研究方法の比較検討	課題解決の研究方法を比較検討する
第 14 回	研究方法の設定	課題解決の研究方法を設定する
第 15 回	研究フローの整理	研究のフローを整理する
第 16 回	研究フローの組み立て	研究のフローを組み立てる
第 17 回	論文構成の整理	章別構成を整理する
第 18 回	論文構成の組み立て	章別構成を組み立てる
第 19 回	データ分析の準備	調査データを準備する
第 20 回	データ分析の実施	調査データを分析する
第 21 回	データの考察	調査データを考察する
第 22 回	データの検討	調査データを検討する
第 23 回	論文冒頭部の指導	冒頭部の指導助言
第 24 回	論文中間部の指導	中間部の指導助言
第 25 回	論文後半部の指導	後半部の指導助言
第 26 回	論文結論部の指導	結論部の指導助言
第 27 回	論文全体の指導	論題の指導助言
第 28 回	論文全体の最終指導	論旨の指導助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習前に個別での作業を充分に行った上で、毎回、進捗状況を報告でき、検討や指導が受けやすい環境を整えて臨むこと。準備・復習時間として各 2 時間を確保してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜、プリント等を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

博士論文への取り組み過程 50 %、論文の内容 50 %

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは非実施だが、受講生から寄せられた意見も踏まえながら、授業内容に反映させたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論
 <研究テーマ> 農山村地域における地域資源管理の担い手問題、地域マネジメントのあり方
 <主要研究業績>

『プロセス重視の地方創生:農山村からの展望』（共著、筑波書房、2019 年）

『内発的農村発展論』（共著、農林統計出版、2018 年）

『田園帰郷の過去・現在・未来』（共著、農山漁村文化協会、2016 年）

『人口減少時代の地域づくり読本』（共著、公職研、2015 年）

【Outline and objectives】

We learn practically the ideas and methods necessary for writing a doctoral dissertation according to the field of interest. Then, depending on the field of interest, we assemble research hypotheses and themes while reviewing previous research. In addition, we examine the hypothesis-based proof-of-concept method and assemble the research structure.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

末武 康弘

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。提出された課題や論文等へのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやZoom等のオンライン）によって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の概要の検討 1	オリエンテーション
第 2 回	研究計画の概要の検討 2	研究の意図を検討
第 3 回	研究計画の概要の検討 3	研究の背景を検討
第 4 回	研究計画の概要の検討 4	研究の目的を検討
第 5 回	研究計画の概要の検討 5	研究の社会的な意義を検討
第 6 回	研究計画の概要の検討 6	研究のオリジナリティを検討
第 7 回	研究計画の概要の検討 7	研究のグローバル性を検討
第 8 回	研究計画の概要の検討 8	研究のアップデートな意義を検討
第 9 回	研究計画の概要の検討 9	研究の臨床的な意義を検討
第 10 回	研究計画の概要の検討 10	研究の倫理性を検討
第 11 回	先行研究の探索と検討 1	研究テーマに関連する先行研究の概要を検討
第 12 回	先行研究の探索と検討 2	研究テーマに関連する先行研究の探索
第 13 回	先行研究の探索と検討 3	研究テーマに関連する先行研究の探索と検討
第 14 回	先行研究の探索と検討 4	研究テーマに関連する先行研究の分析
第 15 回	研究デザインと研究方法の検討 1	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法の概要を検討
第 16 回	研究デザインと研究方法の検討 2	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法のバリエーションを検討
第 17 回	研究デザインと研究方法の検討 3	研究テーマに沿った研究デザインを検討
第 18 回	研究デザインと研究方法の検討 4	研究テーマに沿った研究方法を検討
第 19 回	研究デザインと研究方法の検討 5	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法を検討
第 20 回	研究デザインと研究方法の検討 6	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法をさらに検討
第 21 回	研究デザインと研究方法の確定 1	研究デザインと研究方法の確定に向けた検討
第 22 回	研究デザインと研究方法の確定 2	研究デザインと研究方法を確定
第 23 回	データ収集と処理検討 1	データ収集の方法を検討
第 24 回	データ収集と処理検討 2	データ処理の方法を検討
第 25 回	データ収集と処理検討 3	データ収集と処理の方法を検討
第 26 回	論文執筆の指導 1	大学院紀要等の論文執筆について指導
第 27 回	論文執筆の指導 2	学会投稿論文等の執筆について指導
第 28 回	論文執筆の指導 3、まとめ	博士論文作成の目的と方法の書き方を指導、指導のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための研究活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、論文執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

博士論文の執筆過程（70%）と投稿論文等の内容（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

<主要研究業績>

- ① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
- ② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012 年）
- ③ 『主観性を科学化する』質的研究法入門（共編著、金子書房、2016 年）

【Outline and objectives】

You learn the knowledge, research method, ability to write a doctoral dissertation in clinical psychology.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

関谷 秀子

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究目的と方法および研究対象に関すること、データ収集に関すること、データの解析に関すること、得られたデータの解釈に関すること、解釈に関する考察および研究の結論に関することが博士課程レベルに到達する必要がある。

【到達目標】

研究の諸段階の各目標が達成されると次の目標を目指す作業に入ることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

到達目標及びテーマに必要な質問と議論を 1 対 1 形式で行なう。オフィス・アワーで、課題に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの選び方①	展望論文の選択①
第 2 回	研究テーマの選び方②	展望論文の選択②
第 3 回	研究テーマの選び方③	展望論文の選択③
第 4 回	研究テーマと研究目的の決定	十分な先行論文検索から研究の流れと最先端を知る。現在の最先端の状況把握をする。
第 5 回	フィールドの選び方①	先行研究論文を検索①
第 6 回	フィールドの選び方②	先行研究論文を検索②
第 7 回	フィールドの選び方③	十分な先行研究展望から、どのようなフィールドでデータは取りえるか、また、それぞれのメリット・デメリットを考察する。
第 8 回	研究フィールドの決定	理想的な研究フィールドと現実
第 9 回	研究方法の選び方①	先行研究展望から可能な方法を選択、必要があれば、論文原著者に連絡して問い合わせる。①
第 10 回	研究方法の選び方②	先行研究展望から可能な方法を選択、必要があれば、論文原著者に連絡して問い合わせる。②
第 11 回	研究方法の決定①	対象群と比較対照、分析方法の決定。
第 12 回	研究方法の決定②	評価者間信頼性チェックの必要性がある場合、その方法を決定する。
第 13 回	倫理委員会申請準備	研究倫理委員会規定を踏まえて、誰からどのような研究協力の承諾を得るべきか検討する。
第 14 回	研究倫理委員会申請	必要な書式を準備して申請する
第 15 回	研究実施の最終チェック	必要な書類の準備と研究フィールド準備
第 16 回	研究実施①	データ収集上の問題点のチェック①
第 17 回	研究実施②	データ収集上の問題点のチェック②
第 18 回	研究実施③	データ収集上の問題点のチェック③
第 19 回	研究実施④	データ収集上の問題点のチェック④
第 20 回	研究実施⑤	データ収集上の問題点のチェック⑤
第 21 回	研究実施⑥	データ収集上の問題点のチェック⑥
第 22 回	研究実施⑦	データ収集上の問題点のチェック⑦
第 23 回	研究実施⑧	データ収集上の問題点のチェック⑧
第 24 回	研究実施⑨	データ収集上の問題点のチェック⑨
第 25 回	研究実施⑩	データ収集上の問題点のチェック⑩
第 26 回	研究実施⑪	データ収集上の問題点のチェック⑪
第 27 回	論文作成①	目的（実証すべき作業仮説に至る先行研究の展望を含む）
第 28 回	論文作成②	研究方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究検索本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは専門雑誌に掲載されている先行研究論文である。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、日々の学習意欲と研究への取り組みの姿勢によって評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

前年度には担当していないため、授業アンケートを実施していない。

【担当教員の専門分野】

精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline and objectives】

Analysis and study of theory at a doctoral level concerning research objective methods and study, and data collection and analysis.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

土肥 将敦

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、研究テーマを決定するとともに、その研究に即した先行研究のサーベイ、リサーチ・クエスチョンの導出と仮説を構築することを主眼におく。

【到達目標】

研究テーマを確立するプロセス（先行研究のサーベイ等）の中で、問い（リサーチ・クエスチョン）を洗練させ、仮説を育て発展させていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

論文作成のための基本的な作法を学ぶとともに、当該研究テーマに即した先行研究のサーベイを定期的に報告してもらいます。そのプロセスの中で、既存研究から明らかになっていることと未解明の部分を確認し、リサーチ・クエスチョンを構築していく。COVID-19 にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また、課題等のフィードバックについても学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	年間および春学期の計画・方針を確認する
第 2 回	研究テーマの設定①	研究テーマを設定する①
第 3 回	研究テーマの設定②	研究テーマを設定する②
第 4 回	調査手法の設定と確認①	調査手法を確認する①
第 5 回	調査手法の設定と確認②	調査手法を確認する②
第 6 回	先行研究のサーベイ①	国内外の先行研究のサーベイを行う①
第 7 回	先行研究のサーベイ②	国内外の先行研究のサーベイを行う②
第 8 回	先行研究のサーベイ③	国内外の先行研究のサーベイを行う③
第 9 回	先行研究のサーベイ④	国内外の先行研究のサーベイを行う④
第 10 回	RQ の創出①	問いをたてる①
第 11 回	RQ の創出②	問いをたてる②
第 12 回	フィールド調査報告①	フィールド調査を踏まえた研究報告①
第 13 回	フィールド調査報告②	フィールド調査を踏まえた研究報告②
第 14 回	フィールド調査報告③	フィールド調査を踏まえた研究報告③
第 15 回	前期の振り返り	前期の達成度を確認し課題を抽出する
第 16 回	ガイダンス	秋学期の計画・方針を確認する
第 17 回	進捗状況の報告①	夏期休暇中の調査状況の報告①
第 18 回	進捗状況の報告②	夏期休暇中の調査状況の報告②
第 19 回	RQ 再設定と仮説導出①	RQ の再設定と仮説の導出①
第 20 回	RQ 再設定と仮説導出②	RQ の再設定と仮説の導出②
第 21 回	RQ 再設定と仮説導出③	RQ の再設定と仮説の導出③
第 22 回	調査報告①	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する①
第 23 回	調査報告②	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する②
第 24 回	調査報告③	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する③
第 25 回	調査報告④	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する④
第 26 回	章立て案の作成	章立て案を作成する
第 27 回	追加フィールド調査①	追加のフィールド調査報告①
第 28 回	追加フィールド調査②	追加のフィールド調査報告②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの「作品」としての修士論文を執筆するためには、講義時間以外に関連する論文や資料を収集しリサーチ・クエスチョンを洗練させていくことが求められる。また与えられた課題をこなすだけでなく、自分で海外の関連する論文を見つけてくる積極的な姿勢が重視される。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者の研究テーマに応じてその都度指示する。

【参考書】

受講者の研究テーマに応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の研究報告内容（100 %）をもとに判断する。具体的方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR 論

<研究テーマ> ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方

<主要研究業績>

『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015 年）

『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014 年）

『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT 出版、2013 年）

【Outline and objectives】

This course will provide not only the basic skills to produce a high-quality research paper, but also a better understanding of the interpretation of these ethnographic method/

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

中村 律子

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文研究テーマを決定し、さまざまな研究方法論（歴史研究、理論研究、政策研究、比較研究など）ならびに、先行研究をレビューし、仮説の設定、フィールドワークなど実証研究の方法を用いて、博士論文執筆にむけての研究デザインを構築する。博士論文（博士課程後期修了論文）執筆に向けて、基礎的な研究、研究計画の検討など、論文構想を練り上げることを目的とします。

【到達目標】

博士論文（博士課程後期修了論文）執筆に向けて、基礎的な研究、研究計画の検討など、論文構想を練り上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文を執筆するための先行研究レビュー、研究課題の明確化、研究方法の検討などについて、個別指導を行います。また、博士論文構想発表会が予定されているの、それに向けての指導・支援を行う。学術論文としての博士論文をいかに執筆していくかについて指導を行います。授業内発表やディスカッションなどを取り入れる。また、リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し議論に活かします。課題提出へのフィードバックについては学習支援システムへ展開します。なお、授業計画や進め方に変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究指導の説明
第2回	関心領域・テーマ検討①	関連領域の研究動向の整理
第3回	関心領域・テーマ検討②	関連領域の研究動向を整理・報告
第4回	関心領域・テーマ検討③	海外の論文の整理①
第5回	関連領域・テーマ検討④	海外の論文の整理②
第6回	先行研究のレビュー①	先行研究の検索と整理①
第7回	先行研究のレビュー②	先行研究の検索と整理②
第8回	先行研究のレビュー③	先行研究の検索と整理③
第9回	研究仮説の検討①	研究課題と仮説の設定①
第10回	研究仮説の検討②	研究課題と仮説の設定②
第11回	研究仮説の検討③	研究課題と仮説の明確化
第12回	研究方法の検討	研究デザインと研究方法の明確化
第13回	博士論文構想発表会準備	研究目的、背景、研究計画の明確化
第14回	中間総括	構想発表会後の反省、研究課題再検討
第15回	秋学期の研究指導の概要	スケジュールの説明
第16回	夏季中の課題報告	夏季中に実施したプレ調査の成果報告
第17回	調査研究構想の明確化①	研究テーマと調査検討①
第18回	調査研究構想の明確化②	研究テーマと調査検討②
第19回	探索的調査の検討①	研究調査に向けての課題設定
第20回	探索的調査の実施②	研究テーマに基づくプレ調査研究実施計画案発表と討議
第21回	探索的調査の実施③	研究テーマに基づくプレ調査研究実施計画決定
第22回	調査結果の検証①	プレ調査結果の分析と考察①
第23回	調査結果の検証②	プレ調査結果の分析と考察②
第24回	調査結果の検証③	プレ調査結果の分析と考察③
第25回	研究計画書の明確化①	調査研究と論文章構成の検討①
第26回	研究計画書の明確化②	調査研究と論文章構成の検討②
第27回	研究計画書の明確化③	調査研究計画の到達点の評価と再検討
第28回	まとめ	1年間の総括と今後の調査研究計画課題検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最新の内外の研究論文（学会誌など）などを丹念に読み込むなど、繰り返し、先行研究のリストアップおよびその整理、考察を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、各自の研究テーマにしたがって紹介します。

【参考書】

適宜、各自の研究テーマにしたがって紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加姿勢（80%）、博士論文構想発表会にて発表内容（20%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは非実施科目です。

【学生が準備すべき機器他】

各自の研究発表でPCやプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【その他の重要事項】

博士論文作成は研究デザインに労力を要します。先行研究、研究視点や方法のオリジナリティと斬新さ、さまざま知見をもとに、論文構想を練り上げてください。丁寧に指導したいと考えています。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：社会福祉学、高齢者福祉論、社会福祉処遇史

主要業績：

・「ネパール震災と高齢者ケアコミュニティ・ケアの再創造」現代福祉研究第16号 法政大学現代福祉学部 2016年
 ・「浴風園ケース記録集-100人」共著、学文社、2015年
 ・「ネパール社会における「sewa」コミュニティ」に関する一考察」現代福祉研究第13号、法政大学現代福祉学部 2013年
 ・「実践のコミュニティ」共著、京都大学出会、2012年
 ・「戦前の養老院の社会的意義について-開園から救護法施行期までの浴風園の原史料分析-」、現代福祉研究第8号、法政大学現代福祉学部、2008年

【Outline and objectives】

This course guides graduate students to structure their Doctor's thesis research design by reviewing various research methods (in terms of history, theories, policy/measures, comparison) and prior research data, creating a hypothesis, as well as empirical research from field work.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

長山 恵一

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学の分野に関連するテーマについて、個々の学生の博士論文のテーマにそって専門書・論文を調べ、研究計画をたて、博士論文を書き上げるための学習と準備を指導する。

【到達目標】

博士論文のテーマにそって専門書や論文を調べ、研究計画をたてることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文を書き上げることを目標にした授業なので、個々の学生のテーマや博士論文の内容や進行状況によって大きく授業の内容は異なり、基本的に個別的な指導を原則として授業を進めます。オンラインでの開講となった場合、それにとまう各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度お知らせします。

課題等のフィードバックは学習支援システムを通して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の検討 1	研究計画を具体化するポイント整理
第 2 回	研究計画の検討 2	研究計画の独創性について整理
第 3 回	研究計画の検討 3	先行研究の調査方針
第 4 回	研究計画の検討 4	研究調査の実現可能性の議論
第 5 回	研究計画の検討 5	論文の方法論の適切さの議論
第 6 回	研究計画の検討 6	研究の倫理的なチェック
第 7 回	研究計画の検討 7	先行研究の概略的な整理
第 8 回	研究計画の検討 8	先行研究を参考にどのような規模と方法で調査を進めるかを検討
第 9 回	研究計画の検討 9	構想発表会に向けての整理
第 10 回	研究計画の検討 10	構想発表会に向けて準備
第 11 回	先行研究の探索と学習 1	先行研究を網羅的に収集
第 12 回	先行研究の探索と学習 2	先行研究を整理
第 13 回	先行研究の探索と学習 3	先行研究と今回の研究範囲のすり合わせ
第 14 回	先行研究の探索と学習 4	先行研究と今回の研究範囲のすり合わせを詳細に検討
第 15 回	先行研究の探索と学習 5	先行研究から今回の研究範囲を決定
第 16 回	研究の方法論の検討 1	研究の方法論の絞込み
第 17 回	研究の方法論の検討 2	研究の方法論を最終的に決定
第 18 回	研究対象の検討	研究対象の絞込み
第 19 回	研究仮説の策定 1	先行研究を踏まえて研究仮説の概要を策定
第 20 回	研究仮説の策定 2	先行研究を踏まえて研究仮説の妥当性を検討
第 21 回	研究仮説の決定	研究仮説を最終的に決定
第 22 回	調査スケジュール検討 1	大まかな調査スケジュールを策定
第 23 回	調査スケジュール検討 2	調査スケジュールの実現可能性の検討
第 24 回	調査スケジュール検討 3	調査スケジュールの詳細を具体的検討
第 25 回	調査スケジュール最終決定	調査スケジュールを最終的に決定
第 26 回	研究の倫理的問題について	調査研究の倫理的配慮についての具体的な方法を検討
第 27 回	調査結果の整理・検証	調査結果を整理・検証
第 28 回	考察の作成	調査結果にもとづいて考察を作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究テーマに関連する先行研究や関連分野の学習は自発的に行い済ませておき、演習の議論の前提として理解を深めておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学生によって異なるため、必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

学生によって異なるため、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

日常の学習態度と研究への取り組みの姿勢によって評価をする（100%）。オンラインでの開講となった場合、それにとまない成績評価の方法と基準も変更することがあります。具体的な方法や基準は授業開始日に学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の個別の研究テーマに沿って、最適と思われる指導内容や指導の進め方を工夫していきたいと思えます。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、上記の授業計画は若干の変更があり得ます。

【担当教員の専門分野】

比較精神療法、精神医学

【Outline and objectives】

In this course, students will explore, present and discuss about each independent clinical psychological research activity relevant for the doctoral dissertation.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

丹羽 郁夫

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究領域において、オリジナリティがあり、最先端である博士論文を学生が作成するために、テーマと調査方法を設定するように指導すること

【到達目標】

オリジナリティがあり、臨床心理的価値の高い、研究領域における最先端の博士論文のテーマを設定でき、それに最も適した調査方法を設定できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

上記の目標に到達するため、関心領域の検討からはじめ、先行研究の検索と読み込みを通して、研究テーマを絞り込み、テーマと研究方法の決定までを指導する。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	博士論文のテーマと研究方法決定までのタイムテーブルについて説明。
第 2 回	関心領域の検討①	関心領域の探索
第 3 回	関心領域の検討②	関心領域の検討
第 4 回	関心領域の検討③	関心領域の明確化
第 5 回	先行研究の検索と読み込み①	明確になった関心領域に関する先行研究の検索
第 6 回	先行研究の検索と読み込み②	関心領域に関する先行研究の収集
第 7 回	先行研究の検索と読み込み③	関心領域に関する先行研究の読み込み
第 8 回	先行研究の検索と読み込み④	再収集する必要がある文献の収集と読み込み
第 9 回	先行研究の検索と読み込み⑤	関連する先行研究をほぼ全て読み込む
第 10 回	研究テーマの絞り込み①	先行研究の検討から研究テーマの可能性の検討
第 11 回	研究テーマの絞り込み②	研究テーマの検討
第 12 回	研究テーマの絞り込み③	研究テーマの明確化
第 13 回	研究テーマの設定①	研究テーマの設定
第 14 回	研究テーマの設定②	研究テーマの設定を検討して再設定
第 15 回	先行研究のレビュー①	研究テーマに関する先行研究のレビューの準備
第 16 回	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューに着手
第 17 回	先行研究のレビュー③	先行研究のレビューの経過報告
第 18 回	先行研究のレビュー④	先行研究のレビューを進める
第 19 回	先行研究のレビュー⑤	先行研究のレビューの検討
第 20 回	先行研究のレビュー⑥	再検討から必要だと気づいた文献の再収集
第 21 回	先行研究のレビュー⑦	先行研究のレビューの作成
第 22 回	先行研究のレビュー⑧	先行研究のレビューの検討
第 23 回	先行研究のレビュー⑨	先行研究のレビューの再作成
第 24 回	先行研究のレビュー⑩	先行研究のレビューの完成
第 25 回	研究テーマの明確化	先行研究の詳細なレビューに基づいてさらに研究テーマの明確化
第 26 回	研究方法の検討①	研究方法の検討
第 27 回	研究方法の検討②	研究方法についてさらに検討
第 28 回	研究方法の決定	研究方法の決定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の前は、研究テーマに関連する国内外の専門図書と研究雑誌を検索して読み、博士論文作成の準備を進め、その進行状況と疑問点などを報告できる用意をすることが求められます。演習の後には、教員からの助言やコメントを博士論文の作成に反映させることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

論文のテーマと方法に応じて適切な参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成への取り組み (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はアンケートを実施していません。

【担当教員の専門領域】

臨床心理学（子どもの心理療法、D.W. ウィニコット、移行対象など）とコミュニティ心理学（コンサルテーション、ストレス、ソーシャルサポートなど）<主要研究業績>

『ジェラルド・キャプランのメンタルヘルスコンサルテーションの概観』（単著、コミュニティ心理学研究 18(2)、2015 年）

『コミュニティ心理学ハンドブック』（共著、東京大学出版社、2007 年）

『中国帰国者におけるソーシャル・サポート利用の精神健康への影響』（共著、コミュニティ心理学研究 2(2)、1999 年）

【Outline and objectives】

In the research area, to instruct students to set themes and survey methods in order to create students with originality and cutting edge doctoral thesis.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

服部 環

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士學位論文の作成に向け、専門的知識と研究方法を習得します。

【到達目標】

博士論文の作成に必要な専門的知識と技術を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文を投稿論文としてまとめ、博士論文の執筆能力を高めます。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習計画と進め方について確認します
第 2 回	先行研究の調査 (国内)	国内の先行研究を調べます
第 3 回	先行研究の調査 (国外)	国外の先行研究を調べます
第 4 回	先行研究の調査の継続	国内外の先行研究を調べます
第 5 回	先行研究の確認	文献研究の過不足について確認します
第 6 回	研究論文のリスト作成	研究論文リストアップします
第 7 回	書籍のリスト作成	書籍をリストアップします
第 8 回	先行研究の整理 (国内 1)	国内の先行研究の意義を整理します
第 9 回	先行研究の整理 (国内 2)	引き続き意義を整理します
第 10 回	先行研究の整理 (国外 1)	国外の先行研究の意義を整理します
第 11 回	先行研究の整理 (国外 2)	引き続き意義を整理します
第 12 回	問題点の整理 (国内)	国内の先行研究の問題点を整理します
第 13 回	問題点の整理 (国外)	国外の先行研究の問題点を整理します
第 14 回	先行研究の問題点の整理 (国内外)	国内外の先行研究の問題点を整理します
第 15 回	後期のガイダンス	ガイダンスを行います
第 16 回	研究雑誌の精査 (1)	研究雑誌について精査します
第 17 回	研究雑誌の精査 (2)	必要な文献の見落としがないように研究雑誌について精査します
第 18 回	執筆要項の確認	投稿先雑誌の執筆要項を確認します
第 19 回	投稿論文の執筆開始	投稿形式論文の執筆を始めます
第 20 回	投稿論文の執筆 (問題と目的)	問題と目的を執筆します
第 21 回	論文投稿の執筆 (方法)	方法を執筆します
第 22 回	論文投稿の執筆 (結果)	結果を執筆します
第 23 回	執筆内容と分析の確認	内容の適否について確認します
第 24 回	論文投稿の修正 (結果)	修正を加えます (結果)
第 25 回	論文投稿の執筆 (考察)	考察を執筆します
第 26 回	結果までの加筆修正	加筆修正します
第 27 回	全体の加筆修正	全体を加筆修正します
第 28 回	添付資料の作成	添付資料を作成します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究を読み込むことが必要です。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、適宜、論文と書籍を紹介します。

【参考書】

心理学の研究手法とデータ解析法に関する書籍を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加 (50%) と研究成果 (50%) を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に研究技術を吸収して下さい。

【その他の重要事項】

個別指導が中心ですが、成果を他の受講生と共に発表します。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

教育心理測定学、心理データ解析

<研究テーマ>

項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用

<主要研究業績>

- (1) 読んでわかる心理統計法 (共著, サイエンス社)
- (2) 心理・教育のための R によるデータ解析 (単著, 福村出版)
- (3) 日本版 KABC-II マニュアル・換算表 (共訳編, 丸善出版)

(4)Q&A 心理データ解析 (共著, 福村出版)

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with the academic skills related to psychological research and writing doctoral dissertation.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

布川 日佐史

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士學位論文作成のための研究指導を行う。

【到達目標】

独創的な研究テーマで、論理が一貫した学位論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 個別指導による。
- 2) 課題や提出物などへのフィードバックは、個別に、授業支援システムやメール等で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究テーマ及び研究方法の検討①	論文のテーマの検討
2	研究テーマ及び研究方法の検討②	論文のテーマの確定
3	研究テーマ及び研究方法の検討③	研究方法の検討
4	研究テーマ及び研究方法の検討④	研究方法の確定
5	先行研究の検討①	関連した先行研究の収集
6	先行研究の検討②	関連した先行研究の整理
7	先行研究の検討③	関連した先行研究の成果の整理
8	先行研究の検討④	関連した先行研究の成果の検討
9	先行研究の検討⑤	関連した先行研究の課題のまとめ
10	先行研究の検討⑥	関連した先行研究の課題の確定
11	先行研究の検討⑦	先行研究の成果と課題のまとめ
12	実態調査①	現場の実態と問題状況の把握
13	実態調査②	現場の実態と問題状況の分析
14	実態調査③	現場の実態と問題状況のまとめ
15	秋学期研究計画	秋学期研究計画の検討、確定
16	仮説の検討①	オリジナルな仮説を検討する
17	仮説の検討②	仮説の整理
18	論文構想報告とその検討①	論文構想、主旨の報告
19	論文構想報告とその検討②	論文構想と主旨の確定
20	研究課題と研究計画の明確化①	研究計画の検討
21	研究課題と研究計画の明確化②	研究計画の確定
22	研究課題の解明①	課題の解明に向けた検討
23	研究課題の解明②	課題の解明に向けた論点の明確化
24	研究課題の解明③	課題の解明に向けた主張の検討
25	研究課題の解明④	まとめ
26	論文概要版の準備	概要版を作成する
27	論文概要版の報告	概要版を報告する
28	全体総括	到達点と課題の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分独自のオリジナルなまとめや見解をしっかりとつくりあげること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の報告内容（50%）と最終まとめ（50%）にもとづく。

【学生の意見等からの気づき】

論証していくうえでのキー概念の検討を深める必要がある。

【担当教員の専門分野等】

公的扶助 雇用政策

【Outline and objectives】

Research guidance for doctor's dissertation

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

水野 雅男

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自が関心を持っている分野に即して、博士論文作成に必要な考え方や手法について実践的に学ぶ。

各自の関心分野に応じて、先行研究のレビューを重ねながら研究仮説とテーマを組み立てる。さらに、仮説に応じた実証方法を検討し、研究構成を組み立てる。

【到達目標】

博士論文作成の技術を習得するようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

履修生の関心分野に沿って、履修生と相談の上、指導助言のスケジュールと方法を決定する。

毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	論文作成計画の検討①	論文作成方法とスケジュール①
第 2 回	論文作成計画の検討②	論文作成方法とスケジュール②
第 3 回	論文作成計画の検討③	論文作成方法とスケジュール③
第 4 回	先行研究のレビュー①	先行研究の検索と整理①
第 5 回	先行研究のレビュー②	先行研究の検索と整理②
第 6 回	先行研究のレビュー③	先行研究の検索と整理③
第 7 回	先行研究のレビュー④	先行研究の検索と整理④
第 8 回	先行研究のレビュー⑤	先行研究の検索と整理⑤
第 9 回	研究仮説の検討①	研究課題と仮説の設定①
第 10 回	研究仮説の検討②	研究課題と仮説の設定②
第 11 回	研究仮説の検討③	研究課題と仮説の設定③
第 12 回	研究方法の検討①	課題解決の研究手法の抽出①
第 13 回	研究方法の検討②	課題解決の研究手法の抽出②
第 14 回	研究方法の検討③	課題解決の研究手法の抽出③
第 15 回	研究構成の検討①	研究のフローと章立て①
第 16 回	研究構成の検討②	研究のフローと章立て②
第 17 回	研究構成の検討③	研究のフローと章立て③
第 18 回	データ収集分析①	調査データの分析
第 19 回	データ収集分析②	調査データの図表作成
第 20 回	データ収集分析③	調査データの分析と考察①
第 21 回	データ収集分析④	調査データの分析と考察②
第 22 回	論文執筆の指導①	各章節の指導助言①
第 23 回	論文執筆の指導②	各章節の指導助言②
第 24 回	論文執筆の指導③	各章節の指導助言③
第 25 回	論文執筆の指導④	各章節の指導助言④
第 26 回	論文執筆の指導⑤	各章節の指導助言⑤
第 27 回	論文投稿の指導①	学会への投稿に向けた技術的な指導
第 28 回	論文投稿の指導②	同上に向けた構成内容の吟味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった経験に基づき、フィールドレベルからの研究テーマの構築について助言する。

【担当教員の専門分野】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第 707 号、2015 年
「地方都市の再生戦略」(共著) 学芸出版社、2013 年
『生活景』(共著) 学芸出版社、2009 年

【Outline and objectives】

Learn practically about the concepts and methods necessary for doctor dissertation preparation in fields that each person is interested in. Build research hypotheses and themes while reviewing previous research in your field of interest. Study the verification method according to the hypothesis, and construct the research composition.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

宮城 孝

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成のための研究デザインを作成し、テーマに関する先行研究のレビューを体系的に行うとともに、自らの研究の目的、対象、研究方法を構築することを目標とする。

【到達目標】

自らの研究テーマについて適切にデザインできる。
研究の内容に対し、適切な研究方法が選択できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究テーマを明確にするために、先行研究のレビューを体系的に行うなどの作業、必要なデータの収集方法などについて指導を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の対象と目的①	明確化の検討①
第 2 回	研究の対象と目的②	明確化の検討②
第 3 回	研究テーマの設定①	主題の明確化の検討①
第 4 回	研究テーマの設定②	主題の明確化の検討②
第 5 回	研究方法の明確化①	研究方法の検討①
第 6 回	研究方法の明確化②	研究方法の検討②
第 7 回	先行研究のレビュー①	対象の探索と検討①
第 8 回	先行研究のレビュー②	対象の探索と検討②
第 9 回	先行研究のレビュー③	対象の探索と検討③
第 10 回	先行研究のレビュー④	対象の探索と検討④
第 11 回	研究仮説の設定①	視点と仮説の検討①
第 12 回	研究仮説の設定②	視点と仮説の検討②
第 13 回	データの収集方法①	具体的な収集方法の検討①
第 14 回	データの収集方法②	具体的な収集方法の検討②
第 15 回	データの収集方法③	具体的な収集方法の検討③
第 16 回	データの収集方法④	具体的な収集方法の検討④
第 17 回	データの収集方法⑤	具体的な収集方法の検討⑤
第 18 回	データの収集と分析①	分析方法の検討①
第 19 回	データの収集と分析②	分析方法の検討②
第 20 回	データの収集と分析③	分析方法の検討③
第 21 回	データの収集と分析④	分析方法の検討④
第 22 回	考察①	視点と枠組みの検討①
第 23 回	考察②	視点と枠組みの検討②
第 24 回	考察③	内容の検討
第 25 回	論文の作成指導①	論文の構成の検討①
第 26 回	論文の作成指導②	論文の構成の検討②
第 27 回	論文の報告・指導①	内容の検討①
第 28 回	論文の報告・指導②	内容の検討②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、課題を設定してレポートや仮論文としてまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、レポートの提出と報告、その内容 60 % により評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（編著）中央法規、2019年
- ・『地域福祉とファンディング－財源確保の方法と先進事例－』編著、中央法規、2018年
- ・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』（編集代表）、中央法規、2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規、2014年
- ・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善、2012年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規、2007年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000年
- ・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善出版、2012年

【Outline and objectives】

To create reserch paper,it sets reserch design.It does the review of the past reserach paper systematically about the own reserch subject.Then,it makes to build the purpose,the object,the way of its reserch.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

望月 聡

配当年次／単位数：1年次／4単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文にかかる研究を構想し、研究に着手するための演習です。

【到達目標】

- 1) 博士論文に係る研究を構想し、着手することができる。
- 2) 博士課程にふさわしい高度な研究遂行能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式です。博士論文にかかる研究指導のための科目ですから、基本的には受講生が能動的に学修を進めていくスタイルになります。対面時に直接もしくはメールにより、随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本演習の進め方について説明します。
第2回	これまでの研究の紹介とこれからの研究の方向性	これまでに行ってきた研究を紹介してもらい、これからの研究の方向性について議論します。
第3回	研究の位置づけについて検討する	博士論文のための研究がどのような研究文脈上の位置づけになるかを議論します。
第4回	関連する先行研究の検索・読解・研究紹介 (1)	関連する先行研究について、より網羅的に深く検索し、これまでの研究知見や動向を十分に把握し、その内容について議論します。(1)
第5回	関連する先行研究の検索・読解・研究紹介 (2)	関連する先行研究について、より網羅的に深く検索し、これまでの研究知見や動向を十分に把握し、その内容について議論します。(2)
第6回	関連する先行研究の検索・読解・研究紹介 (3)	関連する先行研究について、より網羅的に深く検索し、これまでの研究知見や動向を十分に把握し、その内容について議論します。(3)
第7回	関連する先行研究の検索・読解・研究紹介 (4)	関連する先行研究について、より網羅的に深く検索し、これまでの研究知見や動向を十分に把握し、その内容について議論します。(4)
第8回	博士論文に関する研究の全体像を構想する (1)	関連する先行研究の総説論文の執筆の構想を練ります。
第9回	博士論文に関する研究の全体像を構想する (2)	第7回までの内容に基づいて、博士論文に関する研究の全体像を構想します。
第10回	構想発表の準備	引き続き、博士論文に関する研究の全体像を構想します。
第11回	構想発表	構想発表の準備を行います。
第12回	構想発表のふりかえり	構想発表で受けた意見等を踏まえ、必要に応じて構想を練り直します。
第13回	研究への着手	研究を開始します。研究倫理審査申請の準備を進めます。
第14回	中間まとめ	春学期の活動をふりかえり、夏季休業中や秋学期以降の活動を計画します。
第15回	研究の実施 (1)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(1)
第16回	研究の実施 (2)	(これ以降の回では、研究活動の実施に関する指導・助言を行います。) 研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(2)
第17回	研究の実施 (3)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(3)
第18回	研究の実施 (4)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(4)
第19回	研究の実施 (5)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。(5)

第 20 回	研究の実施 (6)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。
第 21 回	研究の実施 (7)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。
第 22 回	研究の実施 (8)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。
第 23 回	研究の実施 (9)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。
第 24 回	研究の実施 (10)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。
第 25 回	研究の実施 (11)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。
第 26 回	研究の実施 (12)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。
第 27 回	研究の実施 (13)	研究の実施、学会発表の実施、投稿論文の執筆等、研究活動を遂行します。
第 28 回	まとめ	この 1 年間の成果をふりかえり、春季休業中や次年度の予定を検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習に必要な事項はすべて受講生の準備にかかっています。したがって、演習が成立するためには受講生側の事前の準備が不可欠ですし、演習後にはその内容を咀嚼し次回への準備に取り組むというサイクルが形成される必要があります。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

日本心理学会（2015）. 執筆・投稿の手びき <https://psych.or.jp/manual>
 『臨床心理学研究法特論』 小川俊樹・望月聡（編著） 放送大学教育振興会
 『心理学の実践的研究法を学ぶ（臨床心理学研究法 1）』 下山晴彦・能智正博（編） 新曜社

『アナログ研究の方法（臨床心理学研究法 4）』 杉浦義典 新曜社
 『量的研究法（臨床心理学をまなぶ 7）』 南風原朝和 東京大学出版会
 『質的研究法（臨床心理学をまなぶ 6）』 能智正博 東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

神経心理学、認知行動病理学

【Outline and objectives】

This seminar guides students in their conducting research and writing for doctoral thesis.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

保井 美樹

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成にむけた研究指導を行う。

【到達目標】

博士論文の目的を明確化させ、その達成に向けた調査項目の策定を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導により、研究テーマの深化と、研究方法論の検討を行う。2021 年度はオンラインと対面を組み合わせた開講とする。具体的な授業方法などは、学習支援システムまたは受講生との個別のやりとりで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画に向けての問題意識を議論-1	研究計画検討のための現状や課題を議論する。-1
第 2 回	研究計画に向けての問題意識を議論-2	研究計画検討のための現状や課題を議論する。-2
第 3 回	研究計画に向けての問題意識を議論-3	研究計画検討のための現状や課題を議論する。-3
第 4 回	関連研究・報告のレビュー-1	研究計画を検討するために有用な研究や報告を材料に議論を深める。-1
第 5 回	関連研究・報告のレビュー-2	研究計画を検討するために有用な研究や報告を材料に議論を深める。-2
第 6 回	関連研究・報告のレビュー-3	研究計画を検討するために有用な研究や報告を材料に議論を深める。-3
第 7 回	研究計画の検討-1	研究の目的、意義、方法を計画書にまとめ議論する。-1
第 8 回	研究計画の検討-2	研究の目的、意義、方法を計画書にまとめ議論する。-2
第 9 回	研究計画の検討-3	研究の目的、意義、方法を計画書にまとめ議論する。-3
第 10 回	先行研究レビュー-1	先行研究を集め、内容を検討する。-1
第 11 回	先行研究レビュー-2	先行研究を集め、内容を検討する。-2
第 12 回	先行研究レビュー-3	先行研究を集め、内容を検討する。-3
第 13 回	先行研究レビュー-4	先行研究を集め、内容を検討する。-4
第 14 回	残された課題の検討	調査の進め方や実施にあたって残された課題を明確化
第 15 回	後期の進め方について検討	研究の進捗状況の共有、今後の進め方の検討
第 16 回	ブレ調査の検討-1	調査に向けて課題の整理、ブレ調査の準備-1
第 17 回	ブレ調査の検討-2	調査に向けての課題の整理、ブレ調査の準備-2
第 18 回	調査の実施と改善-1	ブレ調査の結果共有、改善策の検討-1
第 19 回	調査の実施と改善-2	ブレ調査の結果共有と改善策の検討-2
第 20 回	調査項目の検討-1	本調査に向けた研究項目の検討-1
第 21 回	調査項目の検討-2	本調査に向けた研究項目の検討-2
第 22 回	調査方法の検討	調査の進め方の検討
第 23 回	調査結果の報告	調査結果報告と整理方法の検討
第 24 回	分析方法の検討	整理されたデータの分析方法を検討
第 25 回	分析結果の報告（速報）	分析結果の共有、改善方法の検討
第 26 回	分析方法の再検討	データの分析方法の再検討
第 27 回	分析結果の報告	分析結果の共有、改善方向の検討
第 28 回	残された課題の検討	来期に残された課題と対応方法の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員との議論に基づき、必要な調査・作業を行い、考察する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点による（100 %）。具体的な方法と基準は、授業開始日に個別または学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の希望に基づき、個別に方法を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて使用する。

【担当教員の専門分野】

都市地域計画、地域マネジメント、コミュニティ再生、公民連携

【Outline and objectives】

One by one instruction and guiding for completion of ph.D thesis.

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅱ

宮城 孝

配当年次／単位数：2 年次／4 単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成を目標として、特に先行研究のレビュー、仮説の設定、オリジナル・データの収集と分析方法等進行状況に応じて適宜研究指導を行う。

【到達目標】

得られたデータを適切な研究方法を用いて分析し、論理的に論文を執筆することができる。

研究の意義と今後の課題を自覚できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

個別的な研究指導による。研究指導では、研究方法の内容、データの収集・分析の方法と結果、論理化などの妥当性、信頼性などについて研究テーマに応じて研究を進めるための助言指導を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	前期の目標とスケジュール
第2回	研究指導	先行研究のレビュー①
第3回	研究指導	先行研究のレビュー②
第4回	研究指導	先行研究のレビュー③
第5回	研究指導	仮説の設定①
第6回	研究指導	仮説の設定②
第7回	研究指導	仮説の設定③
第8回	研究指導	研究方法の検討①
第9回	研究指導	研究方法の検討②
第10回	研究指導	研究方法の検討③
第11回	研究指導	研究方法の検討④
第12回	研究指導	データの収集方法①
第13回	研究指導	データの収集方法②
第14回	研究指導	データの収集方法③
第15回	前期総括	データの収集方法④
第16回	オリエンテーション（後期の目標とスケジュール）	データの分析方法①
第17回	研究指導	データの分析方法②
第18回	研究指導	データの分析方法③
第19回	研究指導	データの分析方法④
第20回	研究指導	論理化①
第21回	研究指導	論理化②
第22回	研究指導	論理化③
第23回	研究指導	論理化④
第24回	研究指導	文章化①
第25回	研究指導	文章化②
第26回	研究指導	文章化③
第27回	研究指導	文章化④
第28回	研究指導	文章化⑤

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の研究指導までに、課題について事前にレポート等にまとめておくこと。準備・復習時間を4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適宜必要に応じ指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%と研究の報告内容60%によって評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（編著）中央法規、2019年
- ・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の方法と先進事例－』編著、中央法規、2018年
- ・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性に挑む－』編著、中央法規、2017年
- ・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共著）編集代表、中央法規、2015年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）、中央法規、2015年
- ・『ソーシャルワークと社会開発』（監訳）丸善出版、2012年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規、2007年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000年

【Outline and objectives】

It adovices the creating of reserch paper.specially,the way of reserch such as the setting of hypothesis,the analysis of the appropriate data,

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅲ

岩田 美香

配当年次／単位数：3年次／4単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成を目標として、特に先行研究のレビュー、仮説の設定、データの収集と分析方法等進行状況に応じて適宜研究指導を行う。

【到達目標】

得られたデータを適切な研究方法を用いて分析し、論理的に博士論文を執筆すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・人間福祉特別演習Ⅰ・Ⅱに引き続き、研究指導では、研究方法の内容、データの収集・分析の方法と結果、論理化などの妥当性、信頼性などについて研究テーマに応じて研究を進めるための助言指導を行う。
- ・課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	博士論文提出のための計画確認	博士論文作成のための目標と春学期の課題の確認
第2回	博士論文研究指導1	先行研究のレビュー①
第3回	博士論文研究指導2	先行研究のレビュー②
第4回	博士論文研究指導3	先行研究のレビュー③
第5回	博士論文研究指導4	仮説の設定①
第6回	博士論文研究指導5	仮説の設定②
第7回	博士論文研究指導6	仮説の設定③
第8回	博士論文研究指導7	研究方法の検討①
第9回	博士論文研究指導8	研究方法の検討②
第10回	博士論文研究指導9	データの収集・分析①
第11回	博士論文研究指導10	データの収集・分析②
第12回	博士論文研究指導11	データの収集・分析③
第13回	博士論文研究指導12	データの考察①
第14回	博士論文研究指導13	データの考察②
第15回	春学期総括	博士論文予備登録のための指導
第16回	博士論文完成の指導	完成に向けて、今後のスケジュール確認
第17回	博士論文執筆指導1	データの考察と理論化①
第18回	博士論文執筆指導2	データの考察と理論化②
第19回	博士論文執筆指導3	データの考察と理論化③
第20回	博士論文執筆指導4	博士論文草稿作成
第21回	博士論文執筆指導5	博士論文草稿加筆修正①
第22回	博士論文執筆指導6	博士論文草稿加筆修正②
第23回	博士論文執筆指導7	博士論文第二稿作成
第24回	博士論文執筆指導8	博士論文第二稿加筆修正
第25回	博士論文執筆指導9	博士論文第三稿作成①
第26回	博士論文執筆指導10	博士論文提出稿作成②
第27回	博士論文執筆指導11	博士論文提出稿作成
第28回	博士論文審査	提出された論文を口頭試問によって審査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・進捗状況に応じて、毎回、報告が課されるので準備をしてくること。
- ・本授業の準備・復習時間は各回8時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

適宜必要に応じ紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文作成のプロセス評価（20%）、論文（80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉 子ども・家族福祉論、教育福祉論
〈研究テーマ〉

1. 子育て・子育ての社会的不平等
2. 子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline and objectives】

This course focuses especially on the knowledge, the theme, the research method, the research hypotheses, in order to write a doctoral dissertation.

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅲ

小野 純平

配当年次／単位数：3 年次／4 単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学領域における博士論文作成のための高度な専門知識、研究方法、論文作成法を学習します。

【到達目標】

臨床心理学領域における博士論文作成のための高度な専門知識、研究方法、論文作成法を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文の作成に向けて、国内外の文献の読み込み、テーマの決定、調査・実施方法の検討、論文の執筆などについて、きめ細かな個人指導を行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	博士論文作成の過程について
第2回	文献収集の技法	国内文献収集技法
第3回	文献収集の技法	海外文献収集技法
第4回	テーマ決定に関する国内外の文献の読み込み	収集した文献から当該分野の研究動向を明らかにする
第5回	テーマ決定に関する国内外の文献の読み込み	収集した文献から当該分野における課題を明らかにする
第6回	テーマ決定	問題の所在から目的を絞り込む
第7回	研究方法の検討①	質問紙調査法、実験法インタビュー法などの精査①
第8回	研究方法の検討②	質問紙調査法、実験法インタビュー法などの精査②
第9回	研究方法の検討③	質問紙調査法、実験法インタビュー法などの精査③
第10回	分析法の検討①	分析方法についての精査①
第11回	分析法の検討②	分析方法についての精査②
第12回	分析法の検討③	分析方法についての精査③
第13回	調査等の実施の報告①	調査等の実施に関する報告と指導①
第14回	調査等の実施の報告②	調査等の実施に関する報告と指導②
第15回	調査等の実施の報告③	調査等の実施に関する報告と指導③
第16回	中間報告①	調査等の実施および分析に関する報告と指導①
第17回	中間報告②	調査等の実施および分析に関する報告と指導②
第18回	中間報告③	調査等の実施および分析に関する報告と指導③
第19回	中間報告④	調査等の実施および分析に関する報告と指導④
第20回	論文執筆指導①	結果の記述と考察の方向性への指導①
第21回	論文執筆指導②	結果の記述と考察の方向性への指導②
第22回	論文執筆指導③	結果の記述と考察の方向性への指導③
第23回	論文執筆指導④	結果の記述と考察の方向性への指導④
第24回	論文執筆指導⑤	結果の記述と考察の方向性への指導⑤
第25回	論文執筆指導⑥	結果の記述と考察の方向性への指導⑥
第26回	論文執筆指導⑦	考察を中心とした指導①
第27回	論文執筆指導⑧	考察を中心とした指導②
第28回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文は、文献の精査から問題の洗い出し、調査・実験方法の決定など、主体的な取り組みが必要となります。論文指導日までに、現在の進捗状況について簡潔に説明できるよう、入念な準備が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】

参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

博士論文指導への参加（50 %）

論文作成にかかわる知識・技術の修得（50 %）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導の時間をより多くとる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 臨床心理学、臨床心理査定

<研究テーマ> 虐待とその支援、発達障害とその支援

<主要研究業績>

【著書】

『精神・心理機能評価ハンドブック』（中山書店、2015年6月）

『エッセンシャルズ KABC-IIによる心理アセスメントの要点』（丸善出版、2014年8月）

『発達と臨床の心理学』（ナカニシヤ出版、2012年4月）

『臨床心理学 30章』（日本文化化学社、2006年6月）

【論文】

『新しい検査 KABC-IIとCHC理論に基づくクロスバタリーアセスメント(XBA)の展開』（日本学校心理学会年報7巻1号、2015年4月）

『発達障害と愛着障害の理解と支援—事例を通して—』（至誠学園紀要5巻、2012年5月）

『被虐待児の認知特性と学習の遅れ』（LD研究21巻2号、2012年5月）

【Outline and objectives】

This seminar provides students with knowledge about of how to plan and execute a doctoral dissertation.

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅲ

末武 康弘

配当年次／単位数：3年次／4単位

実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

特別演習Ⅰ・Ⅱに引き続き、臨床心理学領域の博士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。提出された課題や論文等へのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやズーム等のオンライン）によって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	博士論文提出のための計画の確認	博士論文作成の年度計画確認
第2回	先行研究の探索と検討1	最新の先行研究を探索
第3回	先行研究の探索と検討2	最新の先行研究を収集
第4回	先行研究の探索と検討3	最新の先行研究を分析
第5回	先行研究の探索と検討4	最新の先行研究を検討
第6回	先行研究の探索と検討5	最新の先行研究を精査
第7回	研究デザインと研究方法の検討1	特別演習Ⅱで確定した研究デザインを再検討
第8回	研究デザインと研究方法の検討2	特別演習Ⅱで確定した研究デザインを洗練
第9回	研究デザインと研究方法の検討3	特別演習Ⅱで確定した研究方法を再検討
第10回	研究デザインと研究方法の検討4	特別演習Ⅱで確定した研究方法を洗練
第11回	研究デザインと研究方法の検討5	特別演習Ⅱで確定した研究デザインと研究方法を洗練
第12回	博士論文の構成の検討1	博士論文の構成の整合性を検討
第13回	博士論文の構成の検討2	博士論文の構成を洗練
第14回	博士論文予備登録の指導	博士論文予備登録のための指導
第15回	博士論文完成の指導1	博士論文を仕上げるための指導
第16回	博士論文完成の指導2	博士論文のテーマの妥当性の指導
第17回	博士論文完成の指導3	博士論文の論述形式の妥当性の指導
第18回	博士論文完成の指導4	博士論文の論理的整合性の指導
第19回	博士論文完成の指導5	博士論文の論述内容の妥当性の指導
第20回	博士論文完成の指導6	博士論文の研究倫理の検討
第21回	博士論文完成の指導7	博士論文のオリジナリティの検討
第22回	博士論文完成の指導8	博士論文の社会的意義の検討
第23回	博士論文完成の指導9	博士論文の学術的意義の検討
第24回	博士論文完成最終指導1	博士論文を仕上げるため最終的な指導
第25回	博士論文完成最終指導2	最終的な論述形式の指導
第26回	博士論文完成最終指導3	最終的な論述内容の指導
第27回	博士論文審査に向けた指導	博士論文審査に向けた指導
第28回	博士論文発表に向けた指導、まとめ	博士論文発表に向けた指導とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための研究活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、博士論文の執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

博士論文の執筆過程（40 %）と論文の内容（60 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法
<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
<主要研究業績>

- ① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
- ② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年）
- ③ 『主観性を科学化する』質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016年）

【Outline and objectives】

You learn the high-level knowledge, research method, ability to write a doctoral dissertation in clinical psychology.

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅲ

布川 日佐史

配当年次／単位数：3年次／4単位

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文完成に向けた指導を行う

【到達目標】

博士論文を完成させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究計画の確定	課題と計画の確定
2	先行研究の検討1	検索とリスト作成
3	先行研究の検討2	先行研究収集
4	先行研究の検討3	要点の整理、分析
5	先行研究の検討4	批判的検討
6	先行研究の検討5	先行研究まとめ
7	研究方法の検討1	研究方法の検討
8	研究方法の検討2	研究方法の確定
9	研究倫理の検討1	研究倫理の確認
10	研究倫理の検討2	適合性の検討
11	論文構成の検討1	論文構成の検討
12	論文構成の検討2	論文構成の確定
13	博士論文予備登録準備	準備を進める
14	中間まとめ	到達点と課題の確認
15	初稿の検討1	主張の明確さの確認
16	初稿の検討2	論理的展開の確認
17	初稿の検討3	資料の扱いの確認
18	初稿の検討4	研究倫理の確認
19	初稿の検討5	オリジナリティーの確認
20	初稿の検討6	学術的意義の確認
21	完成に向けた指導1	主張を明確にする
22	完成に向けた指導2	論理性を精緻にする
23	完成に向けた指導3	資料の扱いを精緻にする
24	完成に向けた指導4	社会的意義を明確にする
25	完成に向けた指導5	学術的意義を明確にする
26	論文審査に向けて1	審査ポイントの確認
27	論文審査に向けて2	審査に向けた準備
28	論文発表に向けた指導	論文発表の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文執筆のために十分な時間が必要本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

論文作成のプロセス評価：20% 論文：80%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

論文完成に向けた時間管理を厳格に行う必要がある。

【担当教員の専門分野等】

公的扶助、雇用政策

【Outline and objectives】

Research guidance to complete doctor's dissertation

